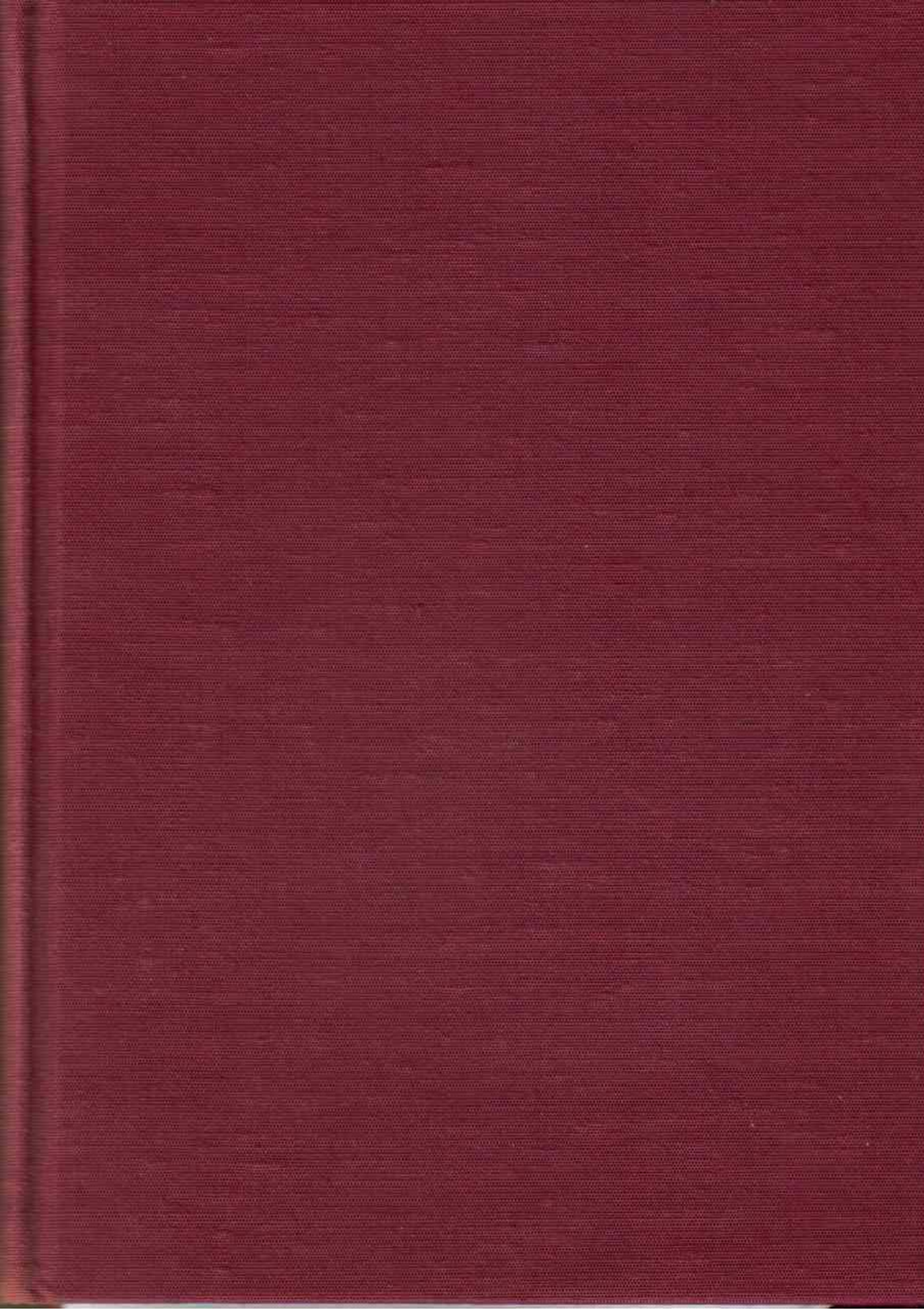


樽本照雄 著

漢訳アラビアン・ナイト論集
増補版

清末小説研究会



漢訳アラビアン・ナイト論集

増補版

樽本照雄著

清末小説研究会

漢訳アラビアン・ナイト論集 増補版

目 次

1	漢訳アラビアン・ナイト.....	7
1	中国におけるアラビアン・ナイト	9
2	周桂笙の漢訳 最初の漢訳	17
3	『大陸報』の「一千一夜」	27
4	「航海述奇」は未見	30
5	『繡像小説』の「天方夜譚」	31
6	商務印書館版奚若訳『天方夜譚』の検討 英文原本の探求 2	45
7	英文原本の探求 3 タウンゼンド版からフォースター版、スコット版へ	98
8	結 論 奚若訳の底本はフォースター版である	126
2	周作人漢訳アリ・ババ「侠女奴」物語.....	134
1	英文原本の探求 1	137
2	英文原本の探求 2 その方法	153
3	周作人漢訳の検討	184
4	漢訳底本の確定にむけて	218
5	周作人の改作部分について	219
3	周作人漢訳アリ・ババ「侠女奴」の英文原本.....	229
1	いままでの経過	229
2	フォースター版	230
3	異同の検討	234
4	周作人漢訳アリ・ババの原本を求めて.....	249
5	「童話」の漢訳アラビアン・ナイト.....	260
1	児童向けということ	260
2	商務印書館の「童話」シリーズ	262
3	「童話」の漢訳アラビアン・ナイト	263
4	いくつかの疑問	280
6	「天方夜譚」小考.....	283
1	林則徐のばあい	284
2	マレー『地理学百科事典』	286

3	魏源のばあい	291
4	嚴復のばあい	293
7	中国における「アラビアン・ナイト」	302
8	『漢訳アラビアン・ナイト論集』	
	清末翻訳小説研究が進まない理由	305
9	中国におけるアラビアン・ナイト	309
1	中国語訳名	309
2	中国語訳の歴史	310
3	商務印書館の「童話」シリーズ	314
4	「童話」の中国語訳アラビアン・ナイト	316
10	附録：漢訳アラビアン・ナイト目録	329

あとがき 339

増補版あとがき 342

凡 例

- 1 書名の角書、副題は、本書での初出のみ記し、以下は省略する。
- 2 旧暦は漢数字で、新暦はアラビア数字でしめす。
例：宣統二年九月十九日（1910.10.21）
ただし、引用文はこの限りではない。
- 3 記号は以下のとおり。
『 』 雑誌、新聞、単行本（書名）、全集
「 」 論文、雑誌掲載、あるいは単行本中の個別作品、作品名一般、叢書名
[] 原文と翻訳文の区別がつきにくいばあい、使用することがある。また筆者の注
- 4 漢語文献に使用される記号は、そのままを引用する。ただし、簡化字は使わない。日本語漢字にかえる。
- 5 カッコ類は、引用文のなかでも原文のままである。例：「 「 」 」とし、「『 』 」と書き換えない。
- 6 私の主な著書についての書誌は以下のとおり。注などにおいては書名だけをかかげ、くりかえさない。
『清末小説閑談』大阪経済大学研究叢書XI 法律文化社1983.9.20
『清末小説論集』大阪経済大学研究叢書第20冊 法律文化社1992.2.20
『清末小説探索』大阪経済大学研究叢書第34冊 法律文化社1998.9.20
『清末小説叢考』大阪経済大学研究叢書第45冊 汲古書院2003.7
『初期商務印書館研究（増補版）』清末小説研究会2004.5.1
『清末小説研究論』清末小説研究会2005.8.1 清末小説研究資料叢書9

漢訳アラビアン・ナイト

『清末小説から』に連載。本稿の成り立ちは、私のほかの論文と少し異なる。翻訳作品についてのべるばあい、私は、原作と漢訳の両方を、まず、手元におくことからはじめる。しかし、アラビアン・ナイトについては、それができなかった。なぜならば、漢訳の底本を特定することから着手しなければならなかったからだ。底本を明記している当時の漢訳は、それほど多くない。有名な漢訳本でありながら、底本について説明しない。あるいは、説明していても、実際に英文原作と対照してみると該当しないことが判明したりする。これが、現代中国で翻訳研究が進まない理由のひとつかもしれない、などと考えたものだ。手間とヒマがかかるのである。というわけで、英文原作を収集する一方で同時進行のかたちで執筆をした。書いている途中で、いくつか出版社の異なる版本を入手する。そのたびに関連部分を書きなおすことになった。最終的に、本稿をまとめる段階でも数箇所にわたって加筆した。章番号が初出とちがっているのも同じ理由による。詳細は以下の通り。

(1) 第65号(2002.4.1)に掲載。『アラビアン・ナイト』は、漢訳されて『天方夜譚』あるいは『一千零一夜』という。漢訳の歴史をのべようというのが、この連載の目的だ。第1回では、中国における漢訳『アラビアン・ナイト』研究を紹介する。現在までの研究は、漢訳の書名をあげるだけの簡単なものばかりだ。漢訳の具体例までふみこんだ研究がないその原因は、英語訳の多様さにある。ガランのフランス語訳からの英語訳は、相当の数が出版されており、そのどれが漢訳の底本になったのか、中国の研究者は、誰も特定することができない。物語の冒頭部分を示し、いくつかの翻訳を比較対照してその違いをのべる。最初の漢訳として周桂笙の「一千零一夜」を紹介する。

(2) 第66号(2002.7.1)に掲載。周桂笙『新庵諧訳初編』に収録された「一千零一夜」は、はやい時期の漢訳アラビアン・ナイトである。この原書がタウンゼンド版であることを証明する。

(3) 第67号(2002.10.1)に掲載。『大陸報』掲載の「一千一夜」もタウンゼンド版が

原本であることを証明する。さらに、『繡像小説』に連載された「天方夜譚」の訳者・奚若について考証する。それまでの研究では、張奚若が本名であるとか、奚若は筆名であるとか言われてきた。だが、張奚若という人物はたしかに存在するが、その出身地が異なるため奚若ではありえない。奚若が本名であって、英語ができるところから商務印書館の英漢辞書の編集にたずさわり、のちには商務印書館の理事になっていることを明らかにする。樽本「翻訳家奚若」『清末翻訳小説論集（増補版）』所収を参照。

（４）第68号（2003.1.1）に掲載。奚若訳の『天方夜譚』は、初出の『繡像小説』には英文原作について言及がなかった。のちの商務印書館版「説部叢書」には、ラウトレッジ社のレイン版だという記載がある。だが、これで奚若訳の底本がわかったことにはならなかった。欧州翻訳本の違いをのべて、漢訳底本探求を継続する。

（５）第69号（2003.4.1）に掲載。奚若約『天方夜譚』がよった英文原作の探求をつづける。その「序」には、ラウトレッジ社だと明記されている。探索すると東北大学の漱石文庫に1冊が所蔵されていた。複写を取り寄せると、それはサグデン版である。レイン版、タウンゼンド版、サグデン版の3種類を漢訳と比較対照して底本の特定作業に入る。「序」にレイン版だと書いているにもかかわらず、実際に原文を見比べると、レイン版ではありえないことが判明する。どちらかといえば、サグデン版に近い。謎が深まる。

（６）第70号（2003.7.1）掲載。奚若訳『天方夜譚』の英文原作をつづけて探索する。レイン版、タウンゼンド版、サグデン版を比較対照しながらアラビアン・ナイトの記述にそって検討すれば、タウンゼンド版に主としてよりつつ、レイン版を参照しているらしい。

（７）第71号（2003.10.1）に掲載。奚若訳『天方夜譚』の英文原作をつづけて探索する。「記漁父」「記竇本」を検討する。それまでタウンゼンド版が底本であったように見えたが、詳細に漢訳と原文を比較対照してみると、どうやら違うように思える。こうして底本問題の迷路に入りこむことになった。

（８）第73号（2004.4.1）に掲載。「頭顱語（罰せられた大臣の話）」の漢訳を検討する。英文原作と照らし合わせると、漢訳はサグデン版にもとづいているようだ。

（９）第74号（2004.7.1）に掲載。「四色魚」の漢訳を検討する。タウンゼンド版とサグデン版を比較対照すると、やはり漢訳の底本はサグデン版のように思われる。

（10）第75号（2004.10.1）に掲載。漢訳の底本を特定するための肝要な部分にさしかかる。3人の托鉢僧の物語だ。買い集める野菜のなかに「タイラゴン（タラゴンのこと）」

が出てくる。ところが、これまで見てきたレイン版、タウンゼンド版、サグデン版などにはその単語が、出てこない。別の英訳本をさがす必要が発生する。

(11) 第77号(2005.4.1)に掲載。タウンゼンド版にもサグデン版にも見えない「タラゴン」を問題にした。だからこれらには異版があるのかも疑ってみる。ところが、両者に見えない表現が漢訳にある。では、漢訳の底本はそれらとは関係がないのか。不思議なことがあるものだ。

(12) 第78号(2005.7.1)に掲載。3人の托鉢僧の物語。井上勤訳を参照する。

(13) 第79号(2005.10.1)に掲載。漢訳が拠った英文原作は、タウンゼンド版とサグデン版なのだろうか。

(14) 第80号(2006.1.1)に掲載。英文原作の探索を継続する。

(15) 第81号(2006.4.1)に掲載。漢訳の底本は、訳文との比較対照により、フォースター版である可能性が高くなった。

(16) 第82号(2006.7.1)に掲載。フォースター版を含めてこれまでの版本と漢訳本文を比較検討する。『清末小説から』第82号は発行が7月1日付だが、実際は、『漢訳アラビアン・ナイト論集』の発行6月1日よりも以前に発行されている。

(17完)『漢訳アラビアン・ナイト論集』(2006.6.1)に収録したため『清末小説から』には未掲載となった。奚若は、漢訳するにさいして、ラウトレッジ社本のフォースター版を底本とした。さらに、注釈をタウンゼンド版から取り入れている。

1 中国におけるアラビアン・ナイト

日本では、「アラビアン・ナイト」あるいは「千(夜)一夜物語」という。

中国で翻訳される場合も、題名は同じくふたつある。ひとつは「天方夜譚」と漢訳し、別のひとつは「一千零一夜」となる。

ふたつの書名を持つ理由は、それらが拠った英語原題が、2種類あるからだ。

「天方夜譚」の原題は、“The Arabian Nights' Entertainment”(“ ’ ”および“Entertainment”をとみなわない版本もある)であって、「天方」は、アラビアを意味する。また、「一千零一夜」のほうは、“The Thousand and One Nights”(又は、

The Thousand Nights and One Night) である。

実際には、きれいに分けて呼ばれてはいない。混同して使用されているのが実際のところだ。

ふたつの訳題

ある英訳本を見れば、表紙には、大きく “The Thousand and One Nights” と書いてある。扉の上部にも “The Thousand and One Nights” と表示しながら、その下に「普通には「アラビアの夜のもてなし」とよばれる commonly called the Arabian Nights' Entertainments」と大きく説明する。おまけに Arabian Nights' Entertainments の部分は、赤色で印刷されているからよほど目立つ（別版では緑色）。

欧州では、ガラン Antoine Galland のフランス語訳（1704-17）が、最初の翻訳にして同時に重要な役割をはたした。アラビアン・ナイトは、ガラン版によって全ヨーロッパに知られることになったからだ。これが元本になり、各国語に重訳されて普及していった。英語訳、ドイツ語訳、イタリア語訳、オランダ語訳、デンマーク語訳、ロシア語訳などなどがある。

英訳で知られている版本には、ガラン版を再編したスコット Jonathan Scott の6巻本（1811）がある。

一方、原典からの直接訳も出版されはじめる。

レイン Edward William Lane の3巻本（1839-41）、ペイン John Payne の最初の完訳13巻本（1882-84, 1889）、リチャード・バートン Richard Francis Burton の10巻プラス補遺6巻（1885-88）などが、必ず言及される訳本といえる。マルドリユス Joseph Charles Victor Mardrus のフランス語訳16巻本（1899-1904）も有名だ。バートン版とともに、日本語訳*1があるから知っている人も多い。

以上のように、一応、主要な訳本について簡単に説明したとしても、ここに漢訳本を関連づけようとする、とたんに視界がぼんやりとしてくる。どういうことかといえば、漢訳がもつづいた原本（本稿では底本とよぶ）の特定がむづかしいという意味なのだ。

底本の特定が、なぜむづかしいのか。

ガラン版をもとにして英訳された本が、それも、上にあがっているような有名ではない本が、多数発行されているからだ。この事実には、それほど触れられることがない。

元本の全部を翻訳したもの、一部分の作品を選択したもの、原文に忠実なもの、原文から大きく離れて再話したものなど、多種類が存在する。児童向けに改作された作品を考えると、その多さはとてもではないが数えることが困難となる。

ガラン版以降に出版された英語重訳本で、そのなかのほんの一例をあげてみよう。以下は、目録から抜き出したもので、そのすべてを私が見ているわけではない。参考までに示すだけだ。

重訳者不記、出版社は、ロンドンのアンドリュー・ベル Andrew Bell, 1713, 1718, 1717-22

重訳者不記、出版社は、ロンドンのオズボーンとロングマン J. Osborne & T. Longman, 1725, 1721-26

重訳者不記、出版社は、ダブリンのリスク、エイウインとスミス George Risk, George Ewing, & William Smith, 1728

重訳者不記、出版社は、ダブリンのホワイトストーン W. Whitestone, 1776

重訳者不記、出版社は、ロンドンのハリソン Harrison & co., 1785

重訳者不記、出版社は、ロンドンのピグニット C. D. Pignuit, 1792

重訳者不記、出版社は、モンローズのブキャナン D. Buchanan, 1793

重訳者不記、出版社は、ロンドンのロングマン T. N. Longman, 1798

重訳者不記、出版社は、エディンバラのショウ D. Schaw, 1802

フォースター Rev. Edward Forster 重訳、出版社は、ロンドンのミラー William Miller, 1802

ボーモント G. S. Beaumont 重訳、出版社は、ロンドンのマシューズとレイ Mathews & Leigh, 1811

ジョナサン・スコット Jonathan Scott 重訳、出版社はロンドンのロングマン、ハーストなど Longman, Hurst, etc., 1811

重訳者不記、出版社は、リバプールのナットール、フィッシャーとディクソン Nuttall, Fisher & Dixon, 1814

- 重訳者不記、出版社は、ロンドンのブッカー J. Booker, etc., 1819
- 重訳者不記、出版社は、ロンドンのリヴィングトン F. C. & J. Rivington, 1821
- 重訳者不記、出版社は、ロンドンのダウヴ J. F. Dove, 1826
- 重訳者不記、出版社は、ロンドンのリンバード J. Limbird, 1832
- 重訳者不記、出版社は、ハリファックスのミルナー William Milner, 1839
- フォースター重訳、出版社は、ロンドンのトマス Joseph Thomas, 1839
- 重訳者不記、出版社は、ロンドンのロイド E. Lloyd, 1847, 48
- フォースター重訳、出版社は、ロンドンのウイロウビー Willoughby & Co., 1852-54
- 重訳者不記、出版社は、ロンドンのカーショウ G. Kershaw & Son, 1853
- 重訳者不記、出版社は、ロンドンのラウトレッジ G. Routledge & Co., 1854
- 重訳者不記、ダルジール Dalziel 兄弟の挿絵本、出版社は、ロンドンのワード、ロックとタイラー Ward, Lock & Tyler, 1864, 65
- 重訳者不記、出版社は、ロンドンのラウトレッジ G. Routledge & Sons, 1865
- 重訳者不記、出版社は、エディンバラのニモ W. P. Nimmo, 1865
- タウンゼンド Rev. Geo. Fyler Townsend 改訂、出版社は、ロンドンのウォーン F. Warne & Co., 1866
- 重訳者不記、出版社は、ロンドンのグリフィン C. Griffin & Co., 1866
- 重訳者不記、出版社は、エディンバラのギャルとイングリス Gall & Inglis, 1867
- 重訳者不記、出版社は、ロンドンのディックス John Dicks, 1868
- 重訳者不記、出版社は、ロンドンのテッグ William Tegg, 1869
- メイソン James Mason 改訂、出版社は、ロンドンのキャッセル、ペッターとギャルピン Cassell, Petter & Galpin, 1874, 75
- 重訳者不記、出版社は、ロンドンのブラックウッド J. Blackwood & Co., 1877
- などなど、これでもほんの一部分にすぎない。
- ガラン版その他の重訳英語版がいかに多いか、以上を見れば理解できる。
- ガラン版にもとづいた英訳本が、さらに別版の元本となることもある。こうして異版が出現する。問題は、英訳本の数の多さだ。

よく似た例に、シャーロック・ホームズ物語をあげてもよい。ホームズ物語の版本も多数にのぼる。だが、その英文そのものは、ほぼ全部が同じものだと考えてかまわない。コナン・ドイルの著作なのだ。

漢訳の底本 中国での研究

だが、アラビアン・ナイトは、ホームズ物語とはちがう。そもそもの成り立ちが異なるから、英文原本は同一ではありえない。訳者が同じでなければ、訳文も当然違ってくる。もつづいた底本が特定できなければ、漢訳の質を検討することもできない。漢訳に省略があったとして、これが漢訳者の判断による省略なのか、それとももつづいた英文原本に省略がはじめからあるものなのか、判断がつかない。ゆえに底本の特定が重要だというのだ。

さらに、英文原書の中国への輸入というやっかいな問題が残っている。イギリスで多数の関連本が出版されたとして、そのすべてが中国に持ち込まれたと考える人はいないだろう。伝えられた出版物によって漢訳がなされた。この筋道を考えにいれて、探索の路頭に迷うのは、漢訳に手掛かりが示されているのかどうか、不明であるからだ。

漢訳は、それら多数の重訳本のうちのいずれに基づいているのか。つきとめるのは、手間のかかる作業だ。労力を要する仕事だと理解するのは容易だろう。いくら電子網の時代とはいえ、現在のところ、インターネットを利用して解決できる種類の問題ではない。

実例を示したほうがわかりやすい。

中国においてアラビアン・ナイトは、どのように翻訳されたか。鄧溥浩によって概説が試みられている*2。多数の漢訳を掲げる。だが、これを見ても、漢訳が拠った底本については、一言も説明しない。

ほかも似たりよったりだ*3。

全8巻の大部な李唯中訳『一千零一夜』(石家荘・花山文藝出版社1998.6)がある。「訳序」には、1900^{ママ}年の周桂笙『新庵諧訳・上巻』から1982年の納訓『一千零一夜』まで漢訳を14種類列挙する(34頁)。だが、納訓の翻訳がアラビア語からの直接訳だという以外は、多くが英訳本からの翻訳、あるいはロシア語訳本からの重

訳であることを述べるだけだ。それ以上、深く説明するわけではない。底本を特定していない。

概説だから詳しく触れる必要はない、という判断だろうか。どのみち、説明していないことにはかわりがない。

杜漸「《天方夜談》^{ママ}的版本与翻訳」(『書海夜航』北京・生活・読書・新知三聯書店1980.3)という文章がある。

日本語訳本と英語訳本からの挿絵各1枚をかかげて、題名通り版本と翻訳について解説したものだ。

ガラン、レイン、パートン、ペイン、マルドリユスの翻訳からアラビア語原典にまで言及し、当然ながら漢訳にも触れる。後ほど述べることになる周桂笙はもとより、『繡像小説』連載作品、さらに奚若訳本など、発表時間順にその翻訳について説明する。

だが、書名をかかげるだけで、それらの内容がどのようなものか、もついた底本がなにかについては、何もいっていない。専門論文ではないからだろう。

『繡像小説』に連載された漢訳には、訳者名が明記されていなかった。それは事実だ。だが、のちの奚若訳『天方夜譚』を示しているにもかかわらず、それが『繡像小説』に掲載されたものと同一訳文であることを言わない。杜漸は、これらの漢訳本を比較対照することには興味がなかったようだ。

中国における翻訳についての研究論文目録がある。「中国当代翻訳論文索引」(1914-95)(『中国翻訳詞典』1207-1278頁)だ。この目録は、翻訳についての論文を中心に収録している。だからからか、「天方夜譚」に関する文献は、見つけることができなかった。

中国の研究者にとって、漢訳の底本問題は、意識にのぼらないのだろうか。あるいは、問題に接近するための研究条件が整っていないのだろうか。確かなところは、不明である。専門論文がないところを見れば、よほど、むつかしい問題だと考えてよいのかもしれない。

詳細な解説がどこにもない、と負の方面だけを数えあげるのは気が重い。指摘するたびに私自身の責務が増える気がするからだ。それほど言うなら自分でやってみる、という声が聞こえる。当然です。

本稿では、清朝末期に発表された漢訳を中心に見ていく。その際、よった底本を特定することに注意をはらうことになる。どちらかといえば、この底本、つまり漢訳がもつづいた英文原作を追求することが本稿の主旨といってもいい。底本を決定することから研究がはじまるからだ。

物語の異同

さて、中国で漢訳が発表されたのは、清末の1900年代、あるいは可能性として1900年のちょっと前だと考えられる。どちらにせよ、日本語訳の『(開巻驚奇) 暴夜物語』(1875) よりもだいぶあとのことだ。

アラビアン・ナイトの漢訳は、不思議なことに、1903年に集中して刊行されている。意図的なものではないだろう。偶然、そうだった。

漢訳を紹介するまえに、もともとの物語のはじめ部分について、各版本の記述が必ずしも一致していないことに触れておきたい。

アラビアン・ナイトは、周知のごとくシャーラザッドが語る約170篇の物語によって構成されている。参考までにのべれば、レイン版は、約130篇を収録する。バートン版は、本巻169篇、補遺巻93篇の合計262篇であるという。のちに出てくるタウンゼンド版は60篇を、サグデン版は42篇を収録する。

シャーラザッドが、それらを1001夜にわたって語りつくことになったのには、経緯があった。(固有名詞を含んで、物語冒頭部分の紹介には日本語訳のバートン版を使用する。#印は、樽本がほどこした)

昔、インドと中国の島々にササン王朝^{#1}があり、二人の王子がいた。兄の名はシャーリヤルといい、弟はシャー・ザマンという。20年間^{#2}、それぞれが自らの領土を統治していたが、兄王は弟王の顔が見たくなり、使者と手紙をやって、会いに来てくれるようにたのんだ。弟王は、兄王に会いに行くために王宮を出発したが、忘れ物^{#3}をしたことに気がつく。こっそり王宮にひきかえすと、王妃が黒人の料理人^{#4}を両腕に抱いて絨毯の寝床に眠っていた。弟王は、怒りのあまり太刀をぬいて二人を切り捨てると、死体は絨毯の上に残したまま^{#5}旅を続ける。

兄王は弟王に会えておおいに喜んだが、弟王は妻の淫行を胸にひめたまま顔色がすぐれない。王宮に逗留中も、弟王のぐあいはよくなる。気晴らしに、と

兄王が計画した狩猟にも参加せず、弟王は王宮に残った。そこで弟王シャー・ザマンが目撃したのは、兄王の妻妾10人が10人の白人奴隷^{#6}と、またそれにくわえて兄王の妃が黒人奴隷サイド^{#7}と淫欲を満たす姿だ。妻の淫行を経験したのは自分だけではない、と弟王は気が楽になって食事をとる気になる。元気になった弟王を見て、兄王シャーリヤルはその理由をたずねたのも無理はない。弟は、すすんで自分の妻の淫行を、渋りながらついには秘密を守りきれずに話さないつもりだった兄王の妃の行為を告白する。

狩猟に出かけたときみせかけ、兄王は、自らの目で妻の淫行を確かめると、弟王とともに不幸な人を探しに旅立つ。旅の途中でふたりが目撃するのが、頭に櫃を載せた魔神だ。魔神は、櫃から美少女をとりだした。その美少女は、婚礼の夜にさらわれて魔神のものになっている。だが、美少女が行なったことは、魔神が眠っているすきに兄弟王を脅かし誘って彼らと交わることだった。交わった記念として男の指輪を570個^{#8}も所有している。魔神でさえも女性に騙されていることに気づいた兄弟王は、あきれかえると同時に、自分たちの不幸よりももっと大きな不幸を魔神がおっていることに納得した。

王宮にもどったシャーリヤル王は、妃を死罪^{#9}に処する。後宮の妻妾と白人奴隷^{#10}をすべて切り捨ててしまった。それ以後、シャーリヤル王は、女性の貞節を信じず、夜半に処女を奪い、あくる朝には切り殺すことを3年間^{#11}つづけた。都には、ついに若い娘がいなくなる。残ったのが、大臣の娘シャーラザッドと妹ドゥニヤザッドのふたりだ。シャーラザッドが王に嫁ぎ、毎夜、妹を伴って王のために物語ることがはじまる。

かいつまんでのべた。以上が、長い物語の冒頭部分である。シャーラザッドが物語る、という物語全体の枠を提示する箇所なのだ。児童向けの話とは、大いに異なることに読者は気づかれるだろう。

文中に #印で示した箇所が、マルドリユス版とレイン版ではどのようになっているのか、見てみよう。(マルドリユス版は日本語訳を、レイン版はロンドンのチャットとウイングス Chatto & Windus, 1912 の3巻本を使用する)

#1 ササン王朝 マルドリユス版も同じ。レイン版では、意図的に削除され

ている。

- #2 20年間 マルドリユス版、レイン版も同じ。
- #3 忘れ物 マルドリユス版、レイン版も同じ。
- #4 黒人の料理人 マルドリユス版は、黒人奴隷。レイン版も、黒人奴隷。
- #5 死体は絨毯の上 マルドリユス版、レイン版も同じ。
- #6 10人の兄王の妻妾と10人の白人奴隷 マルドリユス版は、20人の女奴隷と20人の男奴隷。レイン版は、20人の女性と20人の黒人奴隷。
- #7 黒人奴隷サイド Saeed マルドリユス版は、黒人奴隷マサウド。レイン版は、黒人奴隷メスード Mes'ood。
- #8 指輪570個 マルドリユス版は570個。レイン版は、98個。
- #9 死罪 マルドリユス版も、レイン版も、首を刎ねさせる。
- #10 妻妾と白人奴隷 マルドリユス版は、女奴隷と男奴隷。レイン版は、女性と黒人奴隷。
- #11 3年間 マルドリユス版、レイン版も同じ。

比較した3者は、大筋ではほぼ同じような記述になっているが、こまかな違いがあることがわかる。

この冒頭部分について、いくつかの箇所を指定したのは、漢訳と比較がしたいからだ。11箇所について、版本の違いが漢訳に反映されている可能性がある。漢訳の底本を探るてがかりになるのではないかと予想する。

比較対照をする前に、触れておかなければならないことがある。中国で最初の漢訳アラビアン・ナイトは、なにか。

2 周桂笙の漢訳 最初の漢訳

漢訳作品を読むことができる（復刻を含む）というのであれば、周桂笙訳「一千零一夜」がある。1903年四月に発行された『新庵諧訳初編』上巻に収録されており、時期的に見て早い刊行物だといえる。

紫英（蔣紫儕）「新盒諧訳」*4によると、劉志沂が「一千零一夜」の原本を入手

して周桂笙に翻訳してもらったと書いている。『采風報』に掲載していて中断したとも述べているから、1903年以前のことだ。『采風報』の創刊は1898年だという。だから、1903年以前といっても、時間的な幅が生じる。新聞、雑誌に連載されたあと単行本になることは、清末時期では珍しくない。周桂笙訳「一千零一夜」もそういう例のひとつだろう。ただ、『采風報』に掲載された部分を見ることのできないので、1903年以前のいつかを確認することはむづかしい。一説には、1900年掲載だという*5。周桂笙の漢訳が、最初の翻訳だと考えてもよさそうだ。

同じく紫英は、連孟青の主宰する『飛報』にも抄訳がひとつふたつ掲載されたと指摘している。こちらは、実物を見る機会がない。

さて、上海周樹奎桂笙（周桂笙）戯訳、南海吳沃堯駢人（吳駢人）編次『新庵諧訳初編』上下2巻（上海・清華書局 光緒29（1903）孟夏*6）である。

上巻に収録された「一千零一夜」と「漁者」が、アラビアン・ナイトの冒頭部分の文言による漢訳となっている。ちなみに該書下巻は、イソップ、グリム童話などの翻訳を収録する。

単行本にまとめられたのが、前述のとおり1903年だ*7。

周桂笙訳の底本

周桂笙は、もつづいた英文原本について、何も説明していない。末尾において「書名はもともと「アラビアの夜の談笑録 [阿拉伯夜談笑録]」といい、「一千零一夜」はその俗称である」（329頁）とわずかに触れているだけ。これでは、なんの手掛かりにもならない。

人名の漢訳を示しておく。兄王シャーリヤル（吓利亜）、弟王シャー・ザマン（吓齊南）、姉シャーラザッド（希臘才）、妹ドウニヤザッド（敵那才）。

上に紹介した11ヵ所の異同点について、周桂笙の漢訳がどうなっているか見てみよう。

参考までに、日本で最初の翻訳である永峯秀樹訳『暴夜物語』（奎章閣1875*8）の該当箇所も示しておく（周桂笙訳 / 永峯訳の順）。

日本語翻訳も周桂笙訳と同じく、物語冒頭から漁夫の話の黒島王の部分までを翻訳する。

しかも、日本語訳の底本はタウンゼンド版であることが判明している。くらべてみれば、周桂笙訳が拠った底本を推測する突破口が見つかるかもしれない。

周桂笙訳 / 永峯訳

- | | |
|---------------------|---|
| #1 ササン王朝 | 賽生国 / 佐々爾安 (サツァニアン) |
| #2 20年間 | 十年 / 十星霜 (ジフネン) |
| #3 忘れ物 | 思返見其妃 (もどって妃に会いたいと思った) / イカデ今一度
后ヲ見、 |
| #4 黒人の料理人 | 僕 (しもべ) / 黒臣 [永峯本は、この部分はレイン版による] |
| #5 死体は絨毯の上 | 投屍宮外巨溝中 (死体を王宮外の大きな溝のなかに投げ捨てた) / 其死体オバ壕裏ニ投ゲ棄テ |
| #6 10人の兄王の妻妾と10人の白人 | なし / 数対ノ男女 [永峯本は、この部分はレイン版による] |
| #7 黒人奴隸サイド Saeed | 僕人 / なし |
| #8 指輪570個 | 魔神と美少女部分そのものを省略する / 同じく省略する |
| #9 死罪 | 置其妃於死地 / 帝后ト共ニ数十人醜行ノ男女ヲ法場ニ誅戮シタリ [永峯訳は、この部分はレイン版による] |
| #10 妻妾と白人奴隸 | 僕 / 数十人醜行ノ男女 [永峯訳は、この部分はレイン版による] |
| #11 3年間 | なし / なし |

周桂笙訳は、レイン版、バートン版、マルドリユス版などと細かな部分で違っている。兄弟王が分かれていた期間が、20年間から10年間に短縮している。弟王が王宮に引き返したのは、忘れ物ではなく、愛する妃に一目会いたくなったから。切り捨てた妃の死体は、絨毯の上にそのまま置いておかず、溝に投げ捨てた、などなどだ。

決定的に異なっているのは、魔神と美少女の挿話を省略している部分である。英文原作がそうなっているのか、それとも周桂笙が勝手に削除したのか、底本がわからなければ判断がつかない。

ところが、上の比較表を見ると、日本語訳に近いことがわかる。誤解しないでほしい。周桂笙訳が日本語訳を重訳したとっているのではない。周桂笙訳は、日本語訳とはなんの関係もない。

翻訳の傾向が、周桂笙訳と永峯訳とでは似ている。ということは、日本語訳は、タウンゼンド版をもとにしているから、周桂笙訳も同じではないか、とその可能性を考えることができる。

魔神と美少女の物語にしても、その省略は、タウンゼンド版で行なわれている。すなわちタウンゼンド版には、魔神と美少女の話は採用されていない。そうになると、周桂笙訳は、タウンゼンド版にもとづいた可能性が高くなる。

周桂笙訳は、明らかにレイン版、パートン版、マルドリユス版などとは大きく異なる。これは、確かだ。

周桂笙訳がもとづいたのは、タウンゼンド版ではないかと予測をつける。

タウンゼンド版と周桂笙訳を比較対照してみれば、それが正しいかどうか、すぐに判明する。

周桂笙訳とタウンゼンド版

まず、冒頭部分から見てみる。

【タウンゼンド】IT is written in the chronicles of the Sassanian monarchs, that there once lived an illustrious prince, beloved by his own subjects for his wisdom and prudence, and feared by his enemies for his courage, and for the hardy and well-disciplined army of which he was the leader.

ササン朝の君主の年代記において、かつて輝かしい君主が存在し、その聡明さと思慮分別により自国民から愛され、その勇気そしてその大胆さとよく訓練された軍隊の指導者であるがゆえに敵から恐れられていた、と記録されている。p.1

【周桂笙】亞洲西南有養生国者，其歷代帝皇本紀中載有賢君焉。君聰明叡智，士庶歸心，威武英明，鄰邦懾服。

アジアの西南にササン朝というものがあり、その歴代皇帝の記録にある賢

い君主があった。聡明叡知により、国民は心服し、権威武力および賢明さにより隣国は恐れ服従していた。

周桂笙の漢訳は、文言で簡潔に英文を翻訳していることができる。

父王が死去し、二人の兄弟は、わかれてそれぞれの国を統治して10年が経過した。兄王は、弟王に会いたいと使者を送る。承諾した弟王は、準備の後に王宮を後にする。それから、あの問題の事件なのだ。

弟王は、妃にもういちど会いたいと王宮に引き返した。まっすぐに自分の部屋に入っていく。

【タウンゼンド】 when, to his extreme grief, he found that she loved another man, and he a slave, better than himself. The unfortunate monarch, yielding to the first outburst of his indignation, drew his scimitar, and with one rapid stroke changed their sleep into death. After that he threw their dead bodies into the foss or great ditch that surrounded the palace.

これはなんと、妃が別の男を愛しており、その奴隷は、彼自身よりもよりねんごろにしているのを発見した。不運な君主は、彼の憤怒の最初の爆発を生じさせ、三日月刀を引き抜くと、一撃のもとに彼らの眠りを死へと変えた。そののち、彼は、彼らの死体を宮殿のまわりにある堀あるいは大きな溝に投げ捨てた。 p.2

【周桂笙】 則妃方与僕通，状貌甚狎，昵逾夫婦。勃然怒，拔佩劍並誅之，投屍宮外巨溝中。

妃は僕と通じており、その様子はとてもねんごろで夫婦よりも親しげだ。にわかには怒りがこみあげてきて、刀を抜くとこれを殺し、死体を宮殿の外の大きな溝に投げ捨てた。

殺された妃と奴隷の死体は、絨毯の上にそのままにしておいた、という版本がほかにあることは述べた。それに比べれば、溝に投げ捨てるところまで、タウンゼンド版と周桂笙訳は、両者ともにぴたりと一致する。

もう1例あげよう。弟王が、兄王からさそわれた気晴らしの狩猟に出ることを断わり、宮殿に居残っていたとき目撃した、あの兄王の妃の淫行場面である。

【タウンゼンド】The King of Tartary was no sooner alone than he shut himself up in his apartment, and gave way to a sorrowful recollection on the calamity which had befallen him. As, however, he sat thus grieving at the open window looking out upon the beautiful garden of the palace, he suddenly saw the sultana, the beloved wife of his brother, meet in the garden and hold secret conversation with another man beside her husband.

ダッタンの王は、ひとり部屋に閉じこもるやいなや、彼にふりかかった不幸についての悲しい回想にうちめされた。悲嘆にくれながら座って、開かれた窓から宮殿の美しい庭園をながめたとき、ふと目にしたものがあつた。兄王に愛されている王妃が、庭で彼女の夫ではない別の男と秘密の会話をしている。p.3

【周桂笙】吓齐南独处一室，恼想益繁，念遭際不幸，幾欲自搥，偶起四顧，則牖外御園望之歷歷在目，倚窗閑眺，陡見園中有与僕人握手喁喁狎褻不可以注目者。非他，蓋兄王吓利亞之妃，而已之嫂也。

シャー・ザマンは、ひとり部屋にいると煩悶はますますひどくなり、不幸に遭遇したことを考え、自分を責めた。立ち上がりまわりをみまわすと、窓のそとの庭園がはっきりと見える。窓によりかかって眺めていると、ふと、奴隷と手に手を握り、ひそひそとむつまじくしているのが見えた。ほかでもない兄王シャーリヤルの妃であり、自分の嫂である。

漢訳は、ほぼ英文の逐語訳だといってもいい。レイン版、バートン版など、いずれもこの場面は、より刺激的に描写されている。

レイン版は、もともと刺激的で猥褻な箇所を削除していることで有名である。版本の系統は異なるとはいえ、性的表現をさらに強く抑圧したのがタウンゼンド版なのだ。つまり、タウンゼンド版は、その性的表現について書き換えている。

周桂笙は、底本のままを漢訳した。ついでだからのべると、日本語訳『暴夜物

語』は、英文原作のままでは弟王と兄王の不幸が不均衡だと考え、この部分はレイン版から引用補充して悲劇性を強調した。翻訳の態度からいえば、やはり周桂笙の原文尊重の方がこのましい。

周桂笙は、タウンゼンド版に忠実だから、このあと、弟王から妃の行状を聞かされ、そのまま弟王の言葉を信じて、妃を処罰する。ほかの版本が、弟王の言葉を信じきれない兄王が、狩猟に出かけたと見せかけて、宮殿にもどり自らの目で妃の淫行を確認することになっているのとは、異なる。英訳にも、いろいろある。

さて、タウンゼンド版では、章を分けて「ロバと牛の寓話 The Fable of the Ass, the Ox, and the Labourer」がつづくことになる。ただし、周桂笙訳は、章分けを無視した。章を立てず、そのまま漢訳を続ける。だから、タウンゼンド版にはついている章題が、周桂笙訳には、ない。

娘のシャーラザッド（希臘オ）が、王のもとに行くというのを諫めて、大臣が物語る寓話だ。その意とするところは、相手のためを思って助言する者は、かえってひどい目にあう、である。

シャーラザッドは、父の諫めをいれず、宮殿に赴くと、夜、王に物語りはじめる。長い長いアラビアン・ナイトの開幕となる。タウンゼンド版で使用されている物語の題名を示しながら説明したい。

まず、「商人と魔神の物語 The Story of the Merchant and the Genie」がある。殺したおぼえもないのに、魔神の子供を殺したと責められる商人の話だ。

物語のなかで、さらに語られる物語がある。

「一番目の老人と牝シカの話 The History of the First Old Man and the Hind」は、妖術で母子を牛に変身させ、結局、その当人が牝シカに変えられた話。

つぎの「二番目の老人と二匹の黒犬の話 The History of the Second Old Man and the Two Black Dogs」も変身譚だ。なぜ兄弟が黒犬に変わったのか、そのいきさつが語られる。

不思議な話を聞かされた魔神は、それで満足し、商人を許した。

アラビアン・ナイトは、いくつかの物語で構成されているのが基本構造だ。そのひとつの物語のなかで、さらに物語が展開していくという多重構造になっている。上の商人と魔神の物語にしても、大きく前後に、商人と魔神の話が置かれて

おり、そのなかに、別の話題である牝シカと黒犬の物語がはめ込まれるということだ。

周桂笙の漢訳は、以上のようにタウンゼンド版の順番通りに行なわれている。ただし、章分けをしない。ゆえに章題の漢訳もないことは、すでに述べた。

上に見てきた周桂笙の「一千零一夜」部分は、タウンゼンド版の「序文 introduction」を含めて4篇によって構成されている。

つぎの「漁者」が、タウンゼンド版の「漁夫の話 The History of the Fisherman」に相当する。

網にかかった古壺から出てきた魔神に殺されかかった漁夫が、機転をきかせてもういちど魔神を古壺に閉じ込めるという話だ。よく知られている。

この物語も、上の商人と魔神の物語と同じく、大きな話題のなかに小さな話をいくつか組み合わせて成立している。

漢訳の的確さを示すために、ここも冒頭をあげよう。

【タウンゼンド】 There was formerly an aged fisherman, so poor that he could barely obtain food for himself, his wife, and his three children. He went out early every morning to his employment ; and he had imposed a rule upon himself never to cast his nets above four times a day.

昔、年おいた漁夫がひとりいました。彼自身と妻、3人の子供をかろうじて養うことができるくらいに貧しかったのです。毎日、早朝より生業とする漁に出ましたが、自ら規則をつくり、1日に4回をこえる網は投げないと決めていました。p.19

【周桂笙】某漁者，家赤貧，一妻三子，幾不能贍。漁者凌晨即操網出，而又自為定例，日凡投網四次，所獲多寡，悉聽於天，不多投也。

ある漁夫は、家は貧しく、妻と3人の子供を扶養するのがむづかしかったのです。漁夫は、朝早くから網を打ちにでかけましたが、日に4回の網をうち、収穫の多寡は、すべて天にまかせて、それ以上投げないと自ら決めておりました。

周桂笙の漢訳が、正確に英文を翻訳しているの理解することができる。
だが、漢訳には誤りがまったくない、というわけでもない。

【タウンゼンド】“It is,” replied the genie, “to permit thee to choose the manner of thy death…….”

魔神が答えて「お前に死に方を選ばせてやろう……」 p.20

【周桂笙】曰：“許爾自擇死所耳。……”

「死に場所を自分で選ぶのをお前に許してやろう」といいます。

英文の「死に方」が、なぜ漢訳の「死に場所」になるのか。漢訳の不可解な部分だ。

さて、周桂笙は、ここでも章分けはしない。

「ギリシア王と医者ドゥバンの話 The History of the Greek King and Douban the Physician」は、王の命を救った医者が、逆に殺されそうになり、王が復讐される物語である。

周桂笙訳は、次に物語の省略を実行する。すなわち、

「夫とオウムの話 The History of the Husband and the Parrot」

「罰せられた大臣の話 The History of the Vizier who was punished」

の2篇を漢訳しない。ふたつともに、助言者が逆恨みによって殺される、という同主旨の物語だから、周桂笙は、省略したのかと考える。

金持ちになる方法を魔神が教えてくれるというので、疑い深い漁夫も、ようやく魔神を古壺から出してやった。魔神が教えてくれたのは、湖に網を打ち、4色の魚を宮殿に届けろ、というものだった。これが、「漁夫の冒険の続き The Further Adventures of the Fisherman」の内容だ。きれいな4色の魚を料理しようとすると思議な人物が出現してじゃまをする。これを3回くりかえし、それを知った王が湖にまで出かけることになる。

その土地で遭遇するのが、下半身が大理石に変身している若王である。黒島王という。

「黒島王の話 The History of the Young King of the Black Isles」は、愛欲におぼ

れた若王の妻が妖術を使い若王の下半身を石に変身させ、若王の都を滅亡させたのだ。その原因というのが、妻の淫行である。淫行といっても、タウンゼンド版は、他の英訳本とは異なり、性的表現が強く押さえてある。だから、以下のようになる。

【タウンゼンド】 I perceived that she was walking with a man, with whom she offered to fly to another land.

妻が男と歩いているのに気がつきました。妻は、別の土地に逃げようとそいつに提案しているのです。p.35

【周桂笙】 忽一男子出，与之偕行，且行且語，後許以同飛至他處，以圖久遠。

ひとり男がふと出てくると、うちつれて歩いていきました。歩きながら話をしていて、一緒によそへ逃げて将来を考えようと約束したのです。

ここだけ見れば、なにも相手の男に切りつけて植物人間（妻の妖術で命は助かった）にしなくても、と思いきやそうなる。本来は、もっとえげつない表現があり、かつそれを描写をしているのだが、タウンゼンドが、ドロドロ部分の過激表現を削って上のように薄めてしまったのだ。

王は、同情して若王の妻の愛人を殺害し、愛人を装って女に妖術をとくように命令した。若王も都も元通りになった。これをもたらした漁夫を手厚くもてなし、一家も裕福に暮した。

結局のところ、周桂笙の漢訳は、タウンゼンド版にもとづいていることが明らかになった。ただし、全部ではない。序文を除いて全10篇、序文を含めれば全11篇のうち、2篇を削除する。

周桂笙の漢訳は、簡潔な文言によって、ほとんど誤訳もなく上出来の仕上がりになっている。初期漢訳のなかでも質の高いひとつだといえる。最初部分の11篇で、なぜ中断したのかわからないが、それにしても惜しいことであった。

胡從経は、周桂笙の翻訳について、彼の直訳は非常に忠実で、意識をして任意に原著を切り刻んでいた当時の訳風とは、まったく違う*9、と高く評価する。原

文に忠実ではない当時の翻訳とは、何を指しているのか、わからない。また、胡従経は、もとになった英文の版本を知らないのに「彼の直訳は非常に忠実で」という。別の箇所では、現在の翻訳本と対照して「訳文は原著に忠実だ」と書いている。胡従経は、英訳本は1種類しかないと考えているのだろうか。やや不注意な書き方だと思う。

3 『大陸報』の「一千一夜」

つぎの「一千一夜」は、佚名訳で『大陸報』第6-10期（光緒二十九年四月初十日1903.5.6-七月初十日9.1）に掲載されたという。

現在、私が目にしているのは、該誌第6期の「《一千一夜》序」、および第8期（1903.7.4）の「漁翁故事」だけだ*10。復刻されているから読むことができる。それ以外の作品が何であるのか、『大陸報』そのものを見ることができないから、不詳とせざるをえない。

「《一千一夜》序」において、物語全体の枠組みを解説するその手際が、よい。兄王シャーリヤル（解利亜）は、妃が奴隷と淫行したのでこれを殺した。夜毎、美人に伽をさせ、あくる朝に殺害することをくりかえす。シャーラザッド（翁海拉才徳）が、自ら望んで嫁ぎ、1001夜にわたって物語る。その間、3児を得て、ついに死を免れた。こうまとめて、物語の冒頭部分のかわりとした。

もうひとつ興味深いのは、訳本について説明している箇所がある。いま、漢訳人名のうしろに原語を補い、簡単に紹介しよう。

アラビアン・ナイトがヨーロッパに輸入されたのは、1704年、フランス人谷蘭徳 Galland によってフランス語に翻訳されたことにはじまる。その後各国であらそってそれが翻訳された。1811年、英国にはじめて流入し、斯谷徳 Scott が英訳し、のちに福斯多 Edward Forster 版、倫 Lane 版があり、いずれもよい本だ。今翻訳したのは、党孫 Geo. Fyler Townsend 版である。フォースター版に比べれば簡潔であり、レイン版よりも平易であって、かの地での普及本なのである。

めずらしく底本を明らかにしている。タウンゼンド版だという。周桂笙訳と同じだ。たしかに、各翻訳について説明した上の部分は、タウンゼンド版の「序文

PREFACE」にもとづいていると考えられる。

まず、「漁翁故事」の冒頭から検討する。

【タウンゼンド】 There was formerly an aged fisherman, so poor that he could barely obtain food for himself, his wife, and his three children. He went out early every morning to his employment ; and he had imposed a rule upon himself never to cast his nets above four times a day.

昔、年おいた漁夫がひとりいました。彼自身と妻、3人の子供をかるうじて養うことができるくらいに貧しかったのです。毎日、早朝より生業とする漁に出ましたが、自ら規則をつくり、1日に4回をこえる網は投げないときめていました。p.19

【大陸報】昔有一人，以捕魚為業，妻單子只，年老貧乏，不能自存。性喜早起，捕魚海濱，立約自限，每日捕魚不得過四網。

昔、魚捕りを生業とする者がいました。妻一人子一人で、年老いて貧乏、生きていくのもむづかしい。早く起きて浜辺で魚を捕らえるが、自ら制限をもうけ、1日に4回を越えてはならないと決めていました。

漢訳では、子供の数が原文と一致しない。細かな違いである。それを除けば、漢訳は、ほぼ英文原作に忠実な翻訳になっている。

イスラム教による礼拝をいう箇所を見れば、漢訳が、原文にきわめて忠実であることがわかる。

【タウンゼンド】 The day now began to break,¹ and having, like a good Mussulman, finished his prayer,

その日が明けようとしていました。よきマホメット教徒として、彼の祈りを終わると、..... p.19

【大陸報】時東方已白、翁遂禱祝畢（回教教典載：每日回教徒当禱祝五次.....）

時に東方はすでに明け、漁夫は祈りを終えました（回教の教典につきのように載っている。毎日、回教徒は5回祈らなければならない.....）

英文原作には数字「1」を使用して注釈をつけている。すなわち、「コーランでは、1日5回の祈りをささげるように命じている……。 The Koran commands prayers to be repeated five times a day; ……」とある。漢訳では、これを忠実に翻訳した。日本語翻訳の永峯版が、この部分を見逃したことに較べれば、その忠実さの度合いがわかるだろう。

漁夫の網にかかるのは、口バの死骸、泥砂のつまったカゴなどでしかなかった。4度目にしようやく手ごたえがあると感じたものの、あがってきたのは古瓶である。封印をといてみれば、中から煙がわきだし、それが凝縮して魔神が出現した。その魔神のセリフである。

【タウンゼンド】Humble thyself before me, or I will kill thee.

目の前にかしこまっておれ、殺してくれよう。 p.20

【大陸報】其善視我、否当殺爾。

わしを見よ、さもなくば殺すぞ。

ほとんど逐語訳といっていいほどの文言による漢訳である。

魔神は、漁夫に助けられたにもかかわらず、殺すという。ただ、選択の余地がある。

【タウンゼンド】“It is,” replied the genie, “to permit thee to choose the manner of thy death……”

魔神が答えて「お前に死に方を選ばせてやろう……」 p.20

【大陸報】魔答曰：“当聽汝自択死所。……”

魔神が答えて「お前に死に場所を選ばせてやろう……」

周桂笙訳のところで指摘したように、英文原作の「死に方」と漢訳の「死に場所」では、意味が異なる。なぜ漢訳は、同じ箇所を間違えるのか。誤訳は、漢訳には少ないから、そのひとつとなる。

魔神は、ダビデの息子ソロモンに反抗して古瓶に閉じ込められた。最初の百年に魔神が考えたのは、助けだしてくれたら金持ちにしてやるということだ。次の百年に考えたのは、……というように話がすすむ。

タウンゼンド版では、当然のごとく最初の百年を first century と書く。それを漢訳では、「第一期」とする。間違いではない。一期が百年という意味だ。当時、百年で区切る考え方 「世紀」が中国にはなかったのかと想像する。そういえば、周桂笙訳の同一箇所では、「当第一世時（一百年為一世）」とわざわざ説明している。これを見れば、やはり「世紀」という考え方は、当時、なかったらしい。

魔神に殺されるというキワに立った漁夫は、まさに「必要は創造の母である。Necessity is the mother of invention. 必然者創造之母！」。漢訳が、原文にぴったりと合致している。

巨大な魔神が小さな古瓶に入っていたとは、とても信じられない。もう一度、入ってみる、というのが漁夫の機知である。漁夫の策略にまんまとはまった魔神であった。

命の恩人を殺そうとするのは、ギリシア王と医者ドゥバン Douban 杜笨の物語とおなじではないか。聞きたいが、というところで次につづく。

『大陸報』では続いているという。だが、残念ながら原物を見ることができない以上、ここで触れるわけにはいかない。

タウンゼンド版を簡潔な文言で逐語訳にしたのが、この『大陸報』の漢訳であるということができる。

邨溥浩は、1903年の出版物として大陸書局が無名氏訳の『一千零一夜』と『天方夜譚』の二書を出版したと書いている*¹¹。

この二書と上の『大陸報』掲載訳文とどういう関係があるのか不明だ。

上に紹介したものは、いずれも短いものである。全体のうちの、最初のほんの数篇といったところだ。

4 「航海述奇」は未見

「航海述奇」は、The Story of Sindbad the Sailor だという。阿英小説目には、

「航海述奇 錢楷訳 光緒二十九年（一九〇三）文明書局刊」（176頁）と記録されている。

顧燮光「小説経眼録」（537頁）は、英穀徳訳、錢鏞重訳とする。アラビア原本だと書いているが、英訳者の穀徳は、誰のことなのか、これだけでは判断できない。

鄧溥浩は、書名を「海上述奇」とする（『中国翻訳詞典』832頁）。1903年出版の錢楷訳といい、内容が「辛伯達航海旅行故事」なのだから、シンドバッドの七つの航海「航海述奇」にちがいない。

ところが、日本東京市中原印刷所出版とも書いている、文明書局ではないのが不思議。

伊宏は、「《一千零一夜》与中国」（注3参照）において詳しく説明する。原文を手元においているらしいので引用しよう。

「《航海述奇》，無錫錢楷重訳，一九〇三年五月二十日発行。這是我們見到的第一個《一千零一夜》故事選訳本，它就是《辛伯達航海旅行故事》。這本書不厚，只有三十六頁，大三十二開，豎排大字体，印刷所是“日本東京市”中原印刷所，有可能是通過日文翻譯的，但書上注明是“阿臘原本”」（298頁）

どうやら文明書局の発行であって、日本東京の中原印刷所で印刷したらしい。だから、日本語からの翻訳と推測するのは無理だろう。「英国史谷徳訳」であれば、Jonathan Scott だとわかる。穀徳の前にはもともと「史」があるのを後に落としたりらしい。

原本を見る機会がくるのを楽しみにしている。

さて、アラビアン・ナイトの長い漢訳が登場するのは、『繡像小説』連載の「天方夜譚」を待たねばならなかった。

5 『繡像小説』の「天方夜譚」

「天方夜譚」は、最初、『繡像小説』の第11-55期（癸卯九月初一日1903.10.20-刊年不記 [1905.8.1]）に連載された。

『繡像小説』は、発行年月を記載しなくなってからは、発行が遅れ気味になる。

天方夜譚 是書為亞刺伯著名小說歐美各國均譯之本館特從名手重譯以餉同好於前十則已見他報茲擇其未印者先行出版藉免雷同俟快報開者發之 本館謹識

三噶稜達(突厥波斯等處遊僧一名德惟虛以甘貧樂道為旨)五幼婦

富加利勿哈龍愛勒司乞特時柏格特有擔夫某秉性聰慧善解人意每晨擔筐立街市待雇一日有一少婦行經其處明眸皓齒面覆輕紗珊步而前謂擔夫曰取爾筐來余當需汝擔夫聞言欣然從之且自語曰樂哉今日幸哉吾遇

行數武至一宅少婦輕擲其門一白鬚耶穌教徒啓門出貌甚莊肅少婦與之金未交一言老人似會意恩入聖美酒一瓶出少婦令擔夫置之筐中肩以從擔夫如其言途中自語如前

未幾又至一果肆入購蘋果杏桃榴佛手橙金橘甘紫蘇蓮花茉莉及其他香花若干種一一選定命擔夫收之又至一肉肆購鮮肉二十五磅復至菜市購白花菜太勒真(菜名)胡瓜芹菜等浸以醋復購椰子胡桃杏仁榛杏等較前更夥悉命擔夫荷之擔夫收拾畢從容語曰敢問夫人尙購他物否若然則小人請備良馬或駱駝送之少婦聞言嫣然一頰似甚笑其慧者

既而又入一藥室購香水丁香胡椒荳蔻生薑龍涎香及印度香料畢迤邐前行擔夫

天方夜譚

商務印書館印行

『繡像小説』の「天方夜譚」

[1905.8.1] は、カッコで示したように、半月刊が守られていたら、という仮定の年月だ。実は、連載が終了した第55期の発行年月は、現在の資料から推測すれば、1906年になってからとなる(【増補版補記】光緒三十二(1906)年閏四月と推測する)。約三年間の長期連載だ。

『繡像小説』は、その誌名が示すとおり「挿絵」を売り物にした小説専門雑誌である。しかし、なぜかしら「天方夜譚」には挿絵がついていない。

顧燮光の「小説経眼録」*12には、

繡像小説報記。是書為亞刺伯著名小説，歐美各國均譯之。最前十則，已見他報。茲擇其未印者出。篇中所記《三噶稜達五幼婦^{ママ}事》、尤為奇闢。至記某魔情狀，則有類《西遊記》焉。

と説明してある。

いかにも、全文が顧燮光の筆になるように読める。だが、ちがう。冒頭の一部は、よそからの引用である。

すなわち、『繡像小説』で連載をはじめるとあたり、作品についてごくわずかな説明をつけている。顧燮光は、これを流用しているのだ。

是書為亞刺伯著名小説歐美各国均译之本館特延名手重訳以餉同好最前十則已見他報茲特擇其未印者先行出版。……

本書は、アラビアの著名な小説で、欧米の各国はみなこれを翻訳している。本館（注：商務印書館）は、特に名手を招いてこれを重訳し、同好の諸氏におおくりする。最初の10篇は、すでにほかの刊行物に見えるので、ここではとくに未刊の作品を選び、まずおひろめする。……

『繡像小説』で以上のように書いているほかの刊行物に見える最初の10篇というのは、なにか。

10篇という数からいえば、周桂笙訳しかありえない。タウンゼンド版でいえば、序文を含めると全11篇だが、しかし、周桂笙訳は、そのうちの2篇を削除していて全9篇となる。これを指しているのだと推測される。

ほかの刊行物にわざわざ言及されているところをみても、周桂笙訳「一千零一夜」は、注目を集めていたことがわかる。

漢訳の本文を検討する前に、訳者と底本について解説しておきたい。

訳者 奚若のこと

『繡像小説』連載のときは、訳者名も原書名も書かれていなかった。

前言の説明によると、周桂笙とは別の訳者を立てて、未訳の作品を『繡像小説』に連載していく意図だと読める。

別の訳者とは、誰か。

『繡像小説』連載が終了したのち、版元の商務印書館は、雑誌には掲載しなかった冒頭部分を含めてそれを単行本にした。『(述異小説)天方夜譚』全4冊(「説部叢書」初集第54編)である。この奥付には、「繡訳者元和奚若 校訂者紹興金石

上海商務印書館 丙午（1906）年四月 / 中華民國二（1913）年十二再版」と書かれている。

ここではじめて、訳者が奚若であることが明らかにされた。

奚若については、詳細がわからない。巨冊といってもいいあの林煌天主編『中国翻訳詞典』にも記述はない。

奚若は、本名なのか筆名なのか。それさえ、今では、はっきりしていないことになっている。

奚若を筆名だとする説が、3種類ある。これから紹介していこう。

奚若筆名説

ひとつは、伍国慶が、奚若の姓は張だという。「訳者奚若，即張奚若」と書いているのがそれだ*13。

今まで、指摘されたことのない新説だといえる。ただし、張奚若の略歴について紹介しない。

張奚若という名前の人物は、実在する。

陳玉堂編著『中国近現代人物名号大辞典』（杭州・浙江古籍出版社1993.5）の466頁に収録されており、生没年が1889-1973年だ。陝西朝邑の人。その略歴を見れば、辛亥革命に参加し、そののちアメリカに留学、コロンビア大学を卒業している。その後、北京法政大学、中国大学、清華大学、中央大学、西南聯合大学の教授を歴任している。新中国成立後は、全国政協委員、中国人民外交学会会長、教育部長などをつとめた。

張奚若は、橋川時雄『中国文化界人物総鑑』（北京・中華法令編印館1940.10.25初版 / 名著普及会復刻1982.3.20）にも収録される（411頁）。ただ、著述に「社約論考」などとあるだけで、『天方夜譚』をあげない。これほど著名な翻訳に言及しないのも不思議な話だ。

奚若が、張奚若ならば、『繡像小説』に「天方夜譚」を連載しはじめた1903年は、数え年で十五歳となる。早熟で翻訳に手を染めた可能性は、なくはない。

ただし、決定的な不都合がある。

前出、『天方夜譚』全4冊の奥付に見える「繡訳者元和奚若 校訂者紹興金

石」を見てほしい。

奚若の出身地は、蘇州府元和県なのである。張奚若が、陝西朝邑の人であることを見れば、明らかに、同一人物ではない。

校訂者が金石というなら、姓名の記載方法からいえば、奚は姓で、若は名となる。伍国慶の新説は、成立しない。

ふたつめは、北京図書館編『民国時期総書目（1911-1949）』外国文学（北京・書目文献出版社1987.4。番号0313）だ。収録された『天方夜譚』の上海・商務印書館本に注して「訳者奚若原名伍光建」（28頁）と書いている。該書自体にそのような記載があるわけではない。書目編者による注記だろう。だが、この著名な翻訳家伍光建の出身は、広東新会県であるから、これまた奚若ではありえない。

みつ目は、前出の陳玉堂編著『中国近現代人物名号大辞典』だ。よりもよって周桂笙の筆名だとする。

「又別署奚若（訳《福爾摩斯再生案》）」（606頁）と書かれている（同書全編増訂本2005.1でも訂正されていない。819頁）。

しかし、まず、周桂笙は、上海人だから、奚若の元和とは一致しない。

この誤解が生じたのは、楊世驥「周桂笙」（『文苑談往』所収）に、そう書かれているからだ（11頁）。「福爾摩斯再生案」は、奚若と周桂笙の連名で示されているらしい。それが、そもそもの誤解のもとになったのだと推測する。

日本でもはるか以前に、奚若は、周桂笙ではないか、という説が示されたことがあった。私は、それを否定している。

ハガキで発行していた『清末小説研究会通信』第42号「漢訳シャーロック・ホームズ物、吳研人の『情魔』」（1985.11.1）に書いている。関係する部分を引用する。

中島利郎氏は、「周桂笙著訳目録初稿」（『呻唾』第20号1985.3.10）において、「奚若 = 周桂笙の筆名の可能性もある」とのべられるが、これは間違いだろう。阿英編『晚清戯曲小説目』に見える奚若訳の『福爾摩斯再生案』（シャーロック・ホームズの帰還 Return of Sherlock Holmes）4冊はあとで合本にされたい。『図書月報』第1冊（光緒三十二年五月十五日）に掲載された小説林広告に

よれば、『福爾摩斯再生後探案』一至五および同名書六至十の2種類が出版されている。前者は、元和奚若訳・武進蔣維喬潤辞と記され、後者には元和奚若訳・上海周桂笙訳と書かれる。奚若と周桂笙は、明らかに、別人である*14。

これだけでも、奚若が周桂笙ではない証拠とするには十分だと思う。

それでも疑問を持たれる人には、翻訳の実物をあげれば納得してもらえらう。

さきに紹介した周桂笙の漢訳「一千零一夜」と「漁者」は、奚若の『天方夜譚』とは、別物である。

冒頭部分をならべる。

【周桂笙】亜洲西南有養生国者，其歴代帝皇本紀中載有賢君焉。君聡明叡智，士庶帰心，威武英明，鄰邦懾服。

【奚若】上古時波斯国跨大陸。據島嶼。東渡恒河。達支那之西部。並印度諸部隸焉。其幅員至遼闊。撒森尼安歴史。載當時有主波斯者。英武好兵。威稜讐鄰国。

見ればわかる。両者は、異なる。これほど異なる漢訳を、同一人物が提出すると考えることは、むづかしい。

奚若は、本名

奚若は、筆名ではなく、奚姓だと考えるのは、前述したように、『天方夜譚』の奥付に「繙訳者元和奚若 校訂者紹興金石」とあるからだ。金と奚が対応する。決定的な資料のひとつは、写真である。

『東方雑誌』第3年第1期（光緒三十二年一月二十五日1906.2.18）の冒頭に、「光緒三十一年十二月十六日／本館創設速成小学師範講習所第一次畢業時撮影」と題する写真が掲げられる。その教員に、嚴保誠、長尾^{マツ}禎太郎（シルクハットをかぶった洋装）、奚若、蔣維喬、徐念慈、徐傳霖、杜亞泉、蔡元培、徐球の姿が見える*15。

人物の姿は小さすぎて、顔を判別することはできない。だが、その名前のならば方を見れば、奚若だけが筆名であろうはずがない。つまり、奚若は、本名である。

もうひとつ、奚若は、1909年、商務印書館編訳所に勤務していた。職員名簿に彼の名前がある*16。

「奚若 伯綬」*17とする筆名録がある。

奚伯綬ならば、『張元濟日記』*18に名前があがっている。日記といっても張元濟の業務日誌のようなものだ。「編訳」の項目に見え、いずれも『英華大辞典』増補の仕事に関係している。

1912年6月3日に奚伯翁の名前で(2頁)、同じく5日と7日には、奚伯綬としての記録がある(3頁)。

奚伯綬は、『英華大辞典』を増補する仕事に、毎週5日間、毎日3時間、合計15時間従事して月に100元だという。

奚若は、1906年には、商務印書館速成小学師範講習所の教員だった。1909年は、編訳所の職員だ。中華民国になってからも、編訳所の職員だったのだろうか。1912年、『英華大辞典』の増補という仕事に月給を100元支給するというのは、どういう意味だろう。編訳所職員としての仕事ではなかったのか。職員ならば、給料のうちに数えるだろう。それとも、通常の編訳の仕事とは別に『英華大辞典』の増補を考えているのか。詳細は、不明だ。

青年協会書局(Association Press)で謝洪賚と一緒に働いていた人物として奚伯綬の名前があがっている。オペリン大学で修士の学位を取っていると説明がある(何凱立著、陳建明、王再興訳『基督教在華出版事業(1912-1949)』成都・四川大学出版社2004.8.99頁)。新しい手がかりだ。

英語に堪能だった奚若だから、商務印書館の『英華大辞典』に関係するのも不自然ではない。

1912年6月8日に開催された商務印書館株主総会において、新しい理事が選出された。鮑武昌、印有模、張元濟、夏瑞芳、鄭孝胥、王之仁、奚伯綬の7名だ*19。

これをみれば、奚若(伯綬)は、編訳所の職員から理事に就任している。

1919年5月15日の『張元濟日記』「財政」には、奚伯綬の普通預金が824元9角1

分あることを記録する。張元済の忘備録だから、詳細は不明。少なくとも、奚若は、1919年当時、商務印書館に勤務していたとわかる（【増補版補記】奚若は1914年死去。普通預金についてはその記録があることを記載したらしい）。

わずかな資料しか残されていない。つづりあわせると以下のようなだろうか。

奚若は、「天方夜譚」の漢訳を『繡像小説』に掲載する。英語が堪能だったところから、商務印書館の速成小学師範講習所教員に就任した。その関係で編訳所の職員となり、民国後には理事に昇任する。あるいは、最初から編訳所の職員であったかもしれない。ゆえに『繡像小説』に掲載した「天方夜譚」には、訳者名が掲げられなかったものか。

中村忠行は、奚若を紹介して次のように書く。

訳者奚若は、江蘇省元和の人、初め商務印書館編訳部に、後には小説林社出版部に在つて、翻訳に従事した人と覚しいが、氏姓・閲歴共に詳らかでない*20。

郭延礼は、奚若を紹介して次のように書く。中村の文章を参照したらしい。

奚若、字は伯綬、江蘇元和の人。はじめ商務印書館編訳所で仕事をし、のちに小説林社にはいった。彼の生涯については、現在、以上が知られるだけだ*21。

奚若は、小説林社から翻訳を多く出版しているから、上のような記述になったのだろう。

その訳書の関係からいうと、1906年ころまでは圧倒的に小説林社出版のものが多し。だから、中村忠行、郭延礼が書くのとは反対に、まず、小説林社に在籍(?)ののち、商務印書館編訳所に入社したものと考えられる。

奚若については、以上のほかは不明のままにしておく。

奚若がもとづいた底本については、『繡像小説』連載開始時には、言及がなかった。調べようにも、手掛かりはない。

中村忠行が、「(訳者奚若は)英語はかなり出来た様で、『繡像小説』第十一期(光緒二十九年九月一日刊)以下に『天方夜譚』(Arabian Nights' Entertainment.)をRichard Burtonの英訳本によつて訳載してゐるのを始め……」*22と書いている。これを読んで、漢訳の底本はバートン版だと私は信じた。それを否定する資料を、私は持っていなかったのだ。だから、『新編清末民初小説目録』(樽目録第2版)にも、中村の言葉のままに注記している。だが、これは正しくなかった。

『繡像小説』に連載された「天方夜譚」は、のちに商務印書館から単行本として発行された『天方夜譚』とほぼ同一訳本だ。ゆえに「説部叢書」の1冊として出版された時につけられた「天方夜譚序」が、問題解決の糸口となる。

この「序」においてアラビアン・ナイトの概説とともに各種英訳が紹介されている。もともとの英訳固有名詞は漢語で音訳されているだけで、原文は示されていない。わかる範囲で英文を補い、日本語訳をつける。

若夫繙訳各本。自法人葛蘭德譯為法文。實是編輸入歐州之始。後英人史各脫魏愛德取而重訳。踵之者為富斯德氏。至一千八百三十九年。冷氏則復取阿刺伯原本訳之。並加詮釈。為諸訳本冠。外尚有湯森氏。鮑爾敦氏。麥克拿登氏。巴士魯氏。巴拉克氏諸本。然視冷氏皆遜之。今所據者為羅利治刊行本，原於冷氏。故較他本為獨優。

翻訳各種については、フランス人ガラン Antoine Galland がフランス語に訳したのが、欧州に輸入されたはじめである。その後、スコット Jonathan Scott、ホワイト White がそれを重訳した。それにつづいたのがフォースター Edward Forster 氏である。1839年になると、レイン Edward William Lane 氏が、ふたたびアラビア原本から翻訳し、注をつけくわえた。これが諸翻訳のなかで最優秀のものだ。ほかには、タウンゼンド Rev. Geo. Fyler Townsend 氏、バートン氏 Burton、マックナーテン Wm. Hay Macnaughten 氏、ブレスラウ Breslau 氏、ブーラーク Boulaq 氏らの諸本がある。しかし、レイン氏には及ばない。いまよったのは、ラウトレッジ Routledge 社の刊行

した版本で、レイン氏のものにもとづいている。ゆえに、ほかの諸本とくらべても格段に優れている。

アラビアン・ナイト英訳本についての上の解説は、かなり詳しいということができる。

ただし、アラビア語原典とその翻訳の区別をつけていないのが不十分だ。たとえば、プレスラウ版(1824-43)は、印刷地の名前から命名されているし、ブーラク版(1835)は、カイロ郊外のブーラク地区で印刷したからその名前がある。マックナーテン版とは、いわゆるカルカッタ第二版(1839-42)のことだ。

漢訳の底本について、ここには、「今所據者為羅利治刊行本，原於冷氏。いまよったのは、ラウトレッジ Routledge 社の刊行した版本で、レイン氏のものにもとづいている」と明確に書かれている。

こうはっきりと宣言してあるのだから、誰しもレイン版が底本だと考える。

周作人もこの「序」を読んだはずだ。奚若訳の4冊本について、レイン版だとのべている。

中文有奚若訳四冊，大抵係依拋雷恩訳文選本，因為是古文，所以沒有細讀。^{*23}

中国語には奚若が翻訳した4冊があって、たぶんレイン訳によっている選集本だろう。古文だったので、詳しくは読まなかった。

アラビアン・ナイトのなかのひとつを漢訳したことのある周作人である。その彼が、奚若版は、レイン版にもとづいていると考えた。

私が、それに反対する理由はない。ゆえに、『新編増補清末民初小説目録』(済南・齊魯書社2002.4。樽目録第3版)では、旧版のパートンを訂正してレインの名前に書きなおし、さらにレイン版によって収録作品の題名を注記しておいた。

ただし、一部、レイン版には存在しない作品が漢訳されており、注記しながら奇妙に感じたのは確かだ。

もうひとつ不思議に思ったことがある。上の、各種版本について説明した箇所

は（プレスラウ版とブーラク版についての説明を除く）、前出タウンゼンド版「序文」に似た記述が見られることだ。

レイン版原本と漢訳作品の相違から、漢訳は、レイン版から離れる。また、版本についての説明の類似により、漢訳は、タウンゼンド版に近づく。

ということは、漢訳の底本はタウンゼンド版なのだろうか。

だが、漢訳の「序」には、レイン版にもとづいた、と誰が見ても明らかなたちで書かれているのではないか。まさか、レイン版というのが誤りであるとは考えもしない。底本についての考えは、結果として一転二転するのである。

奚若訳『天方夜譚』の底本をさぐる前に、英訳本の特徴を簡単にのべておく。

欧州翻訳本間の異同

漢訳『天方夜譚』がもとづいた底本を特定するために、欧州で翻訳された訳本のそれぞれの特色を明らかにしておきたい。

バートン版が出現するまで、翻訳にはふたつの系統があった。

ひとつは、フランス語のガラン版系であり、もうひとつは英語のレイン版系だ。

アラビア語原典からフランス語に翻訳したガラン版の「引き写し」が、英訳のジョナサン・スコット版だという（後述）。「以後、不穏当な部分を削った子供向け英語普及版の種本として広く利用された」*24

スコット版に基づき、これをさらに削除して「無害」にしたのが、タウンゼンド版である。タウンゼンド版は、また、韻文や詩句を省略している。

ガラン版系の特色は、有名な「アリ・ババと40人の盗賊」「アラジンと魔法のランプ」を収録していることだ。当たり前ではないか、と言われるに違いない。アラビアン・ナイトといえば、アリ・ババであり、アラジンである。しかし、この2作品を含んで、10篇あるいは11篇の作品は、アラビア語原典が不明だったという事実がある。

くりかえす。ガランは、出典不明の作品をフランス語訳にさしこんだ。あの有名なアラジンの魔法のランプもアリ・ババと40人の盗賊も、ガランの翻訳にのみ出現するという意味だ。だから、ガランが勝手に創作した物語だと疑われたこともある。

一方、レイン版3巻本は、ブーラク版に基づいて、カルカット第1版とプレスラウ版を参照して英訳された。「レインは自分の訳本が家庭内で読まれるのを意図していた。そのため、子供や純真な青少年には不適當であると考えた箇所は、削除するか書き換えている。話が全編にわたって猥褻だと判断した場合には、話自体を訳出しなかった」*25

それでも、タウンゼンド版にくらべたら、まだよほど生々しい。

それはさておき、アリ・ババあるいはアラジンについては疑惑が持たれていたから、レインは、アラビア語原典から英訳した際、それらを英訳しなかった。原典に存在しない物語を翻訳することはできない。

つまり、レイン版系は、アリ・ババまたアラジンを含んで約10篇の有名作品を収録していないのが特色だ。

それでは、アリ・ババとアラジンなどが、ガラン版系かレイン版系をみきわめる基準になるかといえば、必ずしもそうはならないから、ややこしい。

すでに有名になりすぎたアリ・ババとアラジンだったから、それらを収録しない翻訳本は販売に影響をきたしたのだろう。なぜそう推測するかといえば、レイン版3冊本からさらに作品を選択して1冊本としたレイン版選集本があるからだ。このレイン版選集本には、附録としてわざわざアリ・ババとアラジンの英訳2作を追加収録している。

さて、前述のように「天方夜譚序」には、「今所據者為羅利治刊行本，原於冷氏。[いまよったのは、ラウトレッジ Routledge 社の刊行した版本で、レイン氏のものにもとづいている]」(2頁)とある。日本語訳に示したとおり、冷氏というのは、Edward William Lane である。羅利治刊行本とは、Routledge という出版社の刊行物をさす。

ラウトレッジ社出版のレイン訳本が『天方夜譚』の底本第1候補となる。インターネットで調べてみると、該当する書籍が1865年から69年にかけて出版されているらしい。

ほかに、ラウトレッジ社に注目してみると、タウンゼンド版が、複数ある(1877[1876],1889[1888],1892,1893)。また、同社のサグデン MRS. SUGDEN 版([1875])というのも出版されている。

ということは、「序」に見える「原於冷氏」という語句は、かならずしもレイン版を指しているとは限らないということか（後述）。レイン版そのものではなく、べつの改編本である可能性もあるのではないか。これは、やっかいなことになってきた。

とりあえずラウトレッジ社のアラビアン・ナイトを調べてみると、東北大学漱石文庫が浮上してきた。

目録には、「Arabian Nights' Entertainment /London: Routledge 1901」と表示する版本が所蔵されている。

漱石文庫所蔵の『アラビアン・ナイト』 サグデン版（ラウトレッジ社）

夏目漱石が、当時、購入した洋書は廉価本であったという。

漱石文庫の大部分は、今日でいえば文庫や新書にあたるような廉価本で占められている。この時代安い洋書といえば、文庫本サイズ「カッセル本」の名で親しまれたカッセル社ナショナル・ライブラリー、そしてラウトレッジ、ハイネマン、ニューンズなど数社から刊行されていた六ペンス叢書あたりが代表格といえよう。^{*26}

なにはともあれ、「天方夜譚序」に見えるラウトレッジ社の刊行物だ。漱石文庫のものが、はたしてレイン版かどうかわからない。いろいろ想像することができにしても、版本に関しては、見るまでは、なにも書くことができない。

勤務校の図書館を通じて複写を申し込むと、混んでいるから時間がかかるという返答である。読むことができれば、いい。いくらでも待ちましょう。

それでも、8ヵ月が経過してみれば、忘れられたのではないかとさすがに心配になる。再度、問い合わせ、ようやく届いた複写を点検してみれば、該書は、上に引用したような廉価本ではない。本文501頁もある精裝本だ。

「K. Natsume. March 1898」と署名がある。となると、目録にある1901年という記述は、間違いだとわかる。購入したのが1898年3月なのだから1901年に発行されるわけがない。

1898（明治31）年といえば、漱石は、熊本の第五高等学校で同僚の長尾雨山に漢詩の添削を求めているところだ*27。

見れば、書名は、“THE ARABIAN NIGHTS' ENTERTAINMENTS” とあり、ARRANGED FOR THE PERUSAL OF YOUTHFUL READERS BY THE HON. MRS. SUGDEN と注記されている（以後、本稿ではサグデン版とよぶ）。レイン版にもとづいてサグデン夫人が改編したという可能性はあるにしても、そうならば、そう説明があってもいい。だが、説明はない。レイン版とは、直接の関係はないとしておく。

挿絵は、クーパー A. W. COOPER の手による。刊年は印刷されていない。ものの本によると、1875年版であるらしい。

後日、もう1冊、ラウトレッジ社発行サグデン版の原本を入手したので、こちらでも紹介しておきたい。

布表紙の地は赤色をしている。両者の表紙デザイン、挿絵は、異なっている。こちらの扉には挿絵師の名前が書かれていない。刊年は、同じく明示されていない。しかし、本文の組版は、両者は完全に一致している。ゆえに、本文は501頁だ。

このサグデン版は、当時、日本では容易に入手できたようだ。

漱石が該書を手にした数年後の丸善株式会社発行の洋書目録（A CATALOGUE OF BOOKS , 1910.12）にその書名を見ることができる。

該目録には、3種類のサグデン版が掲載されている。それぞれ、pp.iv+268、pp.vii+392および判型違いの同一ページ（pp.vii+392）のものがあり、異版だとわかる。書名は、いずれも“The Arabian Nights' Entertainments”とする。

そのほかレイン版3冊、編訳者不記の6ペンス叢書、ミリオン・ライブラリ、あるいはラウトレッジ社のポピュラー・ライブラリ本などもみえる。

この青年向きに書きなおされたサグデン版は、最初から大幅な変更を行なっている。レイン版でくりひろげられている兄弟王のそれぞれの妻が淫行する部分を完全に削除するのである。

ラウトレッジ社の発行ではあっても、まず、内容が異なる。あっさりと、『天方夜譚』の底本候補から脱落してしまう。……というわけにはいかない。

冒頭の書き出し部分だけは、このサグデン版と漢訳の両者は、とても似ている（のちにのべることになるが、漢訳と一致する箇所が、いくつも出現するのだ）。

「序」には、「今所據者為羅利治刊行本，原於冷氏。いまよったのは、ラウトレッジ Routledge 社の刊行した版本で、レイン氏のものにもとづいている」と書いてあったではないか。にもかかわらず、サグデン版と一致する部分もあるのか。

「序」の説明を見て、奚若はレイン版にもとづいて漢訳したのだと私は考えた。私にかぎらず、上の文章を読めば、研究者は、そのように理解するだろう。

ところが、「序」の説明を裏切る事実がいくつも出てくる。

ひとつは、漢訳は、レイン版の本文とは基本的に異なる。

ふたつは、漢訳作品のいくつかは、レイン版には収録されていないものだ（後述）。

とても奇妙なのである。

レイン版を主な底本にし、部分によって、あるいは作品によっては、他の版本を参照導入しているのだろうか。だが、この可能性は、とても少ない。漢訳は、ほとんどレイン版とは別物なのだ。疑問に思う気持ちが自然と大きくなる。

少し先を急ぎすぎたようだ。その前に、まだ、説明しなければならないことがある。

6 商務印書館版奚若訳『天方夜譚』の検討 英文原本の探求 2

『繡像小説』連載の漢訳とのちの単行本の関係について書いておこう。

私は、「『繡像小説』に連載された「天方夜譚」は、商務印書館から単行本として発行された『天方夜譚』とほぼ同一訳本だ」と書いた。

「ほぼ同一」という意味は、雑誌初出とのちの単行本（全50篇収録）では、題名が異なっていたり、語句に異同があることをいう。

さらに、『繡像小説』連載は、冒頭の10篇を掲載せず、第11篇からはじまっている事実がある。

どういう順序でどの漢訳を考察の対象とするのか、まず、これが問題だ。

やや変則的ながら、私は、発表の時間的順序を無視したいと考える。つまり、



「説部叢書」版『天方夜譚』

「天方夜譚」のもともとの順序通りに、すなわち冒頭の10篇は単行本の「説部叢書」版『天方夜譚』に拠り、第11篇から『繡像小説』の連載に切り換える。その時には、単行本の漢訳も参照する。

もとの物語の順序通りに見ていかなければ、英文原本の特定がむつかしいと考えるからだ。底本をさぐりつつ漢訳の質を検討するというのだから、記述が変則的にならざるをえない。これまで誰も奚若訳『天方夜譚』の底本を特定していないのだから、しかたがないのだ。

参照する英文原本は、レイン版3冊本、タウンゼント版、サグデン版の3種類とする。

縁起 INTRODUCTION 序

冒頭部分を比較対照してみよう。必要だと判断した部分に日本語をつける。

【説部叢書】上古時波斯国跨大陸。據島嶼。東渡恒河。達支那之西部。並印

度諸部隸焉。其幅員至遼闊。撒森尼安歴史。載當時有主波斯者。英武好兵。威棱讐鄰国。

古代、ペルシアは、大陸をまたぎ、島々をおさめ、東はガンジス川からシナの西に達し、インド諸部はつき従っており、その地域ははてしもなかった。ササン朝の歴史には、当時、勇ましく軍事を好み、威光で隣国をおびえさせるペルシアの支配者がいたことを記録している。

【レイン】 In the name of God, the Compassionate, the Merciful. (以下、神をたたえる言葉がつづくので省略) /It is related (but God alone is all-knowing, as well as all-wise, and almighty, and all-bountiful,) that there was, in ancient times, a King of the countries of India and China, possessing numerous troops, and guards, and servants, and domestic dependents:

レイン版は、神をたたえる文章が、かなり長く続く。漢訳するに際して省略したと考えるよりも、よった英文原作にもともとなかったと推測するほうがよからう。そうすると、漢訳の底本がレイン版である可能性は薄れる。ゆえに日本語訳をつけない。

【タウンゼンド】 IT is written in the chronicles of the Sassanian monarchs, that there once lived an illustrious prince, beloved by his own subjects for his wisdom and prudence, and feared by his enemies for his courage, and for the hardy and well-disciplined army of which he was the leader. p.1

タウンゼンド版も、レイン版と同じ理由で日本語訳を省略する。

【サグデン】 IT is written in the chronicles of the Sassanians - those ancient monarchs of Persia, who extended their empire over the continent and islands of India, beyond the Ganges, and almost to China - that there once lived an illustrious prince of that powerful house, who was as much beloved by his subjects for his wisdom and prudence, as he was feared by the surrounding states, from

the report of his bravery, and the reputation of his hardy and well-disciplined army.

ササン朝の年代記において、その帝国をインドの大陸と島々をまたぎ、ガンジス川を越えて、ほとんど中国にいたるまでおしひろげたペルシアの古代の君主たちのなかに、かつて強力な一族の輝かしい君主が存在し、その聡明さと思慮分別によって自国民から愛され、勇敢だという評判と彼の強力で訓練のいきとどいた軍隊の世評によって隣国から恐れられていた、と記録されている。

レイン版、タウンゼンド版、サグデン版の3種類を比較する限り、ガンジス川の出てくるサグデン版が、漢訳にもっとも近い。だが、冒頭部分だけを見て結論を急いではない。

兄王シャーリヤル（史加利安）と弟王シャー・ザマン（史加瑞南）が遭遇した不幸な物語がはじまる。

前述したいくつかの箇所について、漢訳を中心に英訳3種類との対応をみてみよう。（レイン版／タウンゼンド版／サグデン版の順。：一致、×：不一致、無：該当する箇所が存在しない）

漢訳	レイン版／タウンゼンド版／サグデン版
#1 撤森尼安（ササン王朝）	×無 / Sassanian / Sassanians
#2 十年（10年間）	×twenty years / ten years / ten years
#3 忽念后不置（妃をおもう）	×he had left in his palace an article / once more to see his queen / ×無
#4 奴（奴隸）	×a male negro slave / a slave / ×無
#5 自牖棄屍溝中（窓から死体を溝になげすてた）	×slew them both in the bed / he threw their dead bodies into the foss or great ditch / ×無
#6 俄婢十人各弛服。黒奴如婢数（下女10人と同数の黒人奴隸）	twenty females and twenty male black slaves / ×hold secret conversation with another man / ×無
#7 美蘇得（メスード）	Mes'ood / ×無 / ×無

#8 計九十有八(指輪98個) ninety-eight seal-rings / ×無(魔神と美少女部分そのものを省略する) / ×無

#9 縛后 ×caused his wife to be beheaded / ×to death his unhappy sultana / ×無

#10 手殺諸婢奴(下女奴隷を殺し) in like manner the women and black slaves / the unworthy accomplice of her guilt / ×無

#11 3年間は漢訳にもない three years / ×無 / ×無

サグデン版は、冒頭部分が似ているだけだ。兄弟王の重要な部分を削除する。底本検討の対象からはずしたいところだが、後にのべるように、部分的に漢訳がよっている箇所がある。必要に応じて参照することにする。

上記11カ所について比較をすれば、漢訳は、異なる部分があるにしても、しいて言うならば、タウンゼンド版に近いような印象が得られる。「近い」であって、完全に一致していない。だから、底本とすることには躊躇する。決定するにはいたらないから、問題は複雑なのである。

とりあえず、物語の最初部分は、タウンゼンド版に主として拠り、部分的にレイン版とサグデン版を参照したのかと推測しておく。

タウンゼンド版が漢訳の底本であろうかと考える理由は、ほかにもある。漢訳された作品自体から考えてみる。

タウンゼンド版に見え、レイン版には収録されない作品を以下に示す。参考のためにサグデン版、ガラン版とバートン版の題名もかかげておく*28。

1. ザイン・アル・アスナム王子と魔神の王の話(九つめのダイヤのおとめ)

「魔媒記」奚若翻訳、金石校訂『天方夜譚』第3冊 上海商務印書館 丙午4(1906) / 1913.12再版 説部叢書1=54。以下、同じ。

「魔媒記」奚若訳述、葉紹鈞校註『天方夜譚』下冊 上海・商務印書館1924.8。以下、同じ。

【タウンゼンド】The History of Prince Zeyn Alasnam and the Sultan of the Genii.

【サグデン】THE HISTORY OF PRINCE ZEYN ALASMAN AND OF THE KING

OF THE GENII

【ガラン】 Histoire du Prince Zeyn Al-asnam et du Roi des Génies.

【バートン】 The Tale of Zayn Al-Asnam.

2 . フダダッドとその兄弟の話

「殺妖記」 奚若翻訳、金石校訂 『天方夜譚』 第3冊

「殺妖記」 奚若訳述、葉紹鈞校註 『天方夜譚』 下冊

【タウンゼンド】 The History of Codadad and his Brothers. The History of the Princess of Deryabar.

【サグデン】 なし

【ガラン】 Histoire de Codadad et de ses frères. (including La Princesse de Deryabar)

【バートン】 Adventures of Khudadad and his Brothers.

3 . ふしぎなランプの話 (アラジン)

「神燈記」 奚若翻訳、金石校訂 『天方夜譚』 第4冊

「神燈記」 奚若訳述、葉紹鈞校註 『天方夜譚』 下冊

【タウンゼンド】 The Story of Aladdin; or, the Wonderful Lamp.

【サグデン】 THE HISTORY OF ALADDIN, OR THE WONDERFUL LAMP

【ガラン】 Histoire de la Lampe merveilleuse.

【バートン】 Aladdin; or, The Wonderful Lamp.

【レイン選集】 The Story of 'Ala-ed-Din and the Wonderful Lamp

- 4 . 教主の夜の冒険

「加利弗挨力斯怯得軼事」 奚若翻訳、金石校訂 『天方夜譚』 第4冊

「加利弗挨力斯怯得軼事」 奚若訳述、葉紹鈞校註 『天方夜譚』 下冊

【タウンゼンド】 The Adventures of the Caliph Haroun Alraschid.

【サグデン】 THE ADVENTURES OF THE CALIPH HAROUN ALRASCHID

【ガラン】

【バートン】 以下の456を一括して収録する

4 . 盲のババ・アブズラーの話

「盲者記」 奚若翻訳、金石校訂 『天方夜譚』 第4冊

「盲者記」奚若訳述、葉紹鈞校註『天方夜譚』下冊

【タウンゼンド】The Story of Baba Abdalla

【サグデン】THE HISTORY OF BABA ABDALLA, THE BLIND MAN

【ガラン】Histoire de l'Aveugle Baba Abdalla.

【バートン】Story of the Blind Man, Baba Abdullah.

5 . シディ・ヌウマンの話

「記虐馬事」奚若訳述、金石校訂『天方夜譚』第4冊

「記虐馬事」奚若訳述、葉紹鈞校註『天方夜譚』下冊

【タウンゼンド】The Story of Zidi Nouman.

【サグデン】THE HISTORY OF SIDI NOUMAN

【ガラン】Histoire de Sidi Nouman.

【バートン】History of Sidi Nu'uman.

6 . 縄作りのフワジャー・ハサンの話。または、フワジャー・ハサン・アル・ハッバルの話

「致富術」奚若訳述、金石校訂『天方夜譚』第4冊

「致富術」奚若訳述、葉紹鈞校註『天方夜譚』下冊

【タウンゼンド】History of Cogia Hassan Alhabbal.

【サグデン】THE HISTORY OF COGIA HASSAN ALHABBAL

【ガラン】Histoire de Cogia Hassan Alhabal.

【バートン】History of Khwajah al-Habbal.

7 . アリ・ババと、ひとりの女奴隷によって殺された40人の盗賊の話。

「記瑪奇亜那殺盜事」奚若訳述、金石校訂『天方夜譚』第4冊

「記瑪奇亜那殺盜事」奚若訳述、葉紹鈞校註『天方夜譚』下冊

【タウンゼンド】The History of Ali Baba, and of the Forty Robbers killed by One Slave.

【サグデン】THE HISTORY OF ALI BABA, AND OF THE FORTY ROBBERS
KILLED BY ONE SLAVE

【ガラン】Histoire d'Ali Baba, et de Quarante Voleurs exterminés par une Esclave.

【バートン】Story of Ali Baba and the Forty Thieves.

- 【レイン選集】The Story of 'Ali Baba and the Forty Thieves
- 8 . アリ・フワジャーとバグダッドの商人の話（子供の裁判）
- 「橄欖案」奚若翻訳、金石校訂『天方夜譚』第4冊
- 「橄欖案」奚若訳述、葉紹鈞校註『天方夜譚』下冊
- 【タウンゼンド】The Story of Ali Cogia, a Merchant of Bagdad.
- 【サグデン】THE HISTORY OF ALI COGIA, A MERCHANT OF BAGDAD
- 【ガラン】Histoire d'Ali Cogia, Marchand de Bagdad.
- 【バートン】Story of Ali Khwajah and the Merchant of Baghdhad.
- 9 . アーマッド王子と仙女ペリ・バナの話（空とぶ絨毯）
- 「求珍記」奚若翻訳、金石校訂『天方夜譚』第4冊
- 「求珍記」奚若訳述、葉紹鈞校註『天方夜譚』下冊
- 【タウンゼンド】The Story of Prince Ahmed, and the Fairy Perie Banou.
- 【サグデン】THE HISTORY OF PRINCE AHMED AND THE PAIRY PARI-BANOU
- 【ガラン】Histoire de Prince Ahmed et de la fée Peri-Banou.
- 【バートン】Adventures of Prince Ahmad and the Fairy Peri-Banue.
- 10 . 妹をねたんだふたりの姉の話（しゃべる鳥と歌う木と金の水）
- 「能言鳥」奚若翻訳、金石校訂『天方夜譚』第4冊
- 「能言鳥」奚若訳述、葉紹鈞校註『天方夜譚』下冊
- 【タウンゼンド】The Story of the Three Sisters.
- 【サグデン】THE STORY OF THE TWO SISTERS WHO WERE JEALOUS OF
THEIR YOUNGER SISTER
- 【ガラン】Histoire de deux Soeurs jalouses de leur Cadette.
- 【バートン】Tale of the Two Sisters who Envied their Cadette.

以上は、レイン版には作品そのものが収録されていないにもかかわらず、奚若の漢訳があるものだ。

複数の原本を手元において、こちらから数編、あちらから数編を選択して漢訳するばあいも、ないことはないだろう。可能性としては、考えられる。可能性があるとすれば、漢訳の底本を決めるためには、各作品の文章をこまかく比較検討

する必要がでてきた。あらためて、やっかいなことになったと思う。

とりあえず得られる結論は、漢訳が主としてもとづいたのは、すくなくともレイン版（選集本も含む）ではないということだ。

「序」では、レイン版にもとづく（原於冷氏）と明らかに説明していた。ゆえに、漢訳の底本はレイン版だと私は理解した。だが、事実がそれを否定する。

「序」に、直接関係のないレイン版をなぜ出しているのか、不可解だとしかいえない。

不可解のままにほっておくわけにはいかないから、以下のように考えてみる。

商務版『天方夜譚』、すなわち奚若版は、漢訳に際してラウトレッジ社本を底本に使用した。ただし、レイン版そのものではなかった。つまり、「序」において述べた「レイン版にもとづく（原於冷氏）」という説明は、英文原本についての根拠のない勝手な推測でしかないのだ。

以上のように考えるよりほかに、「序」の解釈のしようがないではないか。

今の段階では、漢訳の底本はタウンゼンド版である可能性が高いと予想をつける。

今後、商務版『天方夜譚』は、タウンゼンド版の本文を主として比較対照することにしたい。あわせてサグデン版を見る。必要があれば念のためレイン版も参照しよう。

前述したように、検討の順序も、英文原本の順番にしたがう。ゆえに、漢訳の発表時間を無視して、のちに出版された単行本の作品からはじめて、さかのぼって『繡像小説』『東方雑誌』掲載作品の順になる。

ただし、奚若が漢訳の際によった英語原本が特定できた時点で本稿は終了する。ご注意いただきたい。

鶏談 The Fable of the Ass, the Ox, and the Labourer 口バと牡牛の寓話

レイン版では、「序 introduction」のなかに表題なしで組み込んでいる物語だ。

タウンゼンドは、上記のように表題をつけており、表題があるという点では、漢訳もそれにならう。ただし、原題通りの漢訳にはなっていない。

【説部叢書】昔有賈者。事畜牧致富。能通獸語。人詰獸何言。則結舌秘不道。以道則不利。且死。距郭有田廬數所。以豢諸畜。一日偶以牛若驢共一廄[割注]。

昔、商人がいて、牧畜に従事して金持ちになった。獣の言葉を理解することができたが、獣がなにをいっているのか人が問い詰めても、話そうとはしなかった。しゃべれば不利になるし、死ぬのである。田舎に数箇所の田地と家屋を所有して、家畜を飼っていた。ある日、偶然、牛とロバを同じ畜舎に入れた。7-8頁

【タウンゼンド】A very rich merchant had several farm-houses in the country, where he bred every kind of cattle. This merchant understood the language of beasts. He obtained this privilege on the condition of not imparting what he heard to any one, under the penalty of death. /He had put by chance^[1] an ox and an ass into the same stall and

大金持ちの商人がいて、田舎にいくつかの農家を持ち、多くの種類の牛を飼っていた。この商人は、獣の言葉を理解した。彼が聞いたことを誰にも話さない、話せば死の罰を受けるという条件でその特権を得たのである。/彼は、偶然、牡牛とロバを同じ畜舎に入れて..... pp.5-6

漢訳は、英語原文のほとんどそのままでもいいだろう。

興味深いのは、タウンゼンド版の by chance に注釈がつけられていることだ。しかも、漢訳にも、同じ場所に注釈がほどこされている（注釈の句読点は、初出にはほどこされていない。重版によっておぎなう）。

【説部叢書】東方風俗，牛驢異待，牛作苦，驢則供王侯官吏驅馳，顧慮甚至。近埃及副王曾以白驢贈威爾士親王，副王維嘉爾因此驢得優賞。一千[八百]六十四年秋，伊斯林頓開農学博覧会，此驢与焉。

東方の風俗では、牛とロバでは待遇が異なっていた。牛は苦役に使われ、ロバは王侯官吏の走りに提供され、とてもよい世話をしてもらっていた。最近、エジプトの副王が白いロバをウェールズ親王に贈った。副王ヴィカーは、

このロバによって優秀賞をえて、1[8]64年の秋、イスリントンで農学博覧会が開催されたとき、このロバも参加したのである。6頁

【タウンゼンド】The ass and the ox in the East were subject to very different treatment; the one was strong to labour, and was little cared for the other was reserved for princes and judges to ride on, and was tended with the utmost attention. Even in these days the Pasha of Egypt sent a white ass as a present to the Prince of Wales. He was named “Vicar,”and received a prize at the Donkey Show held in the Agricultural Hall, Islington, in the autumn of 1864.

東方において、ロバと牡牛は、とても異なった扱いを受けていた。一方は労働に強く、片方は少し気を使われて 君主と裁判官が乗るために用意されていて、最高の世話をを受けていたのである。最近も、エジプトの高官が皇太子に白いロバをプレゼントした。それは「ヴィカー（教区牧師）」と名付けられ、1864年秋にイスリントンの農業会館で開催されたロバ展覧会で受賞した。p.6

漢訳に示した「一千[八百]六十四年」の「八百」部分は、初出にはない。重版されたとき訂正された。

漢訳の前半は英文原作のままでよろしい。だが、後半は、なにか誤解をしている。

誤解部分はさておいて、重要なのは、レイン版、サグデン版ともに、上のような内容の注釈はついていないことだ。この事実には注目せざるをえない。タウンゼンド版にのみ注釈があって、それが漢訳に反映されている。決定的であるといってもいいのではないか。漢訳は、タウンゼンド版を底本にしていることが明らかである。

棗核弾 The Story of the Merchant and the Genie 商人と魔神の物語

「ロバと牡牛の寓話」によって、お節介な助言はなんの役にも立たないことを教えたつもりの父親だった。

だが、シャーラザッド（希罕拉才得 Schehera-zade）は、聞き入れない。妹ドゥニ

ヤザッド（定那才得 Dinar-zade）をともなって兄王のもとに嫁いだ。こうしてアラビアン・ナイトが始まる。

最初の物語の「商人と魔神の物語」については、以前、簡単に触れた。身におぼえもないのに、魔神の子供を殺したと責められる商人の話だった。

漢訳は、文中にみつつの注釈をほどこす。

摩薩門 Mussulman、懲悪（英文原作は genie につける注釈。genies, peris, ghouls について）、礼拝後（信条を Imana [信仰] と Din [実行] のふたつに分けることをいう）の3カ所にある。ただし、2番目の注釈位置は漢訳のばあい適切ではないし、3番目の解釈を漢訳では分派に誤解している。

大事なことは、ここでもタウンゼンド版にのみ見られる注釈が、漢訳にほどこされているという事実だ。漢訳が底本にしたのは、レイン版ではなくタウンゼンド版だということがこれでも確認できる。

物語の途中で夜が明ける。兄王は、結末を知りたくてシャーラザッドを殺さず、翌晩、物語が再開される。この順序をくりかえす。レイン版がそうだ。しかし、タウンゼンド版は、この決まりきったくりかえしを煩わしいと考えてか、のちには省略してしまう。漢訳は、タウンゼンド版を底本にして翻訳しているから、のちには、くりかえしは出現しない。

1年の猶予をもらった商人は、帰国して身辺整理をした。魔神との約束を守ってもとの場所にもどってくると、牝シカをつれた老人がやってくる。さらに、2匹の黒犬をともなった老人も登場する。漢訳では、3人目の老人が出てくる。奇妙である。タウンゼンド版では、ふたりだからだ。記述が一致しない。

こうして、確認したはずの漢訳の底本問題に関して、早くも揺れが生じるのである。これでは、「確認」にはならないではないか。

物語のなかでは、主としてふたつの話が語られる。

鹿妻 The History of the First Old Man and the Hind 一番目の老人と牝シカの話

漢訳の書き出しが、英文原作のタウンゼンド版とは、微妙に異なる。

【説部叢書】叟曰。此鹿為予中表妹。当髻歳。即帰予為室。凡世閩州寒暑。

無所出。予雖不弛愛。不能無念嗣統。

老人は語った。この鹿は私の従妹です。幼い頃、私の家に嫁ぎました。30年をすごし、なにごともしなかったのです。私は愛してはいましたが、跡継ぎがないのを残念に思わないわけにはいきませんでした。15頁

【タウンゼンド】The hind, whom you, Lord Genie, see here, is my wife. I married her when she was twelve years old, and we lived together thirty years, without having any children.

魔神さま、ごらんになっておりますこの牝シカは、私の妻でございます。12歳の時に結婚いたしまして、子どもなしで30年間をいっしょにすごしてまいりました。p.14

英文にあるものを漢訳する際に省略することは、よくあることだ。「12歳 twelve years old」を「幼い頃 当髻歳」と書き換えるのは、正確ではないが、許容範囲内だとはいえよう。

逆に、翻訳するとき、原文にないものを特別に漢訳でつべくわえるというのは、それほど簡単なことではないと考える。

こまかいところだが、タウンゼンド版の wife (妻) を漢訳でわざわざ「中表妹 [従妹]」とする必要があるのだろうか。

ところが、英文では、そうする版が別にあるのである。

【レイン】THEN said the sheykh, Know, O 'Efreet, that this gazelle is the daughter of my paternal uncle, and she is of my fresh and my blood. I took her as my wife when she was young, and lived with her about thirty years; but I was not blessed with a child by her; p.42

関連する部分のみを指摘すると、the daughter of my paternal uncle がその箇所である。「父方の伯父の娘」だという。すなわち従妹だ。このちいさな部分についてのみ、漢訳がレイン版を参照して導入するのもおかしいことだ。疑問に感じる時は、サグデン版を見る。

【サグデン】The hind, whom you see here, is my cousin; nay, more, she is my wife. When I married her, she was only twelve yars old, and she ought, therefore, not only to look upon me as her relation and husband, but even as her father.

ごらんになっておりますこの牝シカは、私の従妹、というよりも、私の妻でございます。彼女がわずか12歳の時に結婚いたしましたので、ですから、私を親族、夫と見ているばかりか、父親とも思っておりました。 p.11

レイン版のような複雑な表現をしておらず、サグデン版は、そのものずばり「従妹 cousin」を使用している。ただし、そのあと、漢訳にはない記述があり、そうすると、漢訳の底本となったのは、タウンゼンド版であって、サグデン版を参照したのかと思える。

細かなところといえば、商人と奴隷 (slave。漢訳：婢、妾) のあいだに生まれた子が「10歳」のときに、商人は長旅に出たと漢訳はしている。タウンゼンド版には、「10歳」という表現はない。サグデン版は、漢訳と同じ「10歳 ten years old」。レイン版では、「15歳 the age of fifteen years」とする。

この旅行中に、嫉妬にかられた妻が、妖術を使って妾と息子を牛に変身させ、商人である夫には、妾は死亡、息子は行方不明だと告げる。

「8ヵ月 eight months」が経過したが、息子は帰ってこない。これがタウンゼンド版だ。サグデン版は、「2ヵ月 two months」、レイン版は、「1年 a year」とする。しかし、漢訳は、なぜかしら「3ヵ月 [三月]」(15頁)になっており、しかも、のちの重版では「1ヵ月 [一月]」(14頁)に変更している。その理由を知らない。

ほんの1, 2例を示した。英文原作タウンゼンド版と漢訳には、小さな異同があることを指摘しておきたい。このいくつかの小さな異同が、まさに、タウンゼンド版底本説を揺るがすのである。

妖術で牛となった妾は、祭の生け贄にされた。息子も犠牲にされかけて、情けをかけた商人に救われる。事情を知っている人間によって、息子は妖術を解かれ、結局、商人の妻は牝シカ (レイン版では、カモシカ gazelle) に変えられたという話で

ある。

あまりに不思議な話に魔神は、うなった。それに免じて約束の殺しを手加減してやろうという魔神のセリフに注目する。

【タウンゼンド】I grant to you a half of the blood of this merchant.

この商人の血を半分お前にやろう。 p.16

その意味は、殺される予定の商人を半分だけ助けてやろう、ということだ。なぜ、半分なのか。それは、黒犬2匹をつれたもうひとりの老人の話が控えているからだ。ふたりあわせて、商人の命が助かる、という伏線でもある。

ところが、サグデン版は、「この商人の3分の1を許してやろう。I grant a third of my pardon to this merchant.」(p.15)とする。同じく、レイン版でも「そいつ(商人)の血の3分の1をお前にやろう。I give up to thee a third of my claim to his blood.」(p.46)となっている。

なぜ、3分の1であるかの理由は、ご賢察のとおり、レイン版では、話をする老人は、タウンゼンド版のふたりとは異なり3人だからだ。つまり、タウンゼンド版は、登場する老人を3人から2人に減らした。それにとまなう原文の書き換えである。前出周桂笙の漢訳は、タウンゼンド版が底本だから、当然、半分と翻訳している。

ところが、同じタウンゼンド版に拠っているはずの奚若訳は、なんと、「商人の罪の3分の1を許してやろう[当為汝宥賈罪三之一可矣]」(17頁)とするのだ。

なぜ、わざわざ原文を無視してしまうのか。部分的に別版を参照したのか。それよりも、タウンゼンド版に異版があるのか。また、タウンゼンド版でもなくサグデン版でもない、まったく別の版本が漢訳の底本なのだろうか。タウンゼンド版だけに見える注釈を漢訳が拾っている事実があるにもかかわらず、底本についての疑惑を消すことができないのだ。

犬兄 The History of the Second Old Man and the Two Black Dogs 二番目の老人と二匹の黒犬の話

つぎも変身譚だ。なぜ兄弟が黒犬に変わったのか、そのいきさつが語られる。兄弟3人には、父の死後、ひとりにつき金貨1,000枚が残された[left us one thousand sequins each]。

英文原作では、ひとりに1,000セキンずつだが、合計すれば3,000セキンになる。だから、漢訳では、あっさり「三千西亮[袞]司」にしてしまい、さらに注をほどこして「アラブの金貨の名称[亜刺伯金貨名]」と説明する(重版では、(西袞司 Sequins) 為亜刺伯金貨名、と誤植を正して表記する)。この注釈は、タウンゼンド版には存在しない。レイン版の原文では“three thousand pieces of gold”とだけ表現しており、これにつけられた注も、セキンには言及しない。奚若独自の注だと考えてよいだろうか。

誠実な弟が、自堕落な兄ふたりに船から海に放り出され、殺されかけたところに、妻である妖精に助けられた。兄ふたりは黒犬に変身させられる。

タウンゼンド版は、ふたつの話で商人は死を免れることになる。

前述したように、漢訳では、3人の老人が登場している。かといって、3人目の老人が、最初のふたりと同じように自分の話を詳細に、また具体的にのべるかといえば、それは、ない。単に、魔神を驚かせる話をしました、で終わる。話の内容が、まったく示されていないである。中途半端であるといわざるをえない。そうならば、タウンゼンド版のままに、老人はふたりで十分であるはずだ。

奚若は、タウンゼンド版のほかに別の版本も手元にあることを示したかったのか、と疑ってみたりする。

漢訳には、物語のなかにふたつの話と中途半端な切れ端があるだけだ。レイン版ではみっつの物語が展開されているのを見れば、漢訳の上の箇所は、タウンゼンド版に主として拠りつつも、レイン版を少し参照していると考ええる。

記漁父 The History of the Fisherman 漁夫の話

貧しい漁夫が、海底から引き上げた瓶を開けると、なかから出てきた煙が魔神の姿になった。

魔神が、最初に口にした言葉を下に示す。これが、さらに私に首をひねらせることになるのである。

【説部叢書】所[蘇]羅門*29，上帝之先知，今後当服従汝，不敢跋扈矣。

ソロモンは、神の預言者である。今後は、あなたに従う、逆らうつもりはない。21頁

魔神の言葉は、昔、ソロモンに反抗して瓶に閉じ込められたことに由来している。2度と逆らいません、瓶に入れないでください、という意味である。

奚若の漢訳は、基本的にタウンゼンド版に拠っていると私は考えている。だから、次にタウンゼンド版の該当箇所をしてみる。

【タウンゼンド】“It is,” replied the genie, “to permit thee to choose the manner of thy death.....”

魔神が答えて「お前に死に方を選ばせてやろう.....」 p.20

明らかに奚若訳とは、異なっているではないか。タウンゼンド版の該当箇所には、漢訳にあるソロモンなど書かれてはいない。どういうことか。

漢訳には存在し、底本のはずのタウンゼンド版にないのだから、別の版本を比較する必要が出てきた。

【レイン】There is no deity but God: Suleymán is the Prophet of God. O Prophet of God, slay me not; for I will never again oppose thee in word, or rebel against thee in deed!

アラーのほかには神なし。スライマンは神の預言者である。オオ、神の預言者よ、どうかわしを殺さないでくれ。本当のところ、言葉のうえでわしはあなたに反対したり、反抗したりはしません。 p.72

言葉の内容は、レイン版に近い。ただ、レイン版のスライマン Suleymán は、呼びかたが違うだけでソロモン (Solomon) のことではあるが、それが漢訳の「蘇羅門」になるかといえば、なりそうではない。

【サグデン】“Solomon, Solomon,” cried the Genius, “great prophet, pardon, I pray, I never more will oppose thy will, but will obey all thy commands.”

「ソロモンよ、ソロモンよ」魔神は叫んだ。「偉大なる預言者よ、許したまえ、お願いする。あなたの意志に反抗することはしない。すべての命令に従います」p.22

漢訳は、タウンゼンド版ではないし、レイン版とも少し異なる。上に示したサグデン版に一番近い。以前にも似た例があった。ここだけを、サグデン版から引きぬいたことになるのか。

魔神は、なぜ瓶のなかに閉じ込められることになったのか、漁夫にむかって、話しはじめた。

【タウンゼンド】Solomon, the son of David, the prophet of God, commanded me to acknowledge his authority, and submit to his laws. I haughtily refused. In order, therefore, to punish me, he enclosed me in this copper vase;

アラーの預言者、ダヴィッドの子ソロモンは、わしに彼の權威を認めて彼の法に従うように命令した。わしは傲慢にもそれを拒否した。そこで、懲らしめるためにわしを銅の壺に閉じ込めたのだ。p.20

【説部叢書】蘇羅門者。乃大衛王子。為上帝先知。神皆稟其令。罔敢踰越。予与撒加素桀驚。不服法。王震怒。命首相巴拉加耶子阿寒甫。逮予至。命設誓永服從。予倔強不聽。王迺以銅瓶錮予。……

ソロモンはダヴィッド王の子、アラーの預言者であるため、神はみなその命令を受け入れ、逸脱することをしない。わしとサカルは、もともと傲慢で、法に従わなかった。王はひどく怒り、首相バラヒヤの子アサフに命じてわしを捕らえさせ、永遠に服従すると誓わせようとしたのだ。わしは聞き入れなかったため、王は銅瓶にわしを閉じ込めたのだ。…… 21-22頁

漢訳には、タウンゼンド版に見ることのできないサカル、バラヒヤの子アサフ

などという固有名詞が出てくる。これほど具体的な名詞は、原文になれば、漢訳者が勝手に補充できる種類のものではなからう。タウンゼンド版が底本、という説がここでも揺らぐのだ。

そこでレイン版のページをくってみる。

【レイン】 I rebelled against Suleymán the son of Dáood: I and Sakhr the Jinnee; and he sent to me his Wezeer, Ásaf the son of Barkhiyà, who came upon me forcibly, and took me to him in bonds, and placed me before him: and when Suleymán saw me, he offered up a prayer for protection against me, and exhorted me to embrace the faith, and to submit to his authority; but I refused; upon which he called for this bottle, and confined me in it,

わしはダウィッドの息子スレイマンに反旗をひるがえしたのだ。わしと魔神のサフルだがな。するとバルヒヤの息子アサフという大臣を送ってきて、無理矢理捕らえて彼の目の前につれていった。スレイマンは、わしを見て、わしに対する防御のために祈りを捧げ、信仰を受け入れ、さらに彼の権威に服従するようにすすめたのだ。しかし、わしは拒否した。そうしてこの瓶にわしを閉じ込めた..... p.72

レイン版では、前出のようにソロモンではなくてスレイマンとする違いはある。だが、奚若訳は、そのほかの固有名詞がレイン版の該当部分によく似ている。

それでは、サグデン版と比較対照してみよう。

【サグデン】 I am one of those spirits who rebelled against the sovereignty of Heaven. All the other Genii acknowledged the great Solomon, and submitted to him. Sacar and myself were the only ones who were above humbling ourselves. In order to revenge himself, this powerful monarch charged Assaf, the son of Barakhia, his first minister, to come and seize me. This was done: and Assaf took and brought me, in spite of myself, before the throne of the king, his master. / Solomon commanded me to quit my mode of life, acknowledge his authority, and

submit to his laws. I haughtily refused to obey him, and rather exposed myself to his resentment than take the oath of fidelity and submission which he required of me. In order, therefore, to punish me, he enclosed me in this copper vase;

わしは天の支配に叛旗をひるがえした魔神のひとりだ。ほかの魔神は、みな偉大なるソロモンを認めて服従していた。サカルとわしだけが高姿勢だったのだ。復讐をするために、この強力な王者は、バラヒヤの息子アサフという大臣に託してわしを捕まえにこさせた。そうしてそうなった。アサフは、わしを王の前に連れて行った。ソロモンは、わしにそれまでの生きかたをやめて、彼の権威を認めて法に従うように命令したのだ。わしは、傲慢にも彼に従うことを拒否した。忠誠を誓う、あるいは彼がわしに要求している服従を受け入れるよりも、わしは、ますます彼の怒りをあらわにさせたのだ。そうして、彼は罰としてわしをこの銅壺に封じ込めた。..... pp.22-23

「ダヴィッドの息子ソロモン」という表現は、ない。だが、そのほかの固有名詞は、漢訳の表記を見れば、こちらのサグデン版に近いように思える。

もともと、タウンゼンド版が、サフル、バルヒヤの子アサフなどの人名を省略したのは、それらがなくても物語の進行には支障がないという判断があったからだろう。私も、そう思う。だが、奚若は、なぜこの部分だけ、ただでさえわかりにくい人名を、サグデン版も参照しながら補充して漢訳しなくてはならないのか。わけがわからないから、私は首をひねるのである。

タウンゼンド版に見られない部分も漢訳しているかと思えば、その反対に、英文原作を無視する箇所もある。

瓶に閉じ込められた最初の100年間、救い出してくれた者を金持ちにしてやる、と魔神は考えていた。次の100年間は、救い出してくれる者に地球の宝をつかませてやろうと考えた。3回目の100年間には、最も強力な君主にして、毎日みつつの願いをかなえてやろうと決めた。だが、300年が過ぎ去り、誰も現われない。怒りのあまり、逆に、救ったものは殺してやる、と魔神の決心は変化するのである。

最初の100年部分を下に示す。

【タウンゼンド】 During the first century of my captivity, I swore that if any one delivered me before the first hundred yeas were passed, I would make him rich.

わしが監禁されて最初の1世紀のあいだ、100年が過ぎる前に、誰かわしを自由にしてくれる者がいれば、そいつを金持ちにしてやろうと誓った。

p.20

サグデン版も、ほとんど同様に記述する。レイン版は、400年が経過したとする。

さて、奚若版は、100年を「世紀 century」とくくりに慣れないのか、原文で100年単位で魔神の考えが変わることを、記述のままの100年ごとには漢訳しない。

【説部叢書】凡錮禁者。期多以三百年。予当日誓言。有能出我者。必有以報。初願報以富。繼願報以盡得大地宝蔵。終願使其人作最強之君主為報。

閉じ込められるのは300年以上のようだった。わしは、当時、誓ったのだ。わしを出すことができる者には、必ず報いる。はじめは、富を報いたい。つづいては、大地の宝をことごとく得させてやることで報いたい、ついにはその者を最強の君主にすることで報いたい。22頁

のべている内容は、英文原作も漢訳も、結果的にはそれほど隔たったものではない。だが、漢訳のように、まとめて300年にしてしまつては、やはり、原文に忠実な翻訳ということではできなれないと考える。奚若の翻訳についての考えが、私のものとは異なるのだろう。ただし、奚若がよつた英文原作が確定できないのだから、このように結論づけてしまうことは、あきらかに危険である。

魔神に殺される運命にあった漁夫だったが、窮地にあつて智慧をしぼりだした。大柄な魔神が小さな瓶に入っていたとは信じられない、ウソでしょう、という例の頓知である。

もとどおり瓶に魔神を封じ込めることに成功した漁夫が話して聞かせるのが、ドゥバン医師の物語である。

記實本 *The History of the Greek King and the Douban the Phystician* ギリシア王と医者ドゥバンの話

漢訳は、冒頭からややこしいことになっている。底本であるはずのタウンゼンド版とは、内容が異なるからである。

【説部叢書】乍門者。為国至小。属波斯。民皆希臘産。王病癩。歴謁医。不能已其疾。

ズウマンは小さい国で、ペルシアに属し、国民はみなギリシア出身でした。王は癩を病んでおり医者をめぐりましたが病気を治すことはできなかったのです。23頁

漢訳の底本はタウンゼンド版だと考えているから、当然、それを見る。すると、漢訳本とは違っているのだ。ア然とするし、また、悩みもする。

【タウンゼンド】There once lived a king, who was sorely afflicted with a leprosy, and his physicians had unsuccessfully tried every remedy they were acquainted with,

昔、王がいて、癩病にひどく苦しんでいました。彼の医者たちは知っているあらゆる治療法を試しましたが、ことごとく失敗したのです。..... p.22

ここには、ズウマンもペルシアもギリシアも出てこない。そうであれば、漢訳は、この部分はタウンゼンド版以外のものに拠ったとしか思えない。

【サグデン】IN the country of Zouman, in Persia, there lived a king, whose subjects were originally Greeks. This king was sorely afflicted with a leprosy, and his physicians had unsuccessfully tried every remedy they were acquainted with,

.....

ズウマンというペルシアにある国に、王がひとりいました。その国民はもともとはギリシア人でありました。その王は癩病にひどく苦しんでおり、彼の医者たちは知っているあらゆる治療法を試しましたが、ことごとく失敗したのです。..... p.25

レイン版とも異なるこのサグデン版にのみ、ズウマンなどという固有名詞が使われている。さらに、サグデン版は、医者ドゥバンが精通している各国語について説明して、Greek、Latin、Persian、Arabic、Turkish、Syriac、Hebrew を挙げる。漢訳も、順序は違うが、臘丁、希臘、波斯、亜拉伯、土耳其、叙利亞、希伯来と英文に対応する。だが、レイン版は、ancient Greek、Persian、modern Greek、Arabic、Syriac などを示してこれらとは微妙に異なる。タウンゼンド版は、もともとそれらの言語に言及しない。

ドゥバンの処方と彼のすすめたポロのような運動によって王の病気は治った。王は、ドゥバンを手厚く遇するが、それを嫉妬したある大臣は、ドゥバンは、王を暗殺しにやってきたのだと讒言した。王が物語るのは、「亭主と鸚鵡の話 The History of the Husband and the Parrot」だ。

物語のなかに組み込まれたこの話は、英文原作各種では、表題をつけて独立させている。だが、話としては短いためか、漢訳では、表題を省略して医者ドゥバンの話のなかにまぜ入れた。

ある男の妻が浮気をしていると本当のことを話した鸚鵡が、ウソを言っていると誤解したその男に逆に殺される。すなわち、王を助けてくれたドゥバンを暗殺者だと考えることは、鸚鵡を殺すのと同じこと、つまり無実の罪だ、という意味である。ドゥバンをかばう王に対して、反論をするのが嫉妬深い大臣だ。彼が反論するために持ち出してきた話というのが、狩猟をしていて道に迷い、食人鬼のためにあやうく命を落としそうになった王子のことだった。物語には物語をぶつけて説得しようというのだから、長くなるはずだ。

頭顱語 The History of the Vizier who was punished 罰せられた大臣の話

ある国王の王子は、たいそう狩猟が好きだった。

漢訳は、この「狩猟が好きだった[性好畋]」の箇所には注釈をつけている。伝えられるところによると、マハムード王は、狩猟をするときには犬を400匹、うんぬん。タウンゼンド版にほどこされた注を漢訳していることがわかる。底本は、サグデン版からタウンゼンド版にもどっている。

狩猟にでかけた王子は、獲物を追いかけていて大臣とはぐれてしまう。そこで、落馬して泣いている娘に偶然出会った。漢訳は、その娘が「インドの王女である[則係印度王女]」(26頁)だとする。だが、タウンゼンド版は、単に「美しい娘 a beautiful lady」(p.26)と書いているだけだ。どこにもインドなどという言葉はない。そういうばあいは、サグデン版を見る。「インドの王の娘 the daughter of an Indian king」(p.31)とあるし、また、レイン版でも「インドのある王の娘 a daughter of one of the kings of India」(p.81)となっている。漢訳は、タウンゼンド版以外のものを参照していることになるか。

ただし、参照したのは、インドの王の娘という箇所だけだと考える。その理由は、タウンゼンド版では、その娘が食人鬼だと知った王子は、すぐさま馬ののって逃げ帰ることになっていて、漢訳と同じだからだ。だが、サグデン版では、アラに祈って食人鬼から逃れている。レイン版も、サグデン版と同じく祈りによって食人鬼は身を引いている。

保護のために王子のそばについているべき大臣が、王子から離れてしまった。つまり、職務怠慢を理由に処刑された、というのが、この物語の結末である。

ドゥバンを暗殺者だと告発する大臣は、自分は職務に忠実な者である、と王に訴えていることになる。

王を暗殺するために来た者が、わざわざ王の病気を治すであろうか、という普通の知恵もまわらない王であった。王は、大臣の言葉をいれてドゥバンを処刑することにする。

サグデン版は、途中で、物語る漁夫を登場させるが、タウンゼンド版には、その箇所はない。漢訳にも、その箇所はない。

死にのぞんでドゥバンが願ったのは、1冊の奇書を王に献上したいということだった。処刑のあとに、その書物を開けば、ドゥバンの首が王の質問に答えると

いうのだ。

【説部叢書】試緝閱此書。至第六葉之左方第三行。則知吾頭雖斷。仍能与陛下語。

その書をひもとき、第6ページの左第3行を読めば、わたしの切られた首は陛下と話すことができることがおわかりになるでしょう。27頁

【タウンゼンド】if you will take the trouble to open the book at the sixth leaf and read the third line on the left-hand page, my head, after being cut off, will answer every question you wish to ask.

その書の第6ページ、左第3行を読めば、切られた私の首は、陛下の質問にすべて答えるであります。pp.27-28

サグデン版も上とほとんど同じ表現になっている。

レイン版は、「3ページを数えて、左の3行を読む count three leaves, and then read three lines on the page to the left」(p.85)としており、異なる。

王は指にツバをつけてページをめくった。だが、何も書かれてはいない。ドゥバンの首に聞けば、もっとめくれという。結局、王は死んでしまった。ページに仕込まれた毒にあたったのだ。無実の罪に死んだドゥバンのたくらみである。

こうして、漁夫と魔神の会話にもどっていく。漁夫が魔神をせっかく瓶から助け出してやったにもかかわらず、恩知らずにも漁夫を殺そうというのは、病気を治したドゥバンを処刑するのと同じだと言いたいのだ。

そのあとで、タウンゼンド版は、金持ちになりたくないかという魔神の甘言に漁夫が心を動かすことになる。

だが、漢訳では、底本であるはずのタウンゼンド版にはない魔神の言葉を示す。

【説部叢書】報復非長者所出。君胡為徇澆俗。幸勿如伊瑪之待阿替加也可。

報復は徳のある人のやることではありません。つまらぬことをなさるな。なにとぞイムマがアテカにしたようなことはなさらないのがよろしい。29頁

英文原作においても、イムマとアテカと名前を出しているだけで、その内容が語られることはない。タウンゼンド版のように、無視してもいいような箇所にもかかわらず、奚若は、訳出する。

サグデン版は、以下のようになっている。

【サグデン】 remember that revenge is not a part of virtue; on the contrary, it is praiseworthy to return good for evil. Do not, then, serve me, as Imma formerly treated Ateca.

復讐は美德というわけにはいかないことをお忘れなく。反対に、魔神によい行ないをすることは称賛にあたいますことですぞ。なにとぞ、以前にイムマがアテカをあつかったようには、わしにしないでくれ。 p.35

漢訳がサグデン版をほぼ忠実に翻訳していることが理解できる。
上と同じ場所をレイン版で示しておく。

【レイン】 do not therefore as Umámeh did to 'Atikeh. And what, said the fisherman, was their case? The 'Efreet answered, This is not a time for telling stories, when I am in this prison; but when thou liberatest me, I will relate to thee their case. The fisherman said, Thou must be thrown into the sea, and there shall be no way of escape for thee from it;

ウママーがアティカにしたようには、わたしになさらないでください。いったい、どういうことなのかね、と漁夫は言いました。魔神は答えて、今はお話しする時ではありません、閉じ込められているからです。しかし、自由にしてくれるなら、そのお話をいたしましょう、といいます。それなら海に投げ込んでやろう、そこから逃げる方法はないからな、と漁夫は言いました。
p.87

アティカ 'Atikeh が漢訳で阿替加になるのは、理解できる。だが、伊瑪が、レイン版のウママー Umámeh にもとづいていると言われても納得しがたい。

伊瑪という名詞については、レイン版ではなくてサグデン版の Imma から漢訳されたと考えるほうが自然だろう。

奚若がサグデン版を参照していると考えるのは、次のような箇所があるからだ。金持ちにしてやるという魔神の言葉に、漁夫は、結局のところ心動かされた。魔神にかたく誓わせて、瓶の口を開ける。出てきた魔神は、すぐさま瓶を海の中に蹴りこむ。ふたたび封じ込められることを防ぐためである。

恐れた漁夫が魔神に向かって言う。

【説部叢書】汝殆欲背盟。抑汝欲我以寶本告希臘王之語語汝耶。

お前は約束に背くというのか。それともドゥバンがギリシア王に言った言葉をお前に言ってやろうか。29頁

【サグデン】do you not intend to keep the oath you have taken? Or must I address the same words to you which the physician Douban did to the Greek king - 'Suffer me to live, and Heaven will prolong your days?'

誓いを守るつもりはないのか？それとも、医者ドゥバンがギリシア王に言ったのと同じ言葉 私を生きさせる、そうすれば神はお前に長寿をあたえるだろう、をいわなくちゃなんのか。p.36

上のふたつを対照すれば、奚若がサグデン版を見ているのではないか、と私は考える。タウンゼンド版では、上のような漁夫と魔神の言葉のやりとりは存在しない。魔神は約束を守って、すぐさま、漁夫に網をもってついてくるようにいいつける。

よつつの丘にかこまれた湖にたどり着く。魔神は、この湖にいる4色の魚を王様に売れば金持ちになることができる、ただし、1日に1度だけ網を入れるように、と言い残して姿を消してしまった。

四色魚 The Further Adventures of the Fisherman 4色の魚

奚若の漢訳は、この物語をタウンゼンド版に拠っているようにみえる。

なぜなら、漢訳ではここで話の区切りをつけており、上記の表題を掲げている

が、サグデン版では、表題もなければ、区切りもつけないからである。

たとえば、漁夫が4色の魚を王様に進呈すると、王様は、魚を料理人のところに持って行くようにいい、漁夫に金400を与えたとする箇所を見られたい。

漢訳と一致するのは、タウンゼンド版のみである。

【説部叢書】有異色必有嘉味。以魚付庖人。賚漁父金幣四百。

異なる色をしていてうまいにちがいない。その魚を料理人にわたし、漁夫には金貨400を与えよ。30頁

【レイン】Give these fish to the slave cook-maid. This maid had been sent as a present to him by the King of the Greeks, three days before; and he had not yet tried her skill.

それらの魚を料理奴隷にわたせ。その召使いは贈答品としてギリシア王から3日前におくられてきたものだったが、彼女の腕前をまだ試していなかったのです。p.88

【タウンゼンド】Take these fish, and carry them to the cook; I think they must be equally good as they are beautiful; and give the fisherman four hundred pieces of gold.

それらの魚を料理人のところへ持っていけ。その美しさと同じくらいうまさうだ。漁夫には金400を与えよ。p.30

【サグデン】Take these fish and carry them to that excellent cook which the emperor of the Greeks sent me;

それらの魚を、ギリシア王からおくられてきたあのすばらしい料理人に届ける。p.37

レイン版、サグデン版に見られるギリシア王は、漢訳には出てこない。また、金400は、サグデン版では、別の箇所にでてくる。ゆえに、漢訳は、タウンゼンド版に拠っていると思う。自然で合理的な判断であるといえよう。これについては、またあとで問題にする。

料理人が魚を料理しようとするたびに、不思議な人物が出てきてじゃまをする。

これをくりかえし、とうとう漁夫に質問すると、聞いたこともない湖が出現しており、その探索に王様は出かけることになった。

平原に現われたのが黒色の大理石で造られ、鉄でおおわれた宮殿であった。

中にはいると、豪華な造りの宮殿ではあるが、人がいる様子がない。そこに、悲しげな声が聞こえてくる。見れば、上半身は人間で、下半身が「黒石」になって動けないでいる若者がいる。

レイン版は、ただの石 stone とするが、タウンゼンド版とサグデン版は、ともに black marble として漢訳と一致する。

下半身が黒大理石の若者が、不思議な身の上話をしはじめた。

涙宮記 The History of the Young King of the Black Isles 若王と黒島の話

黒島国の若王は、父王の死後、従妹と結婚して5年間は仲睦まじかった。だが、なぜだかその頃から妻の態度が冷たくなる。妻は、若王の飲み物に草の汁を入れて眠らせたあと外出するのだ。漢訳の「某草汁」(34頁)は、タウンゼンド版の「ある草の汁 the juice of a certain herb」(p.35)に対応する。

ある晩、眠りをよそおって、外出した妻のあとをつけていくと、妻は歩きながら男に話しかけている。

【説部叢書】当於朝暾未上。使此殷繁都会。悉化為墟。魏垣巨宮。置諸漠野。諒君所雅願者。

朝日がのぼるまえに、この繁栄する都会を、ことごとく廃墟にし、大きな建物を砂漠におきましょう。あなたがお望みならばね。34頁

漢訳には、男とあるだけで、具体的な説明はない。

【タウンゼンド】I perceived that she was walking with a man, with whom she offered to fly to another land.

妻が男と歩いているのに気がつきました。妻は、別の土地に逃げようとそいつに提案しているのです。p.35

漢訳は、あきらかにタウンゼンド版とは異なる。どうなっているのだ。漢訳の底本は、タウンゼンド版ではないのか。

レイン版は、もっとグロテスクで、会話をしているところではない。省略する。

【サグデン】 I will, if you wish it, before the sun rises, change this great city and this beautiful palace into frightful ruins,

お望みならば、朝日がのぼるまえに、この大都会とこの美しい宮殿をぞっとするような廃墟にしてみせましょう。 p.45

漢訳は、完全一致とはいえないがサグデン版に近い。さらに、サグデン版では、その男は黒いインド人であると描写しており、奚若は、あとの部分では、それも取り入れている。では、漢訳の底本は、サグデン版なのか。

若王は、妻の愛人の首にすばやく切りつけた。死んだものと思った。しかし、妻の妖術によって、男は命はとりとめたものの植物人間になる。悲しんだ妻は、宮殿のなかに建物を造りたいと若王に願いでた。

その建物とは、漢訳で「円頂閣」(35頁)という。注がついていて、「土耳其俗、恒於墳上築一円頂閣、以別於尋常屋宇[トルコの風俗では、墓のうえに丸屋根を築いて普通の建物とは区別する]」と説明する。

丸屋根、すなわち cupola だとするのは、タウンゼンド版しかない。当時の英漢辞典では、cupola には「円形頂、円屋頂」の語を当てている。

タウンゼンド版にも注釈があって、「トルコの墓地では普通 Usual in Turkish cemeteries.」と記述している。漢訳の注は、英文のままではないが、注のある場所からして同じであることをいっておく。

参考までに、各版の原語とその英漢辞典の記載を掲げておこう。

レイン版は、tomb [墳、墳墓]、サグデン版は、mausoleum [陵] である。

この建物は「涙宮 Palace of Tears」と名付けられた。妻が、そのなかで嘆き悲しみ、植物人間になった愛人を住ませる宮殿というわけだ。

結局、妻の妖術で、若王は半身が大理石に変えられた。おまけに、動けない若

王を妻が毎日鞭打つ。都は湖となり、住民も魚に変身させられた。イスラム教徒 Mussulmans は白色に、ペルシア教徒 Persians（注には、Magicians とある。また、レイ
ン版では、マジ教徒 Magians）は赤色に、キリスト教徒 Christians は青色に、ユダ
ヤ教徒 Jews は黄色に分けられた。

以上が、4色魚の謎である。

黒島王、すなわち若王に同情した王様は、愛人を斬り殺し、彼になりすまして
黒島王にかけた妖術を解くように若王の妻に要求する。そうだった。さらに、都、
住民に対しても同様にしよう求めた。そうだった。王様は、黒島王の妻を殺し
た。王様は、黒島王を自分の息子にして、めでたしめでたし。

奚若訳の結末は、こうだ。

【説部叢書】以黒島王獲救。実由於漁父之進魚。迺復召漁父。以金帛厚賚之。

黒島王が救われたのは、実に、漁夫が魚を献上したからでした。そこで、
ふたたび漁夫を呼ぶと、財宝をたっぷり与えたのです。39頁

上のような漢訳の簡潔さを見れば、レイン版がどれくらいくどくどと説明して
いるのが理解できよう。

【レイン】So he sent to this fisherman, who had been the cause of the
restoration of the inhabitants of the enchanted city, and brought him; and the King
invested him with a dress of honour, and inquired of him respecting his
circumstances, and whether he had any children. The fisherman informed him that
he had a son and two daughters; and the King, on hearing this, took as his wife
one of the daughters, and the young prince married the other. The King also
conferred upon the son the office of treasurer. (中略) And as to the fisherman,
he became the wealthiest of the people of his age; and his daughters continued to
be the wives of the Kings until they died.

魔法にかけられた都市の住人を甦らせた原因となった、あの漁夫をつれて
きました。王は、漁夫に名誉の服を着せると、なんにんの子供がいるかなど

と彼の暮らし向きをたずねます。一男二女だとお答えすると、王は、長女を自分の、次女を若王の妻にしたのです。王は、同じく漁夫の息子を出納官にもしました。(中略)漁夫は、もっとも裕福なものとなり、彼の娘たちは、死ぬまで王の妻でありました。pp.102-103

話の運びをゆがめないように、すっきりと記述するためにタウンゼンド版、あるいはサグデン版などの後版が出現する理由である。

【タウンゼンド】The sultan did not forget the fisherman, and made him and his family happy and comfortable for the rest of their days.

王は、漁夫のことを忘れず、彼と彼の家族を末長く幸福に安楽に過ごさせたのでした。p.40

タウンゼンド版は、あっさりしすぎている。黒島王救助と漁夫の関係すらも省略してしまった。

【サグデン】With regard to the fisherman, as he had been the first cause of the deliverance of the young prince, the sultan overwhelmed him with rewards, and made him and his family happy and comfortable for the rest of their days.

漁夫が、若王の救出の最初の原因でした。王様は、褒美で彼を感動させ、彼と家族を一生幸福に快適に過ごさせたのです。p.52

ここを見れば、漢訳は、サグデン版を参照していることがわかる。それにしても底本か参照か、判断はますます乱れるのである。

三噺稜達五幼婦(二黒犬) **The Three Calenders, Sons of Kings, and of Five Ladies of Bagdad** 三人の托鉢僧、王の息子、およびバグダッドの五人の娘たち
『繡像小説』第11期(癸卯九月初一日(1903.10.20))より連載がはじまっている。これより、しばらく『繡像小説』掲載の漢訳を検討する。

ここから複雑になる理由のひとつは、漢訳が、『繡像小説』初出と後の「説部叢書」単行本所収のものとは、語句が異なっているばあいがあるからだ。

まず、題名からして違っている。

「囁稜達」には、「トルコ、ペルシアなどに住む托鉢僧。一名ダーヴィシュ Dervish といい、貧しさを楽しむことを主旨とする[突厥波斯等處遊僧一名徳惟虚以甘貧楽道為旨]」と注釈をつける。漢訳には、表題に注がついているから、タウンゼンド版にも同じ場所に注があるのかと思う。だが、ちがう。さがしてみれば、タウンゼンド版の本文44頁にある注から部分的に引用していることがわかった。そうでなければ、「徳惟虚」が Dervish の音訳であることなど、私に指摘できるわけがない。

「二黒犬」は、単行本の際に改題されたもの。物語に2匹の黒犬がでてくるところから題名にしたのだ。

例として冒頭の数行をあげてみよう。

【繡像小説】当加利勿哈龍愛勒司乞特時。柏格特有担夫某。秉性聡慧。善解人意。

カリフのハルウン・アル・ラシッドの時代です。バクダッドにある荷担ぎがいまして、天性から賢く、人の気持ちがよくわかったのです。1丁オ

【説部叢書】当加利弗赫侖挨力斯怯得時。報達有業負荷者某甲。雖囊賤。而性敏。善解人意。

カリフのハルウン・アル・ラシッドの時代です。バグダッドにある荷担ぎがいまして、貧しいとはいえ、性格が機敏で人の気持ちがよくわかったのです。39頁

両者は、固有名詞に当てる漢字が異なるくらいで、意味からいえば、非常に近い。別物というわけではない。

英文原作の探索をかねて英文を比較対照してみる。

【レイン】THERE was a man of the city of Bagdád, who was unmarried, and he

was a porter;

バグダッドに男がいて、結婚はしておらず、荷担ぎ人でありました。 p.120

【タウンゼンド】 In the reign of Caliph Haroun al Raschid, there was at Bagdad a porter, who was a fellow of infinite wit and humour.

ハルウン・アル・ラシッド教主の支配される時代のことでございます。バグダッドに荷担ぎ人がおりまして、無限の才覚をそなえてよい性格でありました。 p.40

【サグデン】 DURING the reign of the Caliph Haroun Alraschid there lived at Bagdad a porter, who, notwithstanding his low and laborious profession, was nevertheless a man of wit and humour.

ハルウン・アル・ラシッド教主の支配される時代のことでございます。バグダッドに荷担ぎ人がおりまして、低く骨のおれる仕事ではありましたが、無限の才覚をそなえてよい性格でありました。 p.53

ハルウン・アル・ラシッドの名前が出ているところは、レイン版と異なる。ただし、『繡像小説』版、あるいは「説部叢書」版が、タウンゼンド版かサグデン版のどちらに拠っているかは、あいまいである。おいおい詰めていくことにしよう。

すこし先に読み進んだところで、英文原作3種と漢訳の文章の違いにぶつかってしまった。今まで検討して来たタウンゼンド版、サグデン版、さらにはレイン版とは決定的に異なる箇所が出現する。絞りこむところではない。別の版本をさがすことになるかもしれない事態が、またも発生する。これが、底本をとりまく状況を複雑にする原因なのだ。

決定的に違うのは、一見なんでもなさそうな箇所である。

荷担ぎ人は、ある美女にやとわれて買い物荷物の荷物を運ぶことになった。果物、香辛料、肉、乾物、菓子など、それも大量に買うのを、つぎつぎと籠に入れて運ぶのが仕事だ。

肉を購入する場面から引用しよう。

【繡像小説】又至一肉肆。購鮮肉二十五磅。復至菜市購白花菜。太勒貢（菜名）胡瓜。芹菜等。浸以醋。

さらに肉屋にいくと新鮮な肉を25ポンド購入しました。また野菜市場では、酢につけるためにケイパー、タイラゴン（野菜の名前）、キュウリ、セロリなどを買いました。1丁オ

【説部叢書】復至屠肆。購二十五磅肉。而白花菜。太勒貢（菜名）。瓜芹之類。所買亦称是。

また肉屋に行って25ポンドの肉を買いました。さらに、ケイパー、タイラゴン（野菜の名前）、キュウリ、セロリの類を購入して、それをつづぐのです。
40頁

両者は、同じ漢訳ではあるが、微妙に異なる。ケイパー、タイラゴンはあるのだが、「酢につける」が後になると抜け落ちる。

問題は、「太勒貢」なのである。「太勒貢」が、はたしてタイラゴンなのかどうか不確定だ。漢字の音訳から想像できるのは、そのほかにタルラゴンとか、タルゴンあたりか。

タイラゴン、タルラゴン、タルゴンなどなど、これを出してくる英文原本が、今まで言及してきたもののなかには、ない。

【レイン】Cut off ten pounds of meat;

肉を10ポンド切ってください。p.121

【タウンゼンド】Passing by a butcher's shop, she ordered five and twenty pounds of his finest meat to be weighed, which was also put into the porter's basket. / At another shop she bought capers, small cucumbers, parsley, and other herbs;

肉屋の前を通ると、彼女は25ポンドの極上肉を量らせ、それを荷担ぎ人のカゴに入れるのです。/別の店では、ケイパー、小さなキュウリ、パセリ、ほかの香草を買いました。p.41

【サグデン】Passing by a butcher's shop, she ordered five and twenty pounds of

his finest meat to be weighed, which was also put into the porter's basket.

肉屋の前を通ると、彼女は25ポンドの極上肉を量らせ、それを荷担ぎ人のカゴに入れるのです。p.53

レイン版は肉の量が10ポンドで、漢訳の25ポンドとは異なる。

サグデン版は、タウンゼンド版の前半だけを流用しているだけだ。野菜の名称を出さない。

そうなるとタウンゼンド版が、漢文にいちばん近いように見える。だが、肝心の酢漬けにするタイラゴン(?)が、存在しない。

アンドリュー・ラング Andrew Lang 編集だという新装版も見たが、問題にしているタイラゴン(?)は影も形もないのである。

野菜、香草の類は、奚若が勝手に考えて訳文に挿入することは、かなりむづかしいだろう。だいいち、加筆しなければならない理由がない。原文通りに翻訳するのが、いちばん確実だし手間もかからないことは、容易に想像できる。

驚いたことに、タイラゴン(?)を出している訳文が私の手元にある。日本語訳ではあるが、有力な資料である。

それは、井上勤『アラビヤナイト物語』*30なのだ(総ルビは省略する)。

【井上勤】婦人は又肉を鬻ぐ店に立寄り美肉二十五斤を買ひ、之をも同じく籠に入れ更に他の店に至りてケーパー、タルラゴン、胡瓜、サツサフラフ、其他酢に漬べき野菜類を買求め、……199頁 / 三版279-280頁

調べてみれば、井上訳でいう「タルラゴン」とは、タラゴン tarragon のことだ。フランス語でエストラゴンという方が料理に詳しい人にとってはなじみがあるかもしれない。酢漬けにして食するのが普通だ、ともの本には書いてある。

井上訳本がもとづいた英文原本には、タラゴンと載っていると想像される。そのうしろの「サツサフラフ」は、サツサフラス sassafra のことであろう。こちらは、植物といっても代用茶にする葉で有名らしい。

漢訳は、「サツサフラス」という原語を「芹菜」に置き換えたのだろうか。そ

う考えるのは、漢訳が井上訳と同じ原本に拠っていると仮定すればの話であって、はたして同一の原本なのかどうかはわからない。

井上訳本が拠った英文原本は、それでは、タウンゼンド版とは別物なのか、という疑問が当然のように生じる。

ところが、柳田泉がそれを説明して、「『全世界一大奇書』は『アラビヤンナイト』(やはりタウンゼンド版)の翻訳で、量からいって永峯氏のものに数倍し、無論抄訳であるが、ほぼ首尾ととのっている」*³¹と書いている。柳田泉が、井上訳はタウンゼンド版だ、と断言している点に注目しておきたい。

井上訳本も、同じタウンゼンド版だというのは意外な指摘である。漢訳を検討してきて、いままでさんざんタウンゼンド版とは異なる箇所を指摘してきた。タラゴンについても、タウンゼンド版には、その単語を見ない。にもかかわらず、柳田泉は、井上訳本の底本はタウンゼンド版だと断言しているのだ。まさか、これが誤りだとは私は思いもしない*³²。だから、柳田泉の証言があるのだから、タウンゼンド版には語句の違う異版が存在するのだろうか、という疑問を当然のように抱いたのだ。

タラゴン問題は、漢訳の底本を特定するうえで、有力な手掛かりを与えてくれているのではなからうか(後述)。

今、それを解決することができない。別の版本が手元にないからだ。疑問のままにして、先に進みたい。

『繡像小説』連載時と、のちの「説部叢書」収録本とのあいだには、語句の違いがあることについては、すでに触れた。

もう1例をあげておこう。

美女のお供をして買った品物でカゴがいっぱいになっている。

【タウンゼンド】She then went to a druggist's, where she furnished herself with all manner of sweet-scented waters, cloves, musk, pepper, ginger, and a great piece of ambergris, and several other Indian spices;

彼女は、つぎに薬剤師のところに行き、すべての種類の香水、丁子、麝香、胡椒、生姜およびリュウゼン香の大きなかたまり、そのほかのインドの香料

を購入したのです。p.41

【サグデン】(musk のかわりに nutmeg が出現しているほかは、同一文章)

【繡像小説】既而入一薬室。購香水丁香胡椒荳蔻生薑龍涎香及印度香料畢。

ある薬屋へ入ると、香水、丁子、胡椒、ズク、生姜、リュウゼン香およびインド香料を購入したのです。1丁オ

【説部叢書】既而詣薬室。購胡椒龍涎之属。

薬屋へ入ると、胡椒、ズク、リュウゼンの類を購入したのです。40頁

nutmeg はニクヅクだから、漢訳の「椒荳蔻」がそれにあたるとすると、この部分はサグデン版に拠っているか。

初出の『繡像小説』が、ほぼ英文原作の語句のままに忠実に漢訳していることがわかる。説部叢書版は、それを簡略化していることも理解いただけるだろう。

荷担ぎ人がたどりついたのは、美女ばかりがいるある邸宅であった。

タウンゼンド版は、邸宅に出迎えた美女については、あっさりとは描写するだけ。

【タウンゼンド】There they stopped and the lady knocked softly. Another lady soon came to open the gate, and all three, after passing through a handsome vestibule,.....

そこでふたりは足を止めると、その女性はひそかにたたきました。別の女性が扉を開けて、3人ともに立派な前庭を通り抜けたあと、..... p.41

あっさりどころか、これでは女性が出てきただけで、彼女たちがどれだけ魅力的であるかなど、皆目わからない。描写がないのだ。だが、漢訳は違う。

【繡像小説】少婦止步。輕搗其門。方竚立時。担夫目眩神飛。意謂少婦衣服麗都。必貴家女。然何以不憚僕僕。得毋為大家侍婢。

若い女性は歩みをとめて、ひっそりと扉をたたきました。たたずんでいるとき、荷担ぎ人は目がくらみ上の空だったのです。というのは、女性の衣裳はすばらしく、きっと身分の高い女性にちがいない、だが、なぜ憚らずあく

せくしているのだろうか、名家の召使いであるはずがない、と考えたからです。1丁ウ

【サグデン】 Here they stopped, and the lady gave a gentle knock at the door. While they waited for it to be opened, the porter's mind was filled with a thousand different thoughts. He was surprised that a lady, dressed as this was, should perform the office of the housekeeper, for he conceived it impossible for her to be a slave.

そこでふたりは足を止めると、その女性はひそかに扉をノックしました。扉が開くのを待つあいだ、荷担ぎ人の心は千々に乱れました。出てきた女性に驚かされたというのは、その服装からすれば、家事を担当しているようで、彼女が奴隷であるはずがないと想像したからです。pp.53-54

漢訳の詳しさからして、タウンゼンド版ではなくてサグデン版そのものなのである。

では、以後、漢訳は底本をサグデン版に乗り換えているかといえば、そうはいかないからますます混迷の度合いを深くする。

美女3人の名前を漢訳では、蘇培特 Zobeide、舎非 Safie、愛米 Amina とする。タウンゼンド版には、そう書いてある。だが、サグデン版では、名前が出てくるにしても、タウンゼンド版とは別の場所になる。

前述したことだが、漢訳は、タウンゼンド版によりながらも、一方でサグデン版も参照しながら翻訳を進めたように見える。というよりも、この部分は逆で、サグデン版を中心に置いたのではないかという気もする。

荷担ぎ人が、美女3姉妹を目の前にして立ち去りがたい気持ちになっているのを見て、彼女たちの秘密を口外しないならば、そこに居てもよろしいと許可された時のことだ。アミナが服を着替えてくる。

【繡像小説】時愛米脱行衣。卸長服。

その時、アミナは、外出着を脱いで、長衣をぬいだのです。2丁ウ

【説部叢書】時愛米卸行衣。並去長服。

その時、アミナは、外出着を脱いで、長衣もぬいだのです。44頁

上の漢訳では、アミナは、服をぬいでばかりいる。奚若の誤解ではなかろうか。実は、サグデン版では、そうになっていない。

【サグデン】 While she was speaking, the beautiful Aminè took off her walking dress, and fastening her robe to her girdle,

ゾバイデがはなしているあいだ、美しいアミネは、外出着を脱いで、浴衣の帯を締めたのです。 p.57

タウンゼンド版では、荷担ぎ人は、よけいなことを口外するな、と扉に書かれている文字を読むことになっている。アミナが外出着を脱ぐなどという描写はない。

荷担ぎ人をまじえて美人3姉妹は、飲めや歌えの宴会をくりひろげることになった。別の版では見られる4名の淫らな宴会模様は、タウンゼンド版、サグデン版ともに削除している。ゆえに、漢訳にも、その描写はない。

そこに宿を求めてたずねてきたのが3人の托鉢僧だった。奇妙なことに、3人ともに右眼がつぶれている。

3人は、室内の豪華なことに感心しながら入ってきて、荷担ぎ人を見て同類だと思ったらしい。

【繡像小説】旋見担夫。注目視之。疑為同類。又異其不雜鬚眉。其一人乃語担夫曰。汝其垂刺伯教中之叛亡者歟。

ついで荷担ぎ人を見ました。彼のことを目をこらして見て、同類だろうと思ったのですが、ヒゲ、眉を剃っていないのが異なります。そこでひとりが荷担ぎ人にいいました。「あんたはアラビア教の反逆者かね」 3丁ウ

「説部叢書」は、「担夫」を「甲」と書き換えているだけで、あとは同文。漢訳に見るような托鉢僧の荷担ぎ人にたいするセリフは、どうしたわけかサグ

デン版には、ない。タウンゼンド版に同様の記載がある。

【タウンゼンド】 before they sat down, having by chance cast their eyes upon the porter, whom they saw clad almost like those devotees with whom they have continual disputes respecting several points of discipline, because they never shave their beards nore eyebrows; one of them said, “I believe we had got here one of our revolted Arabian brethren.”

彼らが座るまえに、偶然に荷担ぎ人が目に入りました。いくつかの規則について彼らがいつも常に論争をしている教徒のように見えたのは、ヒゲと眉を剃っていなかったからです。ですら彼らのなかのひとりが言いました。

「ここにムカムカするアラビア人の信者仲間がいると思うな」 pp.44-45

漢訳の「亜刺伯教」には、「アラビア教」と訳語をつけておいたが、理解しにくい。Arabian brethren からの漢訳かと思う。

英文原作が托鉢僧仲間での会話であるのにたいして、漢訳では直接、荷担ぎ人に話しかけるという違いはある。だが、その違いを考慮すれば、内容は、ほぼ同一だといっていい。

サグデン版かと思えばタウンゼンド版が出てくる、というぐあいに、底本は、一定しないのである。

あれこれ質問するのではない、と書いてあったのを忘れたのか、と荷担ぎ人に怒鳴られて、おとなしくあやまる托鉢僧たちであった。

一同酒を飲んでうかれだし、托鉢僧が楽器演奏をすることになる。タウンゼンド版では、サフィエが取ってくる楽器の名前までは書いていない (p.45)。だが、サグデン版は、もう少し詳しい。

【サグデン】 a flute of that country, also another used in Persia, and a tambour de basque

その地方の笛と、おなじくペルシアで使われているやつ、および太鼓です

p.60

【繡像小説】舎非奔取本国笛波斯笛各一枝。巴斯款羯鼓一具出。

サフィエは、本国の笛とペルシアの笛各1本とバスクの太鼓を取りにいきました。4丁オ

tambour de basque は、身体につける太鼓かと思うが、漢訳では、バスクの太鼓と音訳をまじえた。

くりかえし指摘しておきたいが、漢訳がサグデン版とタウンゼンド版のあいだをいききしていることがわかるだろう。

皆でうかれ騒いでいる物音が外にもれているらしく、夜の町を巡回していたハルウン・アル・ラシッドたちの耳に入った。行ってみようということになる。

前に、タウンゼンド版にもサグデン版にもみえない「タラゴン」について言及した。日本の井上勤訳本に見える。タウンゼンド版には異版があるのか、と私は疑問をだしてもいる。

ここに至って、おなじ現象が再び漢訳に生じていることをいいたい。タウンゼンド版とサグデン版にないことを漢訳は述べるのである。

【繡像小説】言至是。司乞黒勒石（即蘇丹妃D]謂蘇丹曰。陛下欲知此事之究竟。

ここまで話すと、シャーラザッド（国王の妃）は、国王にいった。陛下はこの物語の最後までお知りになりたいでしょう。4丁オ

「説部叢書」では、「司乞黒勒石」を「史希拉才得」と書き換えた以外は、同文である。

【井上勤】と語り来りてセヘラードは語を改ためスカリヤ王に対し、陛下には必らず御心の内に何故かゝる…… 302頁

タウンゼンド版には、語句の異なる異版が存在するのか。それともタウンゼンド版とサグデン版によく似た、別の版本かもしれない。謎は、ますます深まるば

かりなのだ。資料を収集しながら考えるほかに方法がない。

ハルウン・アル・ラシッド教主と大臣のジャアファル、および警備のマスルールが、商人の服装をして美女3人の家を訪問した。その言い訳が、べつの商人の宴会に呼ばれて浮かれていたが、騒ぎすぎて警官に踏み込まれ逮捕者が出ているのをからくも逃げ出してきた。町に不案内でこの家にたどりついた、という。この描写は、サグデン版にのみ存在する。井上訳本にも同様の記述があることを申し添えよう。

美女3姉妹、荷担ぎ人、托鉢僧3名、ハルウン・アル・ラシッド一行3名の合計10名で宴会を始めた。飲めや歌えの大騒ぎが一段落したところで、3姉妹は奇妙なことを行なう。2匹の黒犬を引き出してきて鞭でいじめぬくのである。教主は、その理由を知りたがった。だが、質問してはならない、という約束がある。姉妹は、犬をいじめ疲れると、こんどはリュートを取り出して弾き歌いをする。

教主はがまんができず、約束を破って荷担ぎ人に質問をさせた。こうして、全員が三日月刀を持った7人の奴隷に拘束された。

托鉢僧たちは、3人ともに王子だという。こうして托鉢僧の話がはじまる。(托鉢僧に先立ち、荷担ぎ人の告白がある。最初の托鉢僧の語りがはじまるまでに、つなぎの文章83文字があるが、単行本化にさいして削除されている)

噺達達紀 其一(生壙記) *The History of the First Calender* 最初の托鉢僧の話

シャーラザッドが王に語っている物語　ここでは、美人3姉妹の話だが、そのなかでさらに登場人物のひとりが自らの体験を話しはじめる。物語のなかで別の物語が展開していくというアラビアン・ナイトにある特徴のひとつである。

なぜ右眼を失い、托鉢僧になったのか。その書き出しは、こうだ。

【繡像小説】噺達達曰。請為夫人述余所以眇右目及為噺達達之故。余本一王子也。

托鉢僧が言いますのには、私が右眼を失い托鉢僧になった理由を夫人にお話ししましょう。私は、もともとある王子なのです。8丁オ

【説部叢書】第一噺達達曰。請為夫人。述予眇目之故。予王子也。

最初の托鉢僧が言いますのには、私が眼を失った理由を夫人にお話ししましょう。私は、王子なのです。55頁

単行本にするにあたって、いくらか簡略化している。さて、英文原作を見ると、すこし表現の違うものがある。

【タウンゼンド】Madam, I am the son of a sultan.

夫人よ、私は王の息子です。p.51

【サグデン】IN order to inform you, madam, how I lost my right eye, and the reason that I have been obliged to take the habit of a calender, I must begin by telling you that I am the son of a king.

夫人よ、なぜ私が右眼を失い、托鉢僧にならざるをえなかったのかの理由をお話しするためには、まず、私が王の息子であることから始めなければなりません。p.69

2種類の英訳を見れば、漢訳の書き出しは、サグデン版によっていることがわかる。

タウンゼンド版では、最初の托鉢僧の話は、英文原作でわずかに約2頁しかない。漢訳では、約6頁もある。それには理由がある。英文原作には、ある部分を削除するものと削除しないものがあるからだ。

語り手である王子は、ある期間、たびたび叔父王のもとを訪れていた。ある時、叔父王の息子、すなわち王子の従弟は、埋葬所を建築したとあって、王子の知らない女性とふたりで中に入ってってしまった。不思議な出来事で、本当にあったとも思われない。王子が帰国してみると、なんと彼の父は死亡し、かわりに大臣が君主となっている。王子が子供のころ、誤って弓矢でその大臣の右眼を傷つけていた。その復讐で、王子は右眼をえぐりだされる。そればかりか殺されそうになるが、歎願して助かり、命からがら叔父王のもとに身を潜めた。叔父王は、息子が死んだうえに兄王を失い、悲しんだ。それを見て、王子は、息子さんは死んだとは限らない、と説明しないわけにはいかない。事のとんまつを話す。埋葬

所に案内して入ってみれば、従弟と女が炭状態で死んでいた。異常に怒る叔父王の説明によると、従弟は、その姉と近親相姦を行っていたという。

タウンゼンド版は、近親相姦については、完全に削除する。ゆえに、托鉢僧が片目を失ったのは、大臣の復讐であったと述べるだけだ。これが、ページ数が少なくなった理由である。

それでは、サグデン版は、あからさまに描写しているかということ、こちらも、ごまかす。つまり、従弟と一緒に埋葬所に入っていた女性が誰であるか、説明しない。ゆえに、叔父王が、炭化した息子の死体を痛めつけて怒りを露にしている部分は、削除する。

漢訳は、ここでも井上勤訳と大体が一致する（くりかえし記号は、ひらがなに置き換える）。

【井上勤】我が子如何なる因果にや幼稚き頃及より妹を深く愛しみ妹も亦た兄を慕ふて互に親愛の情を蓄はへ成長るに従がひてますます交情の密なるを我は友愛の情深き末頼母しきものなりと思ひて少しも干渉せず、結句喜こび居たりしに、豈料らんや此の兄妹は早晚禽獣の行為ありと薄々噂の立たれば…… 344頁

【繡像小説】是児幼年。夙与其姉相愛好。爾時余亦賛勉之。此家庭恒事。無足怪者。豈知数年以來。二人情日密。致有醜行。……

この子は幼年よりその姉と仲がよく、そのころはわしもそれをほめていた。家庭では普通のこと、怪しむことではない。ところが、数年来、二人の情愛は日に濃くなり、ついには恥ずべき行為をもってしまった。…… 9丁ウ

井上訳と漢訳とでは、妹と姉の違いがある。だが、原文が *sister* だとすれば、それが姉か妹か判断がつかない。

露骨なバートン版あるいはマルドリユス版には、当然、同様の記述がある。青少年に悪い箇所は削除したといわれるレイン版でも、削除はしていない。ただし、「乳姉妹 *foster-sister*」にして表現をいくぶんか軽減？している違いはある。

まったくの毒抜きにするタウンゼンド版、サグデン版だから、近親相姦などと

んでもないことになる。

「説部叢書」版でも、中華民国になって出版された単行本にも、この部分については、削除はない。当時、周作人がアラビアン・ナイトのなかの1篇を漢訳しており、その中で、周作人は、物語のなかの結婚について勝手な変更を実行している。当時の中国で信じられていた教えに背くものだという判断があったらしい。

だが、奚若には、そのような判断はなかったとみえる。ここでは、『繡像小説』の漢訳には、近親相姦が削除なく出現していることを指摘するにとどめておく。

さて、ここでも、漢訳が拠った英文原作、すなわち底本問題が持ち上がる。漢訳の底本は、どの版本なのか。タウンゼンド版、サグデン版ではなく、かといってレイン版でもない。レイン版は、上記の引用部分のようではないし、だいたい、レイン版では、托鉢僧たちは左眼を失っている。漢訳、タウンゼンド版、サグデン版は、みな、右眼なのだ。

王子を追って大臣の軍隊がおしよせてくる。目をくらませるためにヒゲ、眉を剃り落とし、托鉢僧に身をやつして逃げてきた。

以上が、最初の托鉢僧の話だ。近親相姦という衝撃的な話題をあつかっているところにこの物語の特徴がある。その衝撃度の強さは、ふたつの英文原本が該当部分を削除しているところに見ることができよう。

嚙稜達紀 其二（樵遇）The History of the Second Calender 2番目の托鉢僧の話

2番目の托鉢僧の話が、これまた長い。シャーラザッドが語る話のなかで、登場人物の托鉢僧が話す。さらに別の人物が出てきて自分の物語を語るのだから、長くならざるをえない。

2番目の托鉢僧も、王子であった。幼少のころから賢くしかも勉強好きで有名になった王子は、噂を聞いたインドの王からぜひとも顔を見たいから、と招待された。

タウンゼンド版は、あっさりとそのまま王子はインドへと旅立たせている。一方、サグデン版では、インド王に招待された荣誉だの、幼くして外国へ行くこと

の利益だのと説明がつづく。

漢訳は、タウンゼンド版ほど簡略化していない。これが、奚若が、サグデン版にもとづいて翻訳を行なっていると考える理由である。

1 ヶ月ばかり旅を続けていたところに山賊50名 fifty horsemen に襲われた。なぜだか『繡像小説』の漢訳は「四十人」とし、「説部叢書」版は「数十人」に変更している。

山賊の襲撃をなんとか切り抜けた王子は、ある町にたどりつき仕立屋にかくまってもらうことになった。薪拾いを仕事にして1年がすぎたころのことだ。山の中で鉄の環を見つけた。それは地下宮殿に通じており、豪華な部屋にはひとりの美人が25年間も閉じ込められたままだという。美女は、エボニー島 Ebony Isle 安暴南島の国王エピティマラス Epiteimaros 愛匹鉄買勒司の娘であった(タウンゼンド版は、Ebony Island というだけで、国王の名前をださない。p.56)。婚礼の直前に魔神にさらわれ、その時以来この地下宮殿に幽閉されている。10日ごとに現われる魔神であるから、その1日を魔神とすごし、残りの9日は木こりと過ごしたいという美女である。生意気ざかりのことで木こりは、魔神など退治してくれる、と挑発する。しかし、実際に魔神が出現すると、あまりの怖さに逃げ出したのが木こり、すなわち王子 = 2 番目の托鉢僧である。

その魔神は自ら称して「エブリスの娘の息子、魔神の王 a son of the daughter of Eblis, prince of the genii」(p.82) といった。タウンゼンド版は、「エブリスの孫、魔神の王 a grandson of Eblis, prince of genies」(p.57) と書いていて、表現は異なるが意味は同じようだ。

漢訳は、その部分を「わしはジニー魔王、エブリス(悪鬼の名)の甥である。余乃琴李魔王曷勃累司(悪鬼名)甥也」(14丁オ)とする。「甥」がおかしい。また、「琴李」と音訳したのは“the genii”を固有名詞だと誤解したのではないか。ありえない誤解だとは思うのだが。

魔神によって地下宮殿にふたたび連れもどされた木こりの前には、痛めつけられた美女がいる。魔神は、木こりのことを知らないならば彼の首を切るように命令し、美女が断わると、木こりに向かって、美女の首を切るように命じる。木こりも魔神の命令を断わる。

魔神は、剣で美女の片腕を斬り落すと、美女は絶命してしまった [引刀斬公主。折其一手。血殷然出。傷痕盡裂。一痛而絶] 15才。

この部分は、サグデン版には、存在しない。美女の片腕が斬り落とされるという残酷場面は、児童少年には刺激が強すぎるという判断なのであろう。

タウンゼンド版には、似た内容のものがある。片腕を斬り落された美女は、死んでしまう (p.58)。

それでは、レイン版ではどうなっているかを見れば、こちらは、もっと残酷だ。美女の片腕どころか、残りの腕、右足、さらに左足を切り離している (p.147)。なんと恐ろしいことだ。

魔王は木こりを殺さずに、別の動物に変身させるという。これを聞いて、木こりが話をはじめると。

説話 The History of the Envious Man and of Him who was Envied ねたみ深い男とねたまれた男の話

善良な男と、それをねたむ男が隣り合わせで住んでいた。隣人のねたみに耐えかねて、善良な男は引っ越してしまう。僧侶の姿をするばかりか、家に多くの僧侶を住まわせもした。

善良な男は、正式な僧侶になったというわけではない。行ないが僧侶だった。

【繡像小説】乃效嚙稜達行。好清静。多营小室。与諸嚙稜達共之。

托鉢僧の行ないをまねました。静謐をこのみ、多くの小部屋をいとなんで、托鉢僧たちと共にしたのです。15丁オ

【タウンゼンド】put on the habit of a dervise, and in a short time he established a numerous society of dervises.

ダーヴィシュの衣服を身につけて、短時間のあいだに多数のダーヴィシュの社会をつくったのです。p.58

【サグデン】put on the habit of a dervise, in order to pass his life more quietly, and made, also, many cells in his house, where he soon established a small community of dervises.

彼の生活をもっと静謐なものとするために、ダーヴィシュの衣服を身につけまして、彼の家に多くの小部屋をつくり、そこでダーヴィシュの小さな社会を形成したのです。p.84

ダーヴィシュ dervish ということばについての説明は、すでに行なった。英文原作に見える dervise も同様な意味だと推測する。上の文章を比較対照すれば、漢訳は、サグデン版によっていることが理解できるだろう。

善人は、その存在を社会に広く知られるようになる。ねたむ男は、妬みゆえに、わざわざ善人をたずねて行き庭の井戸に彼を突き落としウサを晴らすのである。

井戸の中には、漢訳では「神仙 [仙人]」、英文原作タウンゼンド版では「妖精と魔神 peris and genies」、サグデン版でも「妖精と魔神 fairies and genii」が住んでいた。善人は、命を助けられたばかりか、お姫様が病気で、王様からその治療を善人が依頼されること、その病気の治療法までを知ることになる。

漢訳によると、「お姫様は、ディムディムの息子マイムウンに好かれて 公主為亭亭 (魔鬼名) 子墨蒙魔鬼所悦」(15丁ウ) 病気になった (のちの「説部叢書」版72頁と単行本62頁は、「公主」の「公」を落として印刷している)。タウンゼンド版が、「彼女は、魔神に取りつかれた she is possessed by a genie」(p.60) とだけ表現しているのにくらべれば、サグデン版の「彼女は、ディムディムの息子、恋に落ちた天才マイムウンの力に取りつかれた she is possessed by the power of the genius Maimoun, the son of Dimdim, who he fallen in love with her」(p.85) が、漢訳の底本になっていることに気づく。

マイムウンの呪縛からのがれる方法は、特別な黒猫の尻尾にある白い斑点のなかから7本の毛を抜き、これを燃やすというものだった。

聞いた話の通りに事が進む。王様がお姫様をつれてくる。善人が猫の毛を燃やすと、とりついていたマイムウンが逃げ出し、姫が正気をとりもどす。

【繡像小説】乃自揭其面巾。張目四顧。

自分でヴェールを掲げると、目をみひらいて周囲をながめました。16才

【タウンゼンド】she took the veil from her face, and rose up to see where she

was,

彼女はヴェールを自分の顔から引きはがすと、立ち上がって周囲をみまわしました。 p.61

【サグデン】The first thing she did was to put her hand to the veil which covered her face, and lift it up to see where she was.

彼女が最初にしたのは、ここがどこなのかを見るために顔をおおっているヴェールをあげることでした。 p.86

ヴェールをかなぐり捨てるのと、掲げるのとは、違う。細かいようだが、底本をさぐるばあいの材料となる。漢訳は掲げ、タウンゼンド版は捨て、サグデン版が掲げる。ここでも、漢訳はサグデン版によっている。

善人はお姫様と結婚し、王位を継承する。ある日、街中でねたむ男をみかける。善人がなにをしたかという、なんと昔なじみだからといって財宝をたっぷり贈呈したのである。その財宝の一部は、漢訳では「金貨一千枚 [金幣千枚]」(16丁ウ。「説部叢書」版は「枚」を省略する)となっている。タウンゼンド版では「金百枚 one hundred pieces of gold」(p.62)だが、サグデン版は「金一千枚 a thousand pieces of gold」(p.87)として漢訳と一致する。

木こり、すなわち2番目の托鉢僧が、以上の物語をはなしたのには意味がある。ねたむ男を許した善人にならい、魔神が自分を解放することを期待したのだ。ムダだった。木こりは、魔神の魔術によって猿に変身させられた。

2番目の托鉢僧が、猿に変身させられてからの物語になる。

もとは人間の猿だから、思考、行動は人間のままで、ただ、言葉をしゃべることができない。

猿が海辺にたどりつくと船が見える。近くの木を折って浮きがわりにして船に乗り込む。

当時かの地では、猿は、航海には不吉だと考えられていたらしく、船に乗っていた商人たちは口々に叫びだした。

【繡像小説】或曰。曷以竿擊殺之。或曰。曷射之。或曰。曷拳而投之海。

あるものは、棒でなぐり殺さんかといいますし、またあるものは、射ってしまえといい、さらに、海に投げ込め、というものもいます。17オ

【タウンゼンド】On this account they said, "Let us throw him into the sea."

その理由〔猿は航海には不吉だ〕で、「海に放り込め」と言いました。p.63

【サグデン】"I will kill him," cried one, "with a blow of this handspike." "Let me shoot an arrow through his body," exclaimed another; "and then let us throw him into the sea," said a third.

「この棒の一撃で殺してやる」とひとりが叫びました。「一矢で射ち殺してやる」と別のひとりが大声で叫びました。「そして海に放り込んでやる」と三人目がいいました。p.88

漢訳が「竿」としたのは、サグデン版の handspike をもとにしたのだと理解できる。タウンゼンド版には、該当する単語は出てこない。当時の英漢辞典には、handspike の語釈に「楨竿，木挺」を当てている。

猿は船長の足元にとりすがって憐れみを乞い、命を助けられることになった。

ある港に到着すると、その国の宰相が亡くなっている。その宰相よりも上手な文字をかく者を宰相の地位に置くという命令が出された。

猿も文字を書こうとしているのを見て、誰しもが、猿が紙を破るか海に捨てるかするだろうと思った。ところが、猿は、文字を書きはじめたのである。

それを見た船長のことは、こうだ。

【繡像小説】余生平未見智如此猴者。他日行将豢之如子矣。余昔一子。其才乃不当是猴之半。

わしは、これほど賢い猿をこれまで見たことがない。後日、息子のように飼育してやろう。わしには昔息子が一人いたが、その才能はこの猿の半分もなかったぞ。17ウ

【タウンゼンド】なし

【サグデン】I have never seen any ape more clever and ingenious, nor one who seemed so well to understand everything, I declare that I will acknowledge him as

my son; I once had one, who did not possess half so much ability as he does.

これほど賢く才能があって、なんでも知っているように見える猿をわしは見たことがない。わしの養子にすることを断言しよう。わしには、昔息子がいたが、これの能力の半分も持ち合わせなんだぞ。p.89

こまかな部分で、漢訳とサグデン版が同一であることがわかる。

英文原作が猿を「養子にする I will acknowledge him as my son」としているにもかかわらず、漢訳では動物を「飼育する [豢]」という言葉を使用する。奚若には、猿を人間の養子にすることに抵抗があったらしい。

ただし、後日「説部叢書」に収録する時、文章を検討したようだ。この部分を「後日、わしは息子にしてやろう[他日余將以為児]」(76頁)と改訂している。ひとこと紹介しておく。

猿が6種類の書き方で王様を褒めたたえる文章を書くと、猿は王宮へ呼ばれる。さきほどから、漢訳がサグデン版の英文原作と字句が一致していることを指摘している。

漢訳は、このままサグデン版に拠っているのかと考えれば、これがそうではないので私は困惑するのである。

船から王宮へいたる道中の描写である。

【繡像小説】途中男女老幼来観者。駢街填巷。群嘖嘖奇蘇丹之将相猴也。行之久。始抵蘇丹宮。

道中、老若男女で見物に来るものが、通りにならび横町をうめててしまいました。王様の宰相は猿だぞ、と群をなして騒ぎ立てるのです。しばらく行って、ようやく王宮へたどりつきました。17ウ

【タウンゼンド】The procession commenced; the harbour, the streets, the public places, windows, terraces, palaces, and houses, were filled with an infinite number of people of all ranks, who flocked from every part of the city to see me; for the rumour was spread in a moment that the sultan had chosed an ape to be his grand vizier; and after having served for a spectacle to the people, who could

not forbear to express their surprise by redoubling their shouts and cries, I arrived at the sultan's palace.

行進がはじまりました。私を見ようと、町のすみずみから集まってきたすべての階層の無数の人々によって、港、通り、広場、窓、テラス、大邸宅そして家々は埋めつくされたのです。王様が猿を宰相に選んだという噂がまたたくまに広がって、高まった彼らの叫び声と大声によってみずからの驚きを表わすことを我慢できない人々のために、見世物にされてから、私は王宮へ到着したのです。 pp.64-65

【サグデン】なし

漢訳は、タウンゼンド版の原文を忠実に翻訳はしていない。かいつまんで取り込んだ。サグデン版のように、猿の行進を描写しなくても、物語に影響があるわけではない。省略してもいいような箇所でありながら、わざわざ漢訳をしているということは、拠った英文原作に相当する原文があることを意味する。そうならば、ここはタウンゼンド版にもとづいている。

奚若は、タウンゼンド版とサグデン版の両者を手元に置きながら、漢訳をしているのだろうか。それにしては、両者に存在しない単語、たとえば「タラゴン」があった事実を思い出す。

もう1ヵ所、英文原作と相違するところを指摘しておく。

王様の前に連れてこられた猿は、礼儀にかなった挨拶はする、身の上をのべる文章を書く、酒をのむ、はてはチェスの手合わせを行ない、王様が1勝、猿が2勝した。王様は、おもしろくない。そこで猿が、詩をつくる。

【繡像小説】余又詠詩以献。詩中有二強有力者。終日角闘。入晚則歡若平生云云。蓋隱諷之也。

私は、また詩をよんでささげました。その詩には、ふたりの強者がおり、終日格闘しましたが、夜になると、日常のように仲良くした、などといいました。遠回しにいったのでございます。18才

【タウンゼンド】I made a stanza to pacify him; in which I told him that two

potent armies had been fighting furiously all day, but that they concluded a peace towards the evening, and passed the remaining part of the night very amicably together upon the field of battle.

私は王様をなくさめるために詩をつくりました。そのなかで、ふたつの強力な軍隊が、終日猛烈に戦っておりましたが、夕方に和を結び、その夜は戦場で仲良くすごしたことをのべたのでした。pp.65-66

【サグデン】なし

サグデン版に記述のない部分が漢訳になっているのだ。漢訳の底本は、タウンゼンド版となろう。

ここまでくれば、いくらニブイ私であろうと、やはりおかしいと気がつく。

漢訳は、多くの箇所、ある部分はタウンゼンド版により、別の箇所はサグデン版にもとづいている。

この事実は、奚若が、タウンゼンド版とサグデン版をとっかえひっかえ、適当にまぜあわせて漢訳したことを意味するのだろうか。

そんな手間のかかる翻訳を行なうだろうか、という常識的な疑問が生じる。

底本を決めて、それに主として拠りながら漢訳を進める。どうしても必要ならば、別版を参照する。これが、普通の翻訳作業ではなかろうか。底本がなければ、その翻訳は支離滅裂なものになりかねない。

いくつかの英文原本を検討したことをふまえ、ここであらためて、漢訳がよった英文原作について考えることにする。

7 英文原本の探求 3 タウンゼンド版からフォースター版、スコット版へ

私は、本稿の途中で「タウンゼンド版には語句の違う異版が存在するのだろうか」と疑問を提出しておいた。

柳田泉が指摘しているように、井上勤訳がタウンゼンド版にもとづいているのであれば（事実は、違ふのだが）、おなじタウンゼンド版に基づいているはずの奚若の漢訳が一致しないのはおかしい。

タウンゼンド版に拠っていると見えながら、漢訳の語句が底本と異なるばあいがあるということは、手元のものと一致していない以上、異版の存在を考える理由となる。

私の使用しているタウンゼンド版について、すこし説明をしておきたい。

既述のように、手元に1冊あって、これにもとづいて漢訳を検討してきている。手元の1冊しかないから異版があるのではないかと疑った。

その後、同社発行の2冊を入手した。つまり、現在、私のところにはタウンゼンド版の原本が3冊ある。3冊では十分ではないかもしれないが、1冊だけよりはマシだろう。

書目の上では、「タウンゼンド Rev. Geo. Fyler Townsend 改訂、出版社は、ロンドンのウォーン F. Warne & Co., 1866」というものを示したことがある。

ホートン Houghton、ダルジール Dalziel などの手による挿絵を配し、前文が8頁、本文632頁であるという。1866年版（初版か）は、私は未見である。書目の簡単な記述だけでは、挿絵が全部で何枚あるのか、それすらもわからない。

タウンゼンド版1

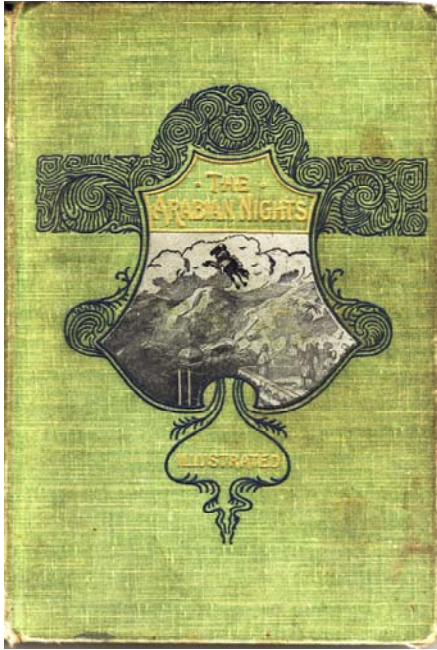
今まで使用してきたタウンゼンド版（とりあえず同版1と称する）は、刊年不記ながら、出版社は、初版と同じロンドンとニューヨークのウォーン Frederick Warne & Co. だ。ラウトレッジ社発行のタウンゼンド版は、未見。

出版の順序からいえば、この刊年不記本から説明しはじめるのは、適当ではないかもしれない。ただ、今までこの本を漢訳の比較対照に使ってきたので、いきがかり上、こちらを優先する。

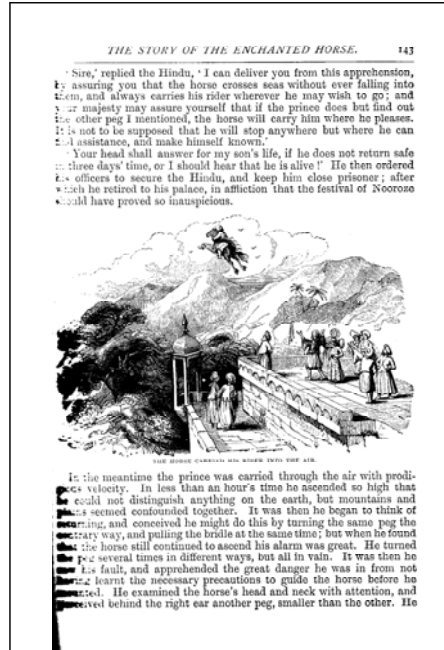
緑色の硬い表紙で、そこには、空飛ぶ馬としがみついている人物の挿絵（後述）が印刷してある。挿絵の上に“THE ARABIAN NIGHTS”、下に“ILLUSTRATED”と手書きで文字が金色だ。表紙の大きさは、ほぼA5判に近い（20.5×13.5cm）。

煙の出ている壺のそばに老人漁夫が立っている彩色挿絵が、扉の前にはさみこんである（オフセット印刷）。

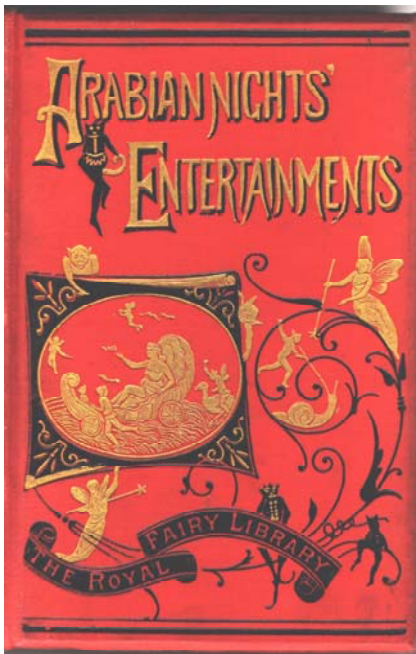
扉には、THE ARABIAN NIGHTS' ENTERTAINMENTS/ A NEW EDITION, REVISED, WITH NOTES, BY THE REV. GEO. FYLER TOWNSEND, M. A. /WITH



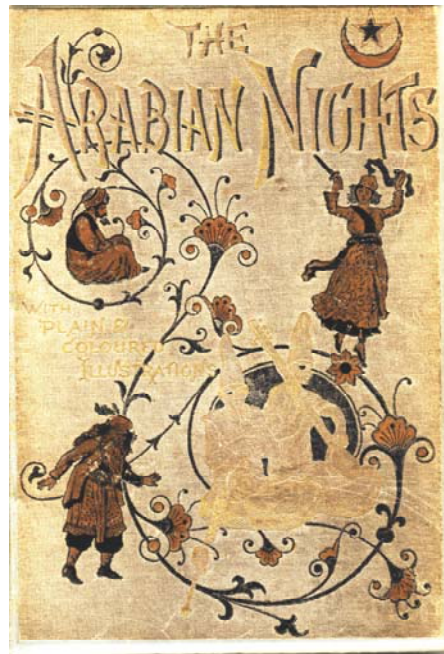
タウンゼント版 1



タウンゼント版 3 の本文挿絵



タウンゼント版 2



タウンゼント版 3

ILLUSTRATIONS. と表示する。

前言 8 頁 (実質は 3 頁)、目次 2 頁、本文は、活字のみで組まれており 629 頁ある。注の索引も通しページ数だから、索引を含めれば全 632 頁ということになる。60 話を収録する。

挿絵の目次は、ついていない。

挿絵は、前出漁夫を含めて色彩のものが 3 枚、あとは白黒銅版 (元が銅板で、本書はオフセット印刷) で、8 枚。ともに本文のページに数えない独立した存在として配置してある。また、本文の活字をおしのけるかたちでの挿絵は組み込まれていない。なぜ、こういう説明をするかといえば、ページ別だての挿絵のほかに、本文にも挿絵を組み込んだ別の版本が発行されているからだ (後述のタウンゼンド版 3)。

本文の紙質は、よい方ではない。悪いといってもいい。印刷方法もオフセット印刷で、本文の端の部分など印刷が不鮮明な箇所があったりする。刊行年が記載されていないこととあわせ考えると、年月を経た後刷りのように見える。

手元にあるこの 1 冊だけでは、語句の違う版が存在しているかどうかを確かめることができない。だから、別のタウンゼンド版を見る以外に方法がない、といった。

タウンゼンド版 2

赤色の硬い表紙で、妖精と不気味な動物があしらわれている。上に “ARABIAN NIGHTS' ENTERTAINMENTS”、下に “THE ROYAL FAIRY LIBRARY” と書かれる。

扉のまえに、アラジンがランプを持っている彩色挿絵が 1 枚かかげられる。この版本では、彩色挿絵はこの 1 枚きりだ。

扉の表示、目次、本文は、上のタウンゼンド版 1 と同一である。60話を収録する。

判型は、タウンゼンド版 1 よりもひとまわり小さい (19×12cm)。だが、本文の活字部分についていえば、大きさは、まったく同じである。つまり、全体の判型が小さくなったというのは、本文の余白部分をすこし裁断した結果だという意味

だ。

紙質は、タウンゼンド版 1 よりも、ややよろしい。活版印刷。彩色挿絵については、上下左右の端を削除する。全体の判型を少し縮小したことが原因だろう。

白黒挿絵は、全部で10枚ある。こちらは、タウンゼンド版 1 と同寸だが、ただし、枚数が一致しない。2枚多い。

該本の以前の購入者によって献辞が手書きされている。それには1895年とあるから、それより前の発行年だとわかる。

タウンゼンド版 1 と 2 についていうと、挿絵の枚数に違いがあるとはいえ、本文は、完全に一致している。

本文のページ数を見ると、このタウンゼンド版 1、2 は、初版と同一物だと推測される。ただし、挿絵の数が異なっていることは、すでにのべた。

この 2 種類のタウンゼンド版に、もうひとつの版本をならべてみる。

タウンゼンド版 3

扉には、THE ARABIAN NIGHTS' ENTERTAINMENTS. /A NEW EDITION, REVISED, WITH NOTES, BY THE REV. GEO. FYLER TOWNSEND, M. A. /With Original Illustrations AND SIXTEEN PAGE PLATES PRINTED IN COLOURS. /LONDON AND NEW YORK: FREDERICK WARNE AND CO. /1887. と示してある。

彩色挿絵が16枚あることをうたっており具体的だ。

見れば、挿絵は、色彩のもの（ページ別だて）が表示のとおり16枚あり、白黒は14枚だ。さらに、この版本のみ本文に挿絵を組み込み、それも多数を収録する。

表紙の地色は、灰色に見える。活版印刷。判型はすこし大きくなる（21×14.5cm）。紙質は、いい。本文は注の索引を含んで560頁ある。同じく60話を収録する。

前文 8 頁（実質 4 頁）、本文目次のほかに彩色挿絵の目次と白黒挿絵の目次をかかげる。

字句は、3種ともに同一である。

1887年版のタウンゼンド版 3 は、タウンゼンド版 1、2 とどのような関係にあるのだろうか。

てがかりはふたつある。

ひとつは、書目に見える初版らしい1866年版とページ数が一致するのがタウンゼンド版1、2であること。

もうひとつは、タウンゼンド版3に「もとの挿絵つき With Original Illustrations」と表示していることだ。

もともとあった挿絵を全部収録しています、とわざわざ書くのは、タウンゼンド版3みずからが初版ではないことを認めていることにほかならない。

タウンゼンド版3は、初版にあった挿絵を残さず収め、しかもその上に本文にも新たに挿絵を多数ほどこしたと考えられる。

3種のタウンゼンド版の関係

タウンゼンド版1の表紙が私の興味を引く。先ほど触れた「空飛ぶ馬としがみついている人物の挿絵」である。この挿絵は、タウンゼンド版3の143頁に掲げられているものを流用しているのだ*³³。

そうすると出版の時間的關係は、タウンゼンド版3のあとにタウンゼンド版1が発行されたことになる。

1は、オフセット印刷なのだから、タウンゼンド版3（1887年版）をそのまま複製できるはずだ。3の方が挿絵が多くて楽しい。しかし、そうはしていない。

1の本文は、初版に拠ったと考えられる。

つまり、タウンゼンド版2が初版の重版として存在しており、タウンゼンド版3が本文に挿絵を増やして新たに組版印刷発行された。そのさい、初版の挿絵は全部を収録する。タウンゼンド版1は、本文を初版によって複製し、初版の挿絵のいくつかを選択して収録する。表紙の意匠は、タウンゼンド版3の挿絵より流用した。

出版の流れをざっと示した。刊行年がないものについては、以上のように推測した。だが、格別に推測して流れを示すということは、このさい、必要ではないかもしれない。

問題は、本文なのだ。この3種類を見るかぎり、タウンゼンド版には、語句の違う異版は基本的にはない、と考えていい。

ちょっと横道にそれる。3種の版本を比較していると、タウンゼンド版3（1887

年版)には、乱丁があることがわかった。インターネットで検索し、イギリスの古書店から購入したのだが、100年以上も前の本にしては値段がそれほど高くない理由なのだろう。ただし、乱丁の注記はなかった。知っていたのか、知らなかったのか、それはわからない。

タウンゼンド版についていえば、その異版を考慮に入れる必要がなくなった。本文が同一であるからだ。

奚若が漢訳した英文原本の候補としては、いままで、レイン版、タウンゼンド版、サグデン版を検討してきた。

漢訳がいくら「序」において、レイン版にもとづいていると書いていようが、語句の違いからレイン版は、底本候補からはずれる。「レイン版にもとづく」というのは、英文原本についての解説者の勝手な思いこみ、推測でしかないことは明らかだろう。

タウンゼンド版にある文章が、サグデン版にはない。また、その逆の現象がある。

漢訳の一部は、タウンゼンド版らしく思える。また、別の箇所はサグデン版によったとしか考えられない。つまり、漢訳は、タウンゼンド版とサグデン版の間を往復しているように見える。

しかし、奚若が、タウンゼンド版とサグデン版の2種類の原本を手元に置いて双方から抜粋しながら漢訳したとは、思えない。両者に見えない物語、あるいは単語が漢訳に出現している事実は、どうしても解決できないのだ。

もういちど考えてみる。英文原作のどちらか一方の版本にある文章を、漢訳はそのまま取り入れている。つまり、漢訳は、両者を統合しているといえよう。

ということは、両方の文章をそなえた1冊の原本が、さかのぼって存在している可能性を示してはいないか。

すなわち、タウンゼンド版とサグデン版は、ある1冊の原本から派生した改編本ではないか、という推測に思い至るのである。ある1冊の原本ではないならば、近い原本から派生したものではないか。

物語の大筋は一致していても、改編者の意識が異なるから、それぞれに原本から取りだす箇所が違ってしまふ。

タウンゼンド版とサグデン版から、両者がもとづいたもとの原本1冊にさかのぼることが、とりもなおさず漢訳の底本にたどりつくことを意味する。

どうやら、奚若漢訳の英文原本を特定する時がきたらしい。これも数種類の版本を比較検討してきた結果である。ムダな作業ではなかった。

別の版本の可能性

さきの英文原本の探求2において、レイン版に収録されていない漢訳作品をあげておいた。

そのなかのひとつに注目したい。すなわち、サグデン版になく、タウンゼンド版には収められている漢訳作品である。

その作品とは、

2. フダダッドとその兄弟の話

「殺妖記」奚若翻訳、金石校訂『天方夜譚』第3冊

「殺妖記」奚若訳述、葉紹鈞校註『天方夜譚』下冊

【タウンゼンド】The History of Codadad and his Brothers. The History of the Princess of Deryabar.

【サグデン】なし

である。

ここでいうフダダッドは、別の訳本では、コダダードとかコダダッドというのと同じだ。

レイン版には収録されていないのだから、漢訳の底本は、いうまでもなくレイン版ではない。

サグデン版にも存在しないのだから、漢訳の底本候補からサグデン版がはずれる。いくつかの物語のなかで、部分的に一致する語句がいくらあろうともだ。

底本であるかどうかの確認には、タウンゼンド版の原文と漢訳を見比べればよい。

昔、ハランという都にすぐれた王様がいたが、子供をさずからなかった。ある

とき夢のなかで、預言者から、ザクロを食べれば願いがかなえられると聞かされた。ザクロの実を50粒食べると、49人の妃が男の子を生んだ。ひとり、子を生まないピルゼ妃は、王から嫌われて追放されてしまう。ところが、彼女は遠く離れた土地においてあとで男の子を生んだ。その子はコダダッドと名前をつけられる。

【説部叢書】徳皮叩国之史官言。昔有君哈倫城者。国既富強。復子惠及下。民庶和洽。後宮多佳麗。而王心不怡。以未得儲嗣故也。宮中祈祷。亦惟胤統之求。一夕夢一老人。儀容嚴穆。而若先知然。謂王曰。予已悉汝意。後禱時。必長跽者再。礼畢。即詣其取石榴実任食之。必得子。ノ覺後。憶所夢。亟如言禱畢。食石榴実。至五十粒。蓋後宮有姬五十人。故食如其数。亡何。四十九人皆孕。惟一名比羅時者独否。

ダイアルベキル国の歴史官がいらっしゃいます。昔、ハランの都に王様がいました。国は富強で、その恵は下々までおよび、人々は仲良く暮しておりました。後宮には美人が多くいたのです。しかし、王様の心が和まないのは、皇太子をさずからなかったからでした。宮殿でお祈りし、跡継ぎを求めました。ある夜、夢のなかで一人の老人が、容貌は厳しくかつ穏やかで、よくわかっているというように、王様に言ったのです。お前の願いは知っておる。祈るとき、2度膝きなさい。礼拝を終わると、すぐさまザクロの実を取りにいき、好きなだけ食べるのだ。必ずや子供をさずかる。ノ目が覚めたあと、夢に見たことを思い出し、すぐにその言葉通りに礼拝をしておわると、ザクロの実を食べました。50粒であるのは、後宮に50人の妃がいましたから、その数だけ食べたのです。まもなく、49人が妊娠しましたが、ただ、ピルゼというもののだけがひとり妊娠しません。125頁

冒頭の「徳皮叩国之史官言」は、のちの葉紹鈞校註本では削除されている。物語の展開には無関係であると判断されたためかもしれない。

さて、タウンゼンド版ではどのように記述されているであろうか。はたして底本を確定することができるか。

タウンゼンド版の該当箇所を開けたとき、私は、息をのんだ。

【タウンゼンド】In the city of Harran there once reigned a king, who was blessed with every earthly happiness. He was rich, powerful, virtuous, and most beloved by his subjects. Now this monarch had fifty sons by his different wives, the joint-heirs and successors in his kingdom. He loved them all with an equal affection, and brought them up in his palace with great care; but he took an exception against one, and entertained such an aversion against him from his birth, that he sent him, with his mother, to live and be brought up in the court of the kingdom of Samaria, a distant but friendly sovereign.

ハランという都はある王様に統治されておりました。王様は、地上のすべての幸せに祝福されていたのです。裕福で、強力で、徳が高く、国民からとても愛されていました。王様は、彼の異なる妻によって50人の息子、すなわち王国の後継ぎ、継承者をさずかっていました。王様は、すべての息子を平等の愛情で愛されており、宮殿で細心の注意をはらって育てていたのです。ただひとつの例外がありまして、その男の子だけは生まれたときから嫌っており、その母親と一緒に、遠く離れているけれども親切な君主のいるサマリア王国に送って、育ててもらうことにしました。p.319

タウンゼンド版は、漢訳とはまるきり異なる。

ハランはでてくるが、漢訳の「徳皮叩」に相当するダイアルベキルが存在しない。

漢訳では、王様には子供ができなかった。ザクロを食べると子供ができると夢のなかで告げられ、その通りに実行すると49人の妃に子供ができた。ところが、タウンゼンド版では、王様は、最初から50人の子供に恵まれているのである。

この作品については、タウンゼンド版は、あきらかに漢訳の底本ではない。

漢訳では、なぜコダダッドが49人とは違う扱いをうけるのか、その理由が無理なく理解できる。ひとりだけ生まれるのが遅かったからだ。

だが、タウンゼンド版では、なぜだか王様に嫌われている、というだけで、納

得のいく説明になっていない。

ここまでへだたった内容であるからには、漢訳の底本としてタウンゼンド版をあげるとは不可能になる。部分的な違いにしては、最初からあまりにもかけ離れすぎている。

奚若の漢訳、すなわち「説部叢書」版漢訳は、サグデン版ではなく、また、タウンゼンド版でもない。

タウンゼンド版にしか見られない注釈が、奚若訳に見えた。これこそが、漢訳の原本である証拠になると判断したこともある。だが、ここにいたってタウンゼンド版を否定しなければならない。

両者をさかのぼれば、2種類の英訳本にたどりつく。

ひとつは、フォースター Edward Forster, M. A. 版だ。漢訳の原本が、サグデン版あるいはタウンゼンド版ではない可能性が出てきたから、私は必要にせまられてイギリスの古書店から購入した。

手元にある版本は、皮革装の小型本4冊である。日本でいえば新書版よりも2回りほど小さい。

書名は“THE ARABIAN NIGHTS.”とだけあって、一般に見られる“ENTERTAINMENT”をとまなわない。

本文は、ガラソ版にもとづいているという。ロンドンのミラー社 William Miller の第3版、1810年発行だ。

以前、あげておいた1802年版が初版であるらしく、この第3版には初版の広告と第2版(1810)の後書きを収録する。1810年に第2版と第3版が発行されるくらいだから、よく売れたとわかる。

第1巻には題名を持つ物語が27話ある。物語の導入部には題名がついていない。普通“introduction”などというのだが、それがない。無題名の導入部を数にいれれば、28篇となる。第2巻に15篇、第3巻に6篇、第4巻に10篇で、合計59篇を収める。

初版5巻本には挿絵がついていた。また後にも挿絵本が出版されている(1839)が、この第3版には、なぜだか挿絵はついていない。挿絵もなければカットもない。文字だけの、まことに地味な刊行物である。

もうひとつの可能性としてスコット版がある。

手元にあるジョナサン・スコット Dr. Jonathan Scott の英訳本（1811初版未見）は、表題に THE “ALDINE” EDITION とうたう “THE ARABIAN NIGHTS ENTERTAINMENTS”（ロンドンのピカリングとチャット PICKERING AND CHATTO, 1890）4冊本である。こちらは、アメリカの古書店より入手した。精密な挿絵が多数貼りこんであり、美しい。

第1巻に29篇、第2巻に25篇、第3巻に11篇、第4巻に21篇の合計86篇を収録する。

以前、「アラビア語原典からフランス語に翻訳したガラン版の「引き写し」が、英訳のジョナサン・スコット版だという」と紹介した。ロバート・アーウィンがそのように書いていた*³⁴。

スコット版は、アラビア語原典からの最初の翻訳だとうたっている。にもかかわらず、実態はガラン版の「引き写し」が事実らしい。

発行年月の違いを見れば、ガランのフランス語版からフォースターに英訳版が生まれ、さらにもうひとつスコット版が出てきたという順序になるうか。

とりあえず、コダダッド物語の冒頭を以下に示そう。

【フォースター】IT is related by the historians of the kingdam of Diarbekir, that in the city of Harran there formerly reigned a most magnificent and powerful monarch, whose regard for his subjects was not less than their affection for him. He was possessed of every virtue, and wanted nothing to make him perfectly happy but the blessing of an heir. Although he had in his seraglio the most beautiful women in the world, he still had no children. He was incessantly offering up his prayers to Heaven; when one night, while he was enjoying the sweets of sleep, a man of venerable appearance, or rather a prophet, stood before him, and said: “Your prayers are heard; you will obtain what you so earnestly desire; rise as soon as you are awake, and instantly begin praying, making two genuflexions; after which, go into the gardens belonging to your palace, call the gardener, and desire him to bring you a pomegranate; eat some of the seeds, as many as may be

agreeable to you, and your wishes will be fulfilled.”/ The king, as soon as he awoke, recollected his dream, and returned thanks to Heaven. He rose, addressed himself in prayer, and make the genuflexions required; he then went into his gardens, took fifty pomegranate seeds, which he counted one by one, and eat them. He had fifty wives, who occasionally shared his bed, all of whom became pregnant; but there was one, named Pirouzè, whose pregnancy did not appear.

ダイアルベキル国の歴史家がっております。ハランの都に、むかしすばらしく壮大で強大な王様が支配しておりました。王様の臣下に対する心遣いは、臣下の王様に対する愛情以上のものがありました。王様はすべての美德をそなえており、なにも必要ではないほどに完全に幸福でしたが、ただ、後継ぎがいません。後宮には美人が多くいましたが、王様にはまだ子供がいなかったのです。絶え間なく天に祈りをささげておりました。ある夜、夢のなかに尊敬すべき風貌の、どちらかというと言者が王様の前に立ち、言ったのです。「お前の祈りは聞き届けられた。お前は、熱心に望んだものを手に入れるであろう。目覚めたらすぐに祈りに行き、2度跪きなさい。そのあと宮殿の庭に行き、庭師を呼んでザクロの実を持ってこさせなさい。種を好きなだけ食べるのだ。必ずやお前の願いはかなうぞ」/目が覚めたあと、王様は夢に見たことを思い出し、天に感謝しました。礼拝をして要求されたとおりに跪くと、庭に行き、ザクロの実をひとつひとつ数えて50粒を食べました。王様は、時折50人の妃と寝台を共にしていたからです。妻たちは全員に子供ができました。しかし、ピルーゼというものだけがひとり妊娠しません。第3巻pp.244-245

ダイアルベキルにしても、漢訳にでてくる単語は、この英訳原文にすべてそろっている。

冒頭部分を見るかぎり、フォースター版が漢訳の底本といってもいい。タウンゼント版とはくらべものにならないくらいだ。

もうひとつスコット版も見ておく。

【スコット】 Those who have written the history of Diarbekir inform us, that there formerly reigned in the city of Harran a most magnificent and potent sultan, who loved his subjects, and was equally beloved by them. He was endued with all virtues, and wanted nothing to complete his happiness but an heir. Though he had the finest women in the world in his seraglio, yet was he destitute of children. He continually prayed to heaven for them; and one night in his sleep, a comely person, or rather a prophet, appeared to him, and said, “Your prayers are heard; you have obtained what you have desired; rise as soon as you awake, go to your prayers, and make two genuflexions, then walk into the garden of your palace, call your gardener, and bid him bring you a pomegranate, eat as many of the seeds as you please, and your wishes shall be accomplished.” / The sultan calling to mind his dream when he awoke, returned thanks to heaven, got up, prayed, made two genuflexions, and then went into his garden, where he took fifty pomegranate seeds, which he counted, and ate. He had fifty wives who shared his bed; they all proved with child; but there was one called Pirouzè, who did not appear to be pregnant.

ダイアルベキルの歴史を記述した者たちは、つぎのように教えています。昔、ハランの都はとても立派で強力な王様が統治されており、王様は人民を愛し、また同じく彼らから愛されていました。王様は、すべての美德を授けられており、また、なにも必要ではないほどに完全に幸福でしたが、ただ、後継ぎがいません。後宮にはすばらしい婦人たちがいたにもかかわらず、子供がいなかったのです。王様は、いつも天に祈りをささげておりました。ある夜、夢のなかに顔立ちのよい人物、どちらかといえば預言者があらわれ王様に言ったのです。「お前の祈りは聞き届けられた。お前は、望んだものを手に入れたぞ。目覚めたらすぐに祈りに行き、2度跪きなさい。そのあと宮殿の庭に行き、庭師を呼んでザクロの実を持ってこさせなさい。好きなだけ食べるのだ。必ずやお前の願いはかなうぞ」 / 目が覚めたあと、夢に見たことを思い出し、天に感謝して起きました。礼拝をして2度跪くと庭に行き、ザクロの実を50粒数えて食べました。王様は50人の妃と寝台を共にしていた

からです。妻たちは全員に子供ができました。しかし、ビルーゼというものだけがひとり妊娠しません。第3巻pp.134-135

こちらにも、「ダイアルベキル Diarbekir」をはじめとして、漢訳と非常によくにかよっている。

フォースター版とスコット版は、文章がうりふたつである。

フォースター版がガラン版にもとづいているならば、本文同一のスコット版がガラン版の「引き写し」だと称せられるのも理解ができる。

似ている英訳原文であるから、つぎには、フォースター版とスコット版を同時に検討する必要がでてくる。

フォースター版とスコット版の検討

長い間、レイン版、タウンゼンド版、サグデン版を使用して、漢訳との語句の異同をさぐってきた。その結果は、それぞれの本文がバラバラであることがわかったただけだ。ゆえに底本を1本に絞りこむことができなかった。

コダダッド物語の冒頭部分は、漢訳の底本がフォースター版、あるいはスコット版である可能性を強く指し示している。ここにいたってようやく、底本を決定する段階にたどりついたように思う。

いままで指摘してきた多くの異同箇所について、フォースター版とスコット版ではどのようになっているのか、検討してみよう。

物語の書き出し部分である。

【説部叢書】上古時波斯国跨大陸。據島嶼。東渡恒河。達支那之西部。並印度諸部隸焉。其幅員至遼闊。撒森尼安歴史。載當時有主波斯者。英武好兵。威棱讐鄰国。

古代、ペルシアは、大陸をまたぎ、島々をおさめ、東はガンジス川からシナの西に達し、インド諸部はつき従っており、その地域ははてしもなく広がった。ササン朝の歴史には、当時、勇ましく軍事を好み、威光で隣国をおびえさせ

るペルシアの支配者がいたことを記録している。

【フォスター】IT is recorded in the chronicles of the Sassanians, those ancient monarchs of Persia, who extended their empire over the continent and islands of India, beyond the Ganges, and almost to China; that there was an illustrious prince of that powerful house, who was as much beloved by his subjects for his wisdom and prudence, as he was feared by the surrounding sates, from the report of his bravery, and the reputation of his hardy and well disciplined army.

ササン朝の年代記において、その帝国をインドの大陸と島々をまたぎ、ガンジス川を遠く越えて、ほとんど中国にいたるまでおしひろげたペルシアの古代の王様たちのなかに、強力な一族の輝かしい王様が存在し、その聡明さと思慮深さによって自国民から愛され、彼の勇敢さと彼の強力で訓練のいきとどいた軍隊によって隣国から恐れられていた、と記録されている。

漢訳は、フォスター版のそのままであるといってもいい。ペルシア、ガンジス、ササン朝と、どれひとつとして取り落している単語はない。

以前示したサグデン版は、このフォスター版を原本にしていると考え。もとの語句を一部分置き換えただけなのだ。似ているはずだ*35。

それでは、スコット版ではどうか。

【スコット】The chronicles of the Sassanians, ancient kings of Persia, who extended their empire into the Indies, over all the adjacent islands, and a great way beyond the Ganges, as far as China, acquaint us, that there was formerly a king of that potent family, who was regarded as the most excellent prince of his time. He was as much beloved by his subjects for his wisdom and prudence, as he was dreaded by his neighbours, on account of his valour, and well-disciplined troops.

ササン朝の年代記において、その帝国をインドの大陸と隣接した島々をまたぎ、ガンジス川を遠く越えて、ほとんど中国にいたるまでおしひろげたペ

ルシアの古代の王様たちのなかに、かつて強力な一族の輝かしい王様が存在し、その時代のもっともすばらしい君主だと尊敬されていた。その聡明さと思慮深さによって自国民から愛され、彼の勇敢さと彼の強力で訓練のいきとどいた軍隊によって隣国から恐れられていた。

スコット版にはある “who was regarded as the most excellent prince of his time” という箇所が、漢訳には見えない。

ごくわずかな違いだけだから、冒頭部分だけでは、フォースター版かスコット版か漢訳の底本問題には、決着はつかない。

兄弟王がそれぞれ妃に裏切られる物語について、漢訳をもとにして英訳3種類との対応を見たことがある。同じ箇所についてフォースター版とスコット版を加えて示す。(レイン版/タウンゼンド版/サグデン版/フォースター版/スコット版の順。

: 一致、×: 不一致、無: 該当する箇所が存在しない。識別のため下線をほどこす)

漢訳 レイン版/タウンゼンド版/サグデン版/フォースター版/スコット版

- #1 撒森尼安(ササン王朝) ×無 / Sassanian / Sassanians / Sassanians / Sassanians
- #2 十年(10年間) ×twenty years / ten years / ten years / ten years / ten years
- #3 忽念后不置(妃をおもう) ×he had left in his palace an article / once more to see his queen / ×無 / once again to embrace his queen / once more to see the queen
- #4 奴(奴隷) ×a male negro slave / a slave / ×無 / another man / a man
- #5 自牖棄屍溝中(窓から死体を溝になげすてた) ×slew them both in the bed / he threw their dead bodies into the foss or great ditch / ×無 / he threw them from the window into the foss, that surrounded the palace / he threw them out of a window into the ditch that surrounded the palace

- #6 俄婢十人各弛服。黒奴如婢数（下女10人と同数の黒人奴隷） twenty females and twenty male black slaves / ×hold secret conversation with another man / ×無 / out came twenty females / ten of them were black men, and that each of these took his mistress
- #7 美蘇得（メスード） Mes'ood / ×無 / ×無 / Masoud / Masoud
- #8 計九十有八（指輪98個） ninety-eight seal-rings / ×無（魔神と美少女部分そのものを省略する） / ×無 / ninety-eight / fourscore and eighteen（80と18で98）
- #9 縛后 ×caused his wife to be beheaded / ×to death his unhappy sultana / ×無 / her to be bound / her to be bound
- #10 手殺諸婢奴（下女奴隷を殺し） in like manner the women and black slaves / the unworthy accomplice of her guilt / ×無 / beheaded all the sultanness's women with his own hand / cut off the heads of all the sultanness's ladies with his own hand
- #11 3年間は漢訳にもない three years / ×無 / ×無 / ×無 / ×無

以上を見るかぎり、漢訳は、例外なくスコット版と一致している。フォースター版は、#6のみが微妙にズレているだけだ。

タウンゼンド版にのみつけられていると思ったロバに関する注釈は、フォースター版、スコット版にも存在するのだろうか。

【説部叢書】東方風俗，牛驢異待，牛作苦，驢則供王侯官吏驅馳，顧慮甚至。近埃及副王曾以白驢贈威爾士親王，副王維嘉爾因此驢得優賞。一千[八百]六十四年秋，伊斯林頓開農学博覧会，此驢与焉。

東方の風俗では、牛とロバでは待遇が異なっていた。牛は苦役に使われ、ロバは王侯官吏の走りに提供され、とてもよい世話をしてもらっていた。最近、エジプトの副王が白いロバをウェールズ親王に贈った。副王ヴィカーは、このロバによって優秀賞をえて、1[8]64年の秋、イスリントンで農学博覧会が開催されたとき、このロバも参加したのである。6頁

不思議なことに、ここに示した注釈は、スコット版にはない。スコット版は、全冊をつうじて注釈そのものが存在しない。読物として考えられているからだろう。

フォースター版には、注釈はつけられてはいるが、その数が少ない。また、タウンゼンド版ほど詳しくないし、だいいち上に示した注釈は、もともと存在しない。

フォースター版、スコット版ともに注釈がないとなれば、奚若は、注釈部分にかぎってタウンゼンド版を参照したということになるろう。

漢訳における注釈の存在は、当時の読者にアラビアン・ナイトと理解してもらった工夫のひとつだ。重視すべきだと考える。

注釈があるということ、それも、別の版本を参照していることになれば、奚若は、複数の版本を手元において漢訳を進めていた事実を私たちに教えてくれる。やっつけ仕事とか、豪傑訳とか、読者を無視した翻訳とは無縁の仕事だとわかる。奚若の誠実な翻訳姿勢を見ることができよう。

牝シカに変身している妻が「従妹」であるという箇所だ。

【説部叢書】叟曰。此鹿為予中表妹。当髫歲。即歸予為室。凡世閱卅寒暑。無所出。予雖不弛愛。不能無念嗣統。

老人は語った。この鹿は私の従妹です。幼い頃、私の家に嫁ぎました。30年をすごし、なにごともしなかったのです。私は愛してはいましたが、跡継ぎがないのを残念に思わないわけにはいきませんでした。15頁

漢訳でわざわざ「中表妹 [従妹]」としているのは、原文がそうなっているからだ、と予測した。

フォースター版では「従妹 cousin」だ。スコット版も「従妹 cousin」とする。

父親は、姿の見えない息子を待つて何ヵ月が経過したか。

「8 ヲ月 eight months」がタウンゼンド版だった。サグデン版は「2 ヲ月 two months」、レイン版は「1 年 a year」とする。

漢訳は、なぜかしら「3 ヲ月[三月]」(15頁)になっており、しかも、のちの重版では「1 ヲ月[一月]」(14頁)に変更していることはのべた。

フォースター版、スコット版ともに「8 ヲ月 eight months」となっており、漢訳と異なる。異なる理由は不明とせざるをえない。

商人の罪は3分の1なのか、それとも2分の1なのか。

魔神が不思議な話を聞いて「商人の罪の3分の1を許してやろう。当為汝宥賈罪三之一可矣」(17頁)という。物語る人物が3名いるから、3分の1というわけだ。

フォースター版、スコット版ともに3分の1としており、漢訳と一致する。

タウンゼンド版では、2分の1としていた。つまり2名が登場するだけだから、それに合わせてある。

漢訳とは異なるから、底本はタウンゼンド版ではないことを確認できる。漢訳者の勝手な改編ではないという意味でもある。

医者ドゥバンの物語だ。

漢訳は、底本であるはず(その当時そう考えていた)のタウンゼンド版とは、冒頭部分が異なっていることを指摘した。再度、漢訳を示す。

【説部叢書】乍門者。為国至小。属波斯。民皆希臘産。王病癩。歴謁医。不能已其疾。

ズウマンは小さい国で、ペルシアに属し、国民はみなギリシア出身だった。王は癩を病んでおり医者をめぐったが病気を治すことはできなかった。23頁

タウンゼンド版には、ズウマンもペルシアもギリシアも出てこない。サグデン版のみ類似の表現がある。

では、フォースター版ではどうかと見れば、

【フォースター】 IN the country of Zouman, in Persia, there lived a king, whose subjects were originally Greeks. This king was sorely afflicted with a leprosy, and his physicians had unsuccessfully tried every remedy they were acquainted with,

ズウマンというペルシアにある国に、王がひとりいた。その国民はもともとギリシア人であった。その王は癩病にひどく苦しんでおり、彼の医者たちは知っているあらゆる治療法を試したが、ことごとく失敗したのだった。

p.54

とあって、サグデン版と完全に一致している。というよりも、時間的にいえば、サグデン版が追随したわけだ。

一方のスコット版ではどうか。

【スコット】 THERE was in the country of Yunaun or Greece, a king who was leprous, and his physicians had in vain endeavoured his cure;.....

ユナウンあるいはギリシアに癩病の王様がいた。彼の医者たちは、治療をしようとむだな努力をしていたのだった。

p.68

地名の部分を見ると、漢訳は、スコット版を底本としない。やはり、フォースター版に拠ったと思える。

さらに、フォースター版は、医者ドゥバンの精通している各国語が、Greek、Latin、Persian、Arabic、Turkish、Syriac、Hebrew だという（サグデン版も同一）。スコット版があげるのは、Greek、Persian、Turkish、Arabic、Latin、Syriac、Hebrew だから、ここは同一だといっていい。

漢訳も、順序は違うが、臘丁、希臘、波斯、亜拉伯、土耳其、叙利亞、希伯来と英文に対応させている。

タウンゼンド版がそれらの言語に言及しないのに比較すれば、フォースター版が漢訳の底本である可能性が高まる。スコット版は、語句の違いがあって、可能

性はフォースター版にはおよばない。

狩猟についての注釈である。

漢訳に見える「狩猟が好きだった 性好敗」の注釈は、前述のとおり、タウンゼンド版に拠っている。フォースター版、スコット版は、注釈については関係がない。

4色の魚を届けてきた漁夫への礼金400である。タウンゼンド版と一致する。

【説部叢書】有異色必有嘉味。以魚付庖人。賚漁父金幣四百。

異なる色をしていてうまいにちがいない。その魚を料理人にわたし、漁夫には金貨400を与えよ。30頁

【タウンゼンド】Take these fish, and carry them to the cook; I think they must be equally good as they are beautiful; and give the fisherman four hundred pieces of gold.

それらの魚を料理人のところへ持っていけ。その美しさと同じくらいうまいそうだ。漁夫には金400を与えよ。p.30

漢訳には、表題として「四色魚」がかかげられていることはすでにのべた。

英文訳本でも同様に表題を別にしているかといえば、別にしているものもあり、そうでないものもある。

漁師の冒険続き、と表題をつけて区別しているのは、ここにあげたタウンゼンド版だ。表題といい、内容といい、漢訳はタウンゼンド版そのものであるということが出来る。

ところが、一致する部分がこれほどまでにありながら、それに続く箇所は、タウンゼンド版と漢訳は違ってくるのが不思議なのだ。

【タウンゼンド】The fisherman, who was never before in possession of so large a sum of money at once, could not conceal his joy, and thought it all a dream, until

he applied the gold in relieving the wants of his family.

漁夫は、一度にそれほどの大金を持ったことがなかったので、喜びを隠すことができませんでした。彼の家族を窮乏から救うために金を使うまでは、すべてが夢ではないかと思ったのです。 p.30

フォースター版、スコット版、サグデン版など、金400が出てくる箇所もみな似たりよったりということができる。例としてフォースター版を引用する。内容はほとんど同じだから、日本語訳はつけない。

【フォースター】 The fisherman, who was never before in possession of so large a sum of money at once, could not conceal his joy, and thought it all a dream. He soon however proved it to be a reality by the good purpose, to which he applied the gold; in relieving the wants of his family. pp.70-71

ところが、漢訳は、それらの英訳本とは異なる内容を記述している。

【説部叢書】 漁父驟得巨金。喜心翻倒。転疑為夢。神悦悦然。趨至家。則妻拏跨門而望。漁父出金於懷。瞠目而曰。其夢耶。妻不知所謂。即詰金所自来。漁父具白。且恐為幻境。妻力言非是。搯之痛。方知非夢。乃抱金而笑。置好衣美食。儼然以素封自居矣。

漁夫は、にわかには大金を手に入れて、喜び転んで、夢ではないかと疑ったのです。ぼうっとしたまま家に急ぎますと、妻と子供が入り口によりかかって帰りを待っています。漁夫は懐から金を取り出し目をみはって、夢じゃるか、といいました。妻はわけがわからず、金の出所を問い詰め、漁夫は説明して幻かと恐れるのです。妻はそうではないと力説し、叩いてその痛さによやく夢ではないとわかり、金を抱いて笑うのでした。よい衣服、うまいものを買い、さながら金持ちをきどったのです。30頁

漢訳は、夢か幻かとほうけている漁夫を妻が叩いて目を覚まさせている。描写

が具体的であり、だから、英文翻訳と離れるというのだ。ただし、この部分は、訳者の想像力をもってすれば、補うことが可能な範囲内ではなかろうか。アラブ特有の事物を示す必要もないからだ。常識的な描写ということができる。

今まで見てきた奚若訳は、英文を離れることはほとんどなかった。フォースター版には見えない描写だから、ここはやや珍しく、漢訳者が加筆したということになるのか。

4色の魚を料理しようとする、じゃまをする人物が出現する。それを3回くりかえし、王様もみずから確認して、そもそも4色魚はどこからとってきたものか、という話になる。

よつつの小山に囲まれた湖で、馬に乗れば3時間もかからないところにある、と漁夫は答える。漢訳は「騎而往。不三小時可達也」(31頁)と書いている。

フォースター版は“in a pond, which is situated in the midst of four small hills, beyond the mountain you may see from hence”(p.74)と書いて山の向こうだという。つづけて、“it was not more than three hours journey”というのだから、漢訳と同じ3時間たらずである。

スコット版も同じく“I fished for them in a lake situated betwixt four hills, beyond the mountain that we see from hence.”(p.90)とあるうしろに“it was not above three hours journey”と表現している。

タウンゼンド版も“he caught them in the lake situated in the midst of the four small hills, not more than three hours' journey from the palace”(p.32)と「3時間」を示す。サグデン版も「3時間」(p.40)だと書いているところはかわりがない。

フォースター版と一致しているところが重要だ。

妖術を使う妻(黒島王の下半身を大理石に変えた)と、その愛人の会話だ。

【説部叢書】当於朝暉未上。使此殷繁都会。悉化為墟。巍垣巨宮。置諸漠野。諒君所雅願者。

朝日がのぼるまえに、この繁栄する都会を、ことごとく廃墟にし、大きな建物を砂漠におきましょう。あなたがお望みならばね。34頁

タウンゼンド版は、妻は愛人に別の土地に逃げようと提案している。漢訳とは異なる。

フォースター版の該当箇所を示す。

【フォースター】I will if you wish it, before the sun rises change this great city and this beautiful palace into frightful ruins, which shall be inhabited only by wolves, and owls, and ravens. Shall I transport all the stones, with which these walls are so strongly built, beyond Mount Caucasus, and farther than the boundaries of the habitable world?

あなたがお望みならば、太陽がのぼるまえに、この偉大な都会とこの美しい宮殿を、狼、フクロウ、カラスだけが住んでいる恐ろしい廃墟に変えてしましましょう。壁を強固に築かいているすべての石をコーカサス山の向こう、住むことのできる境のはるか遠くに運んでしましましょうか。 p.82

漢訳は、フォースター版（スコット版も同様）を簡潔に翻訳したとっていい。

ダーヴィシュに関する注釈だ。タウンゼンド版には、場所が違うが、注がついていた。

注釈については、前述したように、フォースター版、スコット版ともに該当するものが存在しない。

タウンゼンド版を参照したと思われる。

タラゴン問題である。タラゴンを出してくるテキストが、ない。タウンゼンド版でも、サグデン版でもタラゴンへの言及がない。ましてや酢漬けという語句は、もともとないのだ。

ねんのため、漢訳をかかげておく。

【繡像小説】又至一肉肆。購鮮肉二十五磅。復至菜市購白花菜。太勒貢（菜

名) 胡瓜。芹菜等。浸以醋。

さらに肉屋にいくと新鮮な肉を25ポンド購入しました。また野菜市場では、酢につけるために白花菜、タラゴン(野菜の名前)、キュウリ、セロリなどを買いました。1丁オ

【説部叢書】復至屠肆。購二十五磅肉。而白花菜。太勒貢(菜名)。瓜芹之類。所買亦称是。

また肉屋に行って25ポンドの肉を買いました。さらに、白花菜、タラゴン(野菜の名前)、キュウリ、セロリの類を購入して、それがかつぐのです。40頁

「酢につける」部分を除いて、両者は、同じ漢訳である。

問題のタラゴンをフォースター版で見よう。

【フォースター】Passing by a butcher's shop, she ordered five and twenty pounds of his finest meat to be weighted, which was also put into the porter's basket. /At another shop she bought some capers, tarragon, small cucumbers, parsley, and other herbs, pickled in vinegar:

肉屋を通りかかると彼女は最高の肉を25ポンド量るよう命じると、これも荷担ぎのカゴにいれました。/別の店で彼女は、酢づけの、ケイパー、タラゴン、小さなキュウリ、パセリそのほかのハーブを買いました。p.96

スコット版では、上の野菜に加えてサッサfras *sassafras* を混入させる。

野菜の名前がいろいろと出てきた。こまかな部分が、漢訳の底本をさぐる手掛かりとなる。だからこそ、私はこだわっている。

以前、タウンゼンド版にはタラゴンは出てこないとのべた。フォースター版を見れば、これこそが漢訳の底本となっていることがわかる。スコット版には、サッサfrasをともなっているのです、こちらではない。

シャーラザッドの語り

物語の途中でシャーラザッドが口をはさむ。はさむといっても、物語全体がシ

シャーラザッドの語りなのだから、出てきてもおかしくはないが、物語作者がそうさせているのだ。

【繡像小説】言至是。司乞黒勒石（即蘇丹妃D）謂蘇丹曰。陛下欲知此事之究竟。

ここまで話すと、シャーラザッド（国王の妃）は、国王にいった。陛下はこの物語の最後までお知りになりたいでしょう。4丁オ

フォースター版の105-106頁にシャーラザッドの語りがある。

タウンゼンド版が完全に無視した近親相姦である。

タウンゼンド版は、青少年を読者対象とすることを理由に近親相姦については、完全に削除した。サグデン版も同様である。人々に広く知られたアラビアン・ナイトに、まさか、なまぐさい物語が含まれていようなど、思いもしない。

【繡像小説】是兒幼年。夙与其姉相愛好。爾時余亦贊勉之。此家庭恒事。無足怪者。豈知数年以來。二人情日密。致有醜行。……

この子は幼年よりその姉と仲がよく、そのころはわしもそれをほめていた。家庭では普通のことで、怪しむことではない。ところが、数年来、二人の情愛は日に濃くなり、ついには恥ずべき行為をもってしまった。…… 9丁ウ

フォースター版では、この描写は125頁にある。スコット版は、152頁だ。

ねたみをかいヒドイ目にあわされた善人がいた。善人は、ねたんだ当の男を見つけてどうしたか。なんと昔なじみだからといって財宝をたっぷり贈呈した、というあの物語だ。

その財宝の一部は、漢訳では「金貨一千枚 [金幣千枚]」（16丁ウ。「説部叢書」版は「枚」を省略する）となっていた。タウンゼンド版では「金百枚 one hundred pieces of gold」（p.62）だ。

フォスター版は、“a thousand pieces of gold” (p.148) で一致し、スコット版は“one hundred pieces of gold” (p.179) で不一致だ。

フォスター版こそが、漢訳の底本だといってもいい。

猿を養子にしようという船長のセリフがあった。

【繡像小説】余生平未見智如此猴者。他日行将豢之如子矣。余昔一子。其才乃不当是猴之半。

わしは、これほど賢い猿をこれまで見たことがない。後日、息子のように飼育してやろう。わしには昔息子が一人いたが、その才能はこの猿の半分もなかったぞ。17ウ

タウンゼンド版には、このセリフはない。

【フォスター】I have never seen any ape more clever and ingenious, nor one, who seemed so well to understand everything, I declare, that I will acknowledge him as my son. I once had one, who did not possess half so much ability as he does.

これほど賢く才能があって、なんでも知っているようにみえる猿をわしは見たことがない。わしの養子にすることを断言しよう。わしには、昔息子がいたが、これの能力の半分も持ち合わせなんだぞ。p.151

サグデン版は、フォスター版の句読点を変更しただけ。字句は、まったく同一。

スコット版には、船長が自分の息子うんぬんという部分がない (p.183)。

王様とチェスの勝負をして猿のつくる詩があった。

猿との勝負に負けた王様は、ご機嫌ななめである。猿は、なんとかなぐさめようつくった詩だ。

【繡像小説】余又詠詩以獻。詩中有二強有力者。終日角鬪。入晚則歡若平生云云。蓋隱諷之也。

私は、また詩をよんでささげました。その詩には、ふたりの強者がおり、終日格闘しましたが、夜になると、日常のように仲良くした、などいたしました。遠回しにいったのでございます。18才

勝負は勝負にすぎず、人格的に憎んでいるわけではない、といたいらしい。こましゃくれた猿だ。もっとも教養ある王子が猿に変身させられているのだから、不思議ではない、と読者は知っている。

【フォースター】I wrote a stanza to amuse him, and presented it to him; in which I said, that two powerful armed bodies fought the whole day with the greatest ardor, but that they made peace in the evening, and passed the night together very tranquilly upon the field of battle.

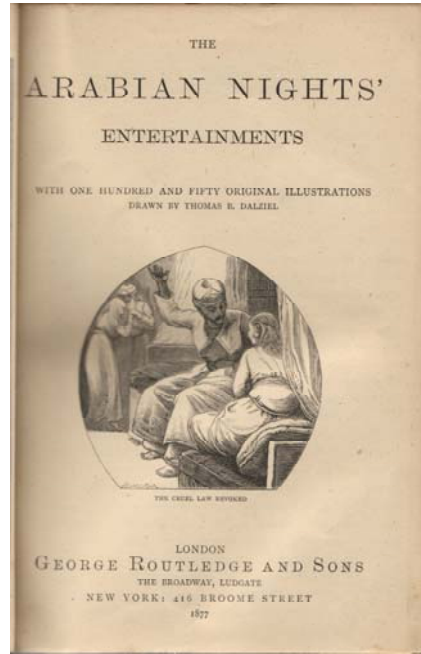
私は王様を楽しませるために詩をつくり、見せたのです。そのなかで、ふたつの強力な軍隊が、終日猛烈な熱情をこめて戦いましたが、夕方には和を結び、その夜は戦場で平穩にすごしたことをのべたのでした。pp.153-154

タウンゼンド版も、フォースター版とほぼ同一の語句である。フォースター版からタウンゼンド版が作られた可能性もなくはない。私が、一時期タウンゼンド版を漢訳の底本だと考えていたのは、無理のないことだと、今更ながらに弁解したくなる。

スコット版にもほぼ同様の内容の記述がある (p.186)。

8 結論 奚若訳の底本はフォースター版である

以上の比較対照をつうじて、フォースター版とスコット版は、共通する部分が多いことが判明した。だが、注意しなければならないのは、完全に一致するわけ



ラウトレッジ社本

ではないことだ。

両者を比較すれば、という話になる。漢訳と重なる部分がより多いフォースター版こそが、漢訳の底本である可能性がたかい。

奚若漢訳の底本を特定するため、つぎの版本を参照した。フォースター版、スコット版、ダルケン版、ニモ社版、サグデン版、タウンゼンド版、ニュウンズ社版などである。

それらのなかでは、フォースター版が漢訳にいちばん近い。しかし、漢訳の一部が、フォースター版とは異なる部分がある。すでにあげた例では、4色の魚の物語であったりする。

漢訳の一部でも英文原作と一致しないならば、別の版本の存在を考えなくてはならないだろう。

ここでもういちど、「説部叢書」版『天方夜譚』の序にたちもどる。底本とした英文原作についての証言を、あらためて確認するためだ。

英文との比較をつうじて、序がのべる底本がレイン版であるというのは間違い

であることはわかっている。もうひとつの記述だ。

すなわち、「ラウトレッジ Routledge 社の刊行した版本」という箇所にこだわるのだ。

新しく入手したアラビアン・ナイトの英文原作がある。

“THE ARABIAN NIGHTS' ENTERTAINMENTS” WITH ONE HUNDRED AND FIFTY ORIGINAL ILLUSTRATIONS DRAWN BY THOMAS B. DALZIEL, LONDON GEORGE ROUTLEDGE AND SONS, 1877

ダルジールの挿絵を特色とする 1 冊本だ。扉にもどこにも表示はないが、本文は、フォースター版なのである。

本文と漢訳はほぼ一致する。序でいうラウトレッジ社本であるところも同じだ。

奚若漢訳の底本、すなわち英語原本については、以下のように結論する。

奚若は、漢訳するにさいして、ラウトレッジ社本のフォースター版を底本とした。さらに、注釈をタウンゼンド版から取り入れている。

長くのべすぎた。奚若版の出版状況を簡単に説明して本稿の終わりとする。

『繡像小説』の連載と並行して、『東方雑誌』の連載がはじまっている。

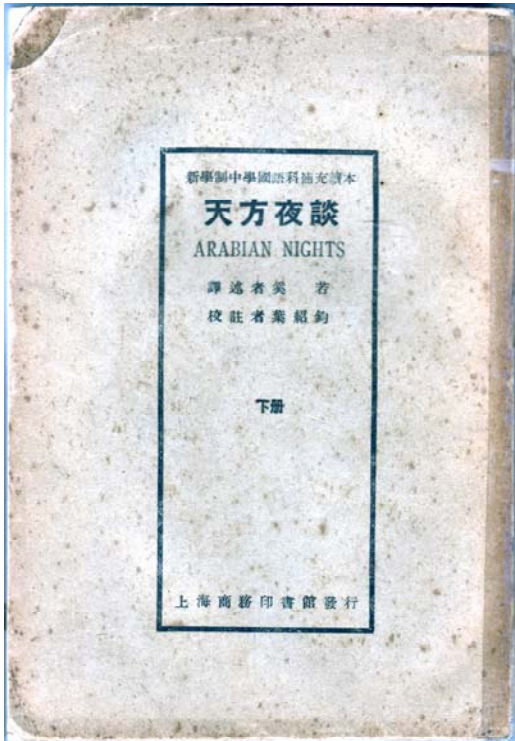
「天方夜譚」(『東方雑誌』第 2 年第 6-12 期 光緒三十一年六月二十五日 1905.7.25-十二月二十五日 1906.1.19) の統一表題のもとに「苹果釀命記」、「荒塔仙術記」、「墨継城大会記」の 3 篇が掲載された。

雑誌連載を終了して単行本になったという事実は、広く読者を獲得していた証拠ともなる。

未発表の冒頭 10 話、『繡像小説』と『東方雑誌』の連載分の合計 50 篇をまとめた 4 冊本が商務印書館より刊行される。光緒三十二 (1906) 年のことだ。ここではじめて訳者が奚若であることが明らかになった。すでに本稿のなかで触れているとおりだ。

『中外日報』光緒三十二年五月二十二日 (1906.7.13) の「謝惠新書」には、『魯濱孫飄流続記』 2 冊、『寒牡丹』 2 冊とならべて『足本天方夜譚』という書名が見える。4 冊が同時に、1906 年には出版されていることの証拠となる。

この刊本が、最初から商務印書館発行「説部叢書」の 1 種類として出版された



補充読本版『天方夜譚』
表紙のみ「夜談」と表示する

かどうかは、今のところ不明である。

ともかく、「説部叢書」に収録され、「述異小説」という角書と第六集第4編の番号を与えられた。のち、「説部叢書」が改組されて、初集第54編と番号が変更される。

上下2冊本が、「訳述者 奚若 / 校註者 葉紹鈞」と表紙にかかげられて上海・商務印書館（上册1924.6/1932.6国難後1版、下册1924.8）より出る。これには、「新学制中学国語文科補充読本」と添えられているから多くの生徒に読まれたのではなかろうか。

さらに「万有文庫」（1930.4未見）に収録されている。また、私の所蔵するものに「万有文庫第一二集簡編五百種」（1939.12）がある。上下2冊本で奚若訳、葉紹鈞校の焼き直しだ。

最近といってもすでにだいぶ前のことになるが、奚若訳であることを明記して、新しく長沙・岳麓書社より1冊本がでた（1987.1）。

【附記】本稿は、大阪経済大学2002、2003年度特別研究費による研究成果の一部である。

【注】

- 1) 佐藤正彰「解説」『千一夜物語』世界文学大系73 筑摩書房1964.1.15。【増補版補記】杉田英明氏よりご指摘があった。Marudrus とするのは佐藤の誤記。Mardrus と正す。
- 2) 鄧溥浩「《一千零一夜》在中国」林煌天主編『中国翻訳詞典』武漢・湖北教育出版社1997.11。832-833頁
- 3) 馬 豎「“天方夜譚”簡介」『訳文』1956年11月号1956.11.1
伊 宏「《一千零一夜》」『中国大百科全書・外国文学』北京・中国大百科全書出版社1982.10。1172-1173頁
伊 宏「《一千零一夜》与中国」『外国文学研究集刊』第9輯1984.7
李長林「清末中国对《一千零一夜》的訳介」『阿拉伯世界』1994年第1期1994。未見
鄧溥浩『神話与现实 《一千零一夜》論』北京・社会科学文献出版社1997.3
郭延礼『中国近代翻訳文学概論』漢口・湖北教育出版社1998.3。
馬祖毅『中国翻訳史』上巻 漢口・湖北教育出版社1999.9。717-722頁
熱扎克・買提尼牙孜主編『西域翻訳史』烏魯木齊・新疆大学出版社1994.9/1997.4第二次印刷。233-234頁。
蓋 双「《天方夜譚》知多少」『阿拉伯世界』2000年第1、2期2000。未見
王向遠『東方各国文学在中国 訳介与研究史述論』南昌・江西教育出版社2001.10。130-138頁
『西域翻訳史』は、『一千零一夜』の漢訳には触れないが、こういう書物もあるという意味で示しておく。
- 4) 紫英「新盒諧訳」「雜録二説小説」シリーズ『月月小説』第5号光緒丁未正月(1907)
- 5) 連燕堂「開關翻訳新途徑的周桂笙」中国社会科学院文学所編著『中国近代文学百題』北京・中国国際広播出版社1989.4。384頁
- 6) 海風主編『吳趸人全集』第9巻(哈爾濱・北方文藝出版社1998.2)所収のものに拠る。張純校点
- 7) 楊世驥『文苑談往』(上海・中華書局1945.4/1946.8再版。影印本)は、その刊行を「光緒廿六年」(12頁)とするが、廿九年の誤植であろう。『新庵諧訳初編』の出版を1900年とするのは、前出の李唯中「訳序」(『一千零一夜』1。34頁)また鄧溥浩『中国翻訳詞典』832頁がある。
- 8) 国立国会図書館所蔵原本のマイクロフィルムの奥付は、明治8年5月7日官許、山城屋政

吉。天理図書館所蔵本の奥付は、明治8年6月12日出版。本稿は、『明治文化全集』第13巻（日本評論社1928.4.15）所収版による。樽本『『暴夜物語』の底本 日訳最初のアラビアン・ナイト』『大阪経大論集』第52巻第6号（通巻第166号）2002.3.31。本稿で使用したタウンゼンド版の出版社は、ロンドンとニューヨークのウォーン Frederick Warne & Co., [1866]。刊年不記。

- 9) 胡従経『晚清児童文学鈎沈』上海・少年儿童出版社1982.4。151、153頁
- 10) 『中国近代文学大系』第11集第28巻翻訳文学集3（施蛰存主編）上海書店1991.4。355-359頁
- 11) 『中国翻訳詞典』832頁
- 12) 顧燮光「小説経眼録」『訳書経眼録』1927初出未見。阿英編『晚清文学叢鈔』小説戯曲研究巻 北京・中華書局1960.3上海第1次印刷。台湾・文豊出版公司（1989.4）の影印本がある。539頁
- 13) 伍国慶（『天方夜譚』前言）『天方夜譚』長沙・岳麓書社1987.1。宋斐夫標点。3頁
- 14) 樽本『清末小説きまぐれ通信』清末小説研究会1986.8.1。43頁。ちなみに、前出の連燕堂「開關翻訳新途徑の周桂笙」には、「前二冊与奚若合訳」（385頁）として、奚若と周桂笙を分けている。当然だ。『清末小説きまぐれ通信』は、樽本編著『樽本照雄著作目録1』（清末小説研究会2003.1.1）に収録した。
- 15) 利波雄一「李伯元と商務印書館 『繡像小説』をめぐって」（早稲田大学中国文学会『中国文学研究』第10期1984.12。注30）の指摘によって知った。念のため、該誌第4年第1期（光緒三十三年正月二十五日1907.3.9）にも見える「光緒三十二年十二月本館創設速成小学師範講習所第二次畢業時撮影」に示された教員は、長尾雨山、章東泉、蔣竹莊、韓静庵、杜垂泉、徐念慈、呉書箴、孫雨蒼、嚴練如である。
- 16) 鄭貞文「我所知道的商務印書館編訳所」『文史資料選輯』53輯 1964.3/1981.6第二次印刷（日本影印）。143頁。同じく、『(1897-1987) 商務印書館九十年 我和商務印書館』北京・商務印書館1987.1。204頁
- 17) 張静廬、林松、李松年「戊戌变法前後報刊作者字号筆名録」『文史』第4輯1965.6。230頁
- 18) 張人鳳整理『張元濟日記』上下 石家莊・河北教育出版社2001.1。北京・商務印書館1981.9もある。
- 19) 張樹年主編、柳和城、張人鳳、陳夢熊編著『張元濟年譜』北京・商務印書館1991.12。105頁
- 20) 中村忠行「清末探偵小説史稿（1）」『清末小説研究』第2号1978.10.31。30頁【増補版補記】以下を追加する。陳心年「奚若，一位被人們遺忘的翻譯家」『中華讀書報』1999.7.14電字版。李凱「東吳名人：被遺忘的翻譯家奚若」ウェブサイト「江陰赤岸李氏」2007.2.23電字版

- 21) 郭延礼『中国近代翻訳文学概論』漢口・湖北教育出版社1998.3。355-356頁。郭延礼は、のちに「奚若，字綬伯，江蘇吳縣人，東吳大学畢業後赴美国留学」(「近代外国文学訳介中の民族情結」『文史哲』2002年第2期(総第269期)2002.3.24。101頁の注1)と書いている。しかし、その出身と卒業大学について出典を明記していない。
- 22) 中村忠行「清末探偵小説史稿(1)」30頁
- 23) 周遐寿(作人)「^{ママ}二三天方夜談」附録二学堂生活『魯迅小説裏の人物』上海出版公司1954.4。324頁
- 24) ロバート・アーウィン著、西尾哲夫訳『必携 アラビアン・ナイト 物語の迷宮へ』平凡社1998.1.14。35頁
- 25) アーウィン著、西尾訳『必携 アラビアン・ナイト 物語の迷宮へ』38頁
- 26) 飛ヶ谷美穂子「漱石の愛蔵書」『図書』2001年10月号2001.10.1。29-30頁
- 27) 荒正人『漱石研究年表』集英社1974.10.20初版未見/1978.8.20四刷。125頁
- 28) パートン「巻末論文」大場正史訳『パートン版千夜一夜物語』第7巻 河出書房1967.5.25。347-348頁
- 29) 重版では、初出にはない注釈をつけている。「蘇羅門(Solomon), 耶蘇紀元前第十世紀之以色列王, 以多智著称」21頁。本文の内容とは違うのではないか。
- 30) 井上勤訳述、渡辺義方校正『全世界一大奇書』広知舎1883.7.7版權免許。国会図書館所蔵マイクロフィルムで見た。のち表題のように改題したという。今、大倉書店1908.2.13改訂、および岡村書店1910.6.7譲受印刷、19204.5三版による。
- 31) 柳田泉『明治初期翻訳文学の研究』明治文学研究第5巻 春秋社1961.9.15/1966.3.10二刷。41頁
- 32) 杉田英明「『アラビアン・ナイト』翻訳事始 明治前期日本への移入とその影響」(東京大学大学院総合文化研究科・教養学部『外国語研究紀要』第4号2000.3.31)によると、英文原本は、エディンバラのニモ Nimmo 社1865版であるという。10頁
- 33) 杉田英明氏より2006年4月6日付でご教示をいただいた。それによると、タウンゼンド版3の挿絵「空飛ぶ馬」は、フリードリッヒ・グロスの版画で、元来はヴァイル版ドイツ語訳に掲載されていたという。タウンゼンド版は、通常、ホートンやディーエル(ダルジャー)の挿絵であって、これとは系統を異にしているらしい。版本の系統は、きわめて複雑だと私には思える。別のいいかたをすれば、出版元は、そこにある挿絵を適当に利用した。
- 34) アーウィン著、西尾訳『必携 アラビアン・ナイト 物語の迷宮へ』35頁
- 35) ねんのために冒頭部分をかかげておく。

【サグデン】IT is written in the chronicles of the Sassanians - those ancient monarchs of Persia,

who extended their empire over the continent and islands of India, beyond the Ganges, and almost to China - that there once lived an illustrious prince of that powerful house, who was as much beloved by his subjects for his wisdom and prudence, as he was feared by the surrounding states, from the report of his bravery, and the reputation of his hardy and well-disciplined army.

ササン朝の年代記において、その帝国をインドの大陸と島々をまたぎ、ガンジス川を越えて、ほとんど中国にいたるまでおしひろげたペルシアの古代の君主たちのなかに、かつて強力な一族の輝かしい君主が存在し、その聡明さと思慮分別によって自国民から愛され、勇敢だという評判と彼の強力で訓練のいきとどいた軍隊の世評によって隣国から恐れられていた、と記録されている。

【増補版補記】杉田英明氏よりのご教示。弟王の名前：シャー・ゼナン Schahzenan とするのはガラン系統の訳書。シャー・ザマーンとするのはアラビア語原典訳。

周作人漢訳アリ・ババ「侠女奴」物語

1-2は、『清末小説』第26号(2003.12.1)に掲載。副題は「英文原作探索篇」。周作人が漢訳した「アリ・ババと40人の盗賊」は、その英文原作がロンドン・ニューズ社版であることは、よく知られている。周作人が、数度にわたり回想して証言している。しかし、実際にニューズ社版を見れば、周作人の証言が間違っていることがわかる。どうやら勘違いしたらしい。そこで、漢訳の底本を追求する作業が必要となった。試行錯誤の結果、フォースター版、スコット版、ダルケン版、ニモ社版、サグデン版、タウンゼンド版、ニューズ社版をしばりだし、それらのなかから、底本をさぐるところまで到達した。ただし、決定的な証拠を捜し当てることができない。

3-5は、『清末小説』第27号(2004.12.1)に掲載。副題は「漢訳検討篇」。周作人漢訳「アリ・ババと40人の盗賊」を英文原作と比較対照しながら、その翻訳の質について検討する。これは、同時に底本探求のつづきでもある。具体的には、フォースター版、スコット版、ダルケン版、ニモ社版、サグデン版、タウンゼンド版、ニューズ社版を手元におき、それらの本文と漢訳をつきあわせ、底本を特定しようという試みである。こまかく検討したが、結局のところフォースター系ということが判明しただけで、特定するにはいたらなかった。ただし、周作人による本文改変について大きな発見をすることができた。改変箇所は、本人自身が認めていることもあり、比較的容易に判別することができる。そこで、周作人によってなされた改変は、作品自体にどのような意味をもっているかを指摘する。すなわち、女奴隷とアリ・ババの息子が結婚する原作を、結婚しないことに改変した。そこには、兄魯迅が「斯巴達之魂」で創造したスパルタの女性英雄セレナの影響が見える。セレナが自殺するのと同じく、「アリ・ババ物語」の女奴隷は幸福な結末をむかえてはならない。それこそが英雄だと考えた。そこで、行方不明と書き換えた。こうして、周作人は、「アラビアン・ナイト」の世界を破壊する結果となったのである。問題の根が深いのは、自分のしたことを彼は生涯理解しなかったところにある。

もともとが1本であるからそれら副題は削除する。松枝茂夫の言及を思い出したので注につけ加えた。

周作人が英語を学習したのは、南京の江南水師学堂に入学してからのことだった。教科書は、インドの学生用に編集した読本を使用したという。当時の学生は、この教科書によって英語を学ぶことが多かった。

彼が、南京での学生時代にいくつかの外国作品を英語にもとづいて漢訳しているのは、周知の事実だ。英語の学習を兼ねていたと思われる。

それらのなかのひとつが、アラビアン・ナイトから選んだ「アリ・ババと40人の盗賊」(以下、「アリ・ババ物語」と称する)だった。

「侠女奴」と題して『女子世界』第8-12期(甲辰七月初一日(1904.8.11)-刊年不記)に連載する。萍雲女士という筆名を使った。のちに同名で単行本となり、小説林社(光緒乙巳(1905)初版未見/丙午(1906年)三月再版)より刊行されてもいる*1。

ポー、ドイルの作品にまじって「アリ・ババ物語」があるところに、奇妙な印象を受ける。

ポー作品の漢訳「玉虫縁」は暗号解読だし、ドイルの「荒磯」は男女の恋愛物語だ。それに加えて「アリ・ババ物語」だから、作品選択に一貫性がないという意味だ。

ただ、英語学習が目的であったというのであれば、話はちがう。たまたま入手した英文原本のなかから作品を適当に選んだということになる。また、女奴隷が活躍する箇所注目すれば、『女子世界』という雑誌に連載された理由も理解できないことはない*2。

アラビアン・ナイトのなかの「アリ・ババ物語」で、間違いはないように見える。

もとの作品をいうだけならば、それほど問題は発生しない。

だが、周作人が行なった漢訳を検討するのであれば、手続きが必要となる。まず、英文原本を特定しなければならない。そのとたんに、壁にぶつかる。簡単そうに思えて、やってみればそうではない。

43 界 世 子 女

小 說

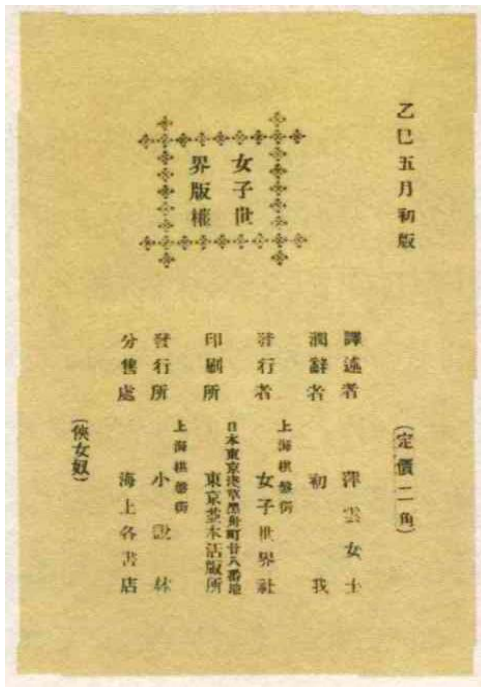
俠女奴

萍雲女士述文

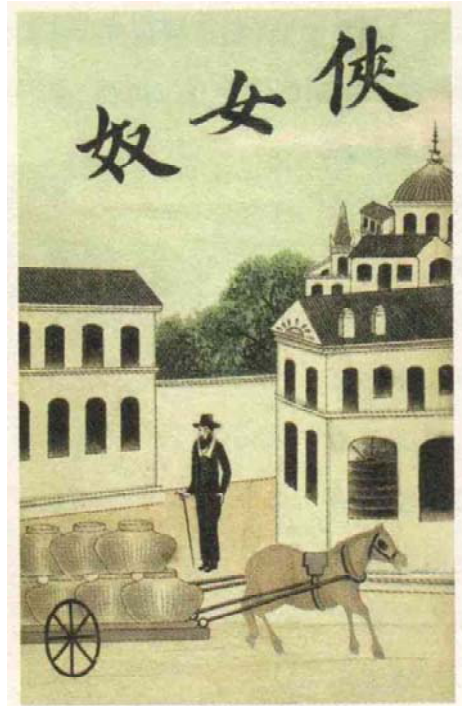
有曼綺那 *Moriana* 者。波斯之一女奴也。機警有急智。其主人偶入盜穴爲所殺。盜復迹至其家。曼綺那以計悉殲之。其英勇之氣。頗與中國紅線女俠類。沈沈奴隸海。乃有此奇物。並從從歐文。譯之以告世之奴骨天成者。

前十世紀之時。波斯某街有兄弟二人。一名慨星。一名埃梨。陪伯。其父在時。家僅小康。死後平分以給二人。其所得產業各相等。析居而處。尙可拮据以度日。及後景遇不同。而二人生計上之狀態。遂亦各異。慨星娶一少婦。富未結婚之前。爲一富賈之繼女。承襲其產。有土地。上之不動產甚多。且有倉庫一所。滿貯商品。其值不貲。及歸。慨星携之與俱。慨星以妻之花蔭。於是一洗其昔日之窮愁。突然一躍而爲富家兒。財名甲於一鎮。

小 說 俠 女 奴



初版奥付



『侠女奴』初版

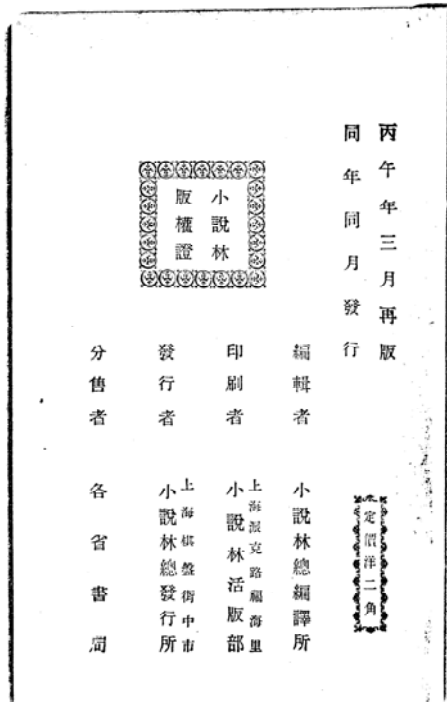
周作人がよった英文原本は、どれなのか。

アラビアン・ナイトの英訳本といっても多種多様なものが発行されている。ひとつしかない、というわけではない。物語の大筋は一致していても、英訳者が異なれば文章もおのずから違ってくる。多数の中から周作人が使用したひとつの英文原作を探し出すのは、手間とヒマがかかりそうなのだ。

1 英文原本の探求 1

周作人は、もとづいた英文アラビアン・ナイトについて証言を残している。しかも、数回の証言内容には、ほとんどゆれがない。前後矛盾するところがなく、発言に自信をもっていることがわかる。

ニューズ Newnes 社の英文挿絵本だった、と断言している。これほど確実なことはない。



再版奥付



『俠女奴』再版

だから、研究者も周作人の言葉のままを引き写してすませている。本人が確信をこめてそう書いているのだから、疑いようがないと誰でもが考える。周作人の発言について、今まで疑問を提出した研究者はいない。

張菊香、張鉄栄『周作人年譜（1885-1967）』（天津人民出版社2000.4、57頁）は、周作人の回想録から引用して記述する。周作人が底本にしたと主張するニュウズ社の版本を原物で確認しようという発想そのものが、彼らには存在しない*3。確認の必要を感じさせなかったほど、周作人の記述には迷いがないということだ。

郭延礼『中国近代翻譯文学概論』（漢口・湖北教育出版社1998.3）は、翻譯文学の本格的な概論であり研究にさいしての基礎文献だといってもいい。周作人の漢訳「アリ・ババ物語」の内容にまでふみこんで解説をしているのは、さすがに詳細な著作だけのことはある。だが、残念ながら、英文原作までは手が回らなかったようだ。言及がない。

王友貴『翻譯家周作人』（成都・四川人民出版社2001.6）には、「天方夜譚」の名前

は出てくるが、それだけのこと。「アリ・ババ物語」の英文原作については興味が無いとわかる。銭理群『周作人伝』(北京十月文藝出版社1990.9)、劉全福「魯迅(1881-1936)和周作人(1885-1967)」(郭著章等編著『翻譯名家研究』漢口・湖北教育出版社1999.7)も同様だ。

周作人について書かれた中国の主要な著作は、いずれも漢訳「アリ・ババ物語」の英文原作には手つかずの状態であるといわざるをえない。

周作人の証言

くりかえしになろうとも、まず、周作人が残した複数の証言から、英文原本についての関係部分を取りだして、再度、確認しておきたい。

その1

周作人は、「学校生活的一葉」(『雨天的書』香港・実用書局1967.11影印。據1933北新書局本)において、当時の状況を回想して「アリ・ババ物語」に言及する。

日本から入手した「天方夜談」であること、ロンドンのニュウンズ社(紐恩士公司)の3シリング半(6ペンス)の挿絵本であること、アラジンが魔法のランプを持っている図とアリ・ババの女奴隷が短刀をもって踊っている図を覚えていることをいう*4。

日本から入手したというのであれば、兄周樹人(魯迅)が送ってくれた書物だろうと推測できる。

魯迅は、留学先の東京で購入した書籍を南京にいる周作人にあてて郵送した。あるいは、知人に託して届けた。日本で発行された『新小説』『浙江潮』『清議報』などの雑誌、加えていくつかの単行本である。それらのなかに英語学習書もまじっていた。ポー、ドイルなどの作品は、いずれも日本人用に出版された英語学習書、すなわち山縣五十雄訳註『英文学研究』シリーズに収録されている。周作人は、それにもとづいて漢訳した。

アラビアン・ナイトも同様の入手経路であっただろう。

周作人の書き方からすれば、英文原本は1冊本だった。

「天方夜談(譚)」と書いているのは、中国ではアラビアン・ナイトを翻訳して

一般にこう称しているからだ。商務印書館が刊行した奚若訳『天方夜譚』4冊が、当時から有名だった。周作人の漢訳に先行して1903年より『繡像小説』誌上に連載されているのが知られる。

周作人の証言を続けよう。

その2

周遐寿（作人）「二三天方夜譚^{ママ}」（附録二学堂生活『魯迅小説裏の人物』上海出版公司1954.4）では、彼がよった英文原本の版本以外について触れている。

学生のころアラビアン・ナイトに出会ってよかったという意味のことをのべる。所有していた該本は失い、現代叢書本を友人にたのんで上海で購入してもらったこと、それがバートン Richard F. Burton 版によっていること、落丁があること、別に奚若の漢訳4冊があること、それらはレイン Edward William Lane 版によっている選集本だろう、などと書く*5。

奚若漢訳本は、実は、レイン版を底本にしているのではない。だが、該書の「序」にレイン版だと書いてある。その間違った記述を周作人は信じただけだ。さて、つぎは周作人最後の証言である。

その3

周作人『知堂回想録』（香港・聽濤出版社1970.7）では3ヵ所に言及がある。

偶然に入手した1冊本であること、ロンドン・ニューズ社の3シリング6ペンス挿絵本であること、子供用の贈呈本だから装訂が美しいこと、アラジンが魔法のランプを持っている図とアリ・ババの女奴隷が短刀をもって踊っている図を覚えていることをいう。以上は、『雨天的書』での記述をくりかえしたにすぎない。

古文で漢訳し、多くの誤訳と省略がある、とふたたびのべる。

さらに詳しくなっている箇所があるのが注目される。つまり、書き換えをふたつしたという。ひとつは、アリ・ババの死後、兄のカシムがアリ・ババの寡婦を娶るのは礼教に合わないから削除したこと。もうひとつは、女奴隷について、カシムが息子の嫁を迎えるところを「行方不明」に書き換えた*6。

以前は、日本から入手した、と周作人は書いていた。ところが、ここでは「偶然」入手したと書き換えている。「アリ・ババ物語」の細部にわたる周作人の説明は、とても明晰であるようにみうけられる。にもかかわらず日本を削除する。日本を無視した理由を知らない。

興味深いのは、周作人が自らの判断によって書き換えた箇所があることだ。大きな問題だから、あとで論じる。

読者は周作人が行なった上の説明を見て、奇妙に感じられるに違いない。

アリ・ババの死後、と周作人はいつている。だが、死ぬのは兄のカシムの方である。周作人は、あまりにも昔のことだから、記憶違いをしたものか。周作人の回想に勘違いが混入しているとなると、やっかいなことだ。

さて、英文原作が贈呈用で装訂が美しいことをいう。ニュウズ社の3シリング6ペンス本であったとくりかえし、ごく普通のレイン版であろうとつけくわえる。リチャード・パートンの完全な訳注本など夢想だにしなかったともいう。

周作人は、英文原作についてニュウズ社のレイン版であると説明しているのが理解できる。

ところが、レイン版には、もともと「アラジンと魔法のランプ」も「アリ・ババ物語」も収録されていない。両篇ともに、知らない人はいないくらいの、アラビアン・ナイトを代表するといってもいい有名な物語ではある。しかし、出所不明だということで、レインは自分の翻訳に採用しなかった。

ゆえに、周作人が底本とした英文原本は、レイン版ではありえない。「アリ・ババ物語」を収録するレイン選集版はあるが、その発行は周作人が漢訳をした後である。

英文原本の版本系統について、周作人の知識はそれほど深いものではなかったことがわかる。奚若の漢訳がレイン版によっているのであれば（これが間違いなのだが）、自分の読んだニュウズ社版もレインの英訳本ではないか、と単純に推測したのではなからうか。

「アラジンと魔法のランプ」ではなく「アリ・ババ物語」のほうを選んで漢訳した理由ものべている。挿絵のアラジンが「支那人」(周作人自身がこう書いている)で辮髪をたらしているのがイヤで、それを翻訳する気をうしなったという*7。

ニュウズ社版

以上を見れば、周作人が漢訳するにさいして底本とした英文原本がはっきりする。

箇条書きにしてみよう。([] 内は樽本の推測。周作人の原文も一部引用する)

1 . 日本から入手したもの。[兄魯迅が留学先の東京で購入したのを周作人あてに送ったのだろう]

2 . ロンドン・ニュウズ社発行の1冊本。価格は3シリング半。(倫敦紐恩士公司発行三先令半的)

3 . 挿絵本である。アラジンが魔法のランプを持っている、アリ・ババの女奴隷が短刀を持って踊る。(挿画本、其中有亜拉廷拿着神灯、和亚利巴巴的女奴拿了短刀跳舞的图)

4 . 原書の発行は、周作人が翻訳に着手した1904年以前になる。[英国・ロンドンから日本・東京へ、さらに中国・南京にもたらされた]

ロンドンのニュウズ社だと確かに書いてある。

ジョージ・ニュウズ George Newnes 社といえば、コナン・ドイルのシャーロック・ホームズ物語を掲載した『ストランド・マガジン』の発行元として有名だ。有名出版社の刊行物だからアラビアン・ナイトの原本をつきとめるのは、比較的簡単ではなかろうか、と私は気軽に考えた。

だが、実際にさがしはじめると、意外に手間取ることになる。

ニュウズ社版には、一応たどりついた。最初は、ロンドンの英国図書館で閲覧したのだ*8。

「一応」と書くのは、原本であるはずなのに、周作人の使用した版本だと確認することができなかったからである。あらたな問題が、発生する。

私が見ているのは、ニュウズ社が刊行した“The Arabian Nights Entertainment”1899の挿絵本1冊だ。

英訳者の名前は記されていない。一方で、画家たちの名前は明記されており、



MORGIANA DANCING BEFORE ALI BABA.

タウンゼンド版

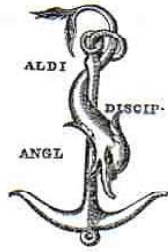
THE "ALDINE" EDITION OF

The Arabian Nights
Entertainments
illustrated by
S. L. Wood

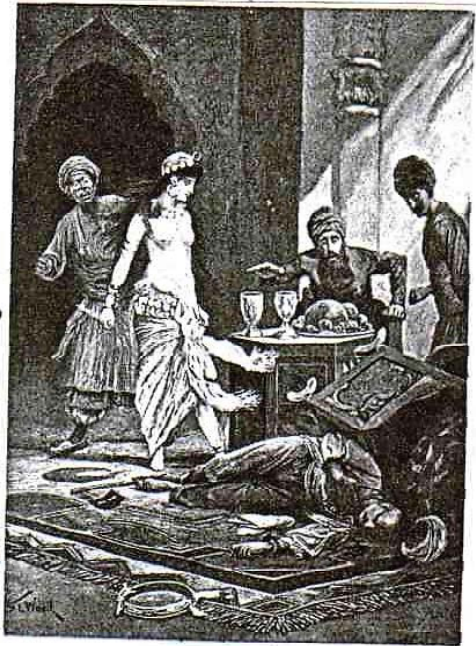
FROM THE TEXT OF DR. JONATHAN SCOTT

IN FOUR VOLUMES

VOL. I.



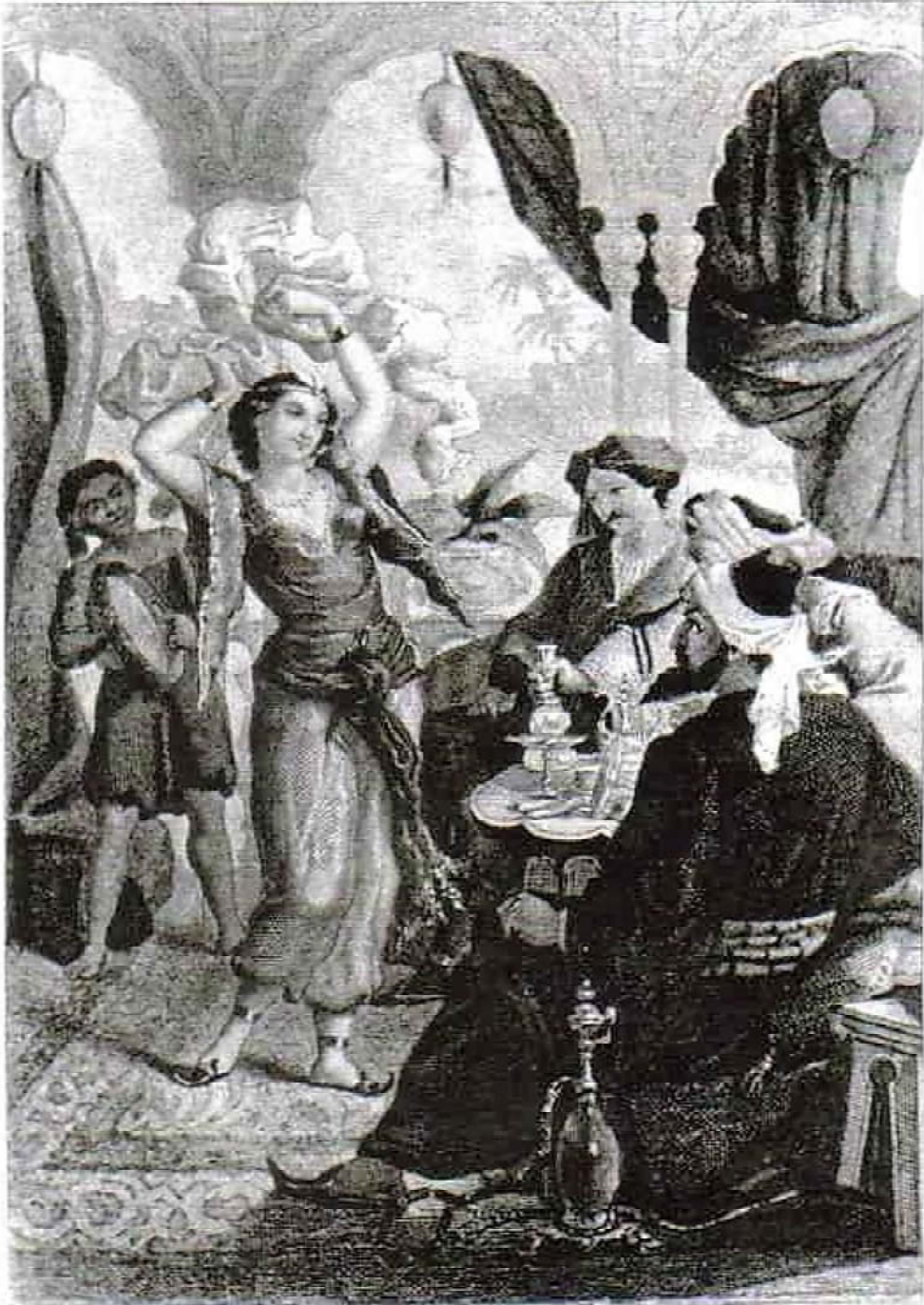
London
PICKERING AND CHATTO
1890



THE DEATH OF THE CHIEF OF THE ROBBERS

Printed by D. K. Albert, Munich

スコット版



レイン選集版

The Arabian Nights Entertainments^K

WITH SEVERAL HUNDRED ILLUSTRATIONS BY W. H. ROBINSON, HELEN STRATTON, A. D. McCORMICK, A. L. DAVIS AND A. E. NORBURY



GEORGE NEWNES LD
SOUTHAMPTON STREET STRAND
BY ARRANGEMENT WITH ARCHIBALD
CONSTABLE AND CO

1899

ユウンズ社版

214 THE ARABIAN NIGHTS ENTERTAINMENTS

any oil. Ali Baba did so, and seeing a man, started back in alarm, and cried out. Do not be afraid, said Morgiana, the man you see there can neither do you nor anybody else any harm. He is dead. Ah, Morgiana! said Ali Baba, what is it you show me? Explain yourself. I will, replied Morgiana; moderate your astonishment, and do not excite the curiosity of your neighbours; for it is of great importance to keep this affair secret. Look into all the other jars.

Ali Baba examined all the other jars, one after another: and when he came to that which had the oil in, found it prodigiously sunk, and stood for some time motionless, sometimes looking at the jars, and sometimes at Morgiana, without saying a word, so great was his surprise. At last, when he had recovered himself, he said, And what is become of the merchant?

Merchant! answered she, he is as much one as I am; I will tell you who he is, and what is become of him. She then told the whole story from beginning to end; from the marking of the house to the destruction of the robbers.

Ali Baba was overcome by this account, and he cried: You have saved my life, and in return I give you your liberty—but this shall not be all.

Ali Baba and his slave Abdalla then dug a long deep trench at the farther end of the garden, in which the robbers were buried. Afterwards the jars and weapons were hidden, and by degrees Ali Baba managed to sell the mules for which he had no use.



POURED ENOUGH INTO EVERY JAR TO STIFLE AND DESTROY THE ROBBER WITHIN.

Meanwhile the captain, who had returned to the forest, found life very miserable; the cavern became too frightful to be endured. But, resolved to be revenged upon Ali Baba, he laid new plans, and having taken a shop which happened to be opposite Cassim's, where Ali Baba's son now lived, he transported many rich stuffs thither. And, disguised as a silk mercer, he set up in business, under the name of Cogia Houssain.

Having by chance discovered whose son his opposite neighbour was, he often made him presents and invited him to dinner, and did everything to win his good opinion.

ロビンソン W. Heath Robinson、ストラットン Helen Stratton、マコーミック A. D. McCormick、デイヴィス A. L. Davis、ノーバリ A. E. Norbury だ。訳者名を出さず画家のみというところからも、挿絵を売り物にした書籍であることがわかる。全部で51話を収録する。

A4判のタテを約3cm縮めた大きさ(27×21cm)で、小型本ということではできない。大型とっていい。472頁もある。上質紙を使用しているからずっしりと重い。表紙にはなんの装飾もほどこされておらず、周作人が説明しているような子供への贈呈本には見えない。贈呈本といえば、普通、表紙には赤色、緑色などを使い、人物、動物、妖精などの絵をあしらっていることが多い。このニューズ社版は、表紙には絵を配置しておらず、かなり地味な装訂であるといえる(異装本については後述)。

表紙が地味なぶんといおうか、挿絵は豊富だ。挿絵を特徴とするだけあって、この「アリ・ババ物語」だけでも17枚もの白黒絵図が飾られている。しかし、普通の贈呈本に見られるような、彩色挿絵は、ない。

私が手に取っているのは、周作人が何度も断言しているニューズ社版そのものである。間違いはない。

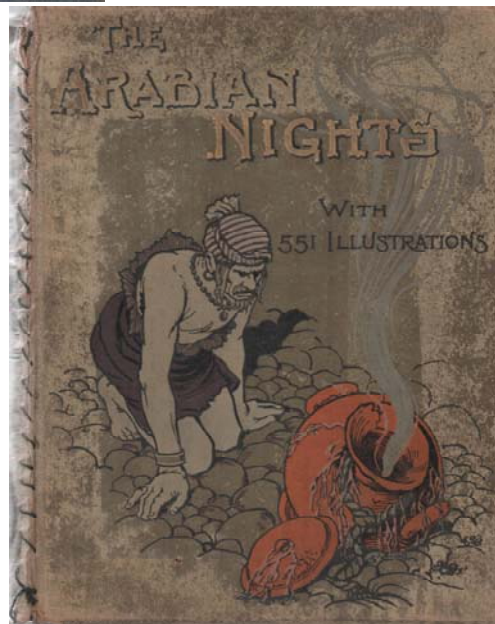
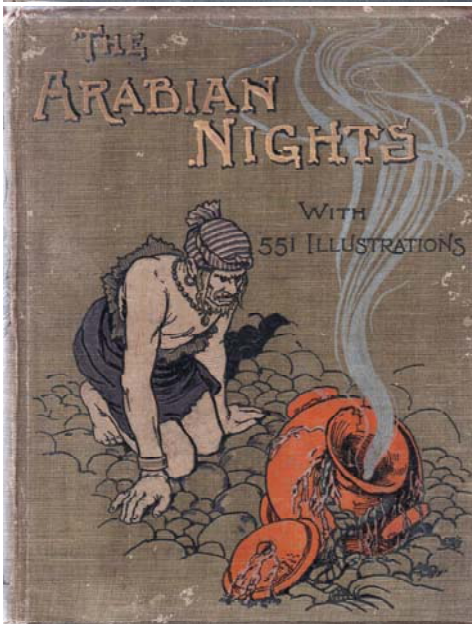
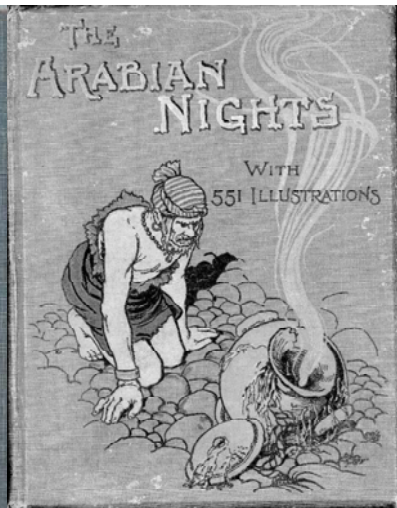
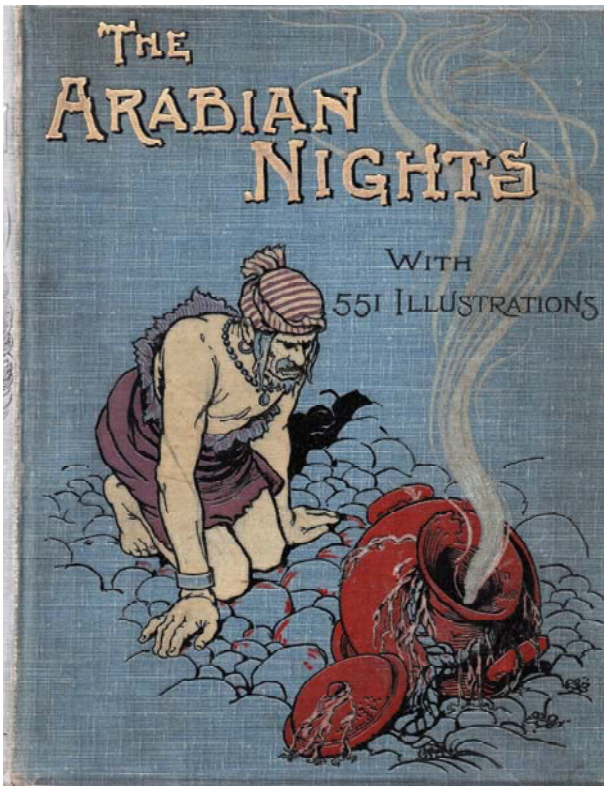
まず、「アリ・ババ物語」の部分を開き、1ページずつめぐりながら踊る女奴隷の挿絵をさがす。

だが、なんと見ても、捜しあてることができない。周作人がくりかえし証言している「アリ・ババの女奴隷が短刀を持って踊る」絵が、ない。奇妙なことだといわなければならないだろう。

女奴隷の名前は、モルギアナという。彼女が短刀をにぎって舞う場面は、見せ場にちがいない。画家にとっては、腕の振るい場所ではないのか。

ダルジール(【増補版補記】杉田英明氏からディーエルとご教示いただいた) Dalziel 兄弟が描くところの2種類のモルギアナは、説明通りの様子を出現させている。スコット版では、上半身をあらわにしたモルギアナが、踊りに乗じて盗賊の首領を刺し殺した直後の場面をかかげている。レイン選集版も盗賊を前にして女奴隷が踊りのポーズをとっている挿絵をそえる。

だが、ニューズ社版では、モルギアナがカメに油を注いでいる図を示して、



踊らない。動きが少ないから静的な印象を与える挿絵である。ここで、まず、私は首をかしげる。

一方の、周作人がいうところの、アラジンが魔法のランプを持っている挿絵はどうか。すわったアラジンの腰にランプがぶら下がっている絵をkarouじて認めることはできる。だが、手にしているわけではない。こちらも周作人の証言とは異なる。私は、ふたたび首をかしげる。

ニュウズ社版には、周作人があれほど鮮明に記憶している挿絵と同じものが存在しない。

気をとりなおして、どういうことかと考える。

挿絵は、いかようにも変更できる。同じニュウズ社版で、挿絵を差し換えて刊行するものがあるかもしれない。本文に組み込まれた挿絵は動かないにしても、差し込みにすればどんな絵でも飾ることができる。

私が英国図書館で見ている版本には、周作人がいうような挿絵がない。だからといって、漢訳の底本がニュウズ社版でないとは限らない。挿絵だけなら、私の見た版本ではない別のニュウズ社版に周作人が拠っている可能性があることを否定できないではないか。周作人の証言をあくまでも信賴すれば、そうとしか考えられない。

調べてみれば、ニュウズ社の別版は、たしかに存在する。

インターネットの古本目録で、緑色の表紙を持つ版本を、まさに表紙だけが見たことがある。漁夫が赤いカメの前にひざまずき、カメから白い煙が出ている。英国図書館所蔵のニュウズ社版の表紙には、絵がない。ゆえに、別版ではないのか。だが、インターネットでは表紙だけがあって、内容を確認めようがない。

念のためと思ってさがした結果、3冊のニュウズ社版を入手することができた。

だが、この3冊を手にとって見ると、装訂が異なっているだけで、本文と挿絵はまったく同じなのだ。差し込みの絵も、ない。別版ではなく、異装本とでも称するほうがいい。

1種は、発行年も同一の1899年発行だ。黄緑色の表紙を持つ大型本である。目録で注文したから、届いてみて3冊のうちの2冊が同じ版本であることがわかつ

た。三方金で、豪華版だ。漁夫が土色のカメの前にひざまずいた絵柄は、インターネットで見たものと異ならない。ただ、電腦では、もうすこし緑色が鮮やかだった印象がある。色合いの違いはディスプレイで光を背後から受けているのが原因かと考えた。

本文、絵柄ともに英国図書館所蔵本と同一ではあるが、装訂が豪華という点が違う。それだけのこと。

もう1種は、これも本文、挿絵ともに前者2冊と同じだ。表紙の絵柄も寸分も変わらないのだが、地の色が青色で、カメが土色ではなく、深い赤色に近い。

内容が同一で表紙の装訂だけが違うから、異装本である。

以上をまとめてどうなるかといえば、私が確認したかぎり（といってもわずかに4冊だが）、ニュウズ社の挿絵本は、本文と挿絵についていうと1種類しか出ていないという結論が得られる。しかも、それは周作人が説明する英文原本ではないのだ。

底本特定のためのより確実な根拠を求めるとなると、英文と漢訳の本文を比較対照する以外に方法はない。挿絵問題には、すこしの間、触れないでおく。

ニュウズ社版との比較対照

周作人の漢訳冒頭を先におき、ひきつづいてニュウズ社版の英文“The Story of Ali Baba and the Forty Robbers.”をかかげる。

【周作人】前十世紀之時。波斯某街有兄弟二人。一名慨星 Cassim。一名埃梨醅伯 Alibaqa^{ママ}。其父在時。家僅小康。死後平分以給二人。其所得産業各相等。析居而處。尚可拮据以度日。及後景遇不同。而二人生計上之狀態。遂亦各異。慨星娶一少婦。当未婚之前。為一富賈之繼女。承襲其産。有土地上之不動産甚多。且有倉庫一所。滿貯商品。其值不貲。及歸慨。携之与俱。慨星以妻之花蔭。一洗昔日窮愁之景況。突然一躍。而為富家兒。財名甲於一鎮。

10世紀以前のころ、ペルシアのある町にふたりの兄弟がおり、ひとりにはカシムといい、ひとりにはアリ・ババといいました。父親が生きていた時、家の暮らし向きはまずまずでした。死後、財産はふたりに平等に分けて、それぞ

れが得たものは同じだったのです。わかれて暮らし、貧乏ながら日を過ごしておりましたが、その後のめぐりあわせは同じではありません。ふたりの生計の状態は、それぞれ違ってしまったのです。カシムは若い婦人を娶ったのですが、彼女は結婚するまえはある裕福な商人の義理の娘でしたので、その財産を受け継いだのです。土地などの不動産はとても多く、しかも倉庫をもっており、商品で満ちあふれておりました。その値は計算することができないほどで、それがカシムのものになりました。それらを手に入れ、カシムは妻のおかげで昔の窮乏情況からぬけだし、突然、裕福になり、町一番の金持ちになったのです。1頁

【ニュウズ社】IN a town in Persia, there lived two brothers, one named Cassim, the other Ali Baba. Their father left them scarcely anything; but Cassim married a wealthy wife and prospered in life, becoming a famous merchant.

ペルシアのある町に、ふたりの兄弟がおり、ひとりカシム、べつのひとはアリ・ババといいました。父親は、彼らにほとんどなにも残しませんでしたが、カシムは裕福な妻と結婚し人生に成功して有名な商人になったのです。p.203

周作人訳の「Alibaqa」は、Ali Baba の誤植であることはすぐにわかる*9。

英文と漢訳の本文をならべると、英文原本を捜し当てたはずの喜びが、一瞬にして落胆にかわる。周作人が説明する絵図が存在しないことにより生じた疑惑が、確信になってかたまる。

周作人の漢訳は、英文よりもはるかに詳しい。訳者が、原作に加筆して翻訳するということはやってできないことではない。だが、上のように内容を大幅に増量する必要は、基本的に、ない。こう考えるのが普通だ。単純に、周作人のよった英文原本はニュウズ社版ではない、との結論になる。

くりかえして揺るがない周作人の証言であった。誰もがそう思った。それにもかかわらず、挿絵はおろか肝心の本文がニュウズ社版ではない。原本探索をはじめからやり直さなくてはならないことを意味する。

2 英文原本の探求 2 その方法

底本を特定することが、研究上避けることのできない手順のひとつである理由は、いうまでもない。よった底本が確定できなければ、周作人の手になる漢訳の水準を評価することができないからだ。当然すぎて説明するのも恥かしい。

彼が英文原作を漢訳するさい、どのような翻訳姿勢をとったのだろうか。原文に忠実に翻訳しようとしたのか。どの部分を削除し、どう加筆し、なにを誤訳したか。彼自身の証言があるにしても、それを原物で確認をする必要がある。英文原作を手元におかなければ、検討作業をはじめることができない。

その当たり前のことが、今までできていなかった。ゆえに、周作人の漢訳「アリ・ババ物語」を検討する研究者がいなかったと理解できる。

では、周作人漢訳「アリ・ババ物語」の底本をさがすことが、なぜむづかしいのか。

ひとつは、すでに見てきた。周作人自身が知っているニュウズ社版そのものをさがそうという研究者がいなかった。確認ぬきだから、底本問題が存在することすら認識できていなかったということだ。

ところが、ニュウズ社版を捜し当てて、はじめてこれが周作人漢訳の底本ではないことが判明する。ニュウズ社版を手にとらなければ、これが該当するものではないとわからないのだから面倒なのだ。

いままで誰も疑うことのなかった、いわば定説が、英文原作の原本を前にして、いとも簡単に崩れさったのである。

こうして底本探求が、ふりだしにもどった。

アラビアン・ナイトが欧州に紹介されたのは、ガラン Antoine Galland のフランス語訳(1704-17)が最初だった。このガラン版をもとに、英語に重訳した作品群が生まれたのも自然の流れだろう。もとの好色部分を削除し書き換えた青少年版と称する翻訳も、数多く作られた。無署名の英訳書は、それを称して「三文文士版」とか、文士が多く住んでいた通りにちなんで「クラブ・ストリート版」とかいうのだそうだ。ゴールドスミス「ウェイクフィールドの牧師」(1766)の第

20章に貧乏著述家が住む Grub-street として登場している。当時から有名な場所だとわかる。それにしても、「クラブ・ストリート版」はべつにして、「三文文士版」とはいかにも見下した呼称である。

漢訳の底本問題が解決困難に見えるのは、アラビアン・ナイトの英語訳本が多数あるからだ。知っている人は、知っている。まるで密林に迷いこんだように感じるはずだ。

私は、いやおうなく、手探りで周作人の漢訳のもとになった英訳原本を追求することになった。

多種多彩に刊行された英語訳だから、追求するにしてもなんらかの方針をたてる必要がある。

周作人がよった英文原作を絞りこむために、私は、ふたつの段階をふむことにした。

ひとつは、諸版のなかから英文訳者を特定する。つぎに、その訳者のどの刊本であるかを追求することにする。

諸版の比較対照

周作人が底本とした英訳を特定するために、英文訳の状況を考慮にいれて、訳の流れをおおまかに把握することにする。

対象を追求するには、筋道をあらかじめたてる必要がある。以下のような見当をつけた。

まず、ガラン版をどう考えるか。周作人がよったのは、英語版である。ゆえに、フランス語のガラン版が、探索の対象から自然にはずれる。

さらに、レイン版とパートン版も追求の対象外となる。

なぜなら、レイン版は、もともと「アリ・ババ物語」を収録していない。

もっとも、元版3冊本から作品を選択し、しかも元来はなかったアラジンとアリ・ババの2作品を追加収録した選集本1冊が、確かにある。EDWARD WILLIAM LANE, revised by STANLEY LANE-POOLE “STORIES FROM THE THOUSAND AND ONE NIGHTS (THE ARABIAN NIGHTS' ENTERTAINMENTS)” P. F. Collier & Son, N. Y. 1910 である。1910年という発行年からして、周作人漢訳の底本対象から脱

落する。周作人は、1910年以前に漢訳をしているからだ。たとえ周作人が見ることのできる年代に出版された選集本があるとしても、本文を比較対照すれば、選集本の英文は記述が簡略化されており、漢訳とは似てもつかない。

バートン版の「アリ・ババ物語」は、ガラン版にもとづいて重訳している。ただ、翻訳全体の冊数が多く全16巻だという。周作人が扱った英文原本は1冊本だった。数があわない。ただし、1冊本に編集しなおしたバートン版もあるだろう。しかし、周作人自身がのちに「バートンの完全な訳注本など夢想だにしなかった」と証言している。漢訳の底本がバートン版であれば、そのような書き方をしないだろう。ゆえに、バートン版ではないと判断してもいいのではなかろうか。

こうして、それら以外の英文版本をいくつか手元を集めることになった。

収集した複数の英文原本を披露することは、私が底本探索に失敗ばかりしていることを意味する。アラビアン・ナイトの版本について知識が豊富であれば、一直線に目的のものに到達するはずだからだ。英文原本を入手する過程は、私が文字通り試行錯誤をくりかえした証拠でもある。

迷走ぶりを、簡単に紹介しておこう。

本稿であつかう周作人の漢訳「アリ・ババ物語」も研究の視野には、当然、入ってはいた。しかし、それよりも前に奚若訳の「天方夜譚」が存在していた事実をいわなくてはならない。

奚若訳の底本は、ラウトリッジ Routledge 社のレイン版だと明記されている。だから、レイン版が優先したのはあたりまえだった。最初は図書館で閲覧し、後に日本の書店で原本3冊1組みを入手した。本文を検討してみると、レイン版では用をなさないことがわかる。奚若の「序」にレイン版だと書かれているにもかかわらず、そうではない。奇妙なことだと思う。

日本語翻訳にはタウンゼンド Geo. Fyler Townsend 版が使われた、という文章を読んだ。しかも、周作人よりも先に発表された別の漢訳にはこのタウンゼンド版を底本にしたとある。こうして、タウンゼンド版が必要になる。いくつかを集めた。

その一方で、名前があがっていたラウトリッジ社版をさがすと、中身はサグデン版である。こちらも別版を求める。複数を手に入れているのは、版によって本文、

THE THOUSAND AND ONE NIGHTS
COMMONLY CALLED THE
ARABIAN NIGHTS' ENTERTAINMENTS

TRANSLATED FROM THE ARABIC, WITH COPIOUS NOTES, BY
EDWARD WILLIAM LANE

EDITED BY HIS NEPHEW EDWARD STANLEY POOLE
FROM A COPY ANNOTATED BY THE TRANSLATOR

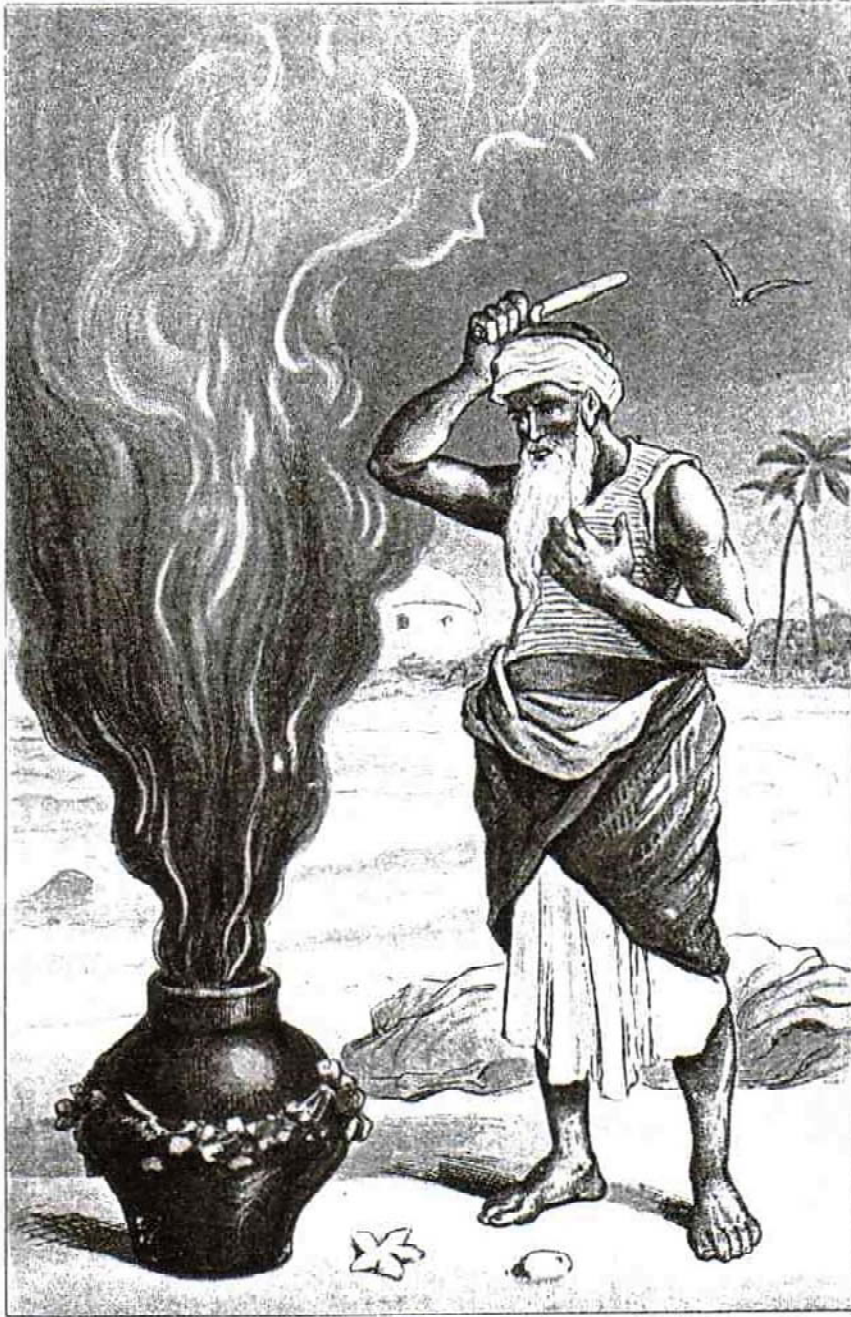
WITH A PREFACE BY STANLEY LANE-POOLE AND
ILLUSTRATIONS FROM THE DESIGNS OF WILLIAM HARVEY



VOL. I

LONDON
CHATTO & WINDUS
1912

レイン版



THE HISTORY OF THE FISHERMAN.

タウンゼンド版

THE
ARABIAN NIGHTS'
ENTERTAINMENTS.

A NEW EDITION, REVISED, WITH NOTES,
BY THE
REV. GEO. FYLER TOWNSEND, M.A.

With Original Illustrations
AND SIXTEEN PAGE PLATES PRINTED IN COLOURS.



LONDON AND NEW YORK:
FREDERICK WARNE AND CO.
1887.

タウンゼンド版



サグデン版

THE
ARABIAN NIGHTS'
ENTERTAINMENTS

ARRANGED FOR THE PERUSAL OF YOUTHFUL READERS

BY THE
HON. MRS SUGDEN



LONDON
GEORGE ROUTLEDGE AND SONS
THE BROADWAY, LUDGATE
NEW YORK: 9 LAYFAYETTE PLACE

サグデン版

THE
ARABIAN NIGHTS.

IN FOUR VOLUMES,

TRANSLATED

BY

EDWARD FORSTER, M. A.

THIRD EDITION.

VOL. I.

LONDON:

PRINTED FOR WILLIAM MILLER,

ALBEMARLE STREET,

BY W. SAVAGE, BEDFORD BURY.

1810.

フォースター第3版

挿絵が異なっているのではないかと疑っているからだ。

これらの版本を見ても、結局のところ奚若訳「天方夜譚」の底本問題を解決するには至らない。そこで、さらにさかのぼってフォースター版とスコット版を探

索購入することになった。

多種類が存在する英文原本のなかから、数種類の漢訳底本候補をようやくさがしあてた。

刊年の古い順に並べなおせば、次のようになる。いずれもがガラン版を元本としているという。

まず、フォースター Rev. Edward Forster 版（1802）がくる。手元にあるのは、ロンドンのミラー William Miller 社の第3版4冊本、1810年発行だ（書名は、“THE ARABIAN NIGHTS.”。1802年初版の第5巻については後述）。収録している作品を見ると、初版の5冊を第3版では4冊に編成しなおして59話を収録する。

つづいて、ジョナサン・スコット Jonathan Scott 版4冊本（1811）、サグデン Mrs. Sugden 版1冊本（[1875]）、タウンゼンド版1冊本（1877[1876]）、ニューウンズ社版1冊本（1899）である（サグデン版、タウンゼンド版は、刊年をしるしていない場合があり、目録で補う）。

そのほか、グリフィン Griffin 社版（1828）、アンドリュー・ラング Andrew Lang 編集の新装版、あるいは重訳者の名前を出さないいくつかの版本もあるが、直接の関係がないのでここでは触れない。

「アリ・ババ物語」の冒頭部分を、諸版本がどのように記述しているか原文をかがげよう。念のために題名も示しておく。ニューウンズ社版は、すでに見たのでくりかえさない。

【フォースター】 “[The] History of Ali Baba, and of the Forty Robbers, Killed by one Slave.”

IN a certain town of Persia, sire, situated on the [very] confines of your majesty's dominions, there lived two brothers, one of whom was called Cassim, and the other Ali Baba. Their father, at his death, left them but a [very] moderate fortune, which they divided equally between them. It might therefore be naturally conjectured, that their riches would be the same; chance, however, ordered it otherwise. / Cassim married a woman, who very soon after her nuptials became heiress to a very well furnished shop, a warehouse filled with good merchandise,

and some considerable property in land; and he thus found himself on a sudden quite at his ease, and thus became one of the richest merchants in the [whole] town.

ペルシアのある町に、陛下、まさに陛下の領土内に位置しておりましたが、ふたりの兄弟があり、ひとりカシム、べつのひとはアリ・ババとよばれていました。彼らの父親は、死ぬとき適度な財産を残し、それらをふたりで平等に分けたのです。したがって当然のことながらふたりの財は同じだろうと思われました。しかし、偶然、別なふうになったのです。カシムはある婦人と結婚しましたが、彼女は結婚式のすぐあとで、商品のつまった商店、すばらしい在庫品でいっぱいになった倉庫、そしてかなりの土地の所有権の継承者となりました。そういうわけで、彼は、突然に、まったく心配のない自分に気づきましたし、町一番の金持ち商人のひとりになったのです。 p.414

[]内の単語は、初版に見られるが1849年の新版では削除されている。

英文原作と漢訳などの本文が異なるばあい、底本探索のてがかりとして（異同）と注記して数えることにしたい。

「陛下 sire」というのは、語り手シャーラザッドが相手をしているシャーリヤル王を指している。王様にむかって夜毎に物語る、というのがアラビアン・ナイトの基本構造だから、それがフォースター版には色濃く残っているわけだ。

漢訳にはある「前十世紀之時」が英文原本には見えない（異同1）。あるいは、「陛下」とよびかけている箇所が漢訳にはない（異同2）。それ以外は、英文と漢訳は、ほぼ一致するといっていいいだろう。財産を平等に分けられた兄弟だから、それから同じ暮らし向きになるだろうと考えられたが、偶然、別々の方向にむかった、という箇所は、漢訳にあって、英文ではフォースター版にしか存在しない。

スコット版の冒頭部分もかかげる。

【スコット】“The Story of Ali Baba and the Forty Robbers Destroyed by A Slave.”

IN a town in Persia, there lived two brothers, one named Cassim, the other Ali Baba. Their father left them scarcely any thing; but as he had divided his little property equally between them, it should seem their fortune ought to have been equal; but chance determined otherwise. / Cassim married a wife who soon after became heiress to a large sum, and a warehouse full of rich goods; so that he all at once became one of the richest and most considerable merchants, and lived at his ease.

ペルシアの町に、ふたりの兄弟がおり、ひとりカシム、べつのひとはアリ・ババという名前でした。彼らの父親は、彼らにほとんど何も残しませんでした。すこしの財産をふたりに平等に分けたのです。カシムは結婚しましたが、彼女はそのあとすぐに大金と商品でつまった商店の相続人となりました。そういうわけで、彼は、突然に、一番の金持ち、また重要商人のひとりになり、安楽に暮したのです。 p.523

ここでは、フォースター版とは異なり、シャーラザッドの姿がすでに消えてしまっている。フォースター版と比較すれば、全体的に、より簡潔な描写に変化していることがわかる。

サグデン版ではどうか。

【サグデン】“The History of Ali Baba, and of the Forty Robbers, Killed by one Slave.”

IN a certain town of Persia, there lived two brothers, one of whom was called Cassim, and the other Ali Baba. Their father, at his death, left them but a very moderate fortune, which they divided between them. / Cassim married a woman who, very soon after her nuptials, became heiress to a well-furnished shop, a warehouse filled with merchandise, and considerable property in land; he thus found himself on a sudden quite at his ease, and became one of the richest merchants in the whole town.

ペルシアのある町に、ふたりの兄弟がおり、ひとりカシム、べつのひと

りはアリ・ババとよばれていました。彼らの父親は、死ぬとき適度な財産を残し、それらをふたりで分けたのです。ノカシムは結婚しましたが、彼女は結婚式のすぐあとで、商品のつまった商店、在庫品でいっぱいになった倉庫、そしてかなりの土地の所有権の継承者となりました。そういうわけで、彼は、突然に、まったく心配のない自分に気づきましたし、町一番の金持ち商人のひとりになったのです。 p.404

このサグデン版は、フォースター版によく似ている。土地を相続したことをいう箇所は、フォースター版から引き継いだものらしい。

だが、こまかい部分が、フォースター版とはおなじではない。

たとえば、フォースター版には存在する「したがって当然のことながらふたりの財は同じだろうと思われました。しかし、偶然、別なふうになったのです。It might therefore be naturally conjectured, that their riches would be the same; chance, however, ordered it otherwise.」という文章が、このサグデン版には、ない。

ところが、周作人の漢訳には、あるのだ。「析居而處。尚可拮据以度日。及後景遇不同。而二人生計上之狀態。遂亦各異。わかれて暮らし、貧乏ながら日を過ごしておりましたが、その後のめぐりあわせは同じではありません」

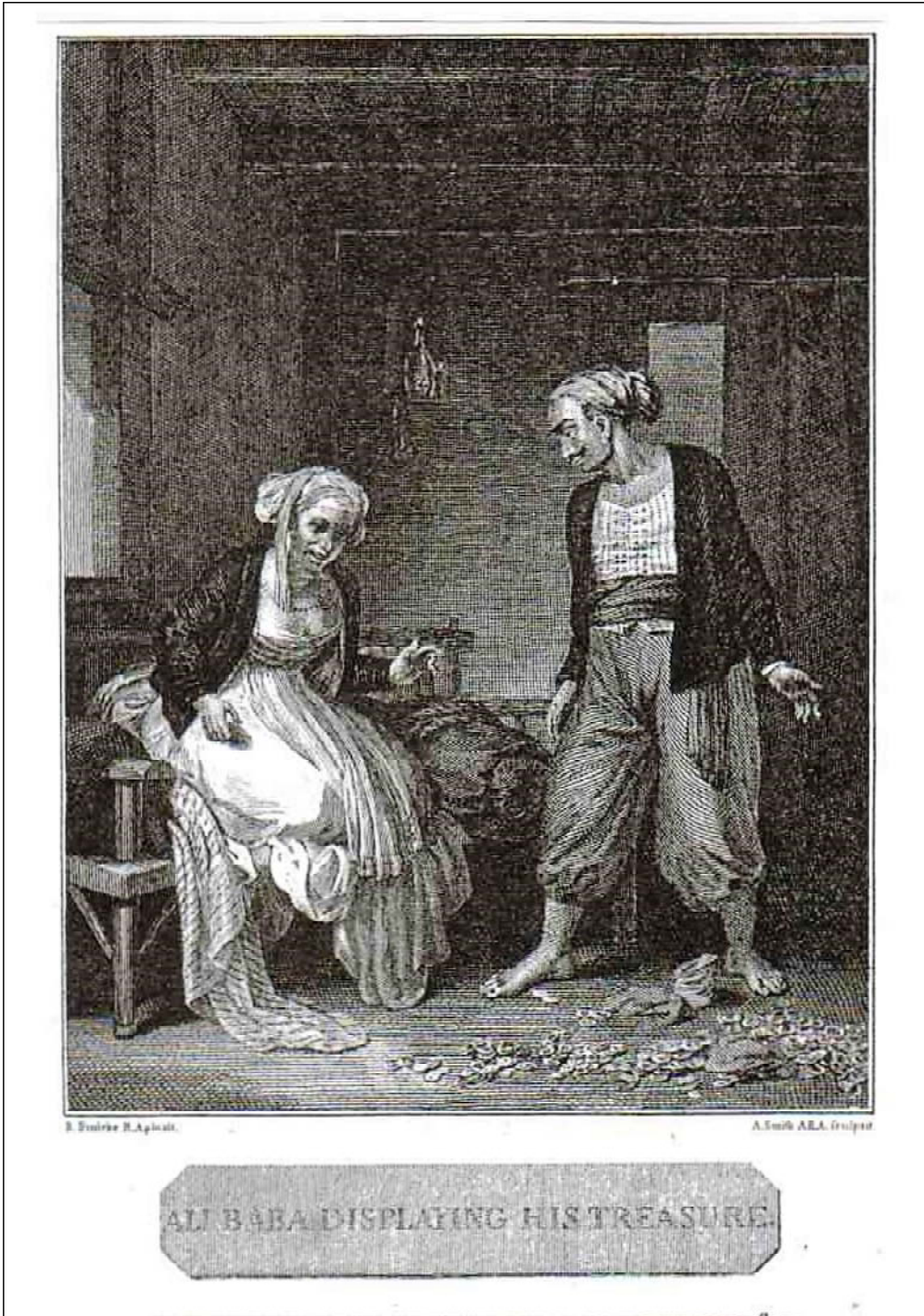
これを見ただけで、漢訳の底本は、サグデン版ではないことがわかる。

タウンゼンド版はどうなっているか。

【タウンゼンド】“The History of Ali Baba, and of the Forty Robbers, Killed by one Slave.”

There once lived in a town of Persia two brothers, one named Cassim, and the other Ali Baba. Their father divided a small inheritance equally between them. Cassim married a very rich wife, and became a wealthy merchant.

昔、ペルシアのある町に、ふたりの兄弟があり、ひとりカシム、べつのひとはアリ・ババという名前でした。父親は、すこしの財産を彼らに均等にわけました。カシムはとても金持ちの妻と結婚し、裕福な商人になったのです。 p.298



フォースター初版挿絵

情況説明がはぶかれており、ほとんど物語の骨格だけになっている。時間が経過するにしたがって、のちの版本では記述が簡略化されたということだ。

簡略化の理由は、簡単である。ガラン版を元本にして英訳が生まれたのであれば、記述を簡単にする方向に進むしかない。その逆に、加筆をくりかえして元本よりも詳しくなる、ということは普通ありえないからだ。元本を忠実に英訳して、同程度の密度を保つことができれば、まだいいほうだろう。

以上、各版本の本文冒頭を比較検討した結果からいえば、周作人が底本としたのは、フォースター版である可能性が高い。

ただし、本文の冒頭部分を見て得られた推測だ。部分にすぎないから、それでもってフォースター版だと断定するのは早すぎる。

残念なことに、私が見ているフォースター版は、第3版4冊小型本（日本の新書版をふたまわり小さくした大きさに近い）であって、しかも、挿絵が1枚もない。初版5冊本には24枚の挿絵がつけられているという。

のちに求めて初版5冊本の第5巻（1802）だけを手に入れた。表紙が取れた破損本だが、ちょうど「アリ・ババ物語」が収録されている。関係のある挿絵は、銅版画で1枚だけだ。スマーク R. Smirke による絵柄は、アリ・ババが盗賊の洞窟から盗みだした金貨を妻の前の床にばらまいている。派手さがなく、地味だといってもいい。しかも、女奴隷が短刀を手にして踊る場面は、ない。

冊数からいえば、周作人が扱ったのは1冊本であった。仮にフォースター版だとしても、私が見ているこの初版第5巻、あるいは第3版4冊本ではない。

考えられるのは、フォースター版には、判型の大きさが異なる1冊本で別の挿絵を加えた異なる版があることだ。

実際に、それらが存在する。名前だけをあげれば、ロンドンのトマス Joseph Thomas 社1冊本（1839）だ。ただし、こちらは初版5冊本とおなじスマークの挿絵を収録しているというから、別の挿絵ということにはならないか。あるいは、ウイロッピー Willoughby & Co. 社1冊本（1852-54）である。

出版社の名前をあげることはあげたが、それらが手に入るかどうかはわからない。日本でいえば、江戸時代の書籍だ。

こうして、つぎの段階にすすむことになる。すなわち、いくつか刊行されたフォースター版のなかから、周作人の底本を探索することにしたい。

フォースター版の特定

上に示した初版第5巻、第3版4冊小型本以外に、以下のものを入手した。周作人の漢訳とは直接関係のない英文原作も含まれている。私が試行錯誤をかさねている証拠である。

1冊本といっても2種類がある。判型をすこし大きくして全作品を収録するもの。もうひとつは、判型を小さくして、先行版からいくつかの物語を選びだした編集本だ。区別するために、後者を選集本とよぶことにする。

出版順にならべると以下のようなになる。

中型挿絵本 1849年 63話収録(実質59話) 出版地: ロンドン

中型挿絵本 刊年不記(1850?) 63話収録(実質59話) 出版地: ニューヨーク

小型選集挿絵本 2種類 刊年不記(1910?) 10話収録 出版地: ニューヨーク

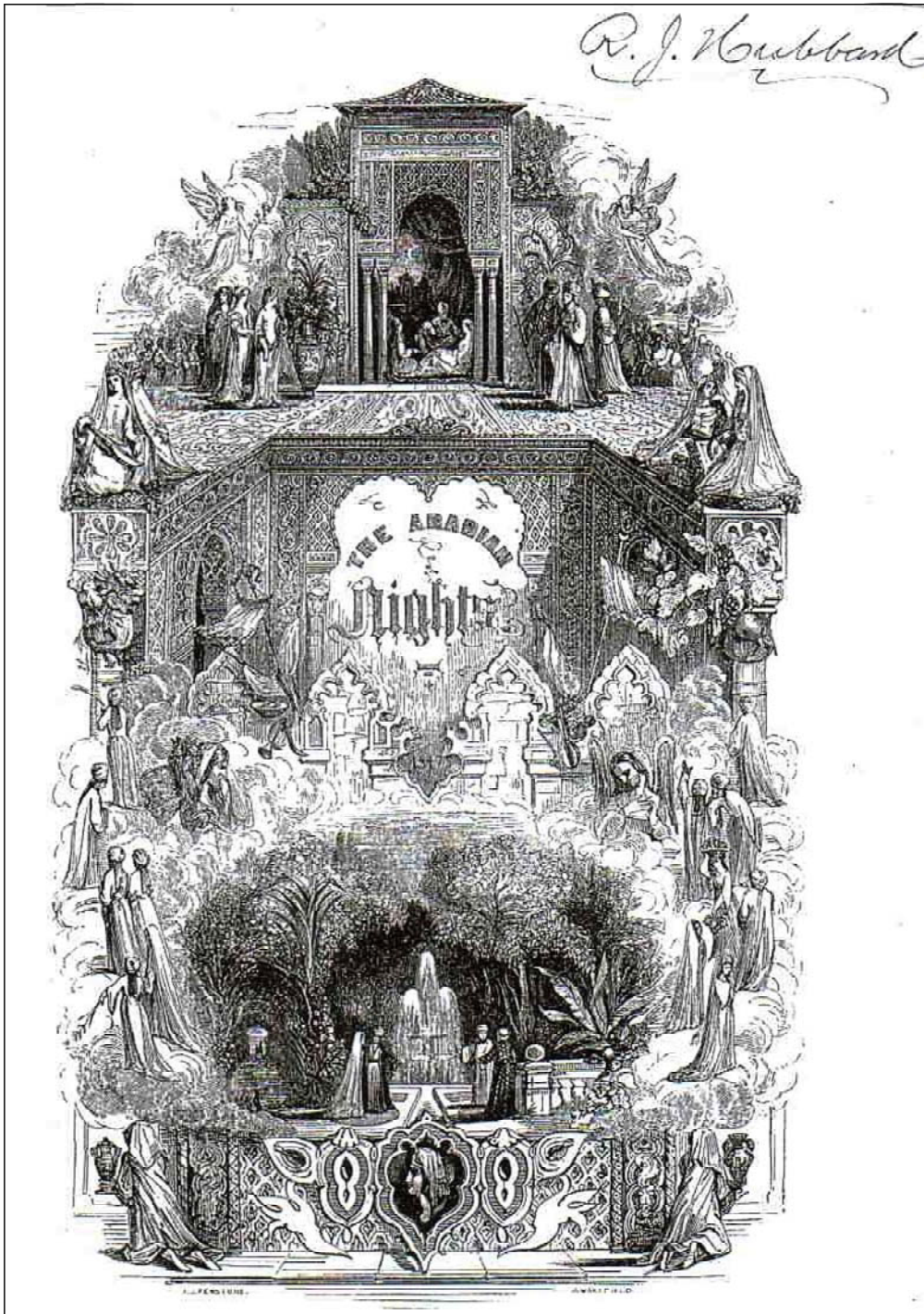
は、細長(24×15cm)の判型で本文は2段組みとなっている。だから、活字はかなり小さい。

ロンドンのヘンリー・ウォッシュボーン HENRY WASHBOURNE 社1849年版である。

扉に見える表示は、つぎのとおり。

THE ARABIAN NIGHTS' ENTERTAINMENTS. TRANSLATED BY THE REVEREND EDWARD FORSTER. New Edition, CAREFULLY REVISED AND CORRECTED. WITH AN EXPLANATORY AND HISTORICAL INTRODUCTION. BY G. MOIR BUSSEY. / LONDON: PRINTED FOR HENRY WASHBOURNE, 18, NEW BRIDGE STREET, BLACKFRIARS. 1849

ブッセイの序は38頁、本文が490頁ある。



フォスター版1849

March 1852

THE
ARABIAN NIGHTS'
ENTERTAINMENTS:

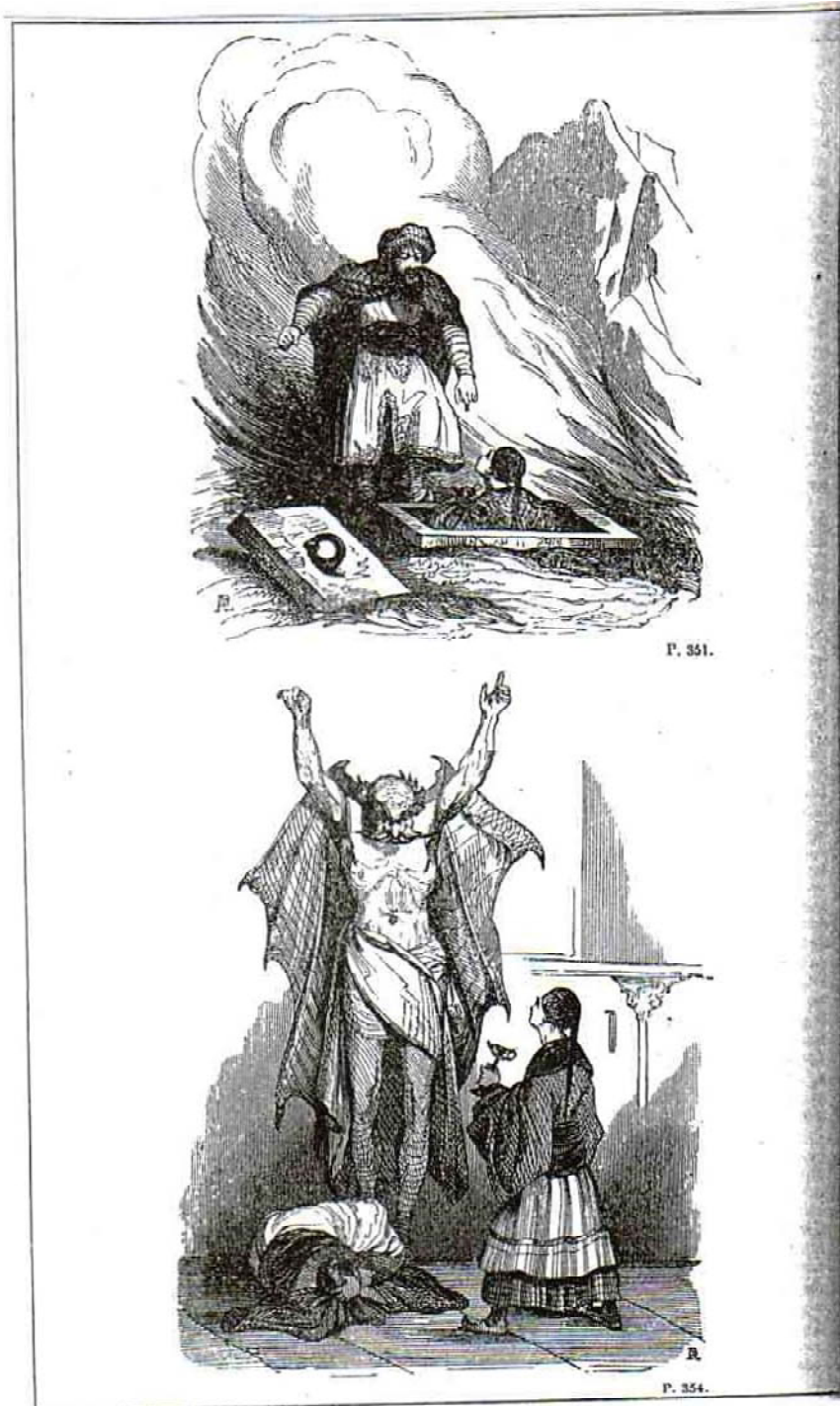
TRANSLATED BY
THE REVEREND EDWARD FORSTER,

New Edition,
CAREFULLY REVISED AND CORRECTED.

WITH AN
EXPLANATORY AND HISTORICAL INTRODUCTION,
BY G. MOIR BUSSEY.

LONDON:
PRINTED FOR HENRY WASHBOURNE, 18, NEW BRIDGE STREET,
BLACKFRIARS.
1849.

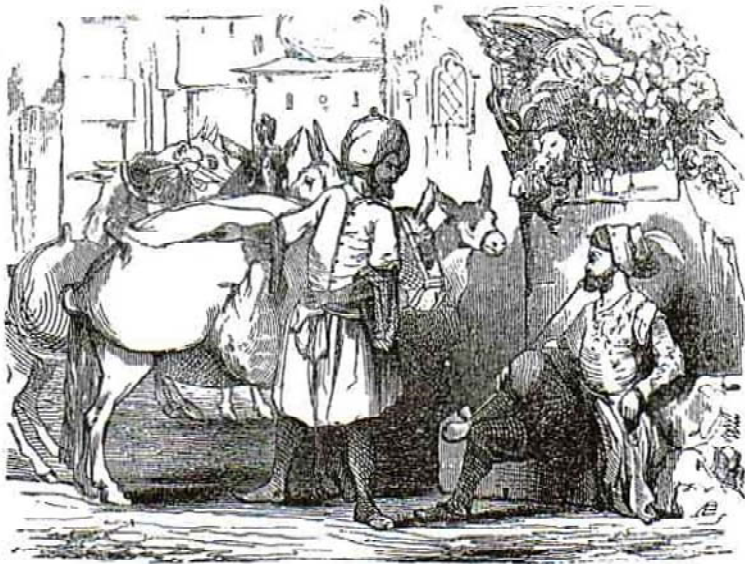
フォースター版1849



アラジン【杉田英明氏よりの御教示】ドイツ語版 フリードリッヒ・グロス作



P. 418.



P. 422.

アリ・ババ【杉田英明氏よりの御教示】ドイツ語版 フリードリッヒ・グロス作

扉の前に置かれた絵図は、レイン版にかかげられた絵図と見間違ふばかりに雰
囲気がよく似ている。レイン版からそのまま流用したのではないかと3冊本でさ
がしたが、該当するものはなかった。別系統のオリジナル挿絵らしい。ペンスト
ン I. J. Penstone およびウェイクフィールド J. Wakefield の署名をかるうじて読
み取ることができるだけだ。画家と銅版画の彫り師の名前だろう。

新版 New Edition という意味は、前に示した原文冒頭を見てもらえばわかるよ
うに、初版とは語句にすこしの異同があり、さらに、スマークの挿絵を一新して
別の画家のものにかえたということだろう。新版には、絵柄からして複数の画家
が関与していることがわかる。

つぎに紹介する予定にしている と見た目が異なるのは、こちらは革装となっ
ていて、三方がマーブル模様であるところだ。マーブル模様が日にやけているよ
うに見えるのに比較して、皮革が新しく感じられる。装訂だけあとからやり直し
たものではないかと疑う。

扉、目次、ブッセイの序から本文という順序で排列されている。扉を含めて各
ページ全部がケイ線で囲んである。

「63話収録」としたのは、表題がついているのが63話という意味だ。そのなか
には「つづき continuation」と題するものが4話含まれているから、それを差し
引けば実質59話に変わりはない。

「アリ・ババ物語」も、当然、収録されており2種類の挿絵がついている。し
かし、女奴隷が短刀を持って踊る挿絵がない。参考までにつけくわえれば、アラ
ジンが魔法のランプを手に持ち、その眼前に魔神が出現している挿絵はある。

は、 とまったく同じ判型である。

ただ、表紙が異なる。赤色の硬い表紙にコウモリの羽根をもつ悪魔が2匹、金
箔で押してある。裏表紙は、金箔が黒色インクになる。

扉に見える表示は、出版社の部分を除けば、 と同一だ。出版社の表記は、
NEW YORK: JAMES MILLER, PUBLISHER, 647 BROADWAY. となっている。扉に
は発行年の記載はない(書店の目録では発行年は1850年)。扉の前にある絵に1849と
刻みこまれているのが読み取れる。 と同じ絵柄だから、その数字に違いがある
ほうがおかしい。

本文は、行数字数ともに とまったく同じだ。しかし、ケイ線が削除されているところだけが異なる。

ブッセイの序は38頁、本文が489頁ある。本文についていえば、 のニューヨーク版は のロンドン版とページ数が一致しない。

には、最後部分の489頁から490頁にかけて、2段組みで全42行の文章が掲載されている。だから、本文が490頁なのだ。だが、 のニューヨーク版の490頁は、空白に変化している。

つまり、本文についていうと、 のニューヨーク版は、 にはある囲みケイと最後の42行を削除したということだ。

本文に削除があるところから、前に紹介した ロンドン出版のものが先版で、 は後版だと私は判断する。

挿絵そのものの絵柄、別ページにして挿入している形態は、 ともに変わらない。

違うのは、その数と配置、および説明文だ。先版だと考える の挿絵には、下辺に該当するページ数を明示する。しかし、 では、挿絵の位置を変更して、内容を文字で説明するのである。

掲載する挿絵の数にも違いがある。 が41種24頁（扉前に配置されている挿絵も数える）あるのに対して、 では29種16頁と少なくなっている。

以上 のフォースター版について、周作人の漢訳の底本であると考えてもいいだろうか。

まず、 ともに女奴隷が踊る挿絵がない。さらに、 はニューヨークの出版である。ふたつの理由で、 は周作人の漢訳の底本候補からはずれてしまう。

本文は、参考にはなる。しかし、挿絵についていえば、周作人が見たものとは一致しないといわざるをえない。

は、2種類ともに日本の文庫本よりもほぼひとまわり大きい（16×11cm、16×11.5cm）。本文は、両者とも全部で142頁ある。

茶色の硬い表紙、一方は青色の硬い表紙という違いはあるが、書名は同じく“SELECT TALES FROM THE ARABIAN NIGHTS' ENTERTAINMENTS”という。訳者名は、THE REV. EDWARD FORSTER と表示がある。

出版社についていえば、1冊は、ニューヨークのリーヴィットとアレン LEAVITT & ALLEN 社、別の1冊は、同じくリーヴィット GEO. A. LEAVITT, PUBLISHER 社である。双方ともに刊年を記していない。書店の目録には1910年と記載されている。

本文は、元本から冒頭の10話、黒島王までを選びだして収録する。

挿絵については、ILLUSTRATED WITH NUMEROUS ENGRAVINGS、すなわち、版画がたくさん、とうたい文句にしている。両者ともに同一版本だから、挿絵も同じだ。ただし、茶色表紙本には、貼り込んだ挿絵がある。青色表紙本には、それらがはがしてあって存在しない、という違いがあるにすぎない。日本の古書でも、貼り込みの挿絵は抜き取られて、売られることがよくある。自然にはがれてなくなる、というものではなからう。

絵図は、各種版本から適当に抜き出してきているらしく、統一感はない。

ニューヨークでの出版というところで、すでに、漢訳の底本ではないように思われる。周作人は、ロンドンのニューズ社を強調しているからだ。もっとも、そのニューズ社版が違うことが判明しているのだが。

決定的なのは、この選集小型本は、「アリ・ババ物語」を収録していないことだ。どのみち、周作人が見た版本では、ない。

周作人漢訳の底本は、本文はフォースター版だという推測が重みをましている。しかし、彼の証言している挿絵をもつ版本を見いだすことができない。まだ、断定をするのは早計だ。

フォースター「系」の版本

周作人の挿絵についての記憶証言があくまでも正しい、という前提であるならば、もうひとつの選択肢を考えてもいいかもしれない。

すなわち、周作人漢訳の底本が、フォースター版そのものではないかもしれないということだ。

周作人の漢訳は、本文はフォースター版によっているのは、明らかだろう。断言は、まだしないが、ほとんどそうだという気持ちになっている。いくつかの版本を比較対照しての考えだ。しかし、私が悩むのは、周作人がいっているような

挿絵がフォースター版にはないという点なのだ。

ならば、フォースター版にもとづいて書かれた別版ではないかと考えてみる。

ガラン版から多種類の英訳本が生まれている。枝葉から、さらに枝葉が生じても不思議ではない。いわゆる「三文文士版」のことを念頭においている。無署名版だと私は理解する。ガラン版と同じく、フォースター版をもとにして重訳、改訳された別版、つまりフォースター「系」の版本が出てきても驚くにはあたらない。事実、そういう版本が存在する。無署名ではないが、すでに紹介してきたサグデン版など、フォースター版に似ている。

サグデン版がフォースター系だとしても、これが周作人の漢訳の底本になっているわけではない。

ここにつけくわえたい2種類の版本がある。

ひとつは、ニモ William P. Nimmo 社(1865初版未見。1870)から発行された挿絵本1冊である。

杉田英明氏は、このニモ社版が井上勤訳「全世界一大奇書」の底本であろうと指摘されている*10。

その根拠は、本文の一致が主たるものであり、挿絵の一部も共通しているからである。

そもそも、柳田泉によってその底本はタウンゼンド版であるといわれてきた。杉田氏によって柳田の間違いが訂正されたことになる。

「井上訳五三〇頁に「亜婆西(ルビ:アバツス)家第七の王波刺温亜良志士(ハラランアラシド)」とあるが、実際にはハールーンは第五代カリフであり、この誤記はガラン仏訳にもスコット版にもない、この英訳書(p.78)独自の特徴である」*11

原文を示せば次のようになる。「私は、アッバス家の第7代カリフ、ハルウン・アルラシッドである。I am Haroun Alraschid, the seventh caliph of the house of Abbas」(異同3。フォースター版 のp.59。ニモ社版p.78。サグデン版p.119)

ニモ社版にあるこの誤記こそ、さかのぼればフォースター版に見られることを指摘しておきたい。

ニモ社版には、訳者名は掲載されていない。ガラン版、スコット版に見えない

THE
Arabian Nights' Entertainments.

TRANSLATED FROM THE ARABIC.

A NEW AND COMPLETE EDITION.

WITH UPWARDS OF A HUNDRED ILLUSTRATIONS ON WOOD
DRAWN BY S. J. GROVES.



THE VIZIER AND HIS TWO DAUGHTERS.

EDINBURGH:
WILLIAM P. NIMMO.
1870.

ALI BABA AND THE FORTY ROBBERS.

477

us did also his son; and Cogia Hous-
sain, seeing that she was coming to him,
drew out of her bosom a purse, and
gave it to him as a present; but while he was put-
ting it into his hand, Morgiana, with a
bold and resolution worthy of herself,
drew the poniard into his heart.

Ali Baba and his son, frightened at this
action, cried out aloud. "Unhappy wretch!"
exclaimed Ali Baba, "what have you done to
ruin me and my family?" "It was to preserve
you, not to ruin you," answered Morgiana;
"for see here," said she, (opening Cogia Hous-
sain's garment, and shewing the dagger,)



at an enemy you had entertained!
I will avenge me well at him, and you will find him to
be the pretended oil-merchant, and the
leader of the gang of forty robbers. Re-
member, too, that he would eat no salt with
you, and what would you have more to per-
suade you of his wicked design? Before I
saw him, I suspected him as soon as you
saw him; and you had such a guest. I saw him,
and you now find that my suspicion was not
fruitless."

Ali Baba, who immediately felt the new-
ness of the matter, embraced her for saying his
second time, embraced her: "Mor-
giana," said he, "I gave you your liberty,
and then promised you that my gratitude
should not stop there, but that I would soon
repay it. The time is come for me to
show you a proof of it, by making you my
daughter-in-law." Then addressing himself
to his son, he said to him, "I believe you,
and so be so dutiful a child, that you will
refuse Morgiana for your wife. You see
Cogia Hous-sain sought your friendship
for a treacherous design to take away my
son, and if he had succeeded, there is no
doubt but he would have sacrificed you also
for revenge. Consider, that by marrying
Morgiana, you marry the support of my
son, and your own."
The son, far from shewing any dislike,
gladly consented to the marriage; not only
because he would not disobey his father, but
because his inclination prompted him to it.

After this, they thought of burying the
captain of the robbers with his comrades,
and did it so privately that nobody knew
anything of it till a great many years after,
when not any one had any concern in the
publication of this remarkable history.

A few days afterwards, Ali Baba cele-
brated the nuptials of his son and Morgiana
with great solemnity and a sumptuous feast,
and the usual dancing and spectacles; and
had the satisfaction to see that his friends
and neighbours, whom he invited, had no
knowledge of the true motives of that mar-
riage; but that those who were not unac-
quainted with Morgiana's good qualities
commended his generosity and goodness of
heart.

Ali Baba forbore, a long time after this
marriage, from going again to the robbers'
cave, from the time he brought away his
brother Cassim, and some bags of gold on
three asses, for fear of finding them there,
and being surprised by them. He kept
away after the death of the thirty-seven
robbers and their captain, supposing the
other two robbers, whom he could get no
account of, might be alive.

But at the year's end, when he found they
had not made any attempt to disturb him,
he had the curiosity to make another jour-
ney, taking the necessary precautions for his
safety. He mounted his horse, and when
he came to the cave, and saw no footsteps of
men or horses, he looked upon it as a good

上の誤記を共有している。発行年の違いを見れば、後発のニモ社版は、いわばフォースター系の英訳本といってもいいだろう。前述のようにサグデン版もこの系列につらなる1種だ。

ニモ社版 1870年 出版地：エディンバラ

細長（24×15cm）の判型で緑色の装訂だ。児童むけの贈答用としては、すこし地味な印象を受ける。

本文は2段組みとなっているところは、フォースターそのままだ。

扉には、以下のように表示してある。

THE Arabian Nights' Entertainments. TRANSLATED FROM THE ARABIC. A NEW AND COMPLETE EDITION. With UPWARDS OF A HUNDRED ILLUSTRATIONS ON WOOD DRAWN BY S. J. GROVES. / EDINBURGH: WILLIAM P. NIMMO. 1870

本文全540ページをケイ線で囲んでいる。第236夜まで数えて物語名は柱に示す。それ以後は、夜を数えず、物語題名を文中と柱にかかげる。

挿絵は、2種類ある。本文に組み込んだ比較的小さいものが多数と、ページとは無関係に差し込まれた大きいもの3枚（扉前を含む）だ。

周作人の記憶に焼きついているあの挿絵はどうか。アラジンの魔法のランプは、ない。女奴隷が短刀で盗賊の頭を刺し殺している瞬間を描いている。踊っているわけではないが、関連しているといえ、そうだ。

挿絵についていえば、周作人の証言とはことなる。とりあえず、ニモ社版“THE STORY OF ALI BABA AND THE FORTY ROBBERS DESTROYED BY A SLAVE.”も周作人漢訳の底本候補としておこう。

ダルケン版 刊年不記（目録によると[1864,1865]） 59話収録 出版地：ロンドン
大型（27×19cm）でマープル模様の装訂だ。背には革を使い重厚な感じがする。
扉には、以下のように表示してある。

DALZIELS' ILLUSTRATED ARABIAN NIGHTS' ENTERTAINMENTS. The Text Revised and Emendated throughout by H. W. DULCKEN, Ph.D. WITH UPWARDS OF TWO HUNDRED ILLUSTRATIONS BY EMINENT ARTISTS. ENGRAVED BY THE

DALZIELS' ILLUSTRATED
ARABIAN NIGHTS'
ENTERTAINMENTS.

The Text Revised and Emendated throughout by
H. W. DULCKEN, Ph.D.

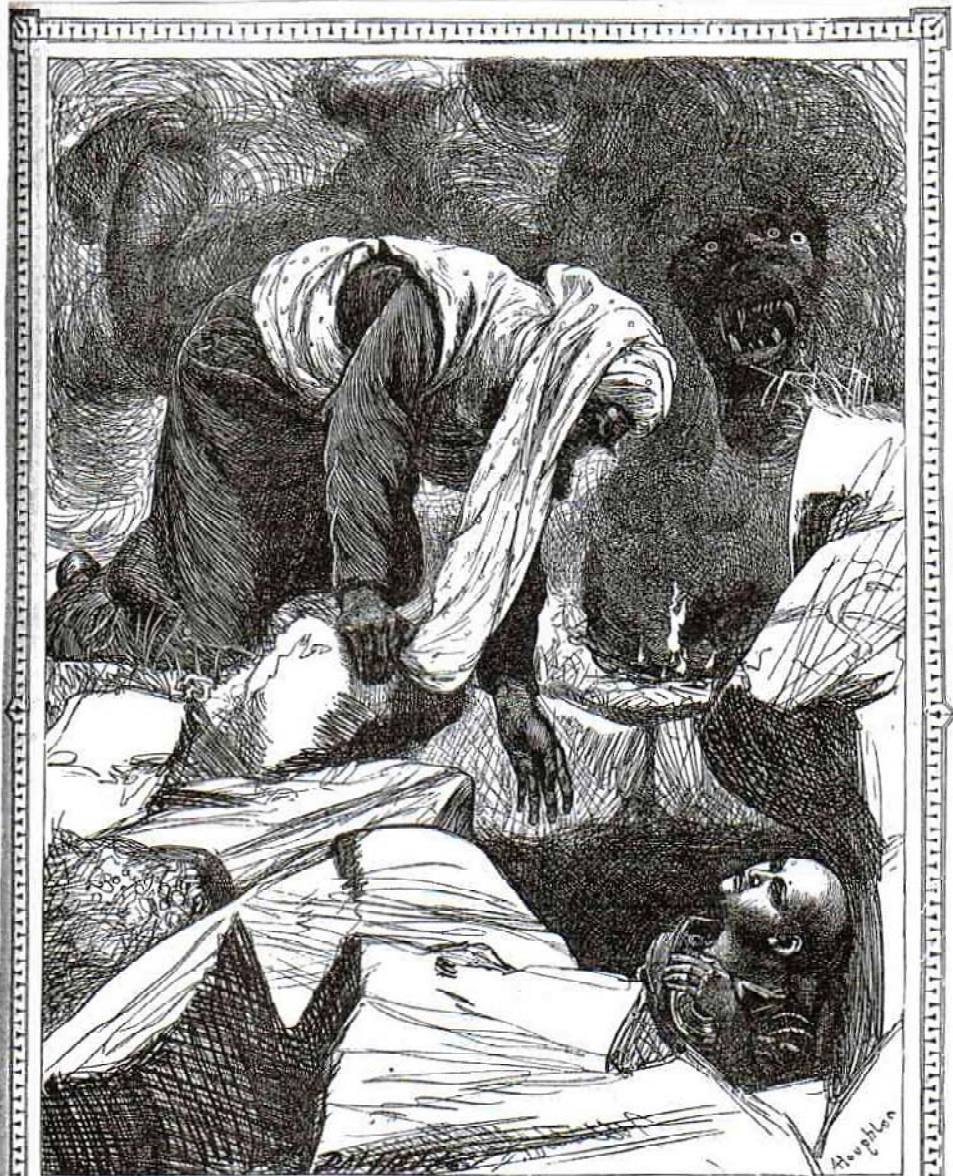


WITH UPWARDS OF TWO HUNDRED ILLUSTRATIONS BY EMINENT ARTISTS.

ENGRAVED BY THE BROTHERS DALZIEL.

LONDON:
WARD, LOCK, AND TYLER,
158 FLEET STREET, AND 107 DORSET STREET, SALISBURY SQUARE.

ダルケン版 扉



THE MAGICIAN COMMANDING ALADDIN TO GIVE UP THE LAMP.

while he was contesting the matter with him some person might come and make that public which he wished to be kept quite secret, that he completely defeated his own object.

“When the magician found all his hopes and expectations for ever blasted, there remained but one thing that he could do, and that was to return to Africa; and, indeed, he set out on his journey the very same day. He was careful to travel the by-paths, in

ダルケン版 アラジン



MORGIANA DANCING BEFORE COGIA ROUSSAIN.

was time to serve the fruit. She carried it in; and when Abdalla had taken away the supper, she placed it on the table. Then she put a small table near Ali Baba, with the wine and three cups, and left the room with Abdalla, as if to leave Ali Baba, according to custom, at liberty to converse and enjoy himself with his guest while they drank their wine.

BROTHERS DALZIEL. / LONDON: WARD, LOCK, AND TYLER, 158 FLEET STREET, AND 107 DORSET STREET, SALISBURY SQUARE.

序、目次、挿絵目次とつづき、本文は822ページもある。挿絵は別ページにはせず、本文に組み込んである。1段組の本文を花ケイ線で囲む。本文に引用符を使うのは、シャーラザッドが物語っていることを示すためである。ほかの版本には見られない表記方法だといっている。

この挿絵本の特徴は、扉でうたっているようにダルジール兄弟の挿絵なのだ。銅版画は、人物を主体として光と影を大胆に配置する。一度見れば脳裏の深い場所に残像となって定着するだろう。

本文は、フォースター版に酷似している。ゆえに、フォースター系とする。こちらには、周作人の証言にぴったりの挿絵がある。辮髪をたらしめたアラジンが手にランプを持って穴から出かかっている。アフリカの魔術師がそれに左手を伸ばしている。右手に短剣をつまみ、踊る女奴隷モルギアナがいる。頭髪は舞い上がり、スカートははね、裸足の両足は宙に舞う。躍動感にあふれた挿絵は、読者に強い印象をあたえたに違いない。それでは、このダルケン版 “THE HISTORY OF ALI BABA, AND OF THE FORTY ROBBERS WHO WERE KILLED BY ONE SLAVE.” が周作人漢訳の底本なのか。有力な候補としておこう。

今まで、周作人の証言を尊重し、それに合致するような版本をさがしてきている。

それでは、周作人が挿絵について勘違いをしていたとするならばどうなるか。その可能性を考えるのもムダではなからう。

周作人の証言のなかのニューズ社そのものが、間違っていた。彼の証言を全面的に信用することができないということもできる。事実がそれを証明している。

周作人の挿絵についての証言も、ニューズ社と同じく彼の勘違いではないのか。アリ・ババの女奴隷が短刀を握って踊る挿絵は、別の版本のものだった。たとえば、ダルジールの挿絵の印象が周作人の記憶に紛れ込んでしまい、どこから出てきたのかははっきりしないニューズ社と結びついて周作人の証言になった、という意味だ。

周作人の勘違いならば、はなしは簡単だ。

結局のところ、本文のみを比較対照することが、底本問題を解決する道につながる。

周作人の漢訳「アリ・ババ物語」の底本候補としては、フォースター版、あるいはフォースター系の版本が有力である。今の段階では、それ以上、確実なことをいうことができない。フォースター版そのものであると断言するには、証拠がそろわない。

多種類が底本候補として存在している。そのなかのフォースター版およびそのほかをとりあえず、漢訳検討の底本として使用することにしたい。英文と漢訳を比較対照することによって、より具体的な材料がでてくるだろう。それから最終的な判断を下すことにしても遅くはない。

3 周作人漢訳の検討

周作人は、『女子世界』に漢訳を連載するとき、冒頭に物語全体の主題を説明する文章をかかげた。当然ながら、英文原作には存在しないものだ。

有曼綺那 Morgiana 者。波斯之一女奴也。機警有急智。其主人偶入盜穴為所殺。盜復跡至其家。曼綺那以計悉殲之。其英勇之氣。頗与中国紅線女俠類。沈沈奴隸海。乃有此奇物。亟從欧文移訳之。以告世之奴骨天成者。

モルギアナという者は、ペルシアの女奴隷である。機敏で聡明だった。その主人は、盗賊の洞窟に入りこみ殺されてしまう。盗賊は跡を追ってその家にきたが、モルギアナは計略で皆殺しにした。その勇敢な精神は、中国唐代の女侠紅線に似ている。暗い奴隷の世界に、このような奇妙な人物がいる。英文よりあわただしく翻訳し、世の根っからの奴隷根性の者にのべる。43頁 / 単行本1頁

周作人が冒頭に書き加えた小文である。「序」ということにする。

該文があることによって、訳者の周作人は、女奴隷モルギアナに焦点をあわせて「アリ・ババ物語」全体の方向付けを行なったことがわかる。まず、このこと

を念頭においておきたい。

周作人の漢訳「アリ・ババ物語」を検討するにあたって、英文原作は、フォースター版を主として使用する。そのほかには、以下の版本も必要に応じて参照しよう。

スコット版（1811）、†ダルケン版（1864, 1865）ダルジール兄弟挿絵本、†二モ社版（1865）、†サグデン版（[1875]）、タウンゼンド版（1877[1876]）、ニュウンズ社版（1899）である。

以上のうち、フォースター版をもとにして作成された版本をフォースター系（参考のため †印をつけておく）と私は称する。

あらためて書いておくが、周作人が漢訳するさいによった英文版本、すなわち底本は、まだ、どの版本かを確定することができていない。フォースター系であろう、というところまではわかった。だが、上に示したもののなかには入っていない。それから先には進んでいない。上記の版本を使うのは応急措置だ。本文を比較対照して検討すれば、のちに述べるように異同が複数でてくる。それが、今後の底本確定の手掛かりとなるだろう。

いくつかの段落にわけて説明する。原文、あるいは漢訳に章題がつけられているわけではない。私がつけた、あくまでも便宜的なものである。

人物設定 カシムとアリ・ババ

周作人の漢訳冒頭にある「10世紀以前のころ [前十世紀之時]」は、英文原作のフォースター版にないことは、すでに触れた。また、語り手シャーラザッドが「陛下 sire」と呼びかける箇所が、漢訳では省略されていることにも言及している（異同4）。

これは、いくつかある英文と漢訳の文章異同のひとつだ。周作人独自の判断で、つけくわえたり削除したりした可能性も考えられる。と同時に、漢訳の底本が、フォースター版ではないことを示唆しているかもしれない。

それ以外は、カシムが金持ちの女性と結婚し、町1番の金持ちのひとりとなること、アリ・ババが貧乏な女性を娶って貧乏暮らしをすることなどは、フォースター版に忠実な漢訳となっている。だから、フォースター系の版本ではないかと

推測している。

たとえば、ダルケン版では、フォースター版の例の「陛下 sire」が「おお、偉大なる王様 O great monarch」にかわっただけで、あとは同文である。それほどの一致を見せている。

また、念のためにニモ社版の冒頭もかかげておきたい。

【ニモ社】“THE STORY OF ALI BABA AND THE FORTY ROBBERS DESTROYED BY A SLAVE.”

IN a town in Persia, there lived two brothers, one named Cassim, the other Ali Baba. Their father left them no great property; but as he had divided it equally between them, it should seem their fortune would have been equal; but chance directed otherwise. / Cassim married a wife, who soon after their marriage, became heiress to a plentiful estate, and a good shop and warehouse full of rich merchandise; so that he all at once become one of the richest and most considerable merchants, and lived at his ease. p.464

フォースター版には存在したシャーラザッドの語り部分をはぶいただけで、あとはよくにている。ニモ社版をフォースター系という理由のひとつである。

森の洞窟

貧しいアリ・ババは、いつも通り森へでかけ、3匹のロバに薪を満載して帰ろうとしたときだった。盗賊の集団が近づいてきた。アリ・ババは、木の上に逃れて彼らの行動の一部始終を目撃することになる。

【フォースター】when he perceived a thick column of dust rising in the air, which appeared to come from the right of the spot where he was, and to be advancing towards him.

もうもうたる土煙が空中に昇るのに気がついたのですが、それは右の方から彼のいるところに近づいてくるらしいのです。p.414

【周作人】忽拳首見前山塵埃障天。如半天濃密乱雲。蓬蓬然直薄霄漢。細察其起處。自右方向之地而前進。

ふと頭をあげて前方の山を見ますと、土煙が空をさえぎって、まるで空の半分に濃い乱雲がまきあがり大空にせまるかのようです。その場所をよく見れば、右の方向から近づいてくるのです。2頁

「右のほうから」と方角を明記しているところに着目する（異同5）。なぜなら、すべての英文原作が右方向を示しているとは限らないからだ。ダルケン版とサグデン版には、ある。だが、ニモ社版には、ない。フォースター系といっても、すべてが一致しているわけではなさそうだ。また、スコット版、タウンゼンド版、ニュウズ社版も「右」方向までは書き込んではいない。だから、各種版本の比較対照が必要なのだ。

英文原作によって、書かれていたりいなかったりする語句がある。小さな部分だが、漢訳の底本を決定するばあいの手掛かりになる。そればかりか、その細かい箇所を周作人は無視をしないで、丹念に拾って漢訳をしていることがわかる。おおざっぱに翻訳したのか、それとも原文に忠実に漢訳をしたのか、それを判断するためには、このような小さな部分が意味をもってくる。

木の上に身を隠したアリ・ババが数えると、盗賊たちは40人であった（異同6）。物語の題名である「アリ・ババと40人の盗賊」だから、なんでもないような箇所だ。

だが、原文を比較してみれば、版本によって表現に微妙な違いがあることがわかる。

タウンゼンド版は「その群は40人で The troop, who were to the number of forty」(p.298)と記述する。ニュウズ社版も「その群は40人の男から成っており The troop consisted of forty men」(p.203)というように、語り手が40人という数を説明する。

だが、フォースター版は、アリ・ババ自身が人数をかぞえる。「アリ・ババは彼らが40人だと数えて Ali Baba counted forty of them」(p.414)という文章は、のちのスコット版、ダルケン版、ニモ社版、サグデン版ともに一字もたがえず同じ

だ。

周作人の漢訳が「数えて40人である [数之得四十人]」(3頁)となっているのを見れば、フォースター版にもとづいているように見える。というよりも、漢訳の底本は、フォースター版に似ているのか。

盗賊たちが馬からおりて、やったことは、まず、馬勒をはずし、大麦のはいった袋を馬の頭に掛けることだ。つまり、餌を与えている。それから雑囊を運ぶ。アリ・ババは、その重そうな様子を見て、雑囊には金銀がつまっていると推測する。

「大麦のつまった袋」(異同7)と「雑囊」(異同8)を諸版がどう表現しているか、かかげてみよう。

周作人訳	袋。其中似満実以粟類	旅行之革鞆
†フォースター版	a bag, filled with barley	travelling bags
スコット版	a bag of corn	saddle wallet
†ダルケン版	a bag filled with barley	travelling bags
†二モ社版	a bag of corn	portmanteau
†サグデン版	a bag filled with barley	travelling bags
タウンゼンド版	a bag of corn	saddle-bag
ニュウンズ社版	and fed them	saddle-bags

corn にも穀物という意味はある。だが、周作人は、大麦 barley を「粟類」と漢訳した。しかも、穀物の袋だけではなくて「……のつまった [満実以……]」という表現である。フォースター版とダルケン版およびサグデン版そのままだ。

「旅行之革鞆」も、フォースター版、ダルケン版とサグデン版の原文から来たと見える。ただし、サグデン版は、周作人の漢訳の底本ではないことについて、すでにのべている。ここでは、諸版の表現がすこしずつ異なっていることを見てもらうだけで十分だろう。

アリ・ババの目前で、盗賊の頭が「開け、ゴマ OPEN, SESAME」という呪文をとこなると、洞窟の扉があくという場面である。

漢訳では「西剌姆（意訳為胡麻）啓戸」（34頁）と書き表わしている。「セサミ、扉よ開け」という意味であることは説明するまでもない。「ゴマ」を翻訳せず注をほどこしたのは、呪文だからという判断が周作人にはあったのかと考える。呪文ならば、意味不明のほうがそれにふさわしい。

二モ社版には、ゴマに注がついていて穀物の1種だという（“Sesame” is a sort of corn. p.465）。タウンゼンド版も同じように注がある（“Sesame” is a small grain. p.298）。穀物であるという認識が、のちに兄カシムが呪文を間違える伏線となる。

洞窟のなかに金銀財宝

盗賊たちが去ったあと、アリ・ババは、呪文の効果を確認したいという好奇心にかられた。耳にしたとおり呪文をとなえと、洞窟の扉が開いた。

想像していたほど暗くはない。岩をくりぬいた円天井の頂から光が入っているからだ。中は、人の背丈よりも高い。アリ・ババは、そこに盗賊たちが幾世紀にもわたって貯蔵し続けてきた金銀財宝の山を目にする。

周作人の漢訳には、奇妙な文章がでてくる。英文原作には見られない語句なのだ。

【周作人】満貯一種小金銭名西坤者。

セキンという小金貨がたっぷり貯蔵されています。5頁

とりあえずセキンと訳しておいた「西坤」とはなにか（異同9）。フォースター版を含めて、手元の英文原作には、どこにもそのような単語は存在しない。

しいていえば、フランス語訳には、ディナール金貨として出現しているのに関係があるのかと思ったりもする*12。

しかし、ディナール dinar を漢訳して「西坤」にはならない。原文は、別の物語にでてきたセキン sequin かと考える。周作人が、英文にない単語を、しかも日常で使用するような言葉ではないものを、わざわざ使うだろうか。疑問である。もうひとつ疑問がある。

【周作人】以一丸泥封穴口。閉開自守。不求取於人。如是亦足以供給四十人一生之用而有餘。

泥で洞窟の扉をふさぎ、開閉はみずからが管理し、他人に盗まれないようにしました。こうして40人が一生使ってもあまるほどになったのです。5頁

洞窟の金銀財宝について説明する（異同10）。だが、英文原作には、この文章はない。

財宝の山を見たアリ・ババは、躊躇しなかった。金貨だけを3頭の口バに積めるだけ盗みだす。

この部分は、フォースター版と漢訳のあいだには、齟齬が生じている。

【フォースター】Ali Baba did not hesitate long as to the plan he should pursue. He went into the cave, and as soon as he was there, the door shut; but as he knew the secret by which to open it, this gave him no sort of uneasiness.

アリ・ババは、彼がやるべきことを実行するのに長くはためらいませんでした。洞窟に入ったとたんに扉は閉まったのですが、それを開ける秘密を知っていましたから、不安は感じませんでした。p.415

【周作人】埃梨入此富麗之窟室。恍遊天上。傍徨良久。莫知所為。

アリ・ババは、この立派な洞窟の部屋に入りますと、天上にまうようにぼんやりとしてしまいました。長いあいだぐずぐずして、何をしたいのかわかりません。p.5

英文原作にいるすばしこいアリ・ババは、漢訳では、ぼんやり者になってしまった（異同11）。盗賊の財宝を盗むほどのしたたかなアリ・ババである。それが、漢訳のぼんやり者では、読者にあたえる印象が違ってくるだろう。ただし、これを周作人の翻訳間違いだと考えるのは早計である。

ここは、普通、誤訳するようなどころではない。なにしろ正反対の描写なのだ。ゆえに、漢訳の底本がフォースター版そのものではないことを示しているのではないかと考える。

一般の記述と違う翻訳を例にあげておこう。前嶋信次の日本語には、次のように訳出されている。「アリ・ババはこれらの財宝や珍貨の夥しさに茫然としてしまい、意識ももうろうとなり、心頭は混迷してしまいました。そうしてしばらくの間は驚きあきれ、我を忘れて立ちすくんでおりました」*13。

前嶋訳のこの「アリ・ババ物語」*14に、周作人漢訳と同じような記述を見ることができる。同様の英文原作が存在しているのではないか、と考える理由となるのだ。

周知のように「アリ・ババ物語」はガラン版にのみ収録されている。ガランの創作だと疑われてことがあった。しかし、1908年になってマクドナルド Duncan B. Macdonald がオックスフォード大学ボドレアン図書館のなかから原本を発見した。1910年に原文を雑誌に発表した、と前嶋は説明している。

1908年でも1910年でもかまわないが、アラビア語原本が発見されたのは、周作人漢訳のあとである。ということは、「アリ・ババ物語」は、やはりガラン版をもとにして派生してきた英訳本だということになるろう。

ついでだから、ボドレアン図書館でみつかったあのアラビア語原本について後日談を書いておく。なんのことはない、フランス語のガラン版にもとづいてアラビア語に再度訳しなおしたものだ*15。

もともとガラン版ならば、なぜ記述の異なる英訳本ができるのか不思議だが、そこが重訳者の腕のふるいどころ（あるいは、振るいまちがい？）で、だからこそ「三文文士版」というのだろう。

扉を閉じる呪文は、すでに出ているから、漢訳では省略したのかとも思う。あるいは、底本にはなかったか。

周作人の翻訳は、基本的にはほとんど原文のとおりなのだが、より簡潔に描写している場合もある。金貨を口バに積みこんで、薪で隠したあとのことだ。

【フォースター】When he had finished all this, he went up to the door, and had no sooner pronounced the words, "Shut, Sesame," than it closed; for although it shut of itself every time he went in, it remained open on coming out, but by command.

これらのすべてをし終わったとき、彼は扉の前に行って、「閉じよ、セサミ」と口にするやいなや、それは閉まりました。彼が入るたびにひとりで閉まるのですが、出ると開いたままですから、命令しなければ閉じないのです。p.415

【周作人】諸事已畢。乃復呼如前。門即閉。

すべてが終わり、また以前のように呪文をとなえと、扉は閉じました。5頁

漢訳がこのように説明を省略するのは、間違いではない。しかし、あまりにも簡潔にすぎるのではないか(異同12)。

洞窟の扉がどのように開閉するのか、その仕組みを説明しているのには、意味がある。のちにアリ・ババの兄カシムが洞窟に入り、出るのに失敗するときの伏線になっているのだ。

アリ・ババは、注意深く家に帰ると、ソファに座っていた妻の前に (before his wife, who was sitting upon a sofa. 置於其妻之前。其妻方倚睡椅而坐) 金貨のはいった袋をおいた。

アリ・ババの妻が金貨を数える

驚きいぶかる妻に、アリ・ババは、ことの一部始終を説明して、口止めをする。興奮した妻が金貨を1枚1枚数えはじめたので、アリ・ババは思わず口をはさむ。

【フォースター】you are very foolish, wife; you would never have done counting. I will immediately dig a pit to bury it in; we have no time to lose.

バカだな。数え切れるもんか。すぐに穴を掘ってそこに埋めるから。ぐずぐずしちゃいられんぞ。p.415

【周作人】汝何愚也。真可謂貪兇暴富者矣。予將掘地為坎而埋之。則永遠可不失。數之何為。

バカだな。まるでにわか成金じゃないか。穴を掘って埋めれば、なくなりっこないんだから。数えてどうするんだよ。7頁

「真可謂貪兇暴富者矣。まるでにわか成金じゃないか」という箇所は、周作人が加筆したものだろう。また、「則永遠可不失。なくなりっこないんだから」は、英文の「we have no time to lose. ぐずぐずしちゃいられんぞ」を誤解したのだと思う（異同13）。誤解するような英文ではないのだが。それとも、ここも底本が違うということになるのか。

アリ・ババの妻は、近くに住んでいる兄嫁から秤をかりてくる。全部の金貨をはかったところで返却したのだが、兄嫁が秤に塗りつけていた油に金貨がひとつくっついていることには気がつかない。いつも貧乏をしているアリ・ババが、何を量ろうとしているのか怪しんだ兄嫁の仕業なのであった。

カシムがアリ・ババを問い詰める

というわけで、カシムは、アリ・ババが秤ではかるほどの大量の金貨をもっている、と妻に聞かされる。その証拠が、秤の底に1枚だけひっついてきた金貨だ。漢訳と英訳原本の不一致が見られる。

【周作人】慨星視之。則乃古昔之金幣。上鑄古代帝王之名号。殆西坤之類。

カシムが見ると、昔の金貨で、表面には古代の帝王の名前が彫ってあります。おそらくセキンの類でありましょう。8頁

【フォースター】a coin so ancient, that the name of the prince, which was engraved on it, was unknown to her.

金貨はたいそう昔のものでしたから、その表面に彫ってある王様の名前は、彼女にはわかりませんでした。p.416

漢訳では、コインに彫られた古代の王様の名前を見ているのはカシムだ（異同14）。しかし、フォースター版では、妻になっている。ダルケン版も同じだ。興味深い。各版本を見れば、バラバラである。たとえば、サグデン版には金貨というだけで、それ以上の説明をしない。

カシムか、それとも妻か。どちらだとはっきりと書かず、その両者 they とするのは、スコット版、ニモ社版、タウンゼンド版、ニューンズ社版である。

周作人の漢訳は、カシムを前面に押し出している。今、私の手元にある英文原作のどれにも、そうするものは見あたらない。注目にあたいする。このような不一致こそが、底本をさがすばあいのヒントをあたえてくれると考えるからだ。

漢訳には周作人訳と同じ記述するものがあることを知れば、別のバージョンの存在を示しているように思う。

周作人も言及した奚若訳だ。奚若訳の「天方夜譚」が『繡像小説』に連載されはじめたのは、周作人の漢訳よりも以前だ。だが、「アリ・ババ物語」については、説部叢書に収録されてからだから、周作人訳よりも時間的には遅い*16。

【説部叢書】克雪聞言。並見金錢非近今物。

カシムはそれを聞いて金貨を見ると、最近のものではありません。73頁

金貨に刻まれた模様までは言っていない。しかし、カシムが主体であるところは、一般の書き方と異なる。

また、現代中国で刊行された翻訳書にも1種類ではあるが、同様の例をみることが出来る。1835年のプーラク版によって全文を訳出したと言明する李唯中訳『一千零一夜』全8冊（石家庄・花山文藝出版社1998.6）だ。

【李唯中】卡西姆拿過那枚金幣，翻過來調過去看了又看，發現那是一枚古金幣，認不出是哪朝哪年鑄造的。

カシムはその金貨を手にとりかえし見まして、それが古い金貨であることはわかったのですが、どの王朝のいつの時代に鑄造されたものなのか、見わけすることはできませんでした。第8巻403頁

周作人の漢訳とすべてが一致するわけではない。しかし、ほかの英訳に比較すれば、こちらの方にかなり近い。

前出の前嶋訳もこれによく似た表現になっている。「カーシムは妻の言うところを聞き、柀の底に粘りついていたディーナル金貨を目のあたりに見るに及んで、……」*17。

金貨の種類については、洞窟の場面でディナール金貨とするフランス語の版本があることはすでにのべた。

そのフランス語版は、ここでも同じく「女は夫の鼻の下に、例のディナール金貨を突きつけて、どなり立てました」*18とディナール金貨をもちだしている。ディナールとセキンでは、呼称がちがう。しかし、金貨の名称を出しているのが類似する。

周作人がいくら学生だからといっても、カシムと妻を取り違えることはないだろう。さらに、原文にはないセキンをわざわざ漢訳に補うとも考えられない*19（異同15）。となれば、周作人が漢訳のさいに底本としたのは、フォースター版そのものではないという推測が有力になる。

弟の幸運をよろこぶどころか、羨みと妬ましさだけを感じた兄のカシムは、弟を問い詰める。アリ・ババは、金貨を入手したいきさつをすべて白状してしまった。教えなければ警察に訴えてやるとまでカシムはいうのだ。

【周作人】汝拒絶予之命令。則予将告発於警察署。

おれの命令を断わるんだったら、警察署に訴えてやるぞ。9頁

【フォースター】I will go and inform the officer of the police of it.

警察の役人にそのことを訴えてやるぞ。p.416

問題は「警察の役人 the officer of the police」だ（異同16）。周作人が「警察署」と漢訳したのはかまわない。サグデン版にも、おなじ語句が使われている。しかし、スコット版、ダルケン版、ニモ社版、タウンゼンド版、ニューズ社版には、いずれも該当する語句がない。

欲にかられたカシムが、ひとりで洞窟に向かったのはいうまでもない。

カシムが洞窟のなかで

次の日の朝早く、カシムは10頭のラバをつれて、アリ・ババの教えた通りの道をたどり洞窟についた。呪文をとなえて入ると、できるかぎりの財宝をラバに積みこむ。さて、洞窟をでるときになって、カシムは呪文を忘れてしまう。「開け、

大麦 Open, barley」と言って、扉はびくともしない。色々な穀物の名前をとえらるが、すべてに失敗する。とはいいいながら、具体的に穀物の名称をあげているわけではない。各種英本版本ともに、それは共通している。周作人の漢訳は、それらともすこし異なる。

【周作人】不曰『西剌姆』而誤呼曰『伯累（意即大麦）啓戸』。彼蓋錯記一種之穀名。以大麦為胡麻也。呼之良久。而門堅閉如故。

「セサミ」とはいわず、「開け、バーリ（大麦の意味）」と誤って言っていました。彼は、穀物の名前だと誤って覚えていて、大麦を胡麻だと考えたのです。長い間となえましたが、扉はもとのまま堅く閉じたままです。

10-11頁

フォースター版の「「ゴマ」と発音するところを「開け、大麦」と言っていました。instead of pronouncing “Sesame,” he said, “Open, barley.”*」（p.416）と比較すれば、周作人訳の後半が理由の説明になっていることがわかる（異同17）。

フォースター版だけだが、*印をつけていて次のように説明している。すなわち「ゴマは穀物であり、主として牛の飼料に使われる。しかし、時には人間のものでもある。（中略）このことは、カシムがなぜそれを大麦と混同したのかの原因を説明するであろう」（p.416）。

この欄外にほどこされた原文の注を周作人は漢訳に取り込んだ、という経緯であったならば興味深い。だが、漢訳の底本は、フォースター版そのものではなさそうだ。ゆえに、残念ながらこの魅力的な説明を採用することができない。

ゴマという単語を思いだせないまま、カシムは洞窟のなかに閉じ込められてしまった。

カシムの死

そこに盗賊たちが洞窟にやってくる。カシムはやぶれかぶれで、扉が開いたのに乗じて外にとびだす。先頭にいた首領にぶつかり地面に倒したが、ほかの盗賊の刀で切り刻まれた。

盗賊たちは、カシムがどうして洞窟に入ることができたのか理解できない。アリ・ババの存在など想像外のことだった。とにかくカシムの死体を4つにわけて、扉の内側に片方ずつつりさげた。脅しのためである。

死体の悪臭がなくなるまで (until the stench from the corpse should be subsided. 俟此死体之悪臭発盡)、盗賊たちは洞窟にはもどらないことにした。

死体の悪臭が子供には刺激が強すぎると配慮したのか、ダルケン版および、サグデン版、タウンゼンド版、ニュウズ社版は、いずれもこの部分を削除している (異同18)。

カシムの妻

その夜、帰ってこない夫カシムを心配して、みずからの貪欲を後悔する妻だった。眠れぬ夜をすごした彼女は、アリ・ババに捜索を依頼する。アリ・ババは、口バ3頭をつれてただちに森に向かった。

洞窟のなかに入ったアリ・ババが見つけたのは、口にするのも恐ろしい。4つに切り分けられた兄の死体が吊り下げられているのだ。死体をふたつの包みにして口バに積みこむ。

諸版では、この描写に異同が生じている。死体の状態を詳しく書くのはうす気味悪い (異同19)。

【周作人】慨星之尸。赫然陳於戸左。不覺戰慄却歩。膚粟股慄。然終以同氣之感。自思當盡此最後之義務。於是不復躊躇。於穴中取二匣。以裝此支解之碎肢体。如二小包狀。令一驢負之。遮以柴薪。

カシムの死体が、おどろいたことに扉の左にならべてあります。恐ろしさのあまりおもわずあとずさりして、鳥肌がたち足がふるえました。しかし、しまいには兄弟だという感情から、最後の義務をつくさなければならないと考えたのです。そこで躊躇することなく、洞窟のなかからふたつの箱をとってバラバラになった死体をつめ、ふたつの包みのようにして1頭の口バに背負わせ、柴で隠したのです。14頁

四つ裂きにされた兄カシムの死体は、さきの周作人訳では、扉の両側に置かれていた（将慨星之尸。分為四片。投於穴内近門之處。分置兩旁。13頁）。ところが、ここでは「扉の左」に変更してある。なぜなのかわからない。

また、洞窟のなかからふたつの箱を取りだして、とあるが、これもほかの原文とは違う。ご注目いただきたい。

【フォースター】 He was struck with horror, when he distinguished the body of his brother cut into four quarters; yet he did not hesitate on the course he was to pursue in rendering the last act of duty to his brother's remains, notwithstanding the small share of fraternal affection he had received from him during his life. He found materials in the cave to wrap up the body, and making two packets of the four quarters, he placed them on one of his asses, covering them with sticks, to conceal them.

四つ裂きにされた兄の死体だとわかったとき、彼は恐怖におそわれました。ですが、彼の兄の遺体について最後のつとめをはたさなければならないところから少しも躊躇はしませんでした。兄が生きているあいだ、彼から兄弟の愛情はほんのすこししか受けはしなかったにもかかわらずです。死体を包むものを洞窟のなかでさがし、よっつの塊をふたつの包みにして、ロバの1頭において、隠すために柴でおおいました。p.417

フォースター版は、周作人漢訳とかなりにかよっているといえることができる。ただ、少しの異同がある。死体を包むもの、というのが英文原作であって、周作人漢訳のようにふたつの箱ではないところがひっかかる。しかも、手元のその他の英文にも、箱だとしているものは、ない。漢訳だけに見える箱であることをいっておきたい。

【スコット】 he was struck with horror at the dismal sight of his brother's quarters. He was not long in determining how he should pay the last dues to his brother, but without adverting to the little fraternal affection he had shown for him,

went into the cave, to find something to enshroud his remains, and having loaded one of his asses with them, covered them over with wood.

彼の兄の四つ裂きという陰気な光景に、彼は恐怖におそわれました。兄が弟に示した兄弟愛はすこしもなかったとはいえ、彼は兄にむけての最後のつとめをしようと決心するのに時間はかかりませんでした。遺体を包むためのなにかをさがしに洞窟へはいり、ロバの1頭にのせると木材でそれを覆いました。pp.535-536

死体を包むのはいい。だが、ふたつの包みにわけたとまでは書いていない。四つ裂きの死体だけでも気味が悪いのに、ふたつの包みまでいえば、具体的であるぶん、かえって不気味さを増すという判断だろうか。省略化のひとつだということはできよう。

【ダルケン】He was struck with horror when he discovered the body of his brother cut into four quarters: yet, notwithstanding the small share of fraternal affection he had received from Cassim during his life, he did not hesitate on the course he was to pursue in rendering the last act of duty to his brother's remains. He found materials in the cave wherein to wrap up the body, and making two packets of the four quarters, he placed them on one of his asses, covering them with sticks, to conceal them.

四つ裂きにされた兄の死体だとわかったとき、かれは恐怖におそわれました。ですが、兄が生きているあいだ、彼から兄弟の愛情はほんのすこししか受けはしなかったにもかかわらず、彼の兄の遺体について最後のつとめをはたさなければならないところから少しも躊躇はしませんでした。死体を包むものを洞窟のなかでさがし、よっつの塊をふたつの包みにして、ロバの1頭において、隠すために柴でおおいました。p.696

フォースター版の一部を前後入れ替えただけで、ほとんど全文が一致している。同文だといってもいいだろう。

【ニモ】 he was much more startled at the dismal sight of his brother's quarters. He was not long in determining how he should pay the last dues to his brother, and, without remembering the little brotherly friendship he had for him, went into the cave, to find something to wrap them in, and loaded one of his asses with them, and covered them over with wood.

兄の四つ裂きという陰気な光景にとてもびっくりしました。兄からのすこしの兄弟愛すらも記憶がなかったとはいえ、彼は兄にむけての最後のつとめをしようと決心するのに時間はかかりませんでした。遺体を包むためのなにかをさがしに洞窟へはいり、ロバの1頭にのせると木材でそれを覆いました。

p.468

ニモ社版は、文章がスコット版にそっくりだ。

【サグデン】 He was struck with horror when he distinguished the body of his brother cut into four quarters. He found materials in the cave to wrap up the body; and making two packets of the four quarters, he placed them on one of his asses, covering them with sticks, to conceal them.

兄の身体がよっつに切り分けられているのに気がついたとき、彼は恐怖におそわれました。死体を包むために洞窟のなかで何かをさがして、四つ裂きをふたつの包みにまとめて、ロバの1頭におき、それを隠すために棒切れでおおいました。 p.411

より簡単になった。兄弟愛うんぬんを削除する。

【タウンゼンド】 he was struck with horror at the dismal sight of his brother's body. He was not long in determining how he should pay the last dues to his brother; but without adverting to the little fraternal affection he had shown for him, went into the cave, to find something to enshroud his remains; and having

loaded one of his asses with them, covered them over with wood.

兄の身体の陰気な光景に、彼は恐怖におそわれました。兄が弟に示した兄弟愛はすこしもなかったとはいえ、彼は兄にむけての最後のつとめをしようと決心するのに時間はかかりませんでした。遺体を包むなにかをさがすために洞窟へはいり、口バの1頭にのせると木材でそれを覆いました。p.303

スコット版、ニモ社版と同様ということができる。

【ニュウズ】 he was struck with horror at the dismal sight of his brother's quarters. He loaded one of his asses with them, and covered them over with wood.

兄の四つ裂きという陰気な光景に、彼は恐怖におそわれました。それを口バの1頭につむと、木材でそれを覆いました。p.207

骨組みだけ残して、詳しい描写はほとんど削除してしまっている。周作人が、あれほどくりかえして証言していたこれがニュウズ社版の本文である。周作人の漢訳とは、まるで違う。

残る2頭の口バに金を積みこんで、これも柴で隠して、日が暮れてようやく家にもどった。金を積みこむのを忘れないアリ・ババも欲深かった。だが、兄よりも慎重なところがふたりの運命を分けたということだ。

女奴隷モルギアナ

金を積んだ口バ2頭は自分の家に置き、カシムの死体をのせた口バを兄嫁の家に引いて行く。

モルギアナ Morgiana 曼綺那が登場する。兄カシムの家にいる女奴隷だ。

本稿ではモルギアナと呼んでおく。周作人も冒頭の小序において英文綴りを示しており、底本が Morgiana であることがわかる。

モルギアナ Morgiana を漢訳すれば、周作人が表現するように「曼綺那」となるのか。私は、疑問に感じる。

現代では「馬爾基娜」と綴ったりする。李唯中は、「麦爾加娜」と表記してい

るが、こちらはアラビア語なのだろう。マルジャーナ Marjánah らしい。

佐藤正彰の注によると、フランス語のマルドリユス版では、Morgane という。「ガランでは、Mon[r]giane。バートンではカシムの女奴隷であり、Morgiana とあ」*²⁰る。つまり、マルドリユス版では、アリ・ババの女奴隷だということになっている。兄か弟か、その所属がちがうのだ。

周作人の「曼綺那」が、マンジャーナの漢訳であれば、ぴったりとくる。ガラン版の読み方と、偶然、一致したのだろうか。

モルギアナについての説明文を各版本ごとに列挙するのも煩雑だ。周作人の漢訳と一番近いものだけをかかげておく。

【周作人】其為人機警有智。富於進取力。能從事於至困難之冒險事業。而終達其目的。以此故。其品性非常人所可及。平日亦素為埃黎所器重。

その人となりは機敏で聡明、進取の気概に富んでいました。困難な冒険の仕事に従事することができ、しかもしまいにはその目的に達するのです。それゆえに、その品性は普通の人と及ぶところではありませんでした。平素からアリ・ババが重宝がったものです。15頁

【フォースター】crafty, cunning, and fruitful in inventions to forward the success of the most difficult enterprise, in which character Ali Baba knew her well. 器用で抜け目がなく、もっとも困難な仕事を成功に導くのに豊富な工夫をするという彼女の性格をアリ・ババはよく知っていたのでした。p.417

ダルケン版とニモ社版がフォースター版に近い。それ以外の英文版本は、これよりもより簡単な説明でしかない。

ただ、フォースター版が漢訳に一番近いといっても、記述にすこし不足する部分がある。モルギアナの性格について、いま一步踏み込んで詳細に説明する英文原作があるのかもしれない(異同²⁰)。

アリ・ババは、カシムの妻に事の顛末を告げることになる。話す前にふたつの条件がある。説明の途中で口をはさまないこと。もうひとつは、聞いたことはすべて秘密にするという条件だ。

フォースター版で「最初に、私の話の最初から最後までじゃまをしないで聞く約束をしなければなりません。you will first promise to listen to me from the beginning to the end of my story without interruption.」(p.418)とある。周作人の漢訳は、「私が話をするのを、中断させてはなりません[勿中断予之談話]」(p.16)となっていて一致する。

ところが、英文原本にはつづきがある。「現状では、私よりもあなたにとっては、嚴重に秘密にすることが重要なのです。あなたの平和と安全のために、絶対的に必要なのですよ。It is of no less importance to you than to me, under the present circumstances, to preserve the greatest secrecy; it is absolutely necessary, for your repose and security.」(p.419)

これを周作人の漢訳は、無視する(異同21)。英文の各種版本には、この部分の記載がないものもあるから、いちがいにはいうことができないかもしれない。しかし、漢訳の底本がフォースター系であれば、すくなくともスコット版、ダルケン版とニモ社版には、同様の文章がある。

アリ・ババは、事のはじまりから兄の死体にたどりついたところまで話した。つづく部分は、フォースター版、スコット版、ダルケン版、ニモ社版、サグデン版がほぼ一致する。

そのなかでとりわけ漢訳(16頁)に近いのは、フォースター版(p.418)なのである。

【フォースター】“Sister,” added he, “here is a new cause of affliction for you, the more distressing, as it was unexpected;

「姉さん」、彼はつづけていいました。「あなたにとっては、苦悩の新しい理由ですね。想像もしなかったことですからもっと悲惨かもしれません」

【周作人】復言曰。予思此悲惨事。実出於不意。然已過去。如已逝之水。不復可挽。而禍患之来。方将未已。

つづけていいました。この悲惨な事件は、実のところ想像もしなかったところに出てきました。しかし、すでにすんだことです。流れて行った水のように、ふたたびもどすことはできません。しかも禍はまさにこれからなので

す。

漢訳の後半「然已過去……」以下は、周作人による加筆となろう。流水のたとえを出してくるところは、水の豊富な土地に育った周作人だからこそ表現できる箇所だ、ということがいえる。

サグデン版では、上にひきつづいてアリ・ババが兄嫁に結婚を申し込む記述になる。周作人は、英文の順序を入れ替えて、うしろにあるモルギアナに処理をまかせる部分を、前にひっぱりだす。

【周作人】予等瘞此尸体。當加謹慎。一如死於天然之病者。勿与人以疑竇。予思此事惟曼綺那能任之。予亦就力之所及以相助。

この死体を埋葬するには、慎重でなければなりません。自然の病気で死んだようにして、人に疑惑をあたえてはならないのです。私は、これはモルギアナだけがうまくやってくれると思いますよ。力のおよぶかぎり助けますから。

【フォースター】we must contrive to bury my brother, as if he had died a natural death; and this is a trust, which I think, you may safely repose in Morgiana, and I will, on my part, contribute all in my power to assist her.”

私の兄は自然死したように埋葬するよう工夫しなければなりません。モルギアナを信用するのがよさそうだと私は思いますよ。力のおよぶかぎり彼女を助けますから」

問題は、つぎの場面だ。アリ・ババは、寡婦となった兄嫁を自分の妻にすると申し出る。周作人は、礼教にあわないという根拠で原文を削除した、と明確に証言している（異同22）。

英文から示そう。

【フォースター】although the evil is without remedy, if, nevertheless, anything can afford you consolation, I offer to join the small property God has granted me,

to yours by marrying you; I can assure you, my wife will not be jealous, and you will live comfortably together. If this proposal meets your approbation,.....

救済なしの不運とはいっても、慰めることができるのであれば、あなたと結婚することによって、神が私に与えてくれた少しの財産をあなたのものに合わせるよう申しこむことにしましょう。私の妻は、嫉妬などしませんから、あなたが一緒に快適にすごすであろうと請け負いますよ。もしもこの申し出があなたの賛成を得ることができましたら、..... p.418

英文の最後部分の「もしもこの申し出があなたの賛成を得ることができましたら、.....」以下は、上の「私の兄は自然死したように.....」に続いている。

周作人の証言では、アリ・ババと兄嫁の結婚は削除したことであった。はたして、どうか。

【周作人】既復建議同居之利便。而陳分立之不可。因同居則非但患難可以相顧。且亦可以慰離索之感。

そこで同居することの便利を申しでて、分立のよろしくないことをのべました。同居すれば憂いと苦しみをわかつことができるばかりか、寂しく暮す感情を慰めることができます。16頁

周作人がおこなった証言を考慮しながら目にしている漢訳を見れば、私にいわせれば、なにやら肩すかしをくらわされたように感じる。

英文と漢訳が異なる箇所といえば、英文が「あなたと結婚することによって by marrying you」とあるのを漢訳はそこだけを書き換えている。そのほかの部分は、表現を改めているのだから、周作人のというような削除ではない。しかも、肝心の部分の小さいことに、私はかえって驚く。周作人の証言では、関連する全部を削除したように読めた。

ここでは、結婚を「同居」に書き換えている事実のみを指摘しておく。アリ・ババと兄嫁の結婚については、後にもう1カ所出現する。その意味については、本稿の末尾でまとめて論じる。

ババ・ムスタファとカシムの葬儀 モルギアナの知恵 1

兄カシムの死体は、よつ裂きにされている。それを自然死に装わなくてはならない。賢いモルギアナが考えたというのが、これまた奇想天外なやりかたであった。モルギアナの聡明さが、今後、幾度も紹介されることになる。「モルギアナの知恵」として番号をつけておく。

その知恵 1 は、2 段階に分かれる。

まず、急病で死亡したと見せかける。そのためには、薬屋で薬を買い、店主にカシムが重病だと印象づける。

翌朝も同じ薬屋に行き、涙ながらに危篤の病人用の薬を求める。

【周作人】来求買一種『安笙思』此劑之性。係專用之於危險極端。已將絶望之病夫。

ある「エッセンス」を買い求めました。これは危篤でもう絶望の病人にもっぱらほどこすものなのです。17頁

【フォースター】enquired for an essence, which it was customary only to administer, when the patient was reduced to the last extremity, and when no hopes were entertained of life,

エッセンスを求めました。それは、患者が危篤のとき、生存の希望がもはやなくなったときのみ、普通、与えるものでした。p.418

周作人の漢訳がすぐれていると考えるのは、“essence” に「安笙思」という音訳にもとづいた訳語をあたえているところだ。これをむりやり翻訳して「質、精」としたところで、原文の意味は伝わらない。「エッセンス」と日本語になおすのと同じで、かえって何かありがたい効能のある薬の 1 種だと読者には理解できる。それに加えて、周作人は、文中に「おそらく朝鮮人参、茯苓の類（殆参苓*21之類）」と注をつける工夫をした。これで十分だ。

第 2 段階は、靴職人ババ・ムスタファを連れてくる。

周作人漢訳では「靴直しをなりわいとする[補靴為業]」（17頁）とする。フォー

スター版では、“cobler”と書かれている。初版からのちの新版も同じだ。ところが、これが誤植なのである。“cobble”が正しい。ほかの英文原作は、いずれも正しく綴っている。

フォースター版がムスタファの性格を規定して陽気である、とする部分(Baba Mustapha, known to all the world by this name, was naturally of a gay turn, and had always something laughable to say;)を周作人訳では省略している(異同23)。

目隠しをしたムスタファをカシムの家に連れて来て、死体を縫いあわせた。目隠しは用心のためだ。仕事がすめばほうびとして、さらに金1枚(another piece of gold. 一金[金銭一枚])をあたえた。

準備を整えて順序通りに葬式を取り行なう。モスクから僧侶がくる。

漢訳では、「モスクの祭司と僧侶 墨思克之祭司及僧侶」(19頁)となっているが、英文原作の各版のなかに、すこし異なるものがある(異同24)。一覧しよう。

周作人	祭司	僧侶	墨思克
†フォースター	Imaun	ministers	mosque
スコット	imaun	ministers	mosque
†ダルケン	Iman	ministers	mosque
†ニモ社	iman	ministers	mosque
†サグデン	iman	ministers	mosque
タウンゼンド	imaun	ministers	mosque
ニュウズ社	×	×	×

†印をつけたのは、前述のとおりフォースター系であるという意味だ。もとのフォースター版とほぼ一致する。【増補版補記】この部分は、初出で私の誤解があった。前後を訂正する。

漢訳との関係でいえば、上にあげたフォースター系の版本を底本だと考えてもよい、という推測がでてくる。

アリ・ババと兄嫁の結婚問題がふたたび出てくる。

カシムの死の真相について知るものは、アリ・ババ夫婦、寡婦となった兄嫁、

モルギアナしかいない。葬式の3、4日後、家具などと一緒に洞窟で得た金をあわせてカシムの家に運びこんだ。そうして兄嫁との結婚を宣言する。

【フォースター】Ali Baba, removed the few goods he was possessed of, together with the money he had taken from the robber's store, which he only conveyed by night, into the house of the widow of Cassim, in order to establish himself there, which proclaimed his recent marriage with his sister-in-law: and as such marriages are by no means extraordinary, in our religion, no one showed any marks of surprise on the occasion.

アリ・ババは、自分が所有していたいくつかの荷物を、盗賊の貯蔵所から持ち出した金と一緒に、こちらは夜中にかぎって、カシムの未亡人の家に運びました。そこに彼自身が住むためです。そこで義理の姉との結婚を宣言したのですが、そのような結婚は、すこしも異常なものではなく、私たちの宗教ではこのようなばあいは誰も驚きなどしないのです。p.419

見られてもいい荷物は昼間に、隠しておきたい金は夜間に運んだ。

前半はまだしも、アリ・ババと兄嫁との結婚については、上の説明は、奇妙である。英文原作そのものの不可解な部分だといってもいい。

「私たちの宗教では in our religion」とわざわざいうのは、なぜか。語り手であるシャーラザッドの言葉とも思えない。自分とは異なる宗教をもつ他人に対する解説になっているからだ。シャーラザッドが王様に説明する事柄ではないことは、すこし注意して読めば誰でも理解する。英文翻訳者が、独自の判断で当時の読者にむかって加筆した説明文であることがわかる。欧米の読者にとっては、兄嫁を妻にすることは、やはり、特別に説明を必要とすることであったと想像できる。

【周作人】埃黎乃於夜中暗運其家之動産。至慨星之家。如金帛類之得之盜穴者。不数日。已畢。遂宣告同居。棄其昔日之破屋。而遷居於美宅。牛馬滿野。金玉盈簞。埃黎此後遂享受此順遂生涯矣。

アリ・ババは夜中に家の荷物をカシムの家に運びました。金と絹の類で盗賊の洞窟から得たものは、数日ならず、すべて終わりました。そこで同居を宣言し、昔のぼろ家は捨てて、美しい邸宅に引っ越したのです。牛馬は野に満ち、金玉はあふれ、アリ・ババはその後、この順調な生涯を享受したのでした。20頁

漢訳では、引っ越しは夜中に行なわれたことになっている。誤解ではなかろうか。

さらに、原文の結婚を「同居」に書き換えた。この例は、すでに出てきた。そののくりかえし、あるいはつじつま合わせにすぎない。周作人は、意図的にそう改変したのである。結婚ではなく「同居」だから、宗教の違いによるうんぬん、の説明は必要ではなくなる。ゆえに、削除したとわかる。

さらに、周作人の筆によって文章を追加する。「順調な生涯を享受したのでした」とは、まるで、これで物語が終わるかのような書き方ではないか。ここは、余計だった。

漢訳は、英文原作にあるもうひとつ重要な部分を削除している。アリ・ババには息子がいるという箇所だ。カシムの店があるのだから、これをまかせるのに息子が登場するというわけ。アリ・ババの息子ではなく、カシムの息子だとする版本もあるらしい。しかし、手元にある英文諸版は、すべてアリ・ババの息子になっている。

なぜ、息子がカシムの店を継いだ部分を削除したのか、周作人はその理由を説明していない。回想録では、こまかいところは忘れたのかもしれない。

アリ・ババがなしたその行為は、兄の財産を横領することになる、という当時の礼教の考えでもあったものか。周作人には、倫理上、そのような行為が許せなかった。そう考えれば、納得しないわけではない。アリ・ババと兄嫁の結婚を同居と書き換えたくらいだから、都合の悪い部分は別の形に書き換える手もあったはずだ。兄の息子だとすれば（そうする版本もある）、亡き父親の店を継承するのはなんの問題もない。だが、なぜか、周作人は書き換えることはせず、あっさり削除してしまった。

それでは、物語の最後までアリ・ババの息子は出てこないのかといえば、そうではない。必要な箇所には出現している（後述）。なんのために、ここで削除したのか、わからなくなる。

盗賊のたくらみ 1（白印） モルギアナの知恵 2

盗賊たちが洞窟にもどってくると、あったはずの死体がない。財宝も大幅に減っている。侵入者がいるに違いない。追求することにした。

まず、町に行って殺された人間がいないかを探る。その居場所をつきとめなければならない。盗賊の財宝全体の運命に関わることだから慎重に行動することが要求される。

ひとりの志願者が町に探りを入れに行った。

朝早くだから道行く人はいない。ババ・ムスタファの店が開いているのを見つけた。細かいところが漢訳と英文原作が違う（異同25）。

【周作人】 忽見左側有一小店。戸已大啓。

ふと見れば左側に小さな店があり、扉はすでに開いています。22頁

【フォースター】 He went towards the square, where he saw only one shop open,

広場にむかって行くと、ひとつの店が開いているのをみつけました。p.419

英文には、「左側」という単語はない。スコット版、ダルケン版、ニモ社版、サグデン版、タウンゼンド、ニューズ社版などにも、見えない。

なぜ周作人の漢訳にだけ「左側」があるのか。わざわざつけくわえる必要があるとも思えない。ならば、どこかに存在している底本にそう書いてあると考えざるをえないではないか。

盗賊は、ババ・ムスタファが死体を縫いあわせたと口をすべらしたのを聞いて、金貨を握らせる。握らせるといえば、普通、手に、だろう。だが、漢訳では異なる（異同26）。

【周作人】急以一金置几上。

急いで金 1 枚を机のうえに置きました。23頁

手と机では、あきらかに違う。念のために英文を示す。

【フォースター】He drew out a piece of gold, and putting it into Baba Mustapha's hand,.....

金 1 個を取りだすと、ババ・ムスタファの手に握らせて..... p.420

ニュウンズ社版は、「彼は金 1 個をやりました。He gave him a piece of gold」(p.209)と手を出さない。というように、英文原作にはどこにも「机」はないのである。

まことに細かい箇所だ。物語の筋とは、なんの関係もない。しかし、翻訳するさいに間違ふような場所ではないことが理解できるだろう。そういう箇所を違う漢訳にしているということは、別の底本がある可能性を示しているように思うのである。

目隠しされていたので死体を縫った家に連れては行けない、と答える。盗賊は、同じように目隠しすればできるだろう、とさらに金を握らせる。この漢訳は、「そこでさらに金 1 枚をその手のなかに置きました[乃復以一枚金錢置其掌中]」(23頁)であって、英文原作の「もう 1 枚の金を彼の手のなかに置きました。he put another piece of money into his hand.」(p.420)と重なる。

盗賊はババ・ムスタファの手引きで、ある家の前に到着した。昔のカシムの家、今はアリ・ババの家である。そこで盗賊は扉にチョーク chalk 聖筆でしるしをつけた。

家にもどってきたモルギアナは、扉につけられたチョークに気づく。いぶかった彼女は、近所の家にも同じようにしるしをつけておいた。これがモルギアナの知恵の 2 である。知恵というより機知といったほうがいいかもしれない。

首領を先頭にして盗賊たちは目印の家にやってきたが、別の家にもしるしがついている。盗賊のたくらみは失敗した。読者にはおなじみの話であろう。

盜賊のたくらみ2（赤印） モルギアナの知恵3

失敗した原因となった盜賊は、全体の幸福のために死刑に処せられる。盜賊は、39人になった。

周作人は、ここに英文原作にない語句を挿入する。

すなわち、盜賊たちの行なう死刑について、「無頼漢の拳動は、野蛮の習俗を脱していないとはいえず[斯蓋雖暴客之拳動未脱野蛮之習俗]」（27頁）集團の安全のためにやむをえない、という箇所だ。盜賊についての説明としては、なにやら奇妙な弁護に思える。

もうひとりの盜賊が、もっとうまくやりますと行ってでてきた。皆の賛同をえてやったというのが、白いチョークにかえて赤色で小さくしるしをつけることだった。同じようにモルギアナに気づかれ、同じように失敗する。同じように処刑され、盜賊は、全部で38人になる。

民話のおもしろさのいくらかは、こういうくりかえし場面にある。

盜賊のたくらみ3（油商人） モルギアナの知恵4

いよいよ盜賊たちが沸騰する油で殺される場面だ。「アリ・ババ物語」で語られる山場のなかのひとつである。誰でもが知っている。

頭の弱い手下にまかせることができないから、しまいには、首領がでてくる。自分でアリ・ババの居場所を確認し、数回、前を通り過ぎた。しるしをつけないで、その家を覚えこんだのだ。

首領が考えだしたのが、油袋に手下を隠してアリ・ババを襲うという策略だった。19頭のラバを買い、革製の大きな油袋 large leathern jars 38個に37名の手下を潜ませる。周作人は、「皮製極大之油囊」と漢訳している。英語の表現そのままだ。残る油袋1個には、本物の油を満たしておく。首領がラバを引くから、油袋にひそんだ手下の数が一致する。

子供のころの私の記憶では、油をいれる容器は土製の大きな壺だった*22。英文では、革製のカメだと明記してある（日本語ではカメと革製が一致しない気がするのので、油袋と訳しておく）。しかし、添えられた幾種類かの挿絵を見ると、土器にしか

見えない。

油商人に扮装した盗賊の首領は、アリ・ババの家に到着し歓待される。ラバの世話をするように命じられる男奴隷が登場し、周作人は、「名前はアブダラといいます[名藹代拉者]」(31頁)と翻訳する。しかし、英文原作には、そのような記述はない。単に「アリ・ババは奴隷を呼んで Ali Baba called a slave he had」(p.422)としか書かれていない。これは、英文のあとのほうに出てくる「アブダラ(奴隷の名前です) Abdalla, (this was the name of his slave)」(p.422)をひっぱりだして前に移動したにすぎない*23。あとで説明するなら、最初に登場したときに言ってしまうと判断したのだろう。周作人が、こまかく工夫をしていることがわかる。

記述の順序が異なるものがある。アリ・ババが油商人を歓待したあとのことだ。

フォースター版では、アリ・ババは、油商人と席をたち、アリ・ババは明日の準備をモルギアナに命じる。それにつづいて油商人(首領)が、庭に置いてある油袋のなかの手下に、合図をしたら袋を切り裂いて出てくるよう指示をだしている。

モルギアナの場面があって、それから首領の手下への指示、という順序だ。スコット版、ダルケン版、ニモ社版、タウンゼント版も同様である。サグデン版には、モルギアナの場面が省略してある。また、ニュウンズ社版も、もともと簡略化しているから首領の手下への指示部分だけで、モルギアナの場面はない。

問題なのは、周作人が、上のふたつの場面を入れ替えていることだ(異同27)。入れ替えなければ話の流れが理解しにくい、とでも周作人は考えたのか。それほど複雑な箇所ではないから、私は、納得がいかない。納得がいかないばあいは、底本が手元のものではない可能性を考えておくほうがいいだろう。

主人であるアリ・ババのいいつけで、モルギアナがスープを煮ているとランプの油がきれた。アブダラが、油商人のものをもらえばいいと教える(サグデン版には、アブダラによる示唆がない)。

油袋に近づくと「時間ですかい。Is it time? 此其時乎」という声がある。たくらみに気づいたモルギアナは、沸騰した油をそそいて盗賊全員を殺してしまった。要約すれば、こうなる。周知の箇所だから簡単にすませたい。

周作人の漢訳は、フォースター版とほぼ一致している。ただし、小さな部分で違うからやっかいなのだ。

たとえば、モルギアナが油袋のなかの盗賊に答えて「まだだ」をくりかえし、最後の油の入った袋に到達する、という箇所だ（異同28）。

【フォースター】making the same answer to the same question, till she came to the last, which was full of oil.

油でいっぱいになった最後の袋にくるまで、同じ質問に同じ回答をしたのです。p.423

【周作人】曼均以此語答之。至終過三十七甕。而至末貯油之一甕。

モルギアナはすべて同じ言葉でそれに答えると、37のカメを過ぎて、最後の油のカメにたどりつきました。34頁

漢訳は、英文原作をほとんど忠実になぞっている。ただし、油袋が37と書いている原作は、ない。ここは、周作人の工夫なのか、それとも別の英文版本にそうあるのか、判断がつかない。

盗賊の人数を出すのは、もう1カ所、その直後にある。主人アリ・ババは油商人を泊めたつもりで盗賊を引き入れた、とモルギアナにはわかってしまった。

【周作人】埃黎偶留油商一宿。不意隱藏三十七甕之盜。

アリ・ババは油商人を、偶然、泊ませたのに、37のカメに盗賊が隠れていようとは。34頁

【フォースター】her master, who supposed he was giving a night's lodging to an oil merchant only, had afforded shelter to thirty-eight robbers,

彼女の主人は、油商人に一晩の宿を与えたつもりが、38人の盗賊に避難所を提供してしまいました。p.423

英文原作の38という人数を、漢訳だからといって37に間違っわけがない（異同29）。ここも、ほかの異同箇所と同じように、37とする別の英文版本が存在する

と考えたほうがよさそうだ。

手下の37人を全員殺された首領は、ひとりで命からがら逃げ帰っていった。

盗賊のたくらみ4（首領の死） モルギアナの知恵5

あくる朝、目覚めたアリ・ババは、モルギアナより事の次第をすべて聞かされた。英文原作では、昨夜おこったことの一部始終をふたたび繰り返す。さらに、2、3日前の白印、赤印についてもくりかえす。それらの繰り返しはムダだ、と周作人は考えたか、この部分を削除している（37頁）。

盗賊のうち37人は、死んだ。ふたりはすでにいない。残るはひとりだけだ。アリ・ババは、命の恩人である奴隷モルギアナを自由の身にする。盗賊の死体は庭に埋め、ラバは市場で売却した。

首領がアリ・ババに復讐するのなりゆきだろう。町に様子をさぐりに行く。多くの死者がでたのだから、それ相応の話題になっていると考えたからだ。

首領は、町のなかに宿 a khan をとった。周作人は、「旅館」と翻訳している。当時の小さな英漢辞典には、収録されていなさそうな単語だが、周作人はよく漢訳している。彼が使っていた辞書は、日本語の英和辞典だったというから、それに拠ったのかもしれない。日本語はできなくても、漢字をひろえば意味は理解できる。

首領は、商人になりすましアリ・ババに近づこうとする。アリ・ババの息子が橋渡した。

すなわち、兄カシムの店をアリ・ババの息子が相続したことにつながる。

ただし、本稿のモルギアナの知恵1部分で、漢訳では、アリ・ババの息子が削除されていることを述べた。ところが、今になって息子が出現する。それも英文原作そのままなのである。

【フォースター】The shop that was exactly opposite to his, was that which had belonged to Cassim, and was now occupied by the son of Ali Baba.

彼（首領）の真向かいにある店は、カシムのものでしたが、いまではアリ・ババの息子の占有になっていました。p.425

【周作人】其店之主人。即埃黎之子。襲慨星之遺産者。

その店の主人は、アリ・ババの息子でカシムの遺産を引き継いでいました。

40頁

くりかえすが、なんのために以前は削除したのかわからない。底本がそうになっていたというのだろうか。

首領は、名前をコギア・フウサイン Cogia Houssain と変えていた。漢訳は、「苛琪亜^{ママ} Gogia」とする。英文は誤植だ。ただし、初出の『女子世界』では正しく綴っている。

スコット版は、ホージャ・フウサイン Khaujeh Houssain (p.562) として他の英文版本と異なる。

首領は、アリ・ババの息子に連れられて家での食事に招待されることになった。その時、彼は、奇妙な申し出をするのだ。料理には塩を使わないでくれ、という。

【フォースター】I never eat of any dish, that has salt in it;

塩の入ったどんな料理も食べないのです。p.426

【周作人】予有癖。生平雅不願食塩味之食品。

私には癖がありまして、平生、塩味の食品はまったく食べないのです。42頁

イスラム教では、塩を食べるということは友好関係を結ぶという意味である、とフォースター版には、塩に関する注釈がついている。周作人が、もしこのフォースター版によっているのであれば、なんらかの注釈を漢訳にほどこしていてもいいはずだ。それが、ない。漢訳の底本がフォースター版そのものではない、という傍証となろうか。

商人に扮装しているのが盗賊の首領であることを見破ったモルギアナは、計略を思いつく。あの有名な、踊りにまぎれて短刀で首領を刺し殺す場面をむかえる。

食後の酒が出される。フォースター版などは、「ブドウ酒 wine」とする(スコット版、ニモ社版、ニュウズ社版は、酒についていわない)。ところが、漢訳は「ビール 啤酒」とするのはなぜか(異同30)。

仮面をつけたモルギアナは、短刀を手にして踊り終わると、投げ銭を求めるしぐさで首領に近づき、胸を刺しつらぬいた。盗賊の首領は、こうして死んだ。

驚くアリ・ババ親子に、モルギアナは説明をする。塩を食べないという奇妙な申しでを聞いて怪しく感じた、首領のたくらみがあることを疑った、と (p.427)。周作人は、それらを逐語訳するのではなく、まとめて「その挙動が多くは疑わしかったのです[其挙動多可疑]」(46頁)とだけに簡略化した。

結末 原文から逸脱した漢訳

アリ・ババは、何度もモルギアナに命を助けられた。その恩義にむくうために、アリ・ババは、息子の嫁になるように彼女に申し入れる。

【フォースター】I present you to my son, as his wife.

妻として私の息子にお前を贈ることにする。 p.427

【周作人】將以汝為吾子婦。

お前を私の息子の妻とする。 46頁

ふたつの文章を並べたのは、ここは漢訳が英文に忠実であることを示すためである。

しかし、そのあとが大いに異なる。

英文原作では、アリ・ババが息子にむかって、命の恩人であるモルギアナを妻にすることに不満があるわけではあるまい、と説得する言葉がつづく。また、息子としても彼女が嫌いではないから、すでに結婚する気になっている。

以上、英文で約21行が、つぎのような漢訳に変身するのである。

【周作人】曼夷然曰。除患。吾分也。吾不敢邀非分之福。且予自行心之所安。富家婦何足算。吾勿願也。卒不許。

モルギアナは、平然と、災いを除くのが私の役目です、というのでした。分不相応の福を求めるつもりはありません。また、私は心のやすまることを行ないますから、裕福な家の嫁になることなど思いもしません。私は、願っ

たりしません。とうとうそうなることを許しはしませんでした。46頁

漢訳は、原作を大きくはずれている。まるで反対なのだ。幸福な結婚話をモルギアナに拒絶させているのである。聡明で機敏な奴隷が、なんの目的があって結婚話を断わるのか。中国人読者も狐につままれた思いをしたのではないか。周作人のこの改変については、あとで問題にする。

モルギアナが結婚を断わるから、周作人の漢訳では、盛大な結婚場面（英文で10行）を削除しなければならなくなる。

アリ・ババは、ほとぼりが冷めてから馬にのってふたたび洞窟をおとずれた。盗賊の全員が死亡したことを確かめて、後には息子にも洞窟の秘密を教え、裕福にくらしました。おしまい。

これが原作なのだが、周作人は、息子に秘密を教えたところまでは翻訳していない。

最後に、周作人は、英文原作にない1文をつけくわえた。

【周作人】曼綺那其後不知所終。

モルギアナはその後どうなったのかわかりません。47頁

奴隷の身分から解放されたモルギアナは、どこに行ったというのだろう。

周作人は、独自に考えて、民話の終わりかたではない方法を採用したということになる。

4 漢訳底本の確定にむけて

周作人の改変を問題にするまえに、底本探索について今後の方針を述べておこう。

本稿を書く目的のひとつは、周作人が漢訳するさいに使用した英文原作の版本を明らかにすることだった。

私の力の及ぶ限りで各種版本を収集し、フォースター版、フォースター系およ

びその他のいくつかの版本を見てきた。その結果は、周作人の漢訳底本は、フォースター版にきわめて近い、というものだ。ゆえに、私の見るところ、底本は、フォースター版そのものではないにしろ、フォースター系のなかの1種類である。

漢訳をいくつかの版本と比較対照した結果、複数の異同点がえられた。それらを列挙しておいた。今後は、この異同点を手掛かりにすることができる。しかも、上にあげた版本を除外してかまわない。搜索範囲をいくらかせばめることが可能だ。

いま少しの版本を収集することができれば、底本問題は解決できると確信している。

5 周作人の改作部分について

底本が確定できていない、という制限が、現在のところある。

しかし、底本に近い版本には到達している。また、以上、漢訳と複数の英文原作の文章をこまかく見てきたように、語句の異同とはいえ大部分が小さい範囲内のものにすぎない。

周作人の翻訳態度は、基本的に英文原作に忠実であろうとしている。これは、たしかだろう。

ただし、注目すべきいくつかの箇所が、周作人独自の判断によって書き換えられているのも事実だ。周作人自身が、書き換えたことを認めている^{*24}。

周作人によって行なわれた比較的大きい削除、あるいは小さいけれども重要な書き換えである。それらは、物語の主題と密接な関係をもつ部分だということができる。

漢訳底本は確認できていないことをくりかえすが、しかし、現在手元にある版本でも、その書き換え部分は、十分にみわけがつく。制限があることを承知で、周作人によって行なわれた、女性についてのふたつの書き換え問題を考える。

アリ・ババと兄嫁の結婚問題

英文原作では、アリ・ババは、寡婦となった兄嫁と結婚することになっている。

周作人は、結婚を「同居」に書き換えた。その理由は、当時の中国の礼教にあわないからという判断だった。

英文の結婚は、漢訳の「同居」とそれほど違うものなのか、といえば角がたつ。重要なのは兄嫁のほうなのだ。礼教は、兄嫁との結婚は許さないが、同居は大目にみるのであろう。だからこそ周作人は、そのように変更した。

当時の中国でそれほどやっかいな礼教であるならば、漢訳ではいっそのことこの部分を削除するのも選択肢のひとつではなかったか。

英文原作でも、タウンゼンド版およびニューズ社版は、アリ・ババが、寡婦となった兄嫁を妻にする部分を削除している。

別の方面からいえば、この部分にこそ周作人の翻訳姿勢を見ることもできる。

すなわち、原文に忠実であろうとする翻訳姿勢が周作人にはあったことが理解できるのだ。原文に忠実であろうとするあまり、関連部分を削除することができなかった。少しの書き換えをすることによって、礼教と折り合いをつけ、なんとか困難を切り抜けようとしたとわかる。

つまり、結婚を「同居」に書き換えたということは、当時、周作人は、礼教に反対していたのではなく、礼教の影響を強く受けていた証拠ともなる^{*25}。

だが、ここには矛盾があることに周作人は気がついていない。

もともとは外国の作品である。そこに述べられている文化が、中国の当時の倫理にあわないからといって変更を加えることは、翻訳というものの本質を周作人が理解していなかった証拠ともなろう。改変ではなく、注をほどこすことによって文化の違いを説明する方法を考えつかなかったものだろうか。以前、ゴマを説明するところで、注を利用していった。周作人は、知らないわけがない。だが、兄嫁との結婚については、注を使うことは考えつかなかった。事実が明らかにしている。だからこそ、根が深いということも可能だ。

モルギアナ問題

冒頭にかかげた「序」において、周作人の「アリ・ババ物語」に対する読みが明らかにされていると書いた。女奴隷、すなわちモルギアナの知恵と勇気を讃えている。漢訳の最後部分に出現したモルギアナに関する部分を周作人が書き換え

たのも、その主張に沿ったものだと考えるべきだろう。

書き換えのひとつは、モルギアナは、アリ・ババの息子との結婚を拒否する。

周作人は、その理由をモルギアナに言わせて「分不相応の福を求めるともりはありません」とした。なんとも卑屈な言辞である。奴隷の身分から解放されても、精神は奴隷のままである、といているのとかわりはない。

周作人は、「序」においてわざわざのべたように、モルギアナを称賛して、かえす刀で根っからの奴隷根性者を批判するつもりだった。

だが、物語の結末にいたって、モルギアナは結局のところ根っからの奴隷根性者と同じ類の奴隷でしかないということになった。しかも、モルギアナ自身が思想的に目覚めていないことになるのだから、この改変は逆効果だった。それどころか、最悪の結果につらなる改変であるというべきだ。

奴隷出身の女性の英雄は、幸福な結婚をしてはならないのか。周作人の書き換えには、大いに疑問を感じる。

書き換えのふたつは、モルギアナの末路が不明だとする点だ。

アリ・ババの息子との結婚を拒否したそのあげく、その後がどうなったのが不明だとして物語が終わる。

息子が女奴隷と結婚することに抵抗を周作人は感じたのかと推測する。そうならば、ここでも当時の礼教の影響を強く受けていた証拠となる。つまり、周作人自身が女奴隷に対して差別の感情を抱いていることを意味する。

さすらい者であるならば、義侠の精神を発して貧乏人、正直者を助けたあとどこかへ去っていく、ということもあろう。しかし、モルギアナは住み込みの奴隷である。周作人は、彼女に金銭も与えず（その記述がない）、追い出してどうしたかったのか。

「侠女奴」と題して女奴隷が主人公だと認識している。また、冒頭の「序」においてもモルギアナが機敏聡明だともちあげて賞賛している。しかし、周作人の改変によって、女奴隷の末路は、その働きに応じた名誉あるものではなくなった。

英文原作は、奴隷であっても自らの才覚によって幸福を得られるという大団円を迎えるのだ。原作のままに漢訳すれば、自然とモルギアナの英雄的行動がそのまま表現され、読者もそれを理解することになる。手を加える必要などはじめか

らなかったのだ。

これほどまでにモルギアナを侮辱する書き換えはないのではなからうか。

アラビアン・ナイトの世界をぶちこわす改変であるといわなければならない。私が最悪という理由である。

賛美するつもりで行なった改変が、その逆の効果しかもたらさなかったのは、周作人にとっては皮肉であった。また、長年を経たあとにもそれに気づかなかつたらしく思える。周作人が複数回にわたって述べた回想録を読んで、そう感じる。どこにも反省らしき言葉がない。

幸福な結末を設定した英文原作を裏切ってまで、独自に書き換えなければならなかった理由はなにか。

周作人が漢訳「アリ・ババ物語」の改変部分で見た女性差別の考えは、どこから出たものか、まことに不思議なのである。

周作人をとりかこむ当時の環境を考えれば、私はひとつの前例があることに思い至る。

周作人の兄周樹人（魯迅）が、留学先の日本で創造した英雄的女性像である。

その女性の名前は、セレナという。魯迅が「斯巴達之魂」のなかで創造した女性だ。

魯迅の「斯巴達之魂」は、日本で発行されていた『浙江潮』第5期（癸卯五月二十日 1903.6.15）および第9期（癸卯九月二十日 1903.11.8）の小説欄に合計2回掲載された。

戦場から逃げもどった夫を自殺をもって諫めたのがセレナである。賞賛すべきスパルタの魂、尚武精神をもつ女性というわけだ。

セレナは魯迅が創作した人物だ、となぜわかるのかといえ、スパルタの歴史を知っている人ならば作りえない、矛盾だらけの、スパルタにはそもそも存在しえない種類の女性であるからだ。

魯迅が頭のなかで勝手に考えたスパルタ人であって、彼の書いているセレナは、本質は中国人なのである*²⁶。古代ギリシア世界に中国人を登場させるという奇妙きわまりない作品が魯迅の「斯巴達之魂」だ。

「斯巴達之魂」の公表は、周作人が「侠女奴」を漢訳する前である。周作人は、

兄の作品を読んでいたはずだ。英雄セレナを見て、周作人が影響を受けたとしても不思議ではない。

アラビアン・ナイトのなかから「アリ・ババ物語」を選択したのも、主要人物のひとりが女奴隷であることが理由のひとつになったと考える。セレナにならって、この女奴隷をより英雄的な人物にすることを思いつくのも自然であろう。題名を「侠女奴」と変更して、ますますそれらしくなる。

魯迅のセレナが自殺するという悲劇の色調を帯びているから、モルギアナにも同じような運命に泣いてもらおう。アリ・ババの息子との結婚を断わり、行方知れずに書き換えたというわけだ。あくまでも周作人が考える英雄的な女奴隷の行動なのである。

魯迅は、存在しえないセレナを創造することによって古代ギリシアの世界を破壊した。

それとおなじく、周作人は、モルギアナを賞賛するつもりで文章を改変し、実のところモルギアナにひどい仕打ちを加えることによってアラビアン・ナイトの世界を破滅に導いた。

周兄弟がふたりともに、生涯にわたり自分のやったことを意識しなかったところに、問題の深刻さがある。

【附記】本稿は、大阪経済大学2002、2003年度特別研究費による研究成果の一部である。

【注】

1) 萍雲女士(周作人)述文「侠女奴」の『女子世界』連載情況は、以下の通り。

『女子世界』連載

第8期 甲辰七月朔日(1904.8.11) 1-10頁

第9期 甲辰八月朔日(1904.9.10) 11-20頁

第11期 刊年不記 21-28頁

第12期 刊年不記 29-42頁

郭延礼『中国近代翻譯文学概論』漢口・湖北教育出版社1998.3。455頁。「……未刊完、1905年由小説林社出版……」とする。『女子世界』の第11、12期の発行年月日が記載されていないから、その連載完結が単行本の前なのかどうかは、確定すること

ができない。

単行本

萍雲（周作人）訳述、初我（丁祖蔭）潤辞『侠女奴』小説林総発行所 光緒乙巳（1905）初版未見 / 丙午（1906）年三月再版。47頁（48頁は空白）。私の見ているのは初版ではない。ゆえに初版の発行月を確認することができない。郭著章等著『翻訳名家研究』（武漢・湖北教育出版社1999.7。18頁）は、単行本の発行を1905年6月（6月はたぶん旧暦）とする。

関連文献

会稽碧羅女士「題侠女奴原本」『女子世界』第12期（刊年不記）。原文は、馬祖毅『中国翻訳史』上巻（漢口・湖北教育出版社1999.9。720-722頁）および張菊香、張鉄栄『周作人年譜（1885-1967）』（天津人民出版社2000.4。57-58頁）にも収録してある。

参考：松岡俊裕「周作人詩話四」信州大学人文学部『人文科学論集』文化コミュニケーション学科編第31号1997.3.25

- 2) 女奴隷を「烈女」ととらえる矢野龍溪「(波斯新説) 烈女之名譽」の紹介がある。杉田英明「『アラビアン・ナイト』翻訳事始 明治前期日本への移入とその影響」(東京大学大学院総合文化研究科・教養学部『外国語研究紀要』第4号2000.3.31)
- 3) 「荒磯」について、同じく張菊香、張鉄栄『周作人年譜(1885-1967)』は、ドイルの『ホームズ全集』のなかの1篇だと書いている(63頁)。誤り。「荒磯」は、ホームズとは何の関係もない。
- 4) 我在印度讀本以外所看見的新書、第一種是從日本得來的一本天方夜談。這是倫敦紐恩士公司發行三先令半的插画本、其中有亞拉廷拿着神灯、和亞利巴巴的女奴拿了短刀跳舞的圖、我還約略記得。當時這一本書不但在我是一種驚異、便是丟掉了字典在船上供職的老同學見了也以為得未曾有、借去伝觀、後來不知落在什麼人手裏、沒有法追尋、想來即使不失落也當看破了。但是在這本書消滅之前、我利用了牠、做了我的「初出手」。天方夜談裏的亞利巴巴与四十個強盜是世界上有名的故事、我看了覺得很有趣味、陸續把牠訳了出来、当然是用古文而且帶著許多誤訳与刪節。當時我一個同班的朋友陳君定閱蘇州出版的女子世界、我就把訳文寄到那里去、題上一個「萍雲」的女子名字、不久居然登出、而且後來又印成單行本、書名是侠女奴。48-49頁
- 5) 天方夜談是我在学堂裏看到的唯一的新書，如讀本所說我想我該喜歡它的。……天方夜談的時間却是很長，正如普通說了的、從八歲至八十歲的老小孩子大概都不會忘記

它，只要讀過它的幾篇。在本国這類的東西並不是沒有，如西遊記、封神傳，民間傳說……但是比起天方夜談來總還有些不如。……天方夜談原是這一類質料，但從市場上經過了來，由多年說話人的安排與聽眾的取捨，使它更是豐富純熟，要拿以前茶館裏的聊齋演義相比，多少近似，不過它並無蒲留仙那樣的原本，所以可以說是真正的民間文學了。我認識了這一本書，覺得在學堂裏混過的幾年也還不算白費，雖然那時的書早已遺失了，前幾年託友人在上海買了一冊現代叢書本，根柢白敦訳文最為可靠，可惜中間一疊十六頁錯訂缺少。中文有奚若訳四冊，大抵係依拋雷恩訳文選本，因為是古文，所以沒有細讀。323-324頁

6) 四一「老師(一)」

……我是偶然得到了一冊英文本的「天方夜譚」，引起了對於外國文的興趣，做了我的無言的老師，假如沒有它，大概是出了學堂，我也把那些洋文書一股腦兒的丟掉了罷。有些在兵船上的老前輩，照例是沒有書了，看見了我的這本「天方夜譚」，也都愛好起來，雖然這一冊書被展轉借看而終於遺失了，但這也是還是愉快的事情，因為它能夠教給我們好些人讀書的趣味。

我的這一冊「天方夜談」乃是倫敦紐恩士公司發行的三先令六便士的插畫本、原本是贈送小孩的書，所以裝訂是華麗，其中有阿拉廷拿着神燈，和阿利巴巴的女奴揮着短刀跳舞的圖，我都還約略記得。其中的故事都非常怪異可喜，正如普通說的，從八歲至八十歲的老小孩子，大概都不會忘記，只要讀過它的幾篇。中間篇幅頂長的有水手辛八自講的故事，其大蛇吞人，纏身樹上，把人骨頭絞碎和那海邊的怪老人，騎在頸頂上，兩手揸着頸子，說得很是怕人，中國最早有了訳本，記得叫作「航海述奇」的便是。我看了不禁覺得「技癢」，便拿了「阿利巴巴和四十個強盜」來做試驗，這是世界上有名的故事，我看了覺得很有趣，陸續把它訳了出來。雖說是訳，當然是古文，而且帶着許多誤訳與刪節。第一是阿利巴巴死後，他的兄弟凱辛娶了他的寡婦，這本是古代傳下來的閃姆族的習慣，却認為不合禮教，所以把它刪除了。其次是那個女奴，本來凱辛將她作為兒媳，訳文裏却故意的改變得行踪奇異，說是「不知所終」。當時我的一個同班朋友陳作恭君，定閱蘇州出版的「女子世界」，我就將訳文寄到那裏去，題上一個「萍雲」的女子名字，不久居然分期登出，而且後來又印成單行本，書名是「侠女奴」。訳本雖然不成東西，但這乃是我最初的翻譯的嘗試，時為乙巳（一九〇五）年的初頭，是很有意義的事，而這却是由於「天方夜譚」所引起，換句話說，也就是我在學堂裏學了英文的成績，這就很值得紀念的了。106-107頁

7) 五一「我的新書(一)」

我們的英語讀本「英文初階」的第一課第一句說：「這裏是我的一本新書，我想我

将喜歡它。」我的第一本新書，使我喜歡看的，在上边已經說過，乃是英国紐恩斯（Newnes）公司的送禮用本「天方夜談」，裝訂的頗精美，價值却只是三先令六便士。我有了這部書，有事情做了，就安定了下來，有如阿利巴巴聽來的「胡麻開門」的一句咒語，得以進入四十個強盜的寶庫，不再見異思遷了。……

……我弄雜學雖然有種種方面的師傅，但這「天方夜談」總要算是第一個了。我得到它之後，似乎滿足一部份的欲望了；對於學堂功課的麻胡，學業的無成就，似乎也沒有煩惱，一心只想把那夜談裏有趣的幾篇故事翻譯了出來。那時我所得到的恐怕只是極普通的雷恩的譯本罷了，但也儘夠使得我們嚮往，哪裏夢想到理查白敦勳爵的完全註本呢？就是現在我們也只得暫且以美國的現代叢書裏的選本為滿足，世間尚有不少篤信天主教的白敦夫人，白敦本就不見得會流行吧。這阿利巴巴與四十個強盜是誰也知道有名的故事，但是有名的不只是阿利巴巴；此外還有那水夫辛八和得着神燈的阿拉廷，可是辛八的旅行述異既有譯本，阿拉廷的故事也着实奇怪可喜，我願意譯它出來，却被一幅畫弄壞了。這畫裏阿拉廷拿着神燈，神氣活現，但是不幸在他的腦突瓜兒上拖着一根小辮子，故事裏說他是支那人，那麼豈能沒有辮子呢，況且有了它也很好玩，小時候看那變把戲的人，在開始以前說白道：「在家靠父母。出家靠朋友。」說話未了，只把頭一搖，那條辮髮便像活的蛇一樣，已蟠在額上，辮梢頭恰好塞在圈內。這怎能怪得畫家，要利用作材料了，但是在當時看了，也怪不得我得發生反感，不願意來翻譯它了。還有一層，阿利巴巴故事的主人公是個女奴，所以譯了送登「女子世界」，後來由「小說林」單行出版，卷頭有說明道：

「有曼綺那者波斯之一女奴也、機警有急智，其主人偶入盜穴為所殺，盜復跡至其家，曼綺那以計悉殲之。其英勇之氣頗與中國紅線女俠類，沈沈奴隸海，乃有此奇物，亟從歐文移譯之，以告世之奴骨天成者。」倘若是譯出阿拉廷的故事為「神燈記」，當然就不能出這樣的風頭了。135-138頁

五二「我的新書(二)」

「侠女奴」單行本是在光緒^三己[乙]巳，我所有的一冊破書，已是丙午（一九〇六）年三月再板。「玉虫緣」刊在於「侠女奴」之後，初板的年月是乙巳年五月，這是書本的紀錄。再查日記，可惜這不完全了，甲辰年只有十二月一個月，乙巳年至三月為止，但在這寥寥一百二十天的記載裏邊，却還有点可以查考，今抄錄於後。（後略）
138頁

- 8) 樽本照雄「周作人漢訳アリ・ババの原本を求めて」『清末小説研究論』所収
- 9) 『女子世界』第8期43頁では「Ali Baqa」と表記する。
- 10) 杉田英明『アラビアン・ナイト』翻訳事始』。10頁

- 11) 杉田英明『『アラビアン・ナイト』翻訳事始』。48頁注30
- 12) 佐藤正彰訳『千一夜物語』 「世界古典文学全集」第34巻 筑摩書房1970.3.30/1983.12.20
第2刷。136頁
- 13) 前嶋信次訳「アリ・ババと四十人の盗賊の物語」『アラビアン・ナイト別巻』平凡社
1985.3.8/1994.4.20第3刷。204頁
- 14) 原本について保坂修司の言及がある。「これには依拠したテキストが記されていない
が、おそらく前者（樽本注：アラジン）はゾータンベール、後者（注：アリ・バ
バ）はマクドナルドではないかと思われる」（「千夜一夜物語翻訳事始 前嶋信次
訳『アラビアン・ナイト』の歴史的意義について 」（『日本中東学会年報』第1号
1986.3.31。375頁）
- 15) ロバート・アーウィン著、西尾哲夫訳『必携 アラビアン・ナイト 物語の迷宮
へ』平凡社1998.1.14。83-84頁
- 16) 奚若翻訳、金石校訂『記瑪奇亜那殺盜事』（『述異小説）天方夜譚』第4冊 上海商
務印書館 丙午4(1906)/1913.12再版 説部叢書1=54）
- 17) 前嶋信次訳「アリ・ババと四十人の盗賊の物語」209頁
- 18) 佐藤正彰訳『千一夜物語』。140頁
- 19) ただし、イスラム史の知識をもつ英訳者ならば、セキンを古代の金貨とすることは
ありえないという（杉田英明氏のご教示による）。この部分は、周作人の判断による
書き加えの可能性もある。
- 20) 佐藤正彰訳『千一夜物語』。145頁注2。【増補版補記】杉田英明氏からのご指摘
によると、Mongiane は佐藤による誤植。
- 21) 単行本では、「岑」に誤る。17頁
- 22) マルドリュス訳では土器になっている。「内側に釉薬をかけた素焼きの大甕で、首が
広く腹のふくらんだやつ」佐藤正彰訳『千一夜物語』。150頁
- 23) スコット版は、Abdoollah とする（552頁）
- 24) 松枝茂夫は「周作人 伝記的素描 」（）において次のように書いている。「……最
後にモルギアナがアリババの息子の嫁になることを辞退し、その後終る所を知らず
と、剣侠伝式に改めてあるなどは、或は丁初我の「潤辞」かもしれぬ」（『松枝茂夫
文集』第2巻研文出版1999.4.20。15頁）。だが、周作人自身の証言と矛盾する。注6
を見られたい。
- 25) 郭延礼の指摘がある。郭延礼『中国近代翻訳文学概論』漢口・湖北教育出版社1998.3。
「《侠女奴》的翻譯較之原作《阿里巴巴和四十大盜》略有出入。第一，《天方夜譚》

中的這個故事，阿里巴巴的哥哥卡西姆（Cassim）死後，阿里巴巴娶了寡嫂，這本是當地回教的習俗。《侠女奴》故意用“同居”（原兄弟二人不在一處住）來掩飾“弟取寡嫂”這一情節。周氏訳文於此描述得比較含糊，文云：“……（略）……”此可見周作人思想中所受封建礼教的影响。第二，突出了曼綺那的形象並把故事命名為《侠女奴》，既符合原作的本意，也強化了故事的反抗意識」455頁

- 26) 魯迅の創作したセレナは中国人だったからこそ同級生たちに歓迎された。松陵女子潘子璜「中国女劍侠紅線轟隱娘伝」(『女子世界』第4、5、7期1904)の結論部分につきのような興味深い記述がある。目を閉じて会いたいと思う若くて剣を身につけた女性といえ、私の前に立つのはスパルタの女子の魂（斯巴達女子之魂）ではないのか。ああ、もしも九天の上、九地の下で紅（線）轟（隱娘）らに会わせたならば、必ずや意気投合するだろう。ここでいう「斯巴達女子之魂」は、魯迅のセレナにほかならない。しかも、周作人は「侠女奴」の序において紅線の名前をだしている。紅線を共通項にして、魯迅の創作したセレナと周作人が改変したモルギアナが文字通り結びつくのだ。

周作人漢訳アリ・ババ「侠女奴」の英文原本

『清末小説』第30号(2007.12.1)に掲載。周作人漢訳アリ・ババ「侠女奴」の英文原本がフォースター版ラウトレッジ社本の1種類であることをつきとめた。疑問として残っていた底本との異動部分を検証する。

周作人の「侠女奴」は、アラビアン・ナイト所収の「アリ・ババと40人の盗賊」(以下、「アリ・ババ物語」と称する)を漢訳したものだ。私は、彼が翻訳に使用した英文原本がどの出版社のものなのかを追求した。

実際にやってみると、この追跡作業は考えていたよりも複雑であることがわかる。

1 いままでの経過

複雑である理由のひとつは、周作人自身の記憶違いによる。

底本はニューズ社版だ、と彼は数回にわたって書いていた。記述はブレない。確信をもって断言している。だが、該社版の実物を手にとれば、そうではないことが判明した。周作人の記憶に強く残っているはずのアラジンが魔法のランプを持っている図、およびアリ・ババの女奴隷が短刀を手に踊っている図がない。そもそも、漢訳と英文が一致しないから、原本探索は一挙に振り出しにもどる。もどった結果は、手がかりなしの状態である。

いくつかの版本を追求してたどりついたのが、エドワード・フォースター Edward

Forsterの翻案本であった*1。ほかの版本に比較して漢訳との字句が酷似している。

そこまでたどりついた。だが、最終的な特定はできなかった。なぜなら、フォースター版といっても、いくつもの種類が刊行されているからにほかならない。判型も大小あり、1冊本だったり分冊だったりする。複数の版本を入手して驚いたのは、挿絵にまつわる。1枚も収録しないものがある。また、掲げていたとしてそれぞれの挿絵が違うのである。ある版は、それ以前に刊行されていた系統の異なる別の版本から勝手に挿絵を取り込んでいるのだ。

周作人の記憶によると、1冊本だった。これは、信じてよさそうだ。知人に貸し出して、そのままもどってこなかったという。複数本よりも1冊本であったと考えた方が納得しやすい。

それよりも、周作人が魅了された女奴隷の踊りを描いた図があるのか、ないのか。当時は、該当の挿絵を収録する版本を入手することはできなかった。ゆえに、未決定のままで中断せざるをえない。英文原本と漢訳の本文を比較対照しながら、「異同」を指摘しつつ問題を先送りした理由である。底本を特定できなかったのだから、しかたのない処置だった。

本稿においては、この底本問題に決着をつける。

2 フォースター版

周作人の「侠女奴」が『女子世界』に発表されたのは1904年だ。それ以前に刊行されたフォースター諸版のうち私が入手したものを以下に示す。前稿と重複する部分があるが了解されたい。

1802年初版第5巻中型挿絵本1冊 出版：WILLIAM MILLER、ロンドン
/挿絵：Robert Smirke

1810年第3版小型本4冊 出版：WILLIAM MILLER、ロンドン /挿絵：
なし

1849年中型挿絵本1冊 出版：HENRY WASHBOURNE、ロンドン /挿絵

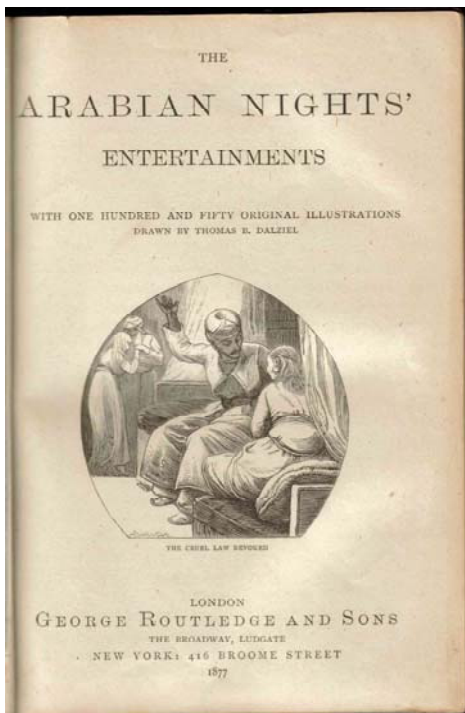
：ヴァイル版ドイツ語訳本より転載

1849年中型挿絵本 1冊 出版：JAMES MILLER、ニューヨーク / 挿絵：ヴァイル版ドイツ語訳本より転載

1877年中型挿絵本 1冊 出版：GEORGE ROUTLEDGE AND SONS、ロンドン / 挿絵：Thomas B. Dalziel

1878年小型挿絵本 1冊 出版：G. W. CARLETON & CO.、ニューヨーク / 挿絵：Demoraine

ここに示した中型、小型の区別は厳格ではない。私が見て大型本とはいえない、というくらいのことだ。 と は、出版社が異なるだけで同一版である。以下、だけを出して ははぶく。



ラウトレッジ社本

以上の6種類のなかで、周作人が記憶する挿絵および1冊本であったことに該当するのは、ひとつしかない。 のラウトレッジ社本である。

表題は、「アリ・ババとひとりの奴隷に殺された40人の盗賊 THE HISTORY OF ALI BABA, AND THE FORTY ROBBERS KILLED BY ONE SLAVE.」という。

その挿絵を見てみよう。

挿絵の掲載ページとつけられた説明の原文を示す。番号は便宜的にふった。

- 1 . 670頁 ALI BABA AND HIS ASSES.
- 2 . 676頁 LEADING THE COBBLER.
- 3 . 679頁 CHALKING THE DOOR.
- 4 . 683頁 THE OIL MERCHANT.
- 5 . 687頁 THE CAPTAIN.
- 6 . 690頁 MORGIANA.

6 番目の挿絵がアリ・ババの女奴隷モルギアナである。

目を隠す仮面をつけた彼女が、右手に短刀を持ちそれを客に向けてさし込んでいる。長髪は空に舞い、肩にかけたスカーフのような衣裳もはねる。なにしろ両足は地面からはなれているから跳躍の一瞬を描いたものだ。後方にはタンバリン



アラジン



モルギアナ

を叩く人物が身体を傾げ、鼓らしきものを演奏する男が座ってかたわらにいる。打楽器のみの演奏らしい。モルギアナの右足につけられた鈴は、伴奏のリズムに合わせて鳴っているはずだ。今にもシャンシャンという音が耳に聞こえてきそうな気がする。躍動感あふれる挿絵であるということができる。

周作人が脳裏に強く刻んだモルギアナの踊りは、この挿絵をさしているに違いない。

もうひとつ、作人が漢訳しようとして取りやめる原因となった挿絵を見ておこう。

それは、アラジンの魔法のランプだ。ランプを持っている挿絵がある。周作人は、アラジンが辮髪をたらししているのを見て翻訳する気を失った。567頁にかかげられた図が、これだ。

屋敷の中庭を描いている。なんとなく中国風に見える。しかし、そうだと断定はできない。西洋人が考える中国風だろう。アラジンの服装もそれらしい。辮髪が清朝時代の中国人であることを示している。だが、アラジンの顔つきは、西洋人にしか見えない。それも周作人が嫌った理由ではなからうか。

以上の絵図2枚は、周作人の記述するとおりのものと私は判断する。

周作人の記憶にある原本の値段について触れておく。

彼は、ニューズ社の3シリング半(6ペンス)だと書いていた。だが、ニューズ社版は違うことは、上述したとおりだ。では、本の値段はどうか。私の所蔵するラウトレッジ社版には、定価の記載がない。どう考えるか。

シリングだからイギリス本である。ラウトレッジ社版であることと矛盾しない。しかし、なぜ周作人はこの本の値段だけ記録しているのだろうか。その方が奇妙だ。なにしろ、アラビアン・ナイトを含めた書籍は、東京に滞在していた兄周樹人(魯迅)から送られてきたものだ。自分で書籍代金を支払ったものではないだろう。それなのに、なぜ、3シリング半だと記憶しているのか。別の本と混同しているのではないかと思う。

結論は、「侠女奴」の底本はフォースター版のラウトレッジ社本である。

まえに提出しておいた各種版本と漢訳文の「異同」について、それぞれ検討することにしたい。本稿ではフォースター版ラウトレッジ社本(以下、底本と略す。

数字は該当頁)との比較が中心となる。

3 異同の検討

異同 1 : 時代設定

周作人は、物語の冒頭において時間を「10世紀以前のころ [前十世紀之時]」と設定した。これは、底本には存在しない。周作人の工夫だと考えてよいだろう。

異同 2 : 陛下

「陛下 sire」とよびかける (p.668)

底本にあって、漢訳にはない。周作人は、無視した。

異同 3 : 第7代

「私は、アッバス家の第7代カリフ、ハルウン・アルラシッドである。I am [now] Haroun Alraschid, the seventh caliph of the [glorious] house of Abbas,」

フォースター1849年版 (p.59)に見える。[]の中は、底本 (p.97)で移動された、あるいは付け加えられた。フォースター系版本としてつながりがあることを示したかっただけだ。アリ・ババ物語ではないから周作人の漢訳とは直接の関係はない。

異同 4 : よびかけ

語り手シャーラザッドが「陛下」(p.668)と呼びかける箇所が、漢訳では省略されている。異同2と同じである。

異同 5 : 「右のほうから」

盗賊たちがあらわれる方角だ。こう明記しているところに着目した。こまかい箇所が底本探求に役立つと考えるからだ。

フォースター版各種の該当部分を示す。

from the right of the spot (p.141)

from the right of the spot (p.229)

from the right of the spot (p.414)

は と同一版本だから省略する。以下同じ

from the right of the spot (p.669)

from the right of the spot (p.297)

全部が一致するから示すまでもなかった。

異同 6 : 盗賊を数える

アリ・ババが数えると、盗賊たちは40人である (p.669)

漢訳は底本通りだ。

異同 7 : 盗賊の持ち物

「大麦のつまった袋」 異同 8 : 「雑囊」

周作人訳 袋。其中似満実以粟類 旅行之革靴

底本 a bag filled with barley travelling-bags (p.669)

漢訳は底本通り。

異同 9 : 「西坤」を加筆

【周作人】満貯一種小金錢名西坤者。

セキンという小金貨がたっぷり貯蔵されています。5頁

セキンと訳しておいた「西坤」は、底本にはない。周作人が加筆したことになる。

異同10 : 財宝について加筆

【周作人】以一丸泥封穴口。閉開自守。不求取於人。如是亦足以供給四十人

一生之用而有餘。

泥で洞窟の扉をふさぎ、開閉はみずからが管理し、他人に盗まれないようにしました。こうして40人が一生使ってもあまるほどになったのです。5頁

底本には、この文章はないから周作人の加筆だと判断する。

異同11：ぼんやりアリ・ババ

Ali Baba did not hesitate long as to the plan he should pursue. He went into the cave, and as soon as he was there, the door shut; but as he knew the secret by which to open it, this gave him no sort of uneasiness.

アリ・ババは、彼がやるべきことを実行するのに長くはためらいませんでした。洞窟に入ったとたんに扉は閉まったのですが、それを開ける秘密を知っていましたから、不安は感じませんでした。p.670

【周作人】埃梨入此富麗之窟室。恍遊天上。傍徨良久。莫知所為。

アリ・ババは、この立派な洞窟の部屋に入りますと、天上にまうようにぼんやりとしてしまいました。長いあいだぐずぐずして、何をしたいのかわかりません。5頁

英文原作のすばしこいアリ・ババは、漢訳では、ぼんやり者に変身した。周作人による改変である。

異同12：扉の描写を簡略化

When he had finished all this, he went up to the door, and had no sooner pronounced the words, “Shut, Sesamè,” than it closed; for although it shut of itself every time he went in, it remained open on coming out only by command.

これらのすべてをし終わったとき、彼は扉の前に行って、「閉じよ、セサミ」と口にするやいなや、それは閉まりました。彼が入るたびにひとりで閉まるのですが、出ると開いたままですから、命令しなければ閉じないのです。p.670

【周作人】諸事已畢。乃復呼如前。門即閉。

すべてが終わり、また以前のように呪文をとなえると、扉は閉じました。

5頁

下線をほどこした2カ所について、各版でわずかな違いがある。

Sesame	but
Sesamè	only
Sesame	but
Sesamè	only
Sesame	and closed then only

英文原本は、出版に際して、微妙に手を加えることがあるようだ。漢訳は、簡潔にすぎる。

異同13：カシム、妻を叱る

you are very foolish, wife; you would never have done counting. I will immediately dig a pit to bury it in; we have no time to lose.

バカだな。数え切れるもんか。すぐに穴を掘ってそこに埋めるから。ぐずぐずしちやいられんぞ。p.671

【周作人】汝何愚也。真可謂貪兒暴富者矣。予將掘地為坎而埋之。則永遠可不失。數之何為。

バカだな。まるでにわか成金じゃないか。穴を掘って埋めれば、なくなりっこないんだから。数えてどうするんだよ。7頁

「真可謂貪兒暴富者矣[まるでにわか成金じゃないか]」という箇所は、周作人が加筆した。また、「則永遠可不失[なくなりっこないんだから]」は、英文の「we have no time to lose. ぐずぐずしちやいられんぞ」を誤解したと考えてよい。

異同14：金貨を見る

a coin so ancient, that the name of the prince, which was engraved on it, was unknown to her.

金貨はたいそう昔のものでしたから、その表面に彫ってある王様の名前は、彼女にはわかりませんでした。pp.671-672

【周作人】慨星視之。則乃古昔之金幣。上鑄古代帝王之名号。殆西坤之類。

カシムが見ると、昔の金貨で、表面には古代の帝王の名前が彫ってあります。おそらくセキンの類でありましょう。8頁

コインに彫られた古代の王様の名前を見ているのは妻だ。しかし、漢訳では、なぜだかカシムに変更する。その必要はないように思う。だが、周作人はそう書きかえた。

異同15：セキンの加筆

上記に金貨を指してセキンという。ここも周作人の加筆だ。

異同16：警察署

I will go and inform the officer of the police of it.

警察の役人にそのことを訴えてやるぞ。p.672

【周作人】汝拒絶予之命令。則予将告発於警察署。

おれの命令を断わるんだったら、警察署に訴えてやるぞ。9頁

周作人が「警察署」と漢訳した「警察の役人 the officer of the police」だ。

スコット版、ダルケン版、ニモ社版、タウンゼンド版、ニューズ社版には、いずれも該当する語句がなかった。しかし、フォースター各版は、いずれも同じ文章が存在している。だから、漢訳は底本どおりになる。

異同17：セサミについての注

instead of pronouncing “Sesamè,” he said, “Open, Barley.”

「ゴマ」と発音するところを「開け、大麦」と言ってしまいました。p.672
【周作人】不曰『西剌姆』而誤呼曰『伯累（意即大麦）啓戸』。彼蓋錯記一種之穀名。以大麦為胡麻也。呼之良久。而門堅閉如故。「セサミ」とはいわず、「開け、バーリ（大麦の意味）」と誤って言ってしまいました。彼は、穀物の名前だと誤って覚えていて、大麦を胡麻だと考えたのです。長い間となえましたが、扉はもとのまま堅く閉じたままです。10-11頁

問題は、ここに注がついている版本とないものがあることだ。注とは、すなわち「ゴマは穀物であり、主として牛の飼料に使われる。しかし、時には人間のものでもある。（中略）このことは、カシムがなぜそれを大麦と混同したのかの原因を説明するであろう」（p.416）である。

あらためてフォースター版各種を見た。

注ナシ

注ナシ

p.416注あり

注ナシ

p.303注あり

底本には、注がついていない。ゆえに、欄外にほどこされた原文の注を周作人が漢訳に取り込むことはできない。この部分は、底本原文と漢訳が内容的に離れていると思ったから、注の存在が気になった。だが、底本のつづく文章が漢訳に該当すると考えれば、問題はない。

He was struck with astonishment on perceiving that the door, instead of flying open, remained closed: he named various other kinds of grain; all but the right were called upon, and the door did not move.

彼は、扉がぱっと開くのではなく、閉じたままであるのがわかって驚きに打たれました。穀物の名前をほかにいくつもとなえたのですが、全部といっ

ても正しいもの以外ですから、扉は動きませんでした。p.672

【周作人】彼蓋錯記一種之穀名。以大麥為胡麻也。呼之良久。而門堅閉如故。彼は、穀物の名前だと誤って覚えていて、大麥を胡麻だと考えたのです。長い間となえましたが、扉はもとのまま堅く閉じたままです。10-11頁

異同18：死体の悪臭

もどってきた盗賊たちは、財宝を盗もうとしたカシムを殺害した。死体の悪臭がなくなるまで (until the stench from the corpse should be subsided. 俟此死体之悪臭発盡)、盗賊たちは洞窟にはもどらないことにしたのだ。

死体から出てくる悪臭だから、子供には刺激が強すぎる。ダルケン版および、サグデン版、タウンゼンド版、ニュウズ社版は、いずれもこの部分を削除していた。漢訳は底本通りだ。

異同19：カシムの死体について

He was struck with horror, when he distinguished the body of his brother cut into four quarters; yet he did not hesitate on the course he was to pursue in rendering the last act of duty to his brother's remains, notwithstanding the small share of fraternal affection he had received from him during his life. He found materials in the cave to wrap up the body, and making two packets of the four quarters, he placed them on one of his asses, covering them with sticks, to conceal them.

四つ裂きにされた兄の死体だとわかったとき、彼は恐怖におそわれました。ですが、彼の兄の遺体について最後のつとめをはたさなければならないところから少しも躊躇はしませんでした。兄が生きているあいだ、彼から兄弟の愛情はほんのすこししか受けはしなかったにもかかわらずです。死体を包むものを洞窟のなかでさがし、よっつの塊をふたつの包みにして、ロバの1頭において、隠すために柴でおおいました。p.674

【周作人】慨星之尸。赫然陳於戸左。不覺戰慄却步。膚粟股慄。然終以同氣之感。自思當盡此最後之義務。於是不復躊躇。於穴中取二匣。以裝此支解之

碎肢体。如二小包状。令一驢負之。遮以柴薪。

カシムの死体が、おどろいたことに扉の左にならべてあります。恐ろしさのあまりおもわずあとずさりして、鳥肌がたち足がふるえました。しかし、しまいには兄弟だという感情から、最後の義務をつくさなければならないと考えたのです。そこで躊躇することなく、洞窟のなかからふたつの箱をとってバラバラになった死体をつめ、ふたつの包みのようにして1頭の口バに背負わせ、柴で隠したのです。14頁

兄の死体は、扉の両側に置かれていた（将慨星之尸。分為四片。投於穴内近門之處。分置兩旁。13頁）。それを「扉の左」に変更した。また、「ふたつの箱をとって」としたのは周作人によるちょっとした書きかえになる。それ以外は、底本とほぼ一致しているといってもいいだろう。

異同20：モルギアナ登場

This Morgiana was a female slave, crafty, cunning, and fruitful in inventions to forward the success of the most difficult enterprise, in which character Ali Baba knew her well.

このモルギアナは女奴隷でしたが、器用で抜け目がなく、もっとも困難な仕事を成功に導くのに豊富な工夫をするという彼女の性格をアリ・ババはよく知っていたのでした。p.674

【周作人】応門者為一女奴。名曼綺那。其為人機警有智。富於進取力。能從事於至困難之冒險事業。而終達其目的。以此故。其品性非常人所可及。平日亦素為埃黎所器重。

出てきたのは女奴隷でモルギアナという名前です。その人となりは機敏で聡明、進取の気概に富んでいました。困難な冒険の仕事に従事することができ、しかもしまいにはその目的に達するのです。それゆえに、その品性は普通の人の及ぶところではありませんでした。平素からアリ・ババが重宝がったものです。15頁

漢訳を底本と比較してみると、あわない箇所がある。「進取の気概に富んで [富於進取力] 」という部分が余分だ。底本にはそれに該当する語句が、ない。周作人にしてみれば、モルギアナの性格を描写して前の「機警有智」で終るのはことばの調子が悪いと感じたのではなからうか。ゆえに、つけ加えた。

異同21：アリ・ババが兄嫁に話す

兄カシムの死後にどう対処すべきか。

フォースター版で「最初に、私の話の最初から最後までじゃまをしないで聞く約束をしなければなりません。you will first promise to listen to me from the beginning to the end of my story without interruption.」(pp.674-675) とある。漢訳は、「私が話をするのを、中断させてはなりません [勿中断予之談話] 」(p.16) となっていて基本的に一致する。

英文原本にはつづきがある。「現状では、私よりもあなたにとっては、嚴重に秘密にすることが重要なのです。あなたの平和と安全のために、絶対的に必要なのですよ。It is of no less importance to you than to me, under the present circumstances, to preserve the greatest ^{ママ} secrecy; it is absolutely necessary, for your repose and security.」(p.675)

これを周作人の漢訳は、無視する。

「×」で示した単語は secrecy の誤植である。各種で確認しておく。

secrecy

secrecy

secrecy

secesy ×

secesy ×

底本が後の版本に影響を及ぼしている。

つぎの箇所が問題になる。

寡婦となった兄嫁に、自分の妻にする、とアリ・ババは申し出る。周作人は、

礼教にあわないという理由で原文を削除した、と切り切っているあの箇所だ。

異同22：アリ・ババと兄嫁の結婚

Although the evil is without remedy, if, nevertheless, anything can afford you consolation, I offer to join the small property God has granted me to yours by marrying you. I can assure you my wife will not be jealous, and you will live comfortably together. If this proposal meets your approbation,.....

救済なしの不運とはいっても、慰めることができるのであれば、あなたと結婚することによって、神が私に与えてくれた少しの財産をあなたのものに合わせるよう申しこむことにしましょう。私の妻は、嫉妬などしませんから、あなたが一緒に快適にすごすであろうと請け負いますよ。もしもこの申し出があなたの賛成を得ることができましたら、..... p.675

アリ・ババと兄嫁の結婚はあってはならない。周作人は、そう考えていたのだ。ここを彼はどのように改変したか。

【周作人】既復建議同居之利便。而陳分立之不可。因同居則非但患難可以相顧。且亦可以慰離索之感。

そこで同居することの便利を申しでて、分立のよろしくないことをのべました。同居すれば憂いと苦しみをわかつことができるばかりか、寂しく暮す感情を慰めることができます。16頁

周作人自身の回想によれば、削除したはずだ。だが、結婚を「同居」に書きかえているだけではないか。結婚と同居は当然にふたつのことである、ということになる。周作人の削除したということばかりからくる印象とは違う。私には軽い改変のように思える。

カシムの死亡をなんとかつくり出さなければならない。賢いモルギアナは、靴職人のババ・ムスタファを連れてくる。この「靴職人 cobbler」を誤植（×で示す）する版本があった。ここでも確認しておく。

cobler ×

cobler ×

cobler ×

cobbler

cobbler

初版から続いた誤りは、底本から訂正されている。

異同23：ムスタファの性格を削除

フォースター版がムスタファの性格を規定して陽気である、とする部分（Baba Mustapha, known to all the world by this name, was naturally of a gay turn, and had always something laughable to say;）を周作人訳では省略している。

異同24：モスクの祭司など

漢訳では、「モスクの祭司と僧侶[墨思克之祭司及僧侶]」（19頁）となっている。しかし、英文原作の各版のなかに、すこし異なるものがある、として一覧した。そこに示したフォースター版初版がほかと違うと書いたが、私の勘違いであった（本書では訂正している）。あらためて、フォースター版各種の一覧をあげる。

周作人	祭司	僧侶	墨思克
p.162	Iman	ministers	mosque
p.244	Iman	ministers	mosque
p.419	Imaun	ministers	mosque
p.677	Imam	ministers	mosque
p.677	Imaum	ministers	mosque

周作人は、Imam をよく祭司と漢訳したところは感心する。

異同25：ババ・ムスタファの店

He went towards the square, where he saw only one shop open,

広場にむかって行くと、ひとつの店が開いているのをみつけました。p.678

【周作人】忽見左側有一小店。戸已大啓。

ふと見れば左側に小さな店があり、扉はすでに開いています。22頁

盗賊のひとりが情報を集めるため町に行った。朝早くだから道行く人はいない。ババ・ムスタファの店が開いているのを見つけた。底本には、「左側」という単語はない。わざわざつけくわえる必要があるとも思えない。だが、周作人は漢訳で「左側」を書き加えた。

異同26：金貨を握らせる

He drew out a piece of gold, and putting it into Baba Mustapha's hand,.....

金1個を取りだすと、ババ・ムスタファの手に握らせて..... p.678

【周作人】急以一金置几上。

急いで金1枚を机のうえに置きました。23頁

盗賊は、死体を縫いあわせたと聞いて、ババ・ムスタファに金貨を握らせた。情報に対する礼である。底本では、手に握らせる。だが、周作人は、机に置いたとする。わざわざ書きかえるのだから何か意味があるだろう。当時の中国では、そのような習慣でもあったのかとも思える。だが、必要のない書きかえだと思う。

異同27：順序を入れ換える

アリ・ババが油商人（盗賊の首領がなりすました）を歓待したあとのことだ。底本では、つぎのような順序になっている。

アリ・ババは、油商人と席をたち、明日の準備をモルギアナに命じる。首領は、庭に置いてある油袋のなかの手下に、合図をしたら袋を切り裂いて出てくるよう指示をだす。

モルギアナの場面があって、それから首領の手下への指示、という順序だ。
だが、周作人は、上のふたつの場面を入れ替える。複雑な箇所ではないと思う。
私は、納得がいかない。

異同28：カメの数が37

モルギアナは、油袋のなかに盗賊が隠れていることを発見した。首領の合図かと聞くのに答えて「まだだ」をくりかえし、最後の油の入った袋に到達する、という箇所だ。

making the same answer to the same question, till she came to the last, this was full of oil.

油でいっぱいになった最後の袋にくるまで、同じ質問に同じ回答をしたのです。p.684

【周作人】曼均以此語答之。至終過三十七甕。而至末貯油之一甕。

モルギアナはすべて同じ言葉でそれに答えると、37のカメを過ぎて、最後の油のカメにたどりつきました。34頁

漢訳に見えるカメの数「37」は、底本には、ない。それ以外は、英文原作をほとんど忠実になぞっている。だから、ここは、周作人の工夫になる。

異同29：盗賊の人数

盗賊の人数について、底本ではその直後にでてくる。主人アリ・ババは油商人を泊めたつもりで盗賊を引き入れた、とモルギアナにはわかってしまった。

her master, who supposed he was giving a night's lodging to an oil merchant only, had afforded shelter to thirty-eight robbers,

彼女の主人は、油商人に一晩の宿を与えたつもりが、38人の盗賊に避難所を提供してしまいました。p.684

【周作人】埃黎偶留油商一宿。不意隠蔽三十七甕之盜。

アリ・ババは油商人を、偶然、泊ませたのに、37のカメに盗賊が隠れて
いようとは。34頁

底本の「38」という人数を、周作人は漢訳時に書きかえて「37」とした。数を取
り違えることは、普通ありえない。だから、別の英文原本があるのではないか、
と私は疑った。

該当箇所を見れば、以下のようになっている。

p.179 thirty-eight

p.257 thirty-eight

p.423 thirty-eight

p.684 thirty-eight

p.318 thirty-eight

底本とすべてが一致する。

では、もともとが38人であり、周作人の37人が間違いかといえ、そうとは限ら
ない。

これは、簡単な引き算である。盗賊のうち2人は情報収集に失敗して処刑され
ている。ゆえに、40人から2人を減じて残りは38人だ。これには、当然首領が含
まれる。一方の周作人訳では、油袋に隠れている盗賊が37人である。これに首領
を加えれば底本の38人と同じになる。

このように説明しなければならなくなる。カメの数を「37」とわざわざ漢訳に
入れた。それに一致させたのであろう。よけいな改変であった。

異同番号を振らなかった「塩」の注について触れておく。

イスラム教では塩を食べるといのは友好関係を結ぶという意味だ、という注
釈である。塩を食べないのは、だから敵対を示唆する。客が塩を食べないとい
うところから、モルギアナは客が盗賊の首領であることを見破った。

フォースター版各種を見る。

注ナシ

注ナシ

p.426注あり

注ナシ

p.326注あり

「セサミ」についての注の有無とまったく同じになっている。周作人訳の底本には、注がないのだから漢訳に反映されていないのも当然ということになる。

異同30：ブドウ酒とビール

モルギアナは、食後の酒を出した。底本は、「ブドウ酒 wine」(p.689)とする。ところが、漢訳は「ビール[啤酒]」(44頁)に書きかえた。理由は不明だ。

以上、底本となったフォースター版英文原作と周作人の漢訳を比較検討した。字句の異なるフォースター版が別にあるのではないか。これが、以前に私がいだいた疑いだった。

複数のフォースター版を比較対照しての結論は、文章は、基本的に同一である。ごくわずかな字句の違いはあっても、問題になるほどのものではない。私はこう判断する。

周作人の漢訳についていえば、ほぼ底本に忠実な翻訳だと考えてよい。ただし、モルギアナの最後については、周作人は勝手に、しかも大幅に書きかえた。その結果、アリ・ババの世界を破壊した。しかも、周作人自身は、そのことにまったく気づいていない。この結論について、私の考えに変わりはない。

【附記】杉田英明氏よりご教示いただきました。感謝します。

【注】

- 1) 樽本「周作人漢訳アリ・ババ「侠女奴」物語」『漢訳アラビアン・ナイト論集』所収。本書所収

周作人漢訳アリ・ババの原本を求めて

『中国近現代文化研究』第5号(2002.12.25)に掲載。周作人『侠女奴』の原作は、『アラビアン・ナイト』のなかの「アリ・ババと40人の盗賊」である。周作人は、当時を回想した文章のなかで、原本がニューズ(GEORGE NEWNES)社版であることをくりかえし記述している。多くの研究者も、彼の記述のままを受け入れる。しかし、原物で確認されたことはない。私は、ロンドンにおもむき英国図書館に所蔵される該社の『アラビアン・ナイト』を閲覧した。周作人の漢訳と英文原作を比較対照したところ、彼が拠った原文はニューズ社版ではないことを発見したのである。タウンゼンド版、レイン選集版などを見たが、これらでもない。かろうじてサグデン版が、漢訳に一番近いこともわかった。しかし、完全に一致するわけではない。周作人漢訳の原本さがしは、振り出しにもどったことをいう。『清末小説研究論』(清末小説研究会2005.8.1 清末小説研究資料叢書9)に収録した。本書に移動するほうが妥当だと考えた。探査の結果、最終的にはフォースター版ラウトレッジ社本であることが判明した。

シャーロック・ホームズゆかりの場所といえば、ロンドンには多数ある。

ホームズは、架空の人物ではあるが、実際の場所がからんでもいて、今でも人氣が衰えないらしい。

バブ<シャーロック・ホームズ>も、愛好者にとっては人氣の観光地だ。旅行案内書にも記載がある。

私は、それほど熱心なホームズのアツ読者ではない。だが、ドイル作品の漢訳を調べている関係で*1、トラファルガー広場に来てしまえば、つい足がその方面に



パブ<シャーロック・ホームズ>

向いてしまう。

それは、ビルの谷間の古い建物のなかに、周囲とは違うたたずまいを見せている。

ホームズの肖像が看板になっており、目印となる。この店の外装は、一階部分のみ黒く塗られ、<シャーロック・ホームズ>と英語で書かれた大きな金文字が目立つ。入り口そばに置かれた数脚のテーブルのひとつに、客がひとり、飲み物を置いて新聞を読んでいる。窓のスリガラスにもホームズと著者のドイルが姿をきざまれているのが私の目を引く。小さな立て看板には、白身魚の揚げ物とポテトチップスの名前が白墨で大きく書かれており、いうまでもなくロンドンのパブでは定番なのだ。

2カ所に入り口がある。扉が二重構造になっているところから、この地の冬の寒さが予想できる。

たしかにパブである。カウンターに生ビールの注ぎ取っ手を並べて、よそと変わらない。聞けば2階がレストランになっており、そちらにホームズの書斎がある。食事をしないなら外から見ろ、という女店員の言葉にしたがい、ガラス窓からのぞくと、隅のほうに机と本棚をごちゃごちゃとならべて、ホームズの人形も座らされていた。

生ビールを飲みながら、店内の壁に飾られたホームズ関連の品物、過去の映画のポスターだったり、ファンからの手紙だったりするのをながめる。2台のテレビでは、白黒映像でホームズ物語らしいものを放映しているが、音は絞ってある。ふむふむ、と意味不明の言葉が口からもれでてくるほどに、雰囲気のある店なのだ。

ビーフ・カレーが用意してあることに気づき、カウンターで注文した。ここは、その都度の現金払い方式を採用している。英国はまだ欧州統一貨幣であるユーロを導入していない。代金を50ポンド紙幣で支払い、中年の女性店員からおつりをもらう。

1皿にカレーとサフラン・ライスが同居して（別々の食器を使わない）、確かに日本で食べる味がする。なるほど、インドから英国経由で日本にもたらされたものだ、と納得するのだった。カレーに牛肉を入れたのは、英国人に違いない。インド人の発想の外にあるはずだ。

アメリカ人らしいグループが、入ってくる。人の切れ目がないから、座席は、ほぼ、いっぱいになった。皆、申し合わせたように例の白身魚のフライ（ポテトチップスつき）を注文している。客ふたりで、同じものを注文するかなあ、と不思議に感じたりもする。雰囲気と食事に満足してパブをあとにした。

道端の小さな雑貨店で飲料を買い、さきほどパブでもらった釣り銭から20ポンドを出すと、店主が、ダメといって受け取らない。偽札か。腑に落ちない。同時に手渡された別の20ポンド紙幣と見比べても、ほとんど違いがない。地下鉄の自動販売機ならどうかと試すと、機械も受け取りを拒否して吐き出す。スーパーで差し出せば、これは古い札だから、使えないという。あれまあ、なんなのであるうか。

パブ<シャーロック・ホームズ>の女性従業員は、私を東洋人の観光客だと見て、使えない札を釣り銭にまぜこんだ。なんと心寂しい英国の中年女性なのだろう。私の楽しかった気分は、ロンドンの空模様と同じく曇ったのである。

なぜ私がロンドンにいるかといえば、今回は、ホームズがらみではなく、『アラビアン・ナイト』のためである。

私が英国図書館を再訪した目的は、ニューズ社（GEORGE NEWNES）発行の

『アラビアン・ナイト』を原本で確認するためだ。

『アラビアン・ナイト』など、どこでも入手できるではないか、とお考えだろう。どこにいても見ることはできるが、ある特定の版本は、そうはいかない。

インターネットの時代で、外国の古書店から比較的簡単に古書を購入できることは事実だ。だが、インターネットを検索しても出てこない版本は、それが所蔵されている場所に自分から足を運ばなければならない。ニュウズ社発行の『アラビアン・ナイト』が、それに該当する。

なぜニュウズ社版でなければならないのか。周作人が、それに拠ってある作品を漢訳したと書いているからだ。

『アラビアン・ナイト』は、ガランがフランス語に翻訳したのが最初だ。このフランス語翻訳を英語に重訳したものが全世界に普及した。それ以後、多数の人が勝手に重訳、節訳、改訳を行ない、物語の好色部分を削除したのも、青少年のため、という名目で出てくる。多種多様の版本が存在する理由である。のちにはアラビア語から直接翻訳した別の翻訳が刊行されもした。だからこそ、それぞれの翻訳は、文章がバラバラなのだ*2。

ゆえに、漢訳がどの版本に拠っているのか、その原本を特定しないことには、研究にならない。

周作人が漢訳して題名を『侠女奴』という。「アリ・ババと四十人の盗賊 THE STORY OF ALI BABA AND THE FORTY ROBBERS」である。萍雲女士の名前を使い、はじめ『女子世界』に連載された。1904年のことだ。のちに同名の単行本になる。萍雲（周作人）訳述、初我（丁祖蔭）潤辞、小説林総発行所（光緒乙巳 [1905] 初版未見 / 丙午 [1906] 年三月再版）というのがそれだ。

周作人にとって英語版『アラビアン・ナイト』、すなわち中国語でいえば『天方夜譚』は、特別な意味があった。彼自身の証言によれば、該書に出会いそれを翻訳することにより、いわば精神的な安定を得ることができ、それ以来、移り気でなくなったという。

そのゆえか、周作人は、1930年代からくりかえし当時の模様を回想文に書き残している。

該当版本を説明して、日本から得た『天方夜譚』で、ロンドンのニュウズ社

発行、3シリング半(6ペンス)の挿絵本であること、アラジンが魔法のランプを持っている図、およびアリ・ババの女奴隷が短刀を握って踊る挿絵があることを記憶している*3。

1950年代には、上記のような細部は省略し、上海で別版の現代叢書本を購入したこと、それがパートンの訳本に拠っていること、落丁があること、奚若の4冊本が出ていることをつげくわえる*4。

1970年の周作人『知堂回想録』(香港・聽濤出版社1970.7)では、3カ所にわたって回想する。

ニュウズ社本、3シリング半、アラジンの魔法のランプとアリ・ババの女奴隷が踊る絵図についてくりかえして説明している。ここで以前と異なっているのは、偶然入手したと書いて、日本から、という部分が消えてしまったことだ。

周作人は、出版社の名前、本の定価、図柄までもおぼえている。断言して記述が揺らいでいない。

周作人本人の記憶が正確らしく見えるから、多くの研究者は手続き抜きにして、つまり原物で確認することなく、その言葉を信用する。張菊香、張鉄栄編著『周作人年譜』(天津人民出版社2000.4。57頁)にも、そのまま記述してある。

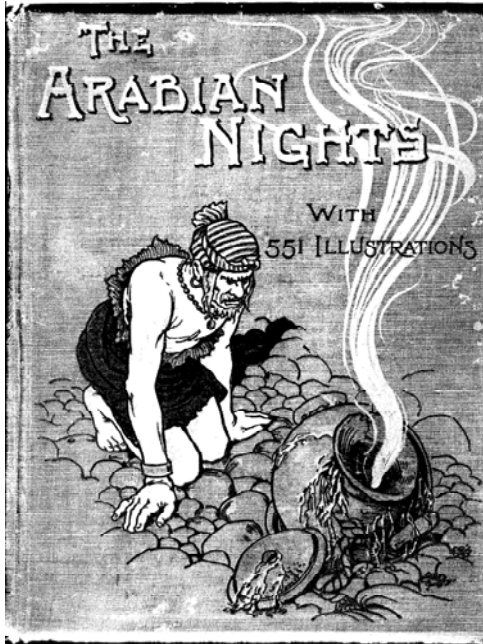
ここまで明らかであれば、ニュウズ社版を探すのは、それほどむづかしくない、と私は感じたほどだ。

インターネットで検索すれば、ラング版、タウンゼント版など新旧とりまぜて出てくる。そのなかのいくつかは購入した。近くは同志社大学図書館、天理図書館でも閲覧できるものは、見た。東京の神田でレイン版3冊本を入手したし、サグデン版は、東北大学の漱石文庫所蔵本から複写を取らせてもらった。

とりあえず、努力するだけは、した。しかし、私のできる範囲はタカがしれている。日本でニュウズ社版『アラビアン・ナイト』を見ることは、とうとうできない。日本に存在しない、という意味ではない。しかし、自分で見ることができないのだから、私にとっては存在しないことと同じだといってもいい。

というわけで英国図書館で閲覧したというわけだ*5。

大判である。背表紙は皮装で、西洋古書特有の装訂をしている。児童へのプレゼント用には見えない。ほぼA4判の大きさで、472頁ある。上質紙を使用せず



THE ARABIAN NIGHTS ENTERTAINMENTS,
GEORGE NEWNS LD, 1899

っしりと重い。たくさんの挿絵が飾られており、そこに注目すれば、たしかに挿絵本だ。

1899年発行だから、周作人が南京で入手することに矛盾は生じない。もっとも周作人は、いつ入手したのかその年月を明らかにしていない。だが、1905年1月に翻訳が終わりかけているから、それから推測すれば該書入手の時期は前年の1904年あたりになるう。

原書を手にすることができた。ロンドンにまで来たカイがあったというものだ。私は、大いに満足である。

だが、扉から順にページをめくって行って、挿絵の豊富さを楽しんでいた私は、疑惑を強く感じることになる。

なぜかといえば、周作人に強く印象づけたアリ・ババの女奴隷が踊る挿絵がないのである。魔法のランプは出てくるが、アラジンの腰にくくりつけられており、彼が手にしている絵柄ではない。

見てみれば、定価3シリング6ペンスなどという表示が、どこにもない。

英国図書館の電腦で検索する。ニューズ社版の『アラビアン・ナイト』は、この1冊しか所蔵されていない。ただし、英国図書館にないことが、別版の存在を否定することにはならない。

挿絵についていえば、ニューズ社の別版があれば（実際にあるらしいが）、周作人のようなものがついている可能性も残されている、とはいえよう。

だが、問題は、本文なのである。

ここは漢訳と原文を対照したほうが、理解がはやい。書き出し部分をならべる（周作人の前文は省略する）。

【周作人】前十世紀之時。波斯某街有兄弟二人。一名慨星 Cassim。一名埃梨酷伯 Alibaqa^{ママ}。其父在時。家僅小康。死後平分以給二人。其所得産業各相等。析居而處。尚可拮据以度日。及後境遇不同。而二人生計上之狀態。遂亦各異。慨星娶一少婦。当未婚之前。為一富賈之繼女。承襲其産。有土地上之不動産甚多。且有倉庫一所。滿貯商品。其值不貲。及歸慨。携之与俱。慨星以妻之花蔭。一洗昔日窮愁之景況。突然一躍。而為富家兒。財名甲於一鎮。

十世紀以前のころ、ペルシアのある町にふたりの兄弟がおり、ひとりカシムといい、ひとりアリ・ババといいました。父親が生きていた時、家の暮らし向きはまずまずでした。死後、財産はふたりに平等に分けて、それぞれが得たものは同じだったのです。わかれて暮らし、貧乏ながら日を過ごしておりましたが、その後のめぐりあわせは同じではありません。ふたりの生計の状態は、それぞれ違ってしまったのです。カシムは若い婦人を娶ったのですが、彼女は結婚するまえはある裕福な商人の義理の娘でしたので、その財産を受け継いだのです。土地などの不動産はとても多く、しかも倉庫をもっており、商品で満ちあふれておりました。その値は計算することができないほどで、それがカシムのものになりました。それらを手に入れ、カシムは妻のおかげで昔の窮乏情況からぬけだし、突然、裕福になり、町一番の金持ちになったのです。

【ニュウンズ社】IN a town in Persia, there lived two brothers, one named Cassim, the other Ali Baba. Their father left them scarcely anything; but Cassim married a wealthy wife and prospered in life, becoming a famous merchant.

ペルシアのある町に、ふたりの兄弟がおり、ひとりカシム、べつのひとはアリ・ババといいました。父親は、彼らにほとんどなにも残しませんでした。カシムは裕福な妻と結婚し人生に成功して有名な商人になったのです。

周作人訳の「Alibaqa」は、Ali Baba の誤植だ。漢訳で「継女」とあるのを日本語で「義理の娘」と訳しておいた。「継父」「継母」という単語があって、それぞれ義理の関係を表わすことばだから、それから類推した。ただし、財産継続人

という意味も別にあるだろうとは思ふ。そちらの方が適当だというのであれば、そのように訳してもいい。

英文原作に比較すると周作人の漢訳の方が、かなり詳しい描写になっている。原文に加筆して分量を増すということも考えられないではない。だが、当時、周作人が漢訳したドイルの「アーカンジェルからの男(荒磯)」(1905)、ポー『黄金虫(玉虫縁)』(同年)の2翻訳を見るかぎり、彼の翻訳方法は、原文にほぼ忠実に、というのが基本にあった*6。加筆をするにしても、上のような極端な例はない。

英文からこれほど離れた漢訳だから、ニュウズ社版は、周作人が拠った版本ではありえないと判断してもいい。

周作人の回想録には、このニュウズ社版について「おそらくごく普通のレインの訳本だったのだろう」*7と書いている。バートン版があることには、当時、まったく気がついていなかった、ともいう。

周作人のこの記述は、正確ではない。もとのレイン版には、周知のとおり、「アラジンと魔法のランプ」も「アリ・ババと四十人の盗賊」も収録されていない。ただし、のちの選集1冊本には、この2作品を追加しているから、ねんのためその冒頭部分を比較対照してみると、カシム Kasim とアリ・ババ 'Ali Baba の表記からして周作人の漢訳とは異なる。ほぼ、ニュウズ版と同じ簡潔さであって、周作人の翻訳ほど詳細な記述があるわけではない。

いちいち原文はかかげないが、タウンゼンド版も周作人の漢訳の原本ではない。ところが、サグデン版は、以上の英文原作とは異なる。

【サグデン】IN a certain town of Persia, there lived two brothers, one of whom was called Cassim, and the other Ali Baba. Their father, at his death, left them but a very moderate fortune, which they divided between them. /Cassim married a woman who, very soon after her nuptials, became heiress to a well-furnished shop, a warehouse filled with merchandise, and considerable property in land; he thus found himself on a sudden quite at his ease, and became one of the richest merchants in the whole town.

ペルシアのある町に、ふたりの兄弟があり、ひとりカシム、べつのひと

りはアリ・ババとよばれていました。彼らの父親は、死ぬとき適度な財産を残し、それらをふたりで分けたのです。ノカシムは結婚しましたが、彼女は結婚式のすぐあとで、商品のつまった商店、在庫品でいっぱいになった倉庫、そしてかなりの土地の所有権の継承者となりました。そういうわけで、彼は、突然に、まったく心配のない自分に気づきましたし、町一番の金持ち商人のひとりになったのです。

細かな部分をいえば、周作人の漢訳とは、完全には重ならない。だが、ニュウズ社版、レイン選集版、タウンゼンド版などと比較すれば、格段に、このサグデン版の方が漢訳に近い。近いことは近い。だが、完全には一致しないために、このサグデン版を漢訳の原本だと特定することはできない。

周作人の『アラビアン・ナイト』英文原本にかんする説明は、彼の勘違いであったようだ。

『アラビアン・ナイト』に対して、周作人は特別の感情をいだいていたという。その彼にして記憶違いがあるのか、と不思議にも思う。だが、ニュウズ社本の本文そのものが、周作人の記述を否定するのである。

周作人の漢訳は、どの英文原作に拠ったかという問題は、以上のようなわけで、振り出しにもどってしまった。

いく種類もの英文原作をならべているのは、周作人漢訳の原本を特定するためだ。いうまでもないことながら、原本が特定できなければ、周作人の漢訳がどの程度の水準かを判定することができない。

少なくとも、周作人が回想文でくりかえしのべているニュウズ社版は、彼の漢訳の原本ではないことがほぼ確認できた、ということではできよう。

検討すべき版本は、まだいくつか残っている。のちのお楽しみということになった。

ロンドンにまで足を運んで、その結果か、と思われるか。

資料の発見など、あったとしてもごくまれなこと。無収穫が普通であり日常なのだ。近所の公立図書館であろうと、収穫がないときは、ない。今回は、その場所がたまたまロンドンであったというだけのことにすぎない。ニュウズ社版で

はないことがほぼ確認できた。それだけでも、無収穫どころか、成功だといってもいい。

とはいいいながら、大成功というわけではない。気分が高揚するはずもない。加えて、使えない20ポンド紙幣を押しつけた心寂しい中年女性店員のことを思うと気分はさらに落ち込む。しかし、大きな責任は、英国政府の貨幣政策のまずさにある。なぜ使えない紙幣を流通させているのか。ポンドですら不手際をあらわにしており、ユーロを導入したときは、見ものである、などと八つ当たり気味になる。

例の20ポンドは、結局、市内の両替所で、手数料を引かれて通用するものに交換した。手間のかかることである。

ロンドンでは、このたびも不愉快な町であった。

【注】

- 1) 樽本「中国におけるコナン・ドイル」1『清末小説』第24号2001.12.1。連載中
- 2) 興味のある方は、『清末小説から』に連載中の樽本「漢訳アラビアン・ナイト」をご覧ください。本書収録。
- 3) 周作人「学校生活の一葉」『雨天的書』香港・実用書局1967.11影印。據1933北新書局本。48-49頁
- 4) 周遐寿（作人）「二三天方夜談」附録二学堂生活『魯迅小説裏の人物』上海出版公司1954.4。323-324頁
- 5) 英国図書館での書籍請求の手順については、以下をご覧ください。
樽本「清末翻訳小説研究周辺 英国図書館における文献検索の実例」
- 6) それぞれの各論は次のとおり。
樽本「漢訳ドイル「荒磯」物語 山縣五十雄、周作人、劉延陵らの訳業」『大阪経大論集』第52巻第2号（通巻第262号）2001.7.15
樽本「ポー最初の漢訳小説 周作人訳『玉虫縁』について」『大阪経大論集』第52巻第5号（通巻第265号）2002.1.15
- 7) 周作人『知堂回想録』香港・聽濤出版社1970.7。137頁

【2005注】

ニュウズ社発行の『アラビアン・ナイト』は、英国図書館で確認したことは上に書いたとおり。のちに、インターネットの古書店から原本を、それも3冊購入することになった。同じニュウズ社版とはいっても、内容印刷製本の異なる別版があるのではないかと考えたからだ。手元に届いたのを見れば、3冊ともに同一版であった。

「童話」の漢訳アラビアン・ナイト

『清末小説から』第72号（2004.1.1）に掲載。原題「「童話」の漢訳「アラビアン・ナイト」」。児童文学としての「アラビアン・ナイト」が中国に最初に紹介されたのは、商務印書館が刊行する「童話」シリーズに収録された。1914年から1918年にかけて、4作品が刊行された。そのうち見たものはアリ・ババ、アラジン、もの言う鳥だ。既訳を要約したらしい。ただし、アリ・ババでは、盗賊の首領を殺さない。話し合いによって財宝を譲り渡すように説得する。書き換えることによって児童用の読み物となるように配慮したらしい。しかし、物語そのものが盗賊の盗品を盗むアリ・ババであり、不思議なランプにより裕福になるアリババだ。妹いじめの物語だったりして、とても児童用に適した物語とは思えない。それを無理矢理に収録するところに、当時の意識のズレを見ることができる（あるいは、現在も勘違いがつついているのかもしれない）。商務印書館発行のこの「童話」シリーズは、日本の本屋で以前に発掘したものだ。揃いではない。

中国において、児童向けの漢訳アラビアン・ナイトが、最初に出現したのはいつのことか。

この問題は、簡単なようで、そうではない。

まず、なにをもって児童向けと考えるかが問題になるからだ。

1 児童向けということ

作者が最初から児童向けだと意識して書いた作品であるならば、理解しやすい。それが漢訳されると、児童書の中国登場ということになる。

一般論として、児童を意識しないで書かれた作品が、いつのまにか児童文学に認定されてしまう、ということもある。そのばあいは、受け取る側の主観によって左右される。

だが、アラビアン・ナイトについていえば、最初から児童向けを意識していたとは思われない。

英語に翻訳されたアラビアン・ナイトにしても、時間を経て、青少年向けに書き換えられるものがでてくる。刺激的な部分を削除している版本が出版される理由だ。中国人翻訳者が、それと気づかず大人用として漢訳したときはどうなるか。どこでどう区別するのか。簡単に判断できるとは思わない。

ここでは、読者に児童を想定して原作を改変した作品ということで、とりあえず話を進めよう。もうすこし具体的にいえば、原作の大筋を保ちながらも、時には大幅に書き換え、分量は短めに編集しなおした挿絵つきのものとする。あくまでも児童を読者対象とかがえている点が重要だ。

中国におけるアラビアン・ナイト翻訳の歴史は、1900年前後からはじまった。

日本と比較すれば、時期的にみてその遅いことに、やや意外な気がしないわけではない。日本永峯秀樹訳『(開巻驚奇) 暴夜物語』(1875)よりも、約25年もおくれる。

中国で、初期にアラビアン・ナイトの漢訳をてがけた周桂笙も、あるいは『大陸報』に掲載された漢訳にしても、また、奚若訳の『繡像小説』連載も、いずれも当時の児童を直接の読者とは考えていなかった。

そう考える大きな理由は、漢訳が英文原作に忠実であろうとしているからだ。書き換え、省略などが無い。児童向け読み物という印象を受けない。

掲載誌そのものも、一般の知識人むけに編集刊行されている。児童を特に意識して編集している種類のものではない。さらには、文言で翻訳している点も理由のひとつとなる。

『繡像小説』掲載の「天方夜譚」は、その「挿絵 [繡像]」を売り物にした雑誌名からして、挿絵があっても、いい。しかし、なぜだか、それが無い。のちに「説部叢書」に収録された単行本を見ても、明らかに児童向けではないのだ。あくまでも外国文学翻訳シリーズのひとつとして扱われている。

そういう流れのなかにあって、児童用として編訳していることがはっきりしている刊行物がある。

なにしろ「童話」と銘打っているシリーズものなのだ。児童を対象として編集されていることが、それだけで了解できる*1。

2 商務印書館の「童話」シリーズ

商務印書館が刊行した「童話」シリーズは、第1集から第3集までである。

第1集は、孫毓修が主編して、私の知るかぎり第89編までが出ている（一部を茅盾ほかを担当）。その刊行期間は、1908年から1921年までとなる。

第2集は、同じく孫毓修の編集で第8編を刊行した。その刊行時間は、第1集と重複しており1910年から1918年までだ。かかった時間のわりには、刊行種類が8編と少ない。辛亥革命をはさんでいるからだろう。

第3集は、鄭振鐸編で第4編までが、1924年に出版されているらしい。第2集から時間の隔たりがある。しかも第2集をわずかに8編しか出していないのに第3集をはじめの理由がわからない。中途半端といえ、第1集も89編で中断しているのも、そうだ。

とにかく、全体は、単純に合計して全101編となる*2。

それらの題材は、中国の古典、あるいはギリシア神話、グリム、アンデルセンなどの西洋の童話、物語から得ている。白話で翻訳しているのも特徴のひとつだ。

七、八歳から十一歳くらいまでの児童を対象としていたという*3から、今でいう小学生に相当する。

児童にとってわかりやすい語句を使用しようとするれば、必然的に白話になる。啓蒙が重要な要素のひとつだから、挿絵を理解の補助として重視するのは当然だ。ただし、適切な挿絵になっているかどうかは、それぞれの作品を個別に検討する必要がある。

私が見ているのは、第1、2集のなかの少数にすぎない。

中国の規格でいう32開本に近い大きさ（19cm×13cm）の活版洋装本で、本文は24ページ前後の薄い冊子だ（第2集では42-46ページに増える）。本文20字×9行だけ

ら第1集は1冊につき約4,300字となる。挿絵を掲載しているから、その分だけ文字数はさらに減少する。

彩色リトグラフの表紙をあとから糊づけし、本文に凸版で挿絵を組み込む。細かい系でかかった簡単な製本だ。活字は比較的大きく、ゆったりと組んである。挿絵も適当に配置されており、なによりも表紙が色彩豊かでいくらか救われはする。しかし、紙質はよくなく、全体の印象は、あくまでも小冊子でしかない。

奥付に、5分という定価が明示されている。

商務印書館が1903年から発行をはじめた小説専門雑誌『繡像小説』は、1冊2角であった。活版線装本で、創刊号は石印の挿絵を含めて39葉だから、洋装本になおせば倍の78ページとなる。「童話」の24ページは、その約3分の1に相当する。値段も3分の1として計算すれば約6.7分だ。これと比較すれば、「童話」シリーズの1冊5分は、かなり低めに設定していることになる。

さて、この「童話」シリーズにアラビアン・ナイトから選択翻訳した作品が4種類*4収録されている。

3 「童話」の漢訳アラビアン・ナイト

以下に、漢訳名と原作名をかかげる（漢訳名の後ろにつけている英文は、奥付にかかげられているまゝを示す。*印の1種類は、未見）。

童話 第1集第25編

『怪石洞』(Forty Robbers Killed by One Slave)

高真長編訳 孫毓修校訂、上海商務印書館1914.8 / 1922.9八版 全23頁

“THE ARABIAN NIGHTS.” Ali Baba, and the Forty Robbers killed by One Slave.

童話 第1集第45編

『能言鳥』(The Three Sisters)

孫毓修編訳、上海商務印書館1915.12 / 1922.9五版 全19頁

“THE ARABIAN NIGHTS.” The Two Sisters who were Jealous of their Younger Sister.



童話 第1集第46編

* 『橄欖案』

(孫毓修編纂) 上海商務印書館1916?1917?

“THE ARABIAN NIGHTS.” Ali Cogia, a Merchant of Bagdad.

童話 第1集第60、61編

『如意燈』上下(The Wonderful Lamp)

孫毓修編訳、上海商務印書館1918.1 / 1922.9五版 上冊全23頁、下冊全23頁

“THE ARABIAN NIGHTS.” Aladdin, or the Wonderful Lamp.

中国では、児童むけにアラビアン・ナイトをどのように紹介したのだろうか。

この「童話」シリーズは、それを知るための材料となる。

「童話」シリーズとして字数が限られているから、原文の省略を余儀なくされる。どこをどのように書き換えるのか。それこそが編訳者の腕の見せ所である。

未見の1種類を除いた3種類について以下に紹介しよう。



第1集第25編「怪石洞」

漢訳題名が意味するのは、「不思議な洞穴」だ。しかし、物語はおなじみの「アリ・ババと40人の盗賊」である。

アリ・ババが不思議な洞窟に遭遇するのが物語の発端だから、それを訳題名にしても、おかしくはない。

この「童話」シリーズの題名は、ほぼ3字から4字におさまるように統一している。それに従ったのだろう。

「童話」シリーズは、孫毓修が、当時発行されていた英語の児童用書籍にもとづいて編纂したということになっている。

ただし、「アリ・ババと40人の盗賊」については、2種類の漢訳が先行しているのを見逃すわけにはいかない。

すなわち、萍雲（周作人）訳述、初我潤辞『侠女奴』（上海・小説林総発行所 丙午（1906年三月再版）および奚若翻訳、金石校訂「記瑪奇亜那殺盜事」（『述異小説』天方夜譚』第4冊 上海商務印書館 丙午4（1906）/1913.12再版 説部叢書1=54）だ。

固有名詞の翻訳を見れば、先行の翻訳を参照しているかどうかを知る判断材料になる。

3種類の版本について、比較一覧したものを下に示す。

	「侠女奴」	「説部叢書」	「怪石洞」
Cassim	慨星	克雪	克雪
Ali Baba	埃梨酷伯	愛里巴柏	愛里
Sesame	西剌姆	茜莎米	茜莎米
Morgiana	曼綺那	瑪奇亜那	馬奇
Baba Mustapha	麦斯塔夫	默世徳法	徳法
アリ・ババの息子	×	×	亜拉
盗賊の手下	×	×	伶俐
chalk	堊筆	白粉	白鉛粉
Cogia Houssain	苛琪亜	古奇海生	奇生

一目瞭然だろう。周作人の漢訳は、商務印書館の「説部叢書」および「怪石洞」の両者からかけはなれている。「侠女奴」は、自然に本稿の考察の対象からはずれる。

商務印書館の2種類は、固有名詞の漢訳についていえば、同一だといっていい。

「怪石洞」は、アリ・ババについては「説部叢書」の愛里巴柏を冒頭2字だけ使用する。同じ2字でも、モルギアナ瑪奇亜那は、あたまの1字を同音の別漢字におきかえただけ。ムスタファ默世徳法は、うしろの2字のみを使う。おもしろいのは、コギア・フウサインだ。盗賊の首領がアリ・ババの息子にちかづく時に使った変名である。「説部叢書」で原語に忠実な古奇海生を、2字だけ選んで奇生と省略した。いかにも中国人らしいやりかただ。

アリ・ババの息子は、本来は名前なしで登場している。それに「亜拉」と命名したのは、編訳者高真長の判断だろう。盗賊の手下にありもしない「伶俐」を名前としたのも、「伶俐」な手下という意味をもたせたかった、と考える。

固有名詞の漢訳から、「怪石洞」は、「説部叢書」本をもとにして改編されたのだろうという推測が成り立つ。

物語は、ほぼ「説部叢書」のままをなぞりながら、こまかな描写を省略していく。筋だけを追うのであれば、さしつかえはなさそうだ。6枚の挿絵も、1枚を除いて（後述）原文をそのまま反映しているといえる。

しかし、表紙が奇妙だ。カゴのようなものが積み上げられた倉庫がある。そのドアをあけ、西洋の服装をした女性が、手にポット様の容器を持って入ろうとしている*5。外には口バが群れている。これは、なにか。洞穴ではない。かりに洞穴のつもりだとしても、洞穴に女性が入っていく場面など、物語のどこにも存在しない。

あとでのべる「能言鳥」と「如意燈」の表紙が、物語の内容をほぼそのまま描いているのに比較すれば、この「怪石洞」の異なる様子がきわだつのである。

それより、もっと奇妙な部分が本文にある。書き換えなのだ。

アリ・ババ物語の名場面といえば、モルギアナが短刀を握って踊る場面もそのひとつだろう。

物語の最終部分にでてくる、いわば最高潮だ。

客人をもてなすためにモルギアナが踊る。モルギアナは、舞いながら客人を刺し殺す。なんということをしたのだ、と驚くアリ・ババ親子に、その客が盗賊の首領であることを説明する。モルギアナよ、よくやってくれた、という話の運びになる。

音楽と踊りを背景にアリ・ババ一族の命運がかかっている瞬間だ。しかも、アリ・ババ本人は、その重要さに気づいていない。モルギアナだけが、事実を知って危機を自分の才覚で乗り切ろうとしている。危機感が伝わってくる。読者が、はらはらドキドキしながら読む、あるいは耳をそばだてる場面にちがいない。

ところが、編者高真長は、それをどう改変したか。

奇妙のひとつことにつきる。

「怪石洞」は、この踊りの場面を削除した。

削除してどうしたか。踊りも舞わず、殺しもせず、盗賊との話しあいになるのだ。話しあいだから、それに添えられた挿絵は、テーブルクロスの掛かった机にアリ・ババ、モルギアナ、息子らに対面して首領が椅子にすわった図になっている。例のモルギアナが踊る場面は、ない。

コギア・フウサインと名乗ってはいるが、それが盗賊の首領であると見破ったモルギアナだった。

彼女は、事実をアリ・ババに告げる。対処のしかたを聞かれたモルギアナは、ひとつの提案をする。

「恨みは解かなければなりません。いだいてはならないのです。私たちは、結局のところ彼から利益を得ているのですから、私の考えでは、彼と交渉するのがいいでしょう。こうおっしゃるのです。あなたのあの財物は、どのみち道にはずれるものです。今、私の手を借りてこの土地で有益な事をなさるのがよろしいでしょう。今から足を洗って真人間になるのです。そうすれば双方ともにつごうがいいでしょう、と」

驚いたことに、盗賊を相手に説教をしようというのである。

これが、モルギアナがアリ・ババに勧めたことだった。

そうすると、どうなったか。

盗賊の首領は、アリ・ババの言葉にしたがい心をいれかえ、洞穴の財宝をすべてアリ・ババにわたした。それで多くの工場を建築し、多くの学校を開設して無数の貧乏人に教育をほどこし、ペルシア国内で恩恵を受けなかったところはなかった。

これでふたたび驚くことになる。

盗賊の首領は殺されず、改心して好い人間になった。これでは、まるでアラビアン・ナイトらしくない。工場、学校が、突然、出現するのも、物語の本来の時代を無視している。

奥付には、首領も殺されて「40人がひとりの奴隷に殺された」という英文表題になっているではないか。明示した題名を裏切る漢訳内容に変化してしまった。

もともとの物語では、盗賊の首領は殺される。用心深いアリ・ババは、その後、長い間洞穴を訪れることもなく、ほとぼりが冷めたころにようやく財物を取りにかけた。息子にだけ洞穴を開け閉めする呪文を教え、一族だけが繁栄した。それが、「怪石洞」では、書き換えられて本来の「邪悪」な物語の姿がなくなってしまったのである。

「邪悪」というのは現代の私の感覚でのべただけだ。盗賊の盗品を盗むのは、

正義である、という論理が通用する社会であれば、「邪悪」ではなく、正義のアリ・ババだ。

しかし、編者の高真長は、そうは考えなかったからこそ、書き換えたのではないのか。

つまり、盗賊の盗品であっても、それを盗むのは悪である、という点にこだわった。

盗賊の首領が助言によって改心することが、中国の児童の啓蒙と教育を考えたうえでの処置だというのであれば、そもそもアラビアン・ナイトを題材に選ぶこと自体が不適當だった。

第1集第45編「能言鳥」

漢訳題名の「ものいう鳥」は、原題の一部を示しているだけだ。本来は、「ものいう鳥と歌う木と金色の水」という。あるいは、「妹に嫉妬したふたりの姉」などと称される。

王様と結婚した妹に嫉妬したふたりの姉が、妹をいじめるのが物語の前半をしめる。妹が生んだ3人の子供は、姉たちによってすぐさま川に流されてしまう。姉たちがかわりに王様に示したのは、犬、猫、蛇（英文原作では材木）だった。

役人に拾われて育ったのが、ふたりの王子と王女ひとりである。3人ともに、自分が王様の子供であることを知らない。苦難のすえに入手した「ものいう鳥と歌う木と金色の水」によって、姉たちのたくらみが暴かれ、子供たちは王様のもとでしあわせに暮らした。これが物語の後半になる。

自分がどこから来たのか、出生の秘密を発見する話に宝探しが組み合わさっている。

表題にも使われている「ものいう鳥」は、文字通り人間のことばをしゃべる鳥だ。「歌う木」は音楽を奏でる。「金色の水」は水源もないのに噴水をあげつづける。鳥は知恵を、木は快楽を、水は永遠の生命をそれぞれが象徴している、などと解説することも可能になる。それよりも、命がけで入手した、ただ珍しい品物というだけの理解でもかまわない。

漢訳には、人名がでてこない。原作にある前半の宝探し部分が削除される。す

なわち、「ものいう鳥（能言鳥）と歌う木（自鳴樹）と金色の水（金色水）」を手に入れるためにふたりの王子は失敗して石に変身させられ、王女がようやく成功するという重要箇所だ。漢訳では、小冊子にまとめるためのしかたのない処理だったのである。冒険部分をもりこめば、2分冊にせざるをえない。

冒険をしないから、ものいう鳥は、はじめから王子たちの家にいることになっている。

表紙に描かれた、右の木の枝にくくりつけられたカゴの鳥がそれだ。ここは王子王女の家の中だ。左右の王子と手前の王女に、王冠をかぶったヒゲの男性が本当の父親ということになる。それを知らない子供たちが、王様を自宅に招待し、机の上に真珠をつめた胡瓜料理を出しているところまで物語に忠実だ。ただし、窓とカーテン、あるいは板敷きの床の描き方、人物の服装、調度品などアラブ風ではないところに、やや違和感を感じる。昼間であるのにローソクをともしているのが奇妙だ。

ものいう鳥の存在があまりに唐突だから、編訳者が注釈を文中につけ加える。

「もともとアラブの国には、鳥語に通じている人が多い。我が国には公治長ひとりしかいないのとはくらべものになりません。難しい事があればなんでも鳥に解決してもらおうのです」

孫毓修の苦しい説明である。鳥語に通じている人が多い、ということであれば、王子たちの家にいる鳥は、特別の鳥でなくてもかまわない。この物語が不思議なのは、人の言葉を話す鳥だからだ。それゆえ表題になっている。鳥が事の真相を知っていて、人間に説明するから物語が成立している。それを、人間の方に鳥語を理解するものが多い、ということになれば、物知りの鳥でなくてもよくなる。編訳者の説明は、命をかけて捕獲しにいったほどの「ものいう鳥」でなくてもいいことに、結果として、してしまった。これでは、物語全体の構成がガタガタになってしまう。だいいち、人間のほうが鳥語を理解してしまっただけは、表題の「ものいう鳥」にならないではないか。孫毓修は、勘違いしたのではなからうか。にもかかわらず、5版を重ねている。誰も気づかなかっただろう。

歌う木と金色の水が省略されたのも、紙幅の関係であろう。

物語のいくつかを省略するにしても、つじつまのあわせかたが厳密には行なわ

れていないといわざるをえない。改変によって物語としての統一がなくなってしまった。

奚若は同題名で、内容の省略なしで漢訳している。「童話」本が奚若訳を底本としていてもおかしくはない。

第1集第60、61編「如意燈」上下

「如意」とは、願いどおりになる、思いのままになる、という意味だ。願いをかなえてくれるランプという漢訳を孫毓修は採用した。奚若が漢訳して「神燈記（不思議なランプ）」と、にているようで少し異なる。

物語の冒頭部分を、英文原作、「説部叢書」、「如意燈」で比較対照してみよう。どれくらい変化するものかみものである。

英文原作は、フォースター Edward Forster, M. A. 版 “THE ARABIAN NIGHTS.” (ロンドンのミラー社 William Miller 第3版、1810年発行。皮革装小型本4冊)を使用する。

【フォースター】IN the capital of one of the richest and most extensive kingdoms of China*⁶, the name of which does not at this moment occur, there lived a tailor, whose name was Mustafa, and who had no other distinction than that of his trade. This tailor was very poor, as the profits of his trade barely produced enough for himself, his wife, and one son, with whom God had blessed him, to subsist upon.

中国の、もっとも豊かで広大な王国の都、今、その名前が浮かんできませんが、その都にムスタファという仕立屋が住んでいました。その仕事よりほかになんの特徴もありません。貧しく、その収入では彼自身と妻、および神のご加護によるひとり息子を養うのがやっとでした。

アラジンと不思議なランプといえ、アラビアン・ナイトを代表する作品のひとつである。小さいときから聞かされてきた物語だ。

ガランのフランス語訳にのみ見えていて、ほかの版本には収録されていないという。ガラン訳をもとにして英訳が世界中に流布していったことになる。

あれほどアラビアを代表するように思われているその舞台は、実は中国なのである。これは、意外でもありまた奇異に感じるところだろう。

多くの版本が、辮髪をたらしめた中国人たちを描いた挿絵をかかげている。

周作人が南京で学生生活を送っていた時、アラビアン・ナイトの漢訳をおもいたった。アラジンにするかアリ・ババかと迷ったが、最終的にアリ・ババを選んだのには理由があった。挿絵の辮髪を嫌って不思議なランプを漢訳の対象からはずしたのである。ゆえに、漢訳「侠女奴」がある。

ただし、「如意燈」の表紙を見てわかるように、アラジンは、トルコ風の帽子をかぶった西洋の少年である。アラジンを、トルコ風に描く挿絵は、英訳版本にもある。

Mustafa's son, whose name was Aladdin, had been brought up in a very negligent manner, and had been left so much to himself, that he had contracted the most vicious habits of idleness and mischief, and had no reverence for the commands of his father or mother. Before he had passed the yeas of childhood, his parents could no longer keep him in the house. He generally went out early in the morning, and spent the whole day in playing in the public streets with other boys, about the same age, who were as idle as himself.

ムスタファの息子はアラジンといいました。怠慢に満ちて育ち、怠惰とわるさというもっとも不道德な習慣に染まってしまい、父母のいいつけを尊敬もしません。子供時代に、両親は彼を家にいさせることができず、朝はやくから一日中、通りで同じように怠惰な同い年の仲間といっしょに遊んですごしたのでした。

英文原作を長く引用するつもりは、私には少しもない。しかし、漢訳を区切りのいいところまで示すためには、英文が長くなってしまうのだ。やむをえない。

それにしてもアラジンの生い立ちが怠惰にまみれていたというのは、児童の教育用材料としては、具合が悪いのではあるまいか。まっとうな職業にもつかず、努力奮闘することもしない。偶然入手した不思議なランプによって生涯を幸福に

暮らしたというのでは、あまり生産的ではないようにも思うが、いかがか。

先をいそぎすぎたようだ。アラジンのろくでもない生い立ちを説明して、もうすこし、英文原作がつづく。

Arrived at an age when he was old enough to learn a trade, his father, who was unable to have him taught any other than that he himself followed, took him to his shop, and began to show him how he should use his needle. But neither kindness nor the fear of punishment was able to restrain his volatile and restless disposition; nor could his father, by any method, make him satisfied with what he was about. No sooner was Mustafa's back turned, than Aladdin was off, and returned no more during the whole day. His father continually chastised him, yet still Aladdin remained incorrigible; and Mustafa, to his great sorrow, was obliged to abandon him to his idle, vagabond kind of life. This conduct of his son gave him great pain, and the vexation of not being able to induce him to pursue a proper and reputable course of life, brought on so obstinate and fatal a disease, that at the end of a few months it put an end to his existence.

仕事をおぼえるのに十分な年齢になると、自分がやってきたこと以外に教えることのできない父親は、息子を自分の店につれていき針の使い方を見せはじめたのでした。ですが、息子の移り気と落ち着きのなさという性質を抑え込むには、優しさも、脅しもなんの役にもたたなかったのです。どのような方法をもってしても、父親の満足いくようにすることはできません。ムスタファが背中をむけるやいなや、アラジンは逃げだしてしまい、一日中もどってきません。父は、彼をたえず叱りつけましたが、アラジンはあいかわらず手に負えないままでした。ムスタファは、大きな悲しみを抱いて、息子の怠惰、いわば人生の無頼漢でいるのをあきらめるほかなかったのです。息子の品行は、人生のきちんとして立派な道を求めることができないのですから、父に大きな苦痛と悩みとをもたらし、治癒不能で致命的な病気を生じさせて、数ヵ月で死んでしまいました。

アラジンの品行の悪さが、ことこまかに描写される。それが父親を死においやったというのだ。物語として、中国の児童には提供することがためらわれてもいい種類のものではないのか。

ここまでの内容を、漢訳では、どのように述べているだろうか。

言ってしまうえば、まことに簡潔に圧縮している。ご覧いただきたい。

「説部叢書」と「如意燈」の順に冒頭部分を示す。

【説部叢書】支那都極東。最富饒。有縫人默世徳法者。家於都。素貧窶。所入不能周妻子。子曰愛拉亭。愚頑不受教。日遊衢市。与群兒戯。稍長。默世徳法携之入肆。習其業。而性情且拗。不任勞。恒曠日以嬉。雖嚴督之。不顧也。默世徳法忿而成疾。旋卒。

シナの都は、東のかなたにありとても豊かでありました。そこにムスタファという仕立屋があり、都に住んではいましたがその収入で妻子を養うことができないほどに貧乏でした。息子はアラジンといいます。愚昧で頑固、人のいうことなど聞こうとはしません。街をうろつき、仲間と遊んでおりました。成長してのち、ムスタファは店で仕事を習わせたのですが、性格が怠惰で傲慢でしたから、苦勞にはたえきれず、いつもさぼっていたのです。いくら厳しく監督しても、気かけようとはしません。ムスタファは怒りのあまり病気になる、まもなく死んでしまいました。

アラジンの怠惰な性格もよくわかるように漢訳していることが理解できる。英文原作に見えるあれだけの長さの描写を、ここまで圧縮することができるのは、編訳者にその力量があるという証拠となる。

「東のかなた（極東）」は、奚若がつけくわえたのだろう。

これが孫毓修の手にかかると、さらに一段と簡略化される。

【如意燈】古時。中国極西。有一大城。城中有一裁縫。靠著手藝。養活妻子。子名垂拉亭。裁縫年老。指望兒子成立。有了幫手。自己省得操心。那知垂拉亭性好遊蕩。不務正業。裁縫又氣又急。湊著時症。就送了命。

昔、中国の西のかなたに大きな都がありました。都にひとりの仕立屋がおり、その腕前によって妻子をやしなっていたのです。その子はアラジンといいました。仕立屋は年をとっておりましたから、息子が独り立ちし、片腕になって心配しなくてよくなるようにと望んでおりました。ところが、アラジンは遊び好きで、正業にはげむつもりはありませんでしたから、仕立屋は腹を立てるし気はせくしで、おまけに流行病にかかって、とうとう命を失ったのです。

ムスタファという名前がここでは出てこない(すこし後の部分に、「黙大発」となっている。「説部叢書」の黙世徳法とは違う漢訳のしかただ*7)。

ここでは中国の「西のかなた(極西)」に方角を変える。中国であれば、西のかなたの方が物語の舞台としてはより適切だと考えたのか。

ただし、物語の場所が中国であると冒頭に説明していながら、それに添えられた挿絵のすべては、中国ではない。前述の表紙に見えるのはトルコ風のアラジンである。また、そのほかの登場人物は、アラビア風の服装をしていたり、西洋風の町並みが描かれていたり、中国を感じさせる事物は皆無である。編訳者は、話の舞台が中国ではないかのように思っているらしい。矛盾である。

それにしても、英文原作が長々と説明した部分が、上のような簡潔な漢訳になる。その省略化の腕前は、なかなかのものだと重ねていう。

アラジンは、遊んでいるときに、アフリカの魔法使いに目をつけられる。自分の欲望を実現するためにアラジンが利用できると判断したのだ。

「如意燈」では、アフリカの魔法使いというのを、孫毓修自身が文中に出てきて説明する。

「みなさん(看官)、その人ははたしてアラジンの叔父さんだと思いますか。私が本当のことを言いますと、その人はアフリカからやってきた魔法使いなのです。ムスタファには、どうしてこのような弟がいましょうか。今、彼が親族だといつわっており、アラジンによいことがあります。みなさん、あわてなざるな。のちのお楽しみ」

編者が作中にしゃしゃり出てきて解説をするのは、まるで旧小説のようだ。新

しいかたちの「童話」シリーズだと思うのだが、孫毓修の意識は、かなり古い。

叔父だとだましてアラジン連れだした魔法使いは、歩き疲れるほどの遠くの場所で、火をたいて呪文をとる。大地がわけて洞穴の扉が姿を現わす。アラジンが開ける。奥まで続いているようだ。ランプに灯がともっているから、それを消し、油を抜いて持ってこい。これがアラジンに魔法使いが命じたことだった。

ランプを手に入れたアラジンは、帰る途中で石でできた果物の美しさに見せられていくつもとった。

漢訳では、木から果物をもぎ取る様子を描いた挿絵をかかげている。しかし、洞窟のなかであるのに、普通の庭園のように描いている。編者と絵師の連絡がうまくいっていないことを暴露しているとしかいいいようがない。

魔法使いが待っている。まずランプをわたせ、いや、自分が出るのが先だ、と言い争いになる。

ここでもまた孫毓修が出てきてランプの説明をはじめるのである。

「みなさん、このランプは普通のものではないことを知らなくてはなりません。願いをかなえてくれるランプ「如意燈」というのです。この世でもっとも不思議な品物で、それを手に入れた人は、お宝のたまる鉢「聚宝盆」、金のなる木「揺銭樹」よりももっと役に立つのです。……」

中国人の児童には、「聚宝盆」「揺銭樹」を例にだしたほうが理解しやすいという判断だったのだろう。

ランプを手渡そうとしないアラジンに腹を立てた魔法使いは、呪文をとるため洞穴の扉を閉めてしまった。

アラジンは、地下に閉じこめられる。

「さてこれが「如意燈」の始まりの歴史であります。彼はどのようにアラジンを救出するのでしょうか。どのように彼の不思議な力を発揮するのでしょうか。まことに1冊では書き切れません。なにとぞ「如意燈」下冊をご覧ください」

上冊をこう締めくくれば、まことに旧小説のままなのである。

下冊の冒頭に、またしても孫毓修が出てきて説明を始める。

これが、長い。



母親、アラジン（中央）
ランプの奴隷（右）

アラジンがランプを手渡さないものだから、魔法使いは怒ってアラジンを地中にとじこめた。なぜ、魔法使い自身がランプを取りにいかなかったのかと質問されるかもしれない、とはじめる。

「編集者としての私は、もともとが魔法使いではありませんから、みなさん方の質問に答えることはできません。しかし、本書に書いてあることによりますと、魔法には多くのタブーがあり、ニセ叔父が不思議なランプを取り出すには、自分で手を出してはよくないことがあるにちがいないのです。……」

魔法使いは、アラジンからランプを手に入れたあとは、アラジンを地中に埋めるつもりだった、という推測までの述べている。

描写を省略したから、編集者による説明をつけくわえることが必要だという考えなのだ。親切といえば親切だといえよう。だが、重ねられた描写をたどることにより、説明されていない部分を読者が推理する楽しみがある。それこそが読書の喜びではないのか。孫毓修は、その快楽を読者から奪っている、ということも

可能だ。

地中に閉じこめられたアラジンは、洞穴に入る前に魔法使いからもらった指輪の力で、無事、自宅にもどることができた。

ランプを売って食料を買うことにし、母親はよごれをきれいに落とそうとこする。出てきたのがランプの奴隷である。

孫毓修がよった原本には、ランプの奴隷を描いた挿絵はついていなかったのだろうか。普通に見られる挿絵ではないからだ。つまり、一見していかにも魔物である、という感じがしない。

ここにかかげられた挿絵には、ランプの奴隷はそこらにいる一般の成人男性にしか見えない。羽根飾りのようなものがついた帽子をかぶっている。ヒゲをはやし、長上着を身にまとして、裸足だ。漢訳では、醜悪な顔つきをして雷のような声の「怪人」としか説明していない。この説明では、人間の姿をした怪人を描いたとしてもしかたがないともいえる。

母親は倒れて右手をあげて驚きの表情を浮かべている。アラジンも腰をぬかし、かたわらにはランプがころがる。窓の外には植木が見え、この空間だけがアラビア風ではない。舞台が中国なのだから、外の風景は中国だ、といったところで、それは説得力をもたない。登場人物のすべてが西洋人である矛盾を説明できはしない。

食事を取り出させるためにだけランプの奴隷を使っていたアラジンだった。

ある日、アラジンは、街でみかけた王女を好きになる。母親に宮殿にいった求婚してくるようにたのむ。その時に持たせたのが、あの洞穴からとってきた宝石の果物である。

王様は、すでに王女を大臣の息子と結婚させる約束をしていたにもかかわらず、宝石に目がくらんだ。3ヵ月待つように命じる。

その3ヵ月の間に、実際は王女と大臣の息子は結婚式をあげている。しかし、アラジンに命じられたランプの奴隷は、結婚式の夜、王女たちふたりを運び出してじゃまをするのだ。それをくりかえし、すっかり恐怖にかられたふたりは結婚を中止するのだが、孫毓修の漢訳ではこの部分すべてを削除してしまう。そのまま3ヵ月後にふたたび母親が宮殿を訪問する場面につづく。

王様が母親に要求したというのが、40の大きな金の盆に宝石を山盛りにし、40名の黒人奴隷と40名の白人奴隷をきれいに着飾らせろというものだった。

「如意燈」下冊の表紙絵が、この風景を描いている。黒人奴隷たちが頭に盆をのせ、行進している。盆には宝石が満載されているのがわかる。原文では金の盆だが、表紙では赤色で塗られている。先頭の盆には赤い珊瑚が描かれているから宝石だと見当がつく。ただ、画面の左は水色に塗られているから、川辺か海辺なのだろう。なぜ、水辺の風景でなければならないのか、理解に苦しむ。

王様の要求を実現したから、アラジンは王女との結婚を許された。ふたりで住む豪華な宮殿をただちに新築する。ランプの奴隷に命じて造らせたのはいうまでもない。

うわさが例のニセ叔父の耳にとどいた。不思議なランプをどうにかして奪おうと考えをめぐらせる。

アラジンが宮殿を留守にしている間に、ニセ叔父は、古いランプをタダで新しいものに交換すると呼びわり、アラジンの宮殿から不思議なランプを入手することに成功した。

アラジンの新宮殿は、王女ごと影も形もなくなる。消失してしまった。アフリカに移されたのである。

アラジンは、王様に40日の猶予をもらい王女をさがすことにした。

さがし疲れて川に身を投げて死のうとしたとき、指輪に気がついた。当然のように指輪の奴隷に宮殿と王女を取り戻すように命じる。しかし、これほどの大仕事は、不思議なランプでなくてはできない、せいぜいが王女のところに連れていくくらいだ、というのでそうなる。

アラジンが購入した薬を酒に混ぜ込み、ニセ叔父に飲ませる。意識を失ったすきに懐にいれて持ち歩いていた不思議なランプを取り戻す。ランプの奴隷を呼びだし、宮殿をもとの場所に移すように命じた。

孫毓修の漢訳は、まるで断ち切ったようにここで終わる。

本来はあるはずの、王様と王女の感激の再会、一部始終の説明、王女たちが無事帰還したことにたいする国中のお祝いも、すべて省略される。

私が子供のころに聞いた「アラジンと不思議なランプ」は、ここで物語が終了

する。

めでたしめでたしで終わってどこが不足か、と言われるかもしれない。だが、それ以後も話が続いている。思いもしないことだ。

ニセ叔父、すなわちアフリカの魔法使いには弟がいて、兄よりも極悪であったというのだ。アラジンは、兄の仇を討とうという弟のたくらみをうち砕き、逆に殺して難を逃れる。これがフォースター版である。

奚若訳「神燈記」は、アフリカの魔法使いの弟についても省略することなく、そのまま漢訳していることを指摘しておきたい。

「童話」シリーズに収録されたアラビアン・ナイトは、普通によく知られた物語であるといえる。

4 いくつかの疑問

ただし、それらの内容を個々に吟味すれば、腑に落ちない箇所もある。

アリ・ババが洞穴の秘密を知ったのは、偶然であった。女奴隷のモルギアナの機転により、盗賊たちを滅ぼして財宝を自分のものにする。盗賊だから殺してもいい、という社会の掟だろうか。たとえ原作がそうだとすると、それを中国にそのまま移植できるだろうか。まっとうな人間のすることではない。

漢訳者が、それに薄々気づいて、最後部分を話し合いで解決するように改変した。したけれども、不正義という印象をぬぐうことができない。

アラジンは、子供とはいえ怠け者でどうしようもない遊び人だ。彼が不思議なランプを手に入れたのも偶然である。偶然こそが重要だ。努力することなしに、富と権力を自分のものにする。金持ちになるのが偶然ならば、日頃の地道な精進などは、ばからしくてしてられないということにならないか。

もうひとつの物語は、嫉妬にかられた姉たちの理不尽な妹いじめである。しかも、子供たちは、その出身によって最終的に幸福を獲得することになる。

外国の民話として成人が楽しむ分には、なにも差し支えはない。

しかし、児童向けの読み物としては、いかがなものか。

啓蒙だというならば、この社会が、基本的に不合理で不公平であることを教え

ることが目的である、とでも主張するつもりだろうか。

だから、書き換えていますというか。書き換えが必要なものは、いくら有名であろうとも最初から児童用の書籍に収録すべき性質のものではないだろう。

ただし、未見の「橄欖案」は、以上の3作とは違う。裁判もの、それも賢い児童が関係している。それほど広く知られてはいないかもしれない。だが、これこそ児童が読み、聞くにふさわしい。

「童話」シリーズが、児童の啓蒙を目的にして刊行されているとすれば、アラビアン・ナイトならばすべてが児童用として無条件に与えることができると考えてはならない。

【注】

1) この「童話」シリーズについては、茅盾とのからみで、以前、紹介したことがある。樽本「茅盾の『童話』」『中国文芸研究会会報』第27号1981.4.1

2) 孫建江『二十世紀中国児童文学導論』（南京・江蘇少年児童出版社1995.2）の「第三編児童文学思潮／第一章世紀初存照：翻訳と改編」に「童話」シリーズについて言及がある。それには、全102種と見える（156頁）私のいう101編と、数字が一致しない。

「童話」第3集第2編には、2種類が掲げられている。沈徳鴻（茅盾）訳「十二個月」（初出未見。鄭振鐸編『鳥獸賽球』上海商務印書館1923.1）および鄭振鐸編『鳥獸賽球』（上海商務印書館1923.1。未見）だ。「十二個月」が『鳥獸賽球』に収録されているらしい。種類のうへでは別物であるから、第3集は5種類となり孫建江のいう102種と数のうへでは一致することになる。（2003.10.12追記。鄭振鐸編『鳥獸賽球』を確認した。「十二個月」は収録されているが、該書そのものは「童話」シリーズとは関係がない。ゆえに「十二個月」も「童話」第3集とも関係がないことになる。結局、孫建江のいう数字とは一致しない）

3) 孫建江『二十世紀中国児童文学導論』157頁

4) 孫建江は、沈徳鴻（雁冰）、孫毓修編訳『金龜 The Tortoise who Talked』（上海商務印書館1919.12/1921.9再版 童話1=88）もアラビアン・ナイトものだと書いている（157頁）。ただし、その原作が不明だ。胡從経は、『晚清児童文学鈎沈』（上海・少年児童出版社1982.4）において「《金龜》系《天方夜譚》中之一則」（232頁）と説明した。孫建江は、ここらあたりを参照したのかもしれない。蔣風、韓進著『中国児童文学史』（合肥・安徽教育出版社1998.10）も「童話」に言及する（112-116頁）。

- 5) 欧米の風俗を反映した挿絵をもつ日本語訳のアラビアン・ナイトについては、杉田英明「『アラビアン・ナイト』翻訳事始 明治前期日本への移入とその影響」(東京大学大学院総合文化研究科・教養学部『外国語研究紀要』第4号(1999)2000.3.31)を参照されたい。
- 6) ラウトレッジ社1877年版は、the name of which does not at this moment occur を削除する。のちの別版では、China が Cathay に置き換えられているものもある。
- 7) アリ・ババで登場するムスタファは、Mustapha だ。アラジンのムスタファは、Mustafa で綴りが異なる。ただし同じ発音だから、「説部叢書」では両者ともに同じ「黙世徳法」を当てて統一したようだ。

「天方夜譚」小考

『清末小説から』第76号(2005.1.1)に掲載。英語の題名である“THE ARABIAN NIGHTS”を漢訳して、なぜ「天方夜譚」となるのか。林則徐「四洲志」から魏源「海国図志」をへて巖復までの文献に「アラビアン・ナイト」の言及をさぐりながら、「天方夜譚」が出現するまでを考察する。その過程で、ヒュー・マレー『地理学百科事典』を翻訳したはずの林則徐「四洲志」が、原文を恣意的に選択して「アラビアン・ナイト」を紹介していることをはじめて指摘する。小説名を追求していった、まさか、林則徐、魏源にいたるとは思いもしなかった。しかも、問題が完全には解決していないというのがいささか不満である。調査を継続する。

はじめてのウイーンなのに、通りのあちこちになつかしい空気を感じる。ホテルを出た左手すぐのシュテファン寺院を目前にすると、嗅覚が刺激されてそう思う。子供のころの風景がよみがえってきそうな感覚だ。あるはずのない不思議さを味わいながらペスト記念柱をあとにしてしばらく歩いてから気がついた。観光用馬車が落としていった馬糞のニオイが原因だった。興奮の気持ちで書店に入る。当地でのアラビアン・ナイトにはどのようなものがあるのか知りたいという単純な理由からだ。女性店員にたずねると、そんなものは聞いたことがない、とけんもほろろのお言葉である。子供でも知っているあのアラビアン・ナイトなのだ。わけのわからぬ対応をされて、なにかおかしいと頭をよぎる。好色本だと思われたのではないか。私は意外に思う。

漢語に翻訳されたアラビアン・ナイトを調べていて、中国では好色本の扱いは

されていないとわかっている。その種類の発想からは、もともと無縁の存在なのである。

それにしても、“The Arabian Nights' Entertainments”あるいは“The Arabian Nights”を漢訳して、なぜ「天方夜譚」なのか。

「一千(零)一夜」というのならわかる。“The Thousand and One Nights”、または“The Thousand Nights and One Night”を直訳すれば、そうなる。

清末の辞書を見れば Arab は「亜喇伯人，無家者，亜喇伯馬」である。“The Arabian Nights”はそのまま「亜喇伯夜譚」ではないか。

周桂笙が「一千零一夜」と翻訳して次のように説明している。すなわち、書名はもともと「阿拉伯夜談笑録」であって「一千零一夜」はその俗称である、と*1。「阿拉伯夜談笑録」は、“The Arabian Nights' Entertainment”を漢訳してまことに自然な題名だということができる。

中国で広く知られているのは、奚若訳の『天方夜譚』(商務印書館 丙午(1906)年四月/1913.12再版。説部叢書初集第54編)だ。その「序」には、「天方夜譚、または一千一夜という。アラビアの著名な小説である。天方夜譚。亦曰一千一夜。為阿刺伯著名説部」と解説する。アラビアを阿刺伯と音訳するならば、これを利用して「阿刺伯夜譚」となってもいい。

あるいは、「天方」がアラビアの古称だというなら、別の古称「大食」を使って「大食夜譚」「大食国夜譚」ではいけなかったのか。

アラビアン・ナイトの漢訳が発行される以前、中国の文献は、該作品をどのように紹介しているのだろうか。今では定着している「天方夜譚」という作品名が出現するまでの状況をさぐる。

1 林則徐のばあい

中国の著作のなかでアラビアン・ナイトに言及するものに、林則徐の「四洲志」*2がある。

「四洲志」といっても文芸評論の著作ではない。地理書だ。世界諸国の実情を紹介した外国事情案内書である。なぜ、このような地理書にアラビアン・ナイト

が出てくるかといえば、理由は簡単だ。外国事情の紹介なのだから、文芸方面を紹介して、そういう作品があるというだけのこと。

とにかく、アラビアン・ナイトの題名だけでも出ていますという程度の記述を含めて、中国では、「四洲志」が一番古いらしい*3。

近有小説謂之《一千零一夜》，詞雖粗俚，亦不能謂之無詩才。

近頃、「一千零一夜」という小説がある。言葉は粗雑ではあるが、詩の才能がないということとはできない。21頁

作品名だけで内容の紹介は、ない。だが、たしかにアラビアン・ナイトである。いうまでもないが、その頃、漢訳はまだなされていない。

欽差大臣に登用された林則徐は、1839年、アヘン禁止のために広州に到着した。これが、発端である。彼は、諸外国の実情を知る必要を感じた。外国の事情を知らなければ、交渉もなにもありはしない。最新の情報を求めた。人員を組織して新聞、書籍を翻訳させ、外国にくわしい人々から事情聴取をすることにする。その翻訳成果のひとつが、「四洲志」なのだ。「……イギリス人慕瑞著の『世界地理大全』を幕僚に翻訳させ、みずから脚色、編集して『四洲志』が成った」*4。

ここで幕僚といっているのは、翻訳の仕事に従事した亜孟、袁德輝、亜林、梁進徳らを指すのであろう*5。

アジア、アフリカ、ヨーロッパ、および南北アメリカはひとつに数えて4大陸、すなわち「四大洲」の主要国家を紹介するところからその題名になっている。1841年には、全部の原稿が完成していた。アラビアン・ナイトに関する箇所は、「阿丹国」に見える。

もとづいた原本は、ヒュー・マレー Hugh Murray 『地理学百科事典 AN ENCYCLOPAEDIA OF GEOGRAPHY』(London, 1834)だ*6。

ただし、「四洲志」は、原本『地理学百科事典』を直訳したものではないという。随所に林則徐の見解をまじえているのだそうだ。

さきに示したとおり、アラビアン・ナイトを紹介して「言葉は粗雑ではあるが、詩の才能がないということとはできない」という表現があった。言葉は少ないがア

ラビアン・ナイトについての評価になっている。書き方からして、いかにも、林則徐の見解のように見える。林則徐が原作についての知識を持っており、彼独自の評価を下した、と思えなくもない。

事実、アラビアン・ナイトについてのこの記述は林則徐の見解だ、と考える人がいる。「四洲志」にアラビアン・ナイトがでてくると指摘した孟昭毅その人である。

孟昭毅は、ガランのフランス語訳、アラビア語原本のカルカット版、プーラーク版、ブルクシュタールのドイツ語訳、バートンの英訳などを列挙し、「林則徐のいう「近頃、「一千零一夜」という小説がある」とはどの版本を指しているのかわからない」という*7。

これでは、林則徐がフランス語ばかりか各国語に通じていたことになる。ありえない。

にもかかわらず、「言葉は粗雑ではあるが、詩の才能がないということはできない」は、林則徐の考えだと断定して孟昭毅は疑わない。当時の知識人が外国の文献を読むと思うことこそが現実離れしている。それよりも、彼は、「四洲志」に英語の元本があったことを知らないらしい。

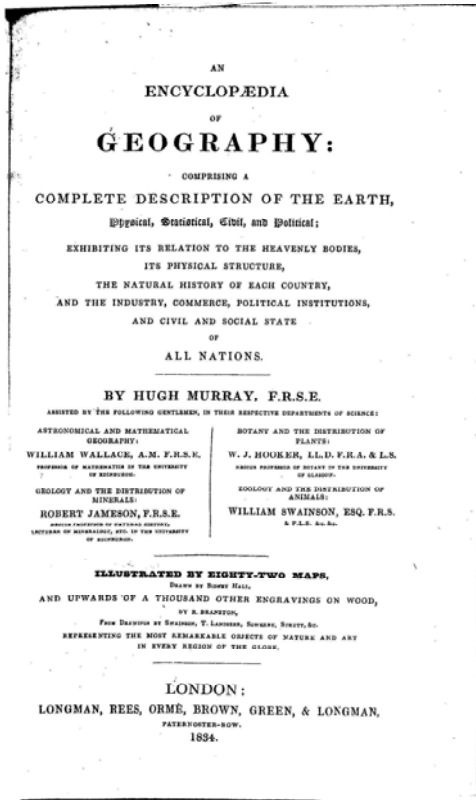
林則徐の考えかどうかを確かめるためには、このばあい、その拠った原本を見るのが普通の手順である。

2 マレー 『地理学百科事典』

ヒュー・マレーの『地理学百科事典』*8初版は、2冊本、通しノンブルで1,567頁もある。ついでにいうと、1838年版は、活字をわずかに大きくして、判型も拡大し、第1冊597頁、第2冊592頁、第3冊624頁（索引を含む）の合計1,813頁にのぼる大冊だ。「四洲志」は、原文に大幅な削除と圧縮をくわえて要約していることがわかる。

百科事典のアラビアに関する記述は、パート 、ブック 、アジアの第3章に見える (pp.916-927)。

先に示したアラビアン・ナイトが出てくる箇所は、以下のとおりだ（下線は樽本）。



マレー 『地理学百科事典』

3899. The Arabic, akin to the Hebrew and the Persian, ranks among the classic *languages* of the East. The distinguished works, however, which have raised it to this eminence, were produced out of the limits of Arabia, in the splendid courts founded by the Mahometan conquerors. Yet the spirit which breathes in them is still to a great extent Arabian. The perpetual movements among this multitude of little tribes, their wanderings, their feuds, their wars, the comparative estimation of the female sex, have generated a spirit of romance and adventure affording scope for the imagination. The tale, in listening to which the Asiatic, as he reclines at ease in the coffee-house, finds his most refined and animating amusement, seems to be the form of composition carried by their writers to the greatest perfection. The stories, indeed, so celebrated under the name of the

which the inner is reserved for the females. Here, unless when the husband receives visits of ceremony, they go about almost as freely as European females. In the cities, on the contrary, they never appear in public without a veil, like that of the Egyptians, having only two holes for the eyes to peep through. It is a remark, that Arabian women often maintain great sway over their husbands, and even hold them in open subjection.

3898. *The religion of Mahomet*, which originated in Arabia, still maintains undisputed sway; and Christians, who were once numerous, are now so completely extirpated, that Niebuhr could not hear of a single church existing. The *Sunites* and the *Shiites*, who divide between them the empires of Turkey and Persia, and wage such mortal hostility about they know not what, have also their respective districts in Arabia. The *Sunites* rank foremost, having always had in their possession the holy cities of Mecca and Medina. The *Zeidites* and the *Beiaris*, two native sects, reign in the eastern territory of Ommon. These, though they unite in acknowledging the authority of Mahomet and the Koran, have, like other religious sects, some differences, in virtue of which they account themselves the only acceptable worshippers, and all others as heretical and profane. A much more mild and tolerant spirit, however, animates the sects peculiar to Arabia, and is thence communicated to those of foreign origin. They are not affected by the same hostile feelings towards those of other religions, and are strangers to that furious spirit of proselytism which rages among the Mahometans in general. Contempt towards foreign sects has with them three gradations: it falls lightest on the Christians; on the Jews next; and heaviest of all on the Banians. The Christians, when they appear in the character of merchants, the only capacity in which Europeans of any consideration usually resort to this country, experience little difference of treatment on account of their faith; and even the Banians, on the same footing, are allowed to settle, and carry on, in Ommon, extensive traffic. Lately, the Wahabite sect, whose political influence has already introduced them to our notice, had absorbed nearly the whole of central Arabia; but their contest with Mohammed Ali, and his triumphant success, have now reduced their influence to a very low ebb.

3899. *The Arabic*, akin to the Hebrew and the Persian, ranks among the classic languages of the East. The distinguished works, however, which have raised it to this eminence were produced out of the limits of Arabia, in the splendid courts founded by the Mahometan conquerors. Yet the spirit which breathes in them is still to a great extent Arabian. The perpetual movements among this multitude of little tribes, their wanderings, their feuds, their wars, the comparative estimation of the female sex, have generated a spirit of romance and adventure affording scope for the imagination. The tale, in listening to which the Asiatic, as he reclines at ease in the coffee-house, finds his most refined and animating amusement, seems to be the form of composition carried by their writers to the greatest perfection. The stories, indeed, so celebrated under the name of the *Thousand and one Nights*, were produced at Bagdad, under the brilliant reign of Haroun Alraschid. That work has, however, a basis of Arabian ideas mingled with those inspired by a splendid and mercantile capital. The romance of *Antar*, lately introduced to the British public, was produced within Arabia itself; and, though of ruder construction, and less suited to the general taste of mankind, is by no means destitute of poetical merit. The Arabians have still poets, who celebrate the exploits of their sheiks; but none of these can dispute the palm with the ancient bards of the nation. The works upon astronomy, history, geography, and medicine, by which Arabian writers have distinguished themselves, were produced at Bagdad, Fez, and Cordova; and these sciences, in Arabia itself, have always been and are in a very low condition. The first elements of knowledge, however, are pretty generally diffused. Schools are attached to every mosque; and there are others, by means of which many, even among the lowest of the people, learn to read and write. The schools are merely sheds, open toward the street, in which the scholars repeat their lessons aloud, undisturbed by what is going on without. Printing, however, has not made any progress; and the Arabs, who value themselves on an easy and flowing mode of writing, dislike the stiff appearance which their characters make when they issue from the presses of Europe.

SECT. VII. Local Geography.

3900. *In making the circuit of Arabia*, we shall begin with the region at the head of the Red Sea, one of the most desert tracts of this desert land; yet a celebrated and sacred spot, where rise the holy mounts of Horeb and Sinai. The wilderness in which they are situated is most gloomy, presenting long ranges of rugged and precipitous rocks, intersected by deep valleys, at the bottom of which are found the only traces of verdure. Sinai is ascended by a very steep route, which in many places is rendered practicable only by steps cut in the rock. The summit is marked both by a Christian church and a Mahometan mosque; and this combined veneration is further cherished by a pretended impression made in the rock by the foot of the camel on which Mahomet was conveyed up to heaven. Sinai can boast of two spacious convents erected on opposite sides of the mountain, for the reception of the numerous pilgrims by whom it was once visited. The largest, called the Monastery of the Forty

Thousand and one nights, were produced at Bagdad, under the brilliant reign of Haroun Alraschid. That work has, however, a basis of Arabian ideas mingled with those inspired by a splendid and mercantile capital. The romance of *Antar*, lately introduced to the English public, was produced within Arabia itself; and, though of ruder construction, and less suited to the general taste of mankind, is by no means destitute of poetical merit. The Arabians have still poets, who celebrate the exploits of their sheiks; but none of these can dispute the palm with the ancient bards of the nation.

アラビア語は、ヘブライ語、ペルシア語と同種であり、東方の伝統言語に分類される。しかし、この言語を高みに押し上げた顕著な作品は、アラビアの境界外、すなわちマホメット教の征服者によって建設された華麗な王宮において作成された。もっとも、それらのなかに息づいている精神は、大部分のアラビア人のなかに、まだ存在している。小部族のこの人々に共通する絶え間のない活動、すなわち彼らの放浪、抗争、戦争、また女性についての比較推定は、空想の領域を押し広げながら恋愛と冒険の精神を生み出した。喫茶店でくつろいで横になったアラビア人が、もっとも洗練され生き生きとした楽しみだと考えて聞き入っている物語は、それらの作者たちによって偉大な完成に到達した組み合わせ形式のように思われる。もちろん、「千一夜物語」の名前で有名な物語は、バグダッドで、ハルウン・アル・ラシッドの素晴らしい統治時代に制作された。しかしながらその作品は、輝かしくしかも商業的な資本によって発生したものとなない交ぜになったアラビア人の発想の原理を維持している。「アンタル物語」の恋愛は、近頃、イギリスの人々に紹介されたが、アラビアの内部で制作された。構成がやや粗雑であり、人々の一般的好みにはいささか適さないとはいえ、詩的長所がとぼしいというわけでは決してない。アラビア人にも彼らの族長の功績を公表した詩人はいる。しかし、古代の詩人たちよりも勝るものはひとりもない。..... p.294

引用部分についていうと、初版と1838年版とでは、ほとんど同文である。ただ、3カ所が異なっている。冒頭の The Arabic とつづく languages を初版では斜体

に組んでおり、1838年版では、普通の書体にもどす。また、初版の Haroun Alraschid を1838年版では Haroun al Raschad^{ママ} に書き換えている。

文中にてでくる「アンタル物語」は、ものの本によるとアラビアの民間文学のひとつで語り物だという。

引用を見ればわかる。百科事典には、もともとアラビアン・ナイトについての説明があった。「四洲志」にある関連の文章は、林則徐の見解を挿入したものでない。

では、漢訳の質は、どうだろうか。

「四洲志」の当該部分を下に示す。英文にほどこした下線部分は、漢訳にしめした下線とほぼ共通している。要約の程度がどれくらいのものか、一目瞭然である。わずか102文字の漢字に圧縮されている。

阿丹音語与由斯及巴社等相似，其書籍近多散軼。因先日奪得外地建造部落時，尽将著名書籍先運往貯；及至地失，而書亦遂淪。本国人復又著輯，論族類，論仇敵，論攻撃，論遊覽，論女人，以至小説等書。近有小説謂之《一千零一夜》，詞雖粗俚，亦不能謂之無詩才

アラビア語は、ユダヤ語とペルシア語などに似ている。その書籍は、多くが散逸してしまった。昔、外地を獲得して部落を建設したとき、著名な書籍をことごとく運搬して貯蔵した。土地を失うと、それによって書籍も消滅した。本国人はふたたび、部族、仇敵、攻撃、遊覽、女人について論じ、小説などの書を編集著作した。近頃、「一千零一夜」という小説がある。言葉は粗雑ではあるが、詩の才能がないということはいできない

「四洲志」の翻訳は、『地理学百科事典』を下敷きにしてはいるが、元本の記述は原形をほとんどとどめていない。似たような表現がいくつかあるから、かろうじて原文の箇所をつきとめることができたくらいだ。

書籍の散逸についての記述は、原文を誤解している。

漢訳で、これはひどいと思うのが、まさにアラビアン・ナイトについての箇所であるのには驚く。

英文原作では、アラビアン・ナイトと「アンタル物語」のふたつを例にあげているのがわかるだろう。ところが、「四洲志」は、アラビアン・ナイトからは書名だけを抜き出し、「アンタル物語」からその評価部分だけを取り出して、両者をむりやり結合させてしまった。アラビアン・ナイトを紹介して、別の作品の評価をかぶせているのである。不適切な翻訳であることは、いうまでもない。

原文を適当に要約したのは「四洲志」の漢訳担当者なのか、それとも責任者の林則徐が編集段階で削除したのかはわからない。

どちらにしても、林則徐とその漢訳者たちは、アラビアン・ナイトを読んでいたわけではなさそうだ。もし、英訳本でも手元があれば、上に見るような乱暴な漢訳はしないだろう。だが、当時の中国の知識人には、小説、それも外国の作品を読む習慣は、基本的になかった（習慣が変化するには、もうすこし時間を必要とする）。だいいち、林則徐は外国語ができなかった。だからこそ、外国事情を知るために英文資料を漢訳させる必要があったのだ。

結論としていうことができるのは、こうだ。

「四洲志」に見えるアラビアン・ナイトに関する記事は、そのよった『地理百科事典』の原文を、ねじ曲げて漢訳したものだ。林則徐をはじめとして、作品の内容を知る人はいなかった。ただし、「一千零一夜」という書名が出てくる例として、最初の文献だということ是可以する。

「四洲志」の原稿は1841年には完成していた。だが、中国において広く知られるようになるのには、魏源の著作を媒介とする必要があった。

3 魏源のばあい

林則徐は、広東に着任するとアヘン販売、吸飲を嚴重に取り締まった。さらに、外国商人所有のアヘンを没収し、アヘン商人を国外に追放する。イギリス政府はこれに抗議し、1840年、アヘン戦争が始まる。林則徐は、戦争を惹起した責任を問われ、欽差大臣を免職されたうえ、1841年、イリ追放の処分をうけた。

林則徐は、イリへ行く途上、友人魏源に会い「四洲志」の原稿およびその他の資料を彼に渡して編集整理を依頼した。それらの資料を基礎に編纂したのが『海

国図志』*9である。

以上のいきさつのとおり、1841年の「四洲志」は、原稿のままであって単独で刊行されたことはない。未刊の「四洲志」が著名になったのは、魏源が編集してのちに刊行する『海国図志』に収録されたからである。

魏源は、該書の序の冒頭において、林則徐「四洲志」をおもな材料のひとつにしたことを明らかにしているのだ。具体的には、「四洲志」の原稿を『海国図志』のしかるべき個所に分けて配置した。その箇所には、「欧羅巴人原撰ノ侯官林則徐訳ノ邵陽魏源重輯」と記されている。このヨーロッパ人というのは、ヒュー・マレーを指すのだろう。林則徐訳とあるが、彼自身が翻訳をしたわけではない。翻訳集団の代表者として名前があがっている。

『海国図志』は、1844年に初版50巻本が発行された。魏源は、さらに増補しつづけて1847年に60巻本を、1852年に100巻本を編纂刊行した。そこまで巻数が増加したのは、彼が不断に材料を追加していった結果であるのはいうまでもない。ただし、中国の古い記録を選択収録して紙幅が増えただけで、世界情勢を知るうえで役に立たなかったという批判がある。

それはそれとして、「四洲志」は、『海国図志』の普及によって広く知られるようになった。

幕末日本において、『海国図志』は、一時期、海外事情の知識を得る書物のひとつとして珍重されたこと、部分復刻して大いに読まれたことは周知のことだ*10。

アラビアン・ナイトが出てくる「阿丹国」は、『海国図志』巻二十四「西南洋」の冒頭にある。

ここに引用された「阿丹国」は、いま手元にある『四洲志』とほぼ同文である。ごくわずかに字句の異同があるのは、「四洲志」を収録した「小方壺齋輿地叢鈔」による省略とか誤記によるものなのだろう。「四洲志」のものの姿は、原稿を取り込んだ『海国図志』に見ることができると考えるよりほかない。

魏源が『海国図志』で補った資料は「阿丹国」についていうと、『万国地理全図集』、『地球図説』、『地理備考』、『外国志略』などだ。さらに、「西印度西阿丹国沿革」を別に章立てしていて、各種資料のなかには「天方」という名称が頻繁にでてくる。そればかりか、巻二十五では、「各国回教総考」、「天方教考上」、

「天方教考下」を編集しており、その増補の様子もうかがうことができる。

「四洲志」でアラビアン・ナイトを紹介した箇所は、『海国図志』にも、同じ字句でたしかに存在する（773頁）。

『海国図志』の発行年、すなわち1844年から1847年、1852年にわたって、初版より増補のたびに同一の文面が登場した。文章を修正したあとがない。訂正しようにも、魏源は、アラビアン・ナイトについて、なんの知識も持たなかったというのが事実であろう。

こうして、『海国図志』の普及にともなって、漢訳名の「一千零一夜」だけが、中国の知識人に知られていった。作品内容の紹介もない。ましてや、漢訳がされることもなかった。ここからは、漢訳題名の「天方夜譚」が出てくる余地がない。

書名の「一千零一夜」のみが知られていたという状態は、魏源の『海国図志』初版が出た1844年から巖復の訳書『穆勒名学』が出現する1903年まで、約60年間にわたってつづいた。

4 巖復のばあい

巖復がアラビアン・ナイトに言及するのは、ジョン・スチュアート・ミル JOHN STUART MILL の『論理学体系』（“A SYSTEM OF LOGIC, RATIOCINATIVE AND INDUCTIVE”1843^{*11}）の漢訳においてである。書名を翻訳して『穆勒名学』^{*12}という。

「穆勒」はミルの音訳だ。「名学」は、logic を意識したもの。日本語になおせば、『ミル論理学』となる。

『名学』だけでも書名として十分成り立つ。著者名の穆勒を織り込んだのはなぜか。おなじ論理学の著作で、日本語から重訳した『名学』（東京日新叢編社1902.5。未見）があるらしい^{*13}。これと区別するためかもしれない。

英文原作（巻名に日本語訳をつけておく）と巖復の漢訳部分を対照すると以下のようになる。

英文原作

／巖復漢訳

- INTRODUCTION. (序) §1-7 / 部首 第1-7節
- BOOK . OF NAMES AND PROPOSITIONS. (名称論と命題論) 1-8 / 部甲
篇1-8 (第1部第2章第5節)
- BOOK . OF REASONING. (推理論) 1-7 / 部乙 篇1-7
- BOOK . OF INDUCTION. (帰納法) 1-25 / 部丙 篇1-13
- BOOK . OF OPERATIONS SUBSIDIARY TO INDUCTION. (帰納を補助する操作) 1-8
- BOOK . ON FALLACIES. (虚偽論) 1-7
- BOOK . ON THE LOGIC OF THE MORAL SCIENCES. (人倫科学の論理学)
1-12

巖復が漢訳したのは、原本の約半分である。

アラビアン・ナイトが巖復の翻訳に見えるといっても、事情は、すこし複雑である。なぜなら、その出版時期と中国におけるアラビアン・ナイト漢訳の公表が微妙に重なるからだ。巖復は、中国で公表された漢訳アラビアン・ナイトを目にしているかどうか。翻訳の過程を、こまかく追跡する必要がでてくる。

上の対照表で「 」に示しておいた第1部第2章第5節に問題のアラビアン・ナイトが登場する。これを念頭において、巖復の翻訳過程を見てみよう*¹⁴。

巖復がミルの『論理学体系』を翻訳してほしいと依頼を受けたのは、1900年秋のことだった。依頼者は、金粟齋訳書局の蒯光典である(孫151頁)。

1901年9月18日(八月六日)付張元濟あての手紙で、「名学」部甲を翻訳しおえたと報告している(孫166頁。『巖復集』第3冊544頁)。

1902年3月(二月)、「穆勒名学」前半部を翻訳しおわる(孫176頁)。

1903年2月 『穆勒名学』部甲が南京の金粟齋より木刻で出版された(孫196頁。皮236頁では2月、皮341頁では1月とする)。

1901年には、問題の「名学」部甲を翻訳しおわっていることに注目しておきたい。

さて、ミルの『論理学体系』第1巻第2章第5節である。問題の箇所は、以下のように書かれている。

If, like the robber in the Arabian Nights, we make a mark with chalk upon a house to enable us to know it again, the mark has a purpose, but it has not properly any meaning. The chalk does not declare anything about the house; it does not mean, This is such a person's house, or This is a house which contains booty.

アラビアン・ナイトの盗賊のように、あとで識別できるようにチョークで家にシルシをつけるとすれば、そのシルシは意図をもってはいるけれど、かならずしも適切な意味をもっているわけではない。チョークは、その家についてなにも言明してはいない。これはそのような人間の家である、あるいは、盗品を収めている家であるとは意味していない。p.22

「アリ・ババと40人の盗賊」を例にしているとわかる。広く知られた物語だ。一般にはそれ以上の説明は、必要ではない。1840年代のイギリスには、アラビアン・ナイトの英訳本が多く出版されていたからだ。

この原文を、巖復は、以下のように翻訳した。

《天方夜譚》者，大食志怪之書也。[巖復注]言盜以屋灰識別居人屋廬。其所為亦儘識別而已，非屋灰能言“是中有可欲者”抑“此為某富人居”，為群盜利市也。

アラビアン・ナイトは、アラビアの怪異を記した書物である。[巖復注]盗賊がチョークで家を見分けることをのべる。その行為は見分けるだけのことで、チョークが「この中に欲しいものがある」あるいは「ここが某金持ちの家である」といっているわけではなく、盗賊の利益のためだ。31-32頁

「《天方夜譚》者，大食志怪之書也」というのは、それだけで巖復の説明をふくんでいる。そこを除けば、ほぼ英文に忠実な漢訳になっているとすることができる。

注目してほしいのは、漢語訳のなかで私が[巖復注]と示した箇所だ。ここに

は、巖復の手になる注釈がほどこされている。英文には、当然ながら存在していない。

イギリスの読者は、説明ぬきで「アリ・ババと40人の盗賊」だと理解する。しかし、中国人読者にとってアラビアン・ナイトそのものが未知の作品だ、という判断が巖復にはある。だからこそその注釈なのだ。

冒頭をもういちどくりかえし、それにつづく〔巖復注〕の部分掲げる。

《天方夜譚》者、大食志怪之書也。(《天方夜譚》不知何人所著。其書言安息某国王，以其寵妃与奴私，殺之後，更娶他妃，御一夕，天明輒殺無赦。以是国中美人幾尽。後其宰相女自言願為王妃，父母涕泣閉距[拒]之，不可，則為具盛飾進御。夜中鷄既鳴，白王言[嘗]為女弟道一古事未盡，願得畢其說就死。王許之。為迎其女弟宮中，聽姉復理前語。乃其說既吊詭新奇可喜矣，且抽繹益長，猝不可罄，則請王賜一夕之命，以褒[廣]統前語。入后轉勝，王甚樂之。如是者至一千有一夜，得不死。其書為各国伝訳，名《一千一夜》。《天方夜譚》誠古今絶作也，且其書多議四城[西域]回部制度、風俗、教理、民情之事，故為通人所重也。)

アラビアン・ナイトは、アラビアの怪異を記した書物である。(アラビアン・ナイトは誰が書いたのかわからない。西域のある国王は、寵愛する妃が奴隷と通じたためこれを殺したのち、別の妃をめぐって1夜はべらせ、夜が明ければそのつど殺害してゆるさなかった。そのため国中の美女はほとんどいなくなった。のち、その大臣の娘が王妃になりたいと自ら願いでたため、父母は泣いて止めたがだめだった。盛大に飾りたててはべる。夜中に鶏が鳴くと、妹に昔話を語っていてまだ終わっていない、話し終わって死にたいと王様に告げた。王様がそれを許したので、妹を宮中に迎え、姉が言葉をついで話すのを聞くと、その内容は不思議で新奇でおもしろい。ますます長く、終わりそうもない。そこで王様に命乞いをして語り続けることにした。ますますおもしろく、王様はおおいに楽しんだ。このようにして一千一夜が過ぎ、死なずにすんだ。その書は各国に翻訳され「一千一夜」という。アラビアン・ナイトは、まことに古今の傑作である。その書はよつつの都市のイス

ラムの制度、風俗、教理、民情を多く記載しているため、通人の重視するものとなっている) 31-32頁(孟昭毅は「四城」に注をつけて「アレクサンダ、バグダッド、カイロ、ダマスカス(指亜歴山大城、巴格達、開羅、大馬士革)」という。153頁)*¹⁵

「その書は各国に翻訳され「一千一夜」という。アラビアン・ナイトは……」と文章が区切られているからそのままにした。ただし、蔣瑞藻が収録した文章は、これとは区切り方が異なっている。「その書は各国に翻訳され「一千一夜」あるいは「天方夜譚」という」となる。こちらのようにも理解できる。同じく蔣瑞藻は、「四城」ではなく「西域」としているから、その表記だとよっつの都市よりも地域が拡大することになる。

この注釈において巖復が要約してのべているのは、アラビアン・ナイトの物語の発端から全体の構造についてだ。

巖復がアラビアン・ナイトについて知っていたことは、上の記述から理解できる。ただ、アラビアン・ナイトそのものを読んでいたのか、それとも、別の資料から仕入れた知識なのかは、判別がつかない。

彼が「《天方夜譚》者，大食志怪之書也」と書いているところを重視したい。

書名であるアラビアン・ナイトを漢訳して「天方夜譚」という漢字を当てている。別に「一千一夜」という書名があるという認識も、巖復にはある。それを、題名には、あえて「天方夜譚」の方を採用した。

巖復の『穆勒名学』部甲が出版されたのが、1903年2月であったことを思い出してほしい。原稿は、1901年には完成していた。

当時、アラビアン・ナイトの漢訳がどれくらい出ていたかということ、不思議なことに、1903年に集中している。

英穀徳訳、錢楷重訳『航海述奇』(文明書局 光緒二十九(1903)年。未見)は、単行本としては早いもののひとつだ。ただし、「天方夜譚」という名称を使っているかどうかは、わからない。

周桂笙訳の「一千零一夜」は、物語のはじまりから「漁者」に続いている。はじめ新聞に連載され、のちに上海周樹奎桂笙戲訳、南開吳沃堯阡人氏編次『新菴諧訳初編』(上海・清華書局 光緒二十九(1903)年孟夏(四月))に収録された。

初出の新聞連載は1903年以前のはずだ。だから、漢訳としては、巖復の『穆勒名学』に先行する。だが、書名は「一千零一夜」なのだ。しかも、彼は注して「書名はもともと「阿拉伯夜談笑録」であって「一千零一夜」はその俗称である」と書いていた。「天方夜譚」のかけらも、ここにはない。

おなじく、「一千一夜」と題するものが、『大陸報』第6-10期（光緒二十九年四月初十日(1903.5.6) - 七月初十日(1903.9.1)）に連載された。

ここまでは、「一千零一夜」のみが使われている。

「天方夜譚」が登場するのは、雑誌の連載である。

奚若翻訳、金石校訂「三囑稜達五幼婦」すなわち、バグダッドの軽子と3人の女 The History of three Calenders, Sons of Kings, and of five Ladies of Bagdad が、『繡像小説』第11期（癸卯九月初一日(1903.10.20)）より、「天方夜譚」という統一題名のもとに漢訳の連載がはじまった。

『繡像小説』第11期には、1903年10月20日の発行日が印刷されている。巖復『穆勒名学』部甲の出版が1903年2月であるのよりも遅いのだ。

こう見ていくと、「天方夜譚」という書名は、これら翻訳のどれよりもはやく、巖復の訳書に出現していることがわかる。

以上の資料によれば、「天方夜譚」を最初に使用したのは、巖復であるといってい。では、彼は「天方夜譚」をどこから持ってきたのか。残念ながら、これを証明する文献は、今のところ発見されてはいない。

【注】

- 1) 『吳趸人全集』第9巻。哈爾濱・北方文藝出版社1998.2。329頁
- 2) 林則徐著、張曼評注『四洲志』（北京・華夏出版社2002.10）を使用する。本書は、「小方壺齋輿地叢鈔」再補編に収録されたものを底本にしている。ただし、「小方壺齋輿地叢鈔」が「四洲志」を採取した経過については、説明がない。
- 3) 孟昭毅「世界瑰宝《天方夜譚》」、『絲路駢花——阿拉伯波斯作家与中国文化』銀川・寧夏人民出版社2002.8。153頁
- 4) 張曼「《四洲志》評介」。前出『四洲志』。1頁
- 5) 鄒振環「12通過《海国図志》影響国人的《四洲志》」、『影響中国近代社会的一百種訳作』北京・中国对外翻訳出版公司1996.1。40頁。張曼「《四洲志》評介」。前出『四洲志』。5頁

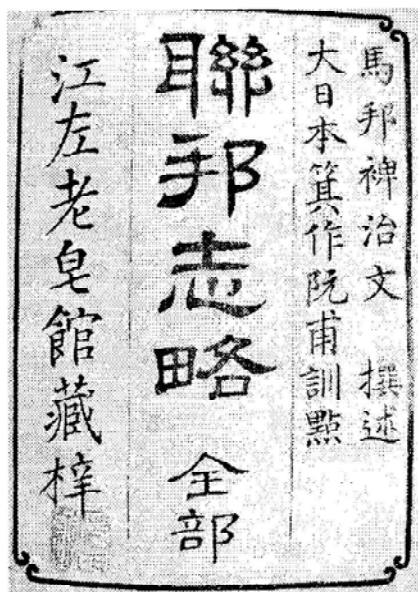
6) 本稿を準備しているとき、「四洲志」の原本について別の書籍を示す文章を、偶然、読んだ。

八木正自「幕末日本人の海外知識 / 『海国図志』と横井小楠を中心に」(『日本古書通信』第69巻第7号(通巻900号)2004.7.15. 26頁)である。次のように書いてある。「……『四洲志』は、米国公理会最初の中国派遣伝道師ブリッジマン(E. C. Bridgman 裨治文)の著した『聯邦志略』が原本。ブリッジマンは、1830年に広東に着任し、月刊“The Chinese Repository”(1832-)を刊行、新訳聖書の漢訳完成にも参画し、大きな業績を残した宣教師でした。英文綴りを見ればブリッジマンだとわかる。日本で翻刻した版本に箕作阮甫が「ブリヂメン」と読みをつけているのをそのまま使用したらしい。(以下の記述は、いくつかの著作を参考にした。文献名は、この注の最後に掲げる)

ブリッジマン(Elijah Coleman Bridgman, 1801-1861)は、中国の知識人むけにアメリカ合衆国の政治、経済、文化を紹介する著作を書いた。それが『美理哥合省国志略』である。高理文 Coleman 名を使用。英語書名は、“A Brief Geographical History of the United States of America”、一説に“Brief account of the United States of America”あるいは“A History of the United States”と一定しない。漢語が原文だからだろう。シンガポールの堅夏書院より1838年に刊行された。ハーバード燕京図書館所蔵の初版本は125頁27巻だという。初版本は、のちの『海国図志』『瀛環志略』などに参照されてもいる。ブリッジマンの該書は、修訂版を刊行するとき改題した。(美)裨治文著『大美聯邦志略』(墨海書館1861)である。初版以外のものについては諸説がある。王立新は、1844年香港第2版で『亞美利格合省国志略』と改題し、1861年上海第3版で『聯邦志略』に改めたとする(296-297頁)。鄒振環は、1844年香港版は『亞墨理格合省志略』といい、初版と同版の1846年廣州版『亞美理駕合衆国志略』などを掲げる(81頁)。

日本で翻刻された『聯邦志略』は、『大美聯邦志略』を原本とする。ただし、箕作阮甫の手によってキリスト教関係部分のすべてが丁寧に削除されていることが明らかにされている(杉井六郎「『大美聯邦志略』の翻刻」京都女子大学史学会『史窓』第47号1990.3.26)。李曉傑は「高理文《美理哥合省国志略》探究」(『或問』第27号2004.3.30)の注18において、この箕作本と『大美聯邦志略』は、内容が完全に一致していると書く(此日本版内容1861年上海墨海書館的内容完全相同)33頁。李曉傑は、原本どうしを照合したはずなのに、箕作本がキリスト教関係部分を削除している事実には気づかなかっただろう。

以上の出版状況をみれば、林則徐が「四洲志」を編纂するにあたって、アメリカ部分について初版の『美理哥合省国志略』を参照した可能性はある。しかし、「四洲志」の原本だとするのは、当たらない。また、のちの改訂版である『(大美)聯邦志略』の書名をあげるのは、発行年との関係で、適当ではないように思う。私がいまさらのように書かなくて



【同志社大学所蔵】



【原本未見】

も、すでに、つぎのような指摘がある。「鮎沢信太郎氏や尾佐竹猛氏が林則徐の翻訳した四州志の原本は即ち E. C. Bridgman の著書であつたとしているのは明らかに誤りである」(北山康夫「海国図志とその時代」『大阪学藝大学紀要』A. 人文科学 第3号1955.3.20. 97頁)

増田渉「日中文化関係史の一面 5 『海国図志』『聖武記』など」『西学東漸と中国事情 雑書』札記 』岩波書店1979.2.22. 31-38頁

増田渉『雑書雑談』汲古書院1983.3.10

顧長声『伝教士と近代中国』上海人民出版社1981.4

顧長声『従馬礼遜到司徒雷登 来華新教伝教士評伝』上海人民出版社1985.8. 20-49頁

熊月之『西学東漸と晚清社会』上海人民出版社1994.8

吉田寅『中国プロテスタント伝道史研究』汲古書院1997.1.20

王立新『美国伝教士と晚清中国現代化 近代基督新教伝教士在华社会文化和教育活動研究』天津人民出版社1997.3

吉海直人「『聯邦志略』について」同志社女子大学『総合文化研究所紀要』第15巻 1998.3.31

馬祖毅「第5章第1節 組織翻訳の第一人 林則徐」『中国翻訳史』上巻 漢口・湖北

教育出版社1999.9

鄒振環『晚清西方地理学在中国 以1815至1911年西方地理学訳著的伝播与影響為中心』

上海古籍出版社2000.4。79-85頁

- 7) 孟昭毅「世界瑰宝《天方夜譚》」120頁
- 8) 2種類を使用する。“AN ENCYCLOPAEDIA OF GEOGRAPHY” LONDON: LONGMAN, REES, ORME, BROWN, GREEN, & LONGMAN, 1834の2冊本。“THE ENCYCLOPAEDIA OF GEOGRAPHY” PHILADELPHIA; CARRY, LEA, AND BLANCHARD. 1838の3冊本
- 9) 魏源『海国図志』3冊(長沙・岳麓書社1998.11)を使用する。本書は、1852年の100巻本を底本にしている。
- 10) 『海国図志』について本稿で参照したのは、以下の文献である。

百瀬弘「海国図志小考」『典籍論集：岩井博士古稀記念』岩井博士古稀記念事業会1963.6.30

佐々木正哉「『海国図志』余談」『近代中国』第17巻 1985.7.31

高虹『放眼世界：魏源与《海国図志》』瀋陽・遼海出版社1997.8

李巨瀾「魏源与《海国図志》」『海国図志』鄭州・中州古籍出版社1999.1

岩田高明「『海国図志』の西洋教育情報」『安田女子大学大学院文学研究科紀要』第8集 2003.3.31
- 11) LONDON. GEORGE ROUTLEDGE AND SONS, LIMITED. 1892、NEW YORK, TORONTO. LONGMANS, GREEN AND CO., 1925、および LONDON, LONGMANS, GREEN, AND CO., 1886 影印本を使用する。
- 12) (英) 約翰・穆勒著、嚴復訳『穆勒名学』(北京・商務印書館1981.10 嚴復名著叢刊)を使用する。
- 13) 鄒振環「55《穆勒名学》与清末西方邏輯学訳訳熱潮」『影響中国近代社会の百種訳作』北京・中国对外訳訳出版公司1996.1。201頁
- 14) 参照した文献は次のとおり。それぞれ(孫*頁)(皮*頁)と略記する。

王栻主編『嚴復集』全5冊 北京・中華書局1986.1

孫応祥『嚴復年譜』福州・福建人民出版社2003.8

皮后鋒『嚴復大伝』福州・福建人民出版社2003.10
- 15) ほかに、蒋瑞藻「天方夜譚」(『小説枝談』上海・古典文学出版社1958.6。196-197頁)にも引用されている。字句の異なる箇所は[]で表記する。

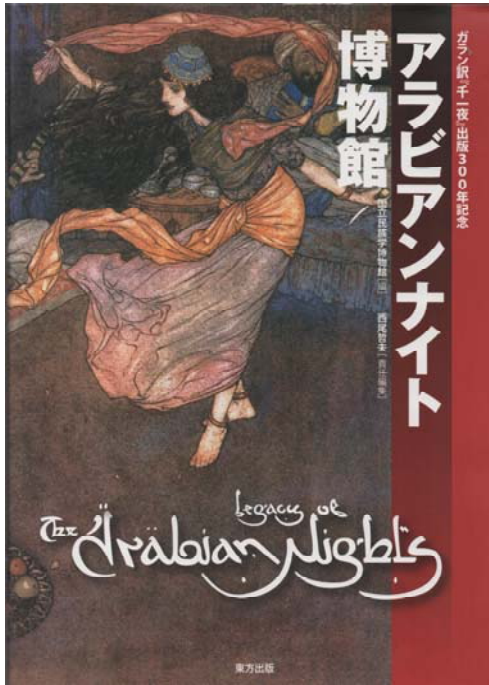
中国における「アラビアン・ナイト」

国立民族学博物館編『アラビアンナイト博物館』（東方出版2004.9.8）に掲載。掲載時は「中国におけるアラビアンナイト」に変更された。今、元にもどす。「アラビアン・ナイト」が中国語に翻訳された歴史を簡単に述べる。『アラビアンナイト博物館』は、2006年に韓国で翻訳出版された。

東西文化が交流する新疆地区で、18世紀には「アラビアン・ナイト」のウイグル語訳がでていたという。それに比べれば、中国語訳の出現はずっとあとになる。

中国において「アラビアン・ナイト」が翻訳されるのは、1900年前後からのことだ。日本の永峯秀樹訳『(開巻驚奇) 暴夜物語』(1875)から約25年も遅れる。最初の中国語訳は、周桂笙訳「一千零一夜」だ。もともと『采風報』に掲載された。『新庵諧訳初編』上巻(1903)に収録されたのを見れば、物語のはじめから「黒島王の話」までの部分訳にすぎない。簡潔な文言を使用し、原文に忠実な翻訳である。もつづいた原本については「書名はもともと「アラビアの夜の談笑録(アラ伯夜談笑録)」といい、「一千零一夜」はその俗称である」としか書いていない。調べてみれば、英訳タウンゼンド版が底本だとわかる。

1900年代の清朝末期から中華民国にかけて、中国で出版された「アラビアン・ナイト」の翻訳は、ほとんどが英訳本にもつづいている。同じタウンゼンド版によっているのが佚名訳「一千一夜」で、『大陸報』(1903)に載った。これも文言による部分訳である。単行本では、シンドバードの7つの航海部分だけが『航海



2004年版



2006年韓国版

述奇』(文明書局1903。未見)として出版されているという。

周作人が学生のときに翻訳した「侠女奴」は「アリ・ババと40人の盗賊」だ。『女子世界』(1904)に連載し、のちに同名の単行本となる(小説林社1905)。萍雲女士という筆名を使った。底本はロンドン・ニューズ社発行の1冊本だと彼は回想しているが、記憶違いだ。女奴隷モルギアナについて恣意的な書き換えを行なった箇所がある。

ある程度まとまった中国語訳といえば、『繡像小説』連載の「天方夜譚」になる。天方はアラビアの古称だ。『繡像小説』(1903-06)は、上海の商務印書館が発行する中国で最初の近代的小説雑誌である。梁啓超が亡命先の日本で創刊した雑誌『新小説』(1902-06)に影響されて出現した。線装本である。本文は活版で石版印刷の挿絵(=繡像)をかかげて特色とする。「天方夜譚」は、『繡像小説』第11期(1903)から第55期まで、約三年間にわたって連載された。ただし、物語の途中からはじまる。周桂笙の先行翻訳と重複するのを避けたためだ。不思議なのは、

『繡像小説』が挿絵を売り物にしているにもかかわらず、「天方夜譚」については挿絵がない。

1906年、雑誌連載時には省略した物語のはじめの10話を加え、『東方雑誌』にも掲載した分をあわせて単行本が4冊で刊行された。それでも全50話にすぎない。単行本で訳者が奚若であることを明らかにした。説明して「ラウトレッジ社の刊行した版本で、レイン氏のものにもとづいている」と書いているが正確ではない。英文と比較対照すれば、ラウトレッジ社のフォースター版を底本とし、注釈をタウンゼンド版から取り入れていることがわかった。

奚若の翻訳は、外国文学の翻訳シリーズ「説部叢書」に収録され、「述異小説」という角書と第六集第4編の番号を与えられた。のち、初集第54編と番号が変更される。上下2冊本が「訳述者 奚若 / 校註者 葉紹鈞」と表紙にかかげられて上海・商務印書館(1924)より出版されている。その「新学制中学国語文科補充読本」という表記を見れば、多くの生徒に読まれたとわかる。「万有文庫」(1930未見)、また「万有文庫第一二集簡編五百種」(1939)は、上下2冊本で奚若訳、葉紹鈞校の焼き直した。児童を特に意識したものに、1910年代の「童話」シリーズがある。アラジン、アリ・ババなど4種類が、本文を簡略化して入っている。

アラビア語からの直接訳は、納訓の商務印書館5冊本(1940-41未見)、人民文学出版社3冊本(1957未見)、同6冊本(1982)のほかに鄧溥浩、李唯中らのものがある。

『漢訳アラビアン・ナイト論集』

清末翻訳小説研究が進まない理由

『としょかん』第74号（大阪経済大学図書館2006.10.1）に掲載。樽本『漢訳アラビアン・ナイト論集』を自分で解説する。『漢訳ホームズ論集』を自著解説した（『清末翻訳小説論集（増補版）』所収）のと同趣旨。

アラジンの不思議なランプ、アリ・ババと40人の盗賊、知ってる、それが何か？といわれるに決まっている。

だが、それらのアラビア語原作が存在しない、と聞けばどうか。そうそう、フランス語に翻訳したガランの訳本にのみ収録してあるのだ、と説明する人がいれば、その人は一般よりも多くの知識を持っているということができる。

幼児向けの絵本から、漫画、映画、アニメまで全世界に広まっているアラビアン・ナイトである。しかし、少年少女を読者に想定する刊行物には、本来の刺激的な部分を大幅に削除するなど改変改作している版本がある。逆にいえば、原作の刺激的な部分を強調した出版物も存在する、という簡単な理屈だ。ただし、後者については公に語られることがあまりない。

さぐっていけば複雑な翻訳の歴史が横たわっている。その複雑さゆえに未知のまま残された分野として中国で翻訳されたアラビアン・ナイトの研究がある。

中国では、多数の中国文学研究者が活動しているのはいうまでもない。自国の研究分野だから当然だ。その規模は、研究者の数からいっても日本では考えられないくらいに大きい。ゆえに、中国の学界において、いまだに未開拓の研究分野があると指摘しても、納得しがたいのではないか。

私が興味をもっている清末小説、そのなかでも特に翻訳小説研究は、その数少ない分野のひとつである。こう紹介するのは、いつも心が痛む。

理由のひとつは、簡単だ。すでに言いくたびれた。清末小説の原本がそれほど保存されていない。時期的に見れば、日本の明治後期にあたる。中国の歴史は古すぎて、ついこの前の時代に発行された膨大な数の書籍は、図書館には収容しきれなかったらしい。原本なくして研究ナシ。当たり前すぎて書く気にもなれない。

資料不足、あるいは不備という一般的な理由のほかに、清末翻訳小説研究には、もうひとつの不振理由がある。

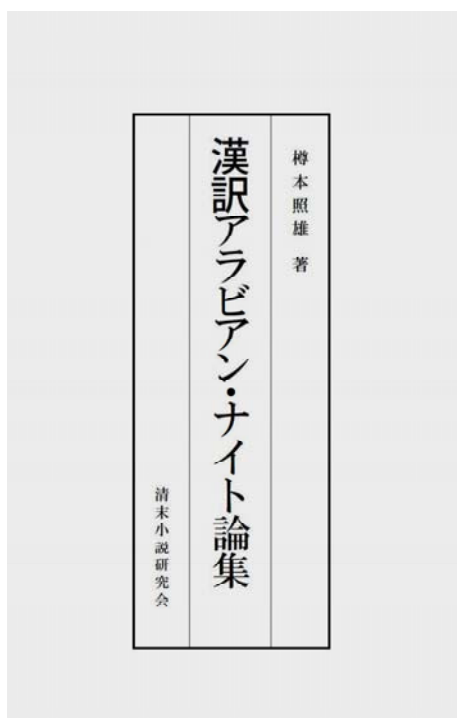
外国語原書を入手するのが困難である。こちらについては、私は理解しないわけではない。特定の作家、古典の著名な外国作家であれば公的機関に所蔵されている可能性がある。だが、改編改訳された英訳アラビアン・ナイトは、必然的に多数の版本が複雑に入り交じって存在している。これをまとめて収録する公的機関は、英国図書館、日本の国立民族学博物館などいくつかの例外をのぞいて、あまりないのではないか。これも資料不足、あるいは不備の部類に入れることができる。

私のいうもうひとつの不振理由とはそうではなく、研究者自身の問題なのだ。

清末小説は、中国人であれば自国の文学に違いない。その人たちにとっては、翻訳文学は、外国のものだという意識をぬぐいさることができない。中国文学を研究しているわけで、外国文学が清末に翻訳されたのであれば、その研究は外国文学の専門家がやるべきだ。そう考えているらしい。研究任務を勝手に分担するのである。ここには外国語問題も横たわっている。はっきりいえば、外国語を理解しない人は研究しようにも手の出しようもない。だから、自国の文学ではない、と強調したいのだろう。では、外国語ができる専門家は、アラビアン・ナイトを研究するかといえば、それはする。だが、それ自体が外国文学研究であって、中国における翻訳史まではなかなか手がまわらない。

というわけで、資料の面からいっても研究者の意識からいっても、翻訳小説研究は、今まで顧みられることの少ない、まさに研究の空白地帯として存在している。空白は、空白ゆえに注目されることもない。

批判をしてそれですむ問題ではなかろう。理想を語れば問題が解決するわけで



2006

もない。それヤレ、と旗を振ることが研究ではないのだ。旗振りしかしない人の顔を思い浮かべながら、重要なのは、自らが実践することだとなつてゆく。

どれくらい空白であるかを例によって示そう。

魯迅の弟周作人は、と書くと作人に失礼だ。彼の兄が周樹人、すなわち筆名魯迅である。周作人は学生時代、英語の勉強をかねて「アリ・パバと40人の盗賊」を漢訳した。原本は、日本に留学中の魯迅が弟のために送ってきた書籍の中に入っていた。該書は英語で、ニュウズ社の挿絵本であった、と彼はくりかえし証言している。ゆえに、周作人研究の専門家は、そのままを引用する（1例は、張菊香、張鉄栄『周作人年譜

(1885-1967)』天津人民出版社2000.4。57頁)。

ところが、私がロンドンの英国図書館に足をはこんでニュウズ社本を見れば、作人が書くものとはまったくの別物であった。つまり、中国の専門家は、原物で確認する手間を惜しんだ。あるいは、確認するという発想がない。さらにいえば、発想があるにしても実行する状況になかった。ただし、もしそうであるならば、普通は「未確認」と注記するだろう。やはり、発想そのものがないと考える。

周作人の漢訳アリ・パバに言及するたびに、年譜のこの誤った記述を引用される編者には気の毒なことだ。しかし、事実なのだからしかたがない。

以上のような作業　漢訳のもとになった原書を探索することから、私の翻訳小説研究は始まる。当たり前のことをやっているだけだ。その結果が『漢訳アラビアン・ナイト論集』（清末小説研究会2006）になった。英文原作を探求しながら、翻訳の質を検討する詳細な論文集である。

内容が推測できるように目次を掲げる。

【目次】

漢訳アラビアン・ナイト

中国におけるアラビアン・ナイト / 周桂笙の漢訳 / 『大陸報』の「一千一夜」 / 「航海述奇」は未見 / 『繡像小説』の「天方夜譚」 / 商務印書館版奚若訳『天方夜譚』の検討 / 英文原本の探求 3 / 結論

周作人漢訳アリ・ババ「侠女奴」物語

英文原本の探求 1 / 英文原本の探求 2 / 周作人漢訳の検討 / 漢訳底本の確定にむけて / 周作人の改作部分について

「童話」の漢訳アラビアン・ナイト

児童向けということ / 商務印書館の「童話」シリーズ / 「童話」の漢訳アラビアン・ナイト / いくつかの疑問

「天方夜譚」小考

林則徐のばあい / マレー 『地理学百科事典』 / 魏源のばあい / 嚴復のばあい

(附録) 漢訳アラビアン・ナイト目録

中国におけるアラビアン・ナイト

『図説児童文学翻訳大事典』第4巻翻訳児童文学研究（大空社、ナグ出版センター 2007.6.27）に掲載。今、表題を改める。中国におけるアラビアン・ナイト受容を児童文学の側面から述べる。本書所収の「「童話」の漢訳アラビアン・ナイト」と一部重複する。

1 中国語訳名

英語での呼称に「アラビアン・ナイト」と「千夜一夜物語」があるように、中国語訳でも「天方夜譚」（天方はアラビアの古称）と「一千零一夜」の二種類がある。時間的にいうと「一千零一夜」の使用例が早い。ただし、はじめは書名が伝えられるだけだった。

清朝時代の一八三九年、アヘン禁止のために皇帝から特別に任命された林則徐は、広州に到着した。彼は、諸外国の実情を知る必要から情報を収集しそれを翻訳する。その成果のひとつが「四洲志」だ。もとづいた原本はヒュー・マレー著『地理学百科事典』（一八三四）である。

原本があるとはいえ、そのままを翻訳したわけではない。記事内容を圧縮して、「一千零一夜」という小説がある、とだけ述べる。林の原稿は、一八四一年には完成していたが公開されなかった。

林則徐の原稿を受け継いだのが、友人の魏源だ。彼はそれを整理して『海国図志』に収録した。これにより「四洲志」の内容が伝わることになる。一八四四年に初版五〇巻本が発行され、以後、一〇〇巻本まで増補された。該書は幕末日本において、海外事情を知るための書籍として珍重されたのは周知のことだろう。

『海国図志』の普及にしたがって書名の「一千零一夜」だけは知られるようになった。書名だけならば、清朝末期の著名な翻訳家厳復の手によるジョン・スチュアート・ミル『論理学体系』(中国語訳『穆勒名学』一九〇三)の例もある。原著にアラビアン・ナイトが出現しており、厳復は、「天方夜譚」という名称をあたえた。

「天方夜譚」と「一千零一夜」の二種類があるということは、英訳原本をそれぞれ反映しているということだ。

以上は、書名だけの伝播である。内容の翻訳は別人の手によって実現した。

2 中国語訳の歴史

中国においてアラビアン・ナイトが翻訳されるのは、一九〇〇年前後からのことになる。日本の永峯秀樹訳『(開巻驚奇)暴夜物語』(一八七五)から約二五年も遅れる。

最初の中国語訳は、周桂笙訳「一千零一夜」だ。新聞『采風報』に掲載された。今この新聞を見ることはできない。その掲載が一九〇〇年前後だと予想されるだけだ。のちの『新庵諧訳初編』上巻(一九〇三)に収録されたのを見れば、物語のはじめから「黒島王の話」までの部分訳にすぎない。簡潔な文言を使用し、原文に忠実な翻訳である。もとづいた原本については「書名はもともと「アラビアの夜の談笑録(阿拉伯夜談笑録)」といい、「一千零一夜」はその俗称である」としか書いていない。調べてみれば、英訳タウンゼンド版が底本だとわかる。

一九〇〇年代の清朝末期から中華民国にかけて、中国で出版されたアラビアン・ナイトの翻訳は、ほとんどが英訳本にもとづいている。

同じタウンゼンド版によっているのが佚名訳「一千一夜」であり『大陸報』(一九〇三)に載った。これも文言による部分訳である。訳本についての説明があつて珍しい。ガランのフランス語訳、スコットの英訳、フォースター訳、レイン訳などに言及している。中国語訳の底本については、多く作られた英訳のうちのどれか、という問題がついてまわる。訳者が某版だと書いていても原本を見れば違っていることがある。また、最初から底本とした英文原本を明記しないばあ

いが多いからである。

単行本では、シンドバードの七つの航海部分だけが『航海述奇』（文明書局一九〇三。未見）として出版されているという。日本東京で印刷されているから日本語からの重訳ではないかと推測するむきもある。また、スコット訳に拠っていると解説にあるともいう。原本を見る機会がないからいずれについても判断することができない。

周作人が学生のときに翻訳した「侠女奴」は「アリ・ババと四〇人の盗賊」だ。萍雲女士という筆名を使い、雑誌『女子世界』（一九〇四）に連載した。これはのちに同名の単行本となる（小説林社一九〇五）。周作人が、当時翻訳したのは、ポー、ドイルなどの作品だった。これにアラビアン・ナイトのなかの一篇が加わる。翻訳傾向が一定しないのは、彼が学生であり、翻訳は英語の学習を目的としていたためだと考えられる。

東京に留学中の兄周樹人（筆名のひとつが魯迅）から送られてきた英語学習参考書にまじってアラビアン・ナイトがあった。それは、ニューズ社発行の一冊本だった、と彼は数回にわたって回想している。アラジンかアリ・ババか、どちらを翻訳しようかと迷った。アリ・ババを選択したのは、挿絵のアラジンが辮髪の中国人で嫌だったからだ、と彼は書いている。辮髪は、満洲族の風習だ。漢族の周作人にとっては異民族支配の象徴だからである。

だが、英文原作の底本については、周作人の記憶違いがあった。女奴隷モルギアナがナイフを手にして踊る場面が該書には、ない。強い印象を受けたとくり返してのべているその挿絵が、ニューズ社版には存在しないのだ。なによりも、中国語訳文とはかけ離れた英文である。調査の結果、底本となったのは、エドワード・フォースターが書き直したラウトレッジ社版であることが判明した。挿絵はディーエル。

そのころ、兄魯迅はスパルタの女性についての文章を東京で書いている。中国人留学生たちが東京で発行する中国語雑誌『浙江潮』に発表した。該文においてスパルタの歴史をのべながら、魯迅はある英雄的女性を創作した。彼女は、戦場を逃れて帰宅した夫を叱咤するため自殺をする。あっぱれな女性である、と称賛するために魯迅はスパルタの伝統習慣を無視した。ありえない女性、つまり外見

はスパルタの女性だが中身は中国人を創作したのは、そうすることにより当時の中国人を励ましたかったらしい。魯迅のねらい通り、留学生仲間から高い評価を得たのは事実だった。周作人は、兄の影響を受けてそのやり方をまねた。英文原作では幸せになるモルギアナについて、盗賊の首領を殺し主人を危機から助けたのちに行方しれずになるという恣意的な書き換えを行なったのである。英雄は、悲劇的な最後をむかえるべきだという意識が学生時代の周作人にはあったようだ。

アラビアン・ナイトの中国語訳で、ある程度まとまったものといえば、『繡像小説』連載の「天方夜譚」をあげなければならない。

『繡像小説』(一九〇三 - 〇六)は、上海の商務印書館が発行する中国で最初の近代的小説専門雑誌だ。梁啓超が亡命先の日本で創刊した雑誌『新小説』(一九〇二 - 〇六)に影響されて出現した。半月刊で七二期という長寿を保つ。雑誌に連載したのち、評判をよんだ作品は単行本にして刊行する。現在では普通に見られるこのやり方は、中国では空前のことだった。上海で近代的印刷技術が普及しはじめていたことが背景にある。新聞雑誌という新しい媒体の出現なのだ。

雑誌の体裁は線装本である。連載が終了した小説は、雑誌をバラして容易に再度合訂することができるように考えられた。実際、表紙だけをつけかえた単行本も出版されている。本文は活版で石版印刷の挿絵(=繡像)をかかげて特色とする。小説家で著名な李伯元を特別に招いて編集をまかせた。

「天方夜譚」は、『繡像小説』第一期(一九〇三)から第五五期まで、約三年間にわたって連載された。物語の途中からはじまるのは、周桂笙の先行翻訳と重複するのを避けたためだ。不思議なのは、『繡像小説』は挿絵を売り物にしているにもかかわらず、「天方夜譚」については挿絵がついていない。このことが底本確定に手間取る原因のひとつにもなる。

一九〇六年、雑誌連載時には省略した物語のはじめの一〇話を加え、別の雑誌『東方雑誌』にも掲載した分をあわせて単行本が四冊で刊行された。それでも全五〇話にすぎない。

雑誌連載時には無署名であったが、単行本で訳者が奚若であることを明らかにした。奚若は筆名であると信じている中国人研究者は、今でも存在する。張奚若、伍光建、周桂笙らの名前をあげて、奚若の本名だと主張している。だが、どれも

正解ではない。奚若（伯綏）が、本名だ。英語が堪能だった。商務印書館が主宰する速成小学師範講習所の教員に就任し、同社編訳所の職員からのちには理事に昇任する人物だ。

該書「序」に説明して「ラウトレッジ社の刊行した版本で、レイン氏のものにもとづいている」と書いている。だが、英文と中国語訳を実際に比較対照してみれば間違いであることがわかる。レイン、タウンゼンド、サグデン、フォースター、スコットの各版を見た結果、ラウトレッジ社のフォースター版を底本とし、注釈をタウンゼンド版から取り入れていることがわかった。

奚若の翻訳は、商務印書館が発行する外国文学の翻訳シリーズ「説部叢書」に収録されている。「述異小説」という角書と第六集第四編の番号を与えられた（のち、初集第五四編と変更）。

「説部叢書」は、同社が刊行していた外国小説の翻訳を集めたものの総称だ。一九〇三年ころから刊行が始まり、一集一〇種で数え、十集で全一〇〇種になる。一九一二年、叢書全体が改編された。商務印書館が外国資本である日本の金港堂との合併を解消するのを契機に、初集と改称する。改称後に二、三集各一〇〇種を出し、最終的に第四集第二二種を刊行した。一九二四年まで継続されたからその規模の大きさと息の長さがわかる。のちに作家となる人々も、多くは「説部叢書」によって海外の文学にはじめて触れたという。

「説部叢書」のなかから特に林紓の翻訳を選び、「林訳小説叢書」と銘打って二集合計一〇〇種を出版してもいる。清末から民国初期にかけて外国文学の翻訳シリーズとして欠くことのできない存在として学界では位置づけられている。ただし、林紓が実現した大量の翻訳は、その影響の大きさに反比例して評価は低い。林紓自身は外国語を理解せず、口述翻訳者と共同で文言訳したことが理由のひとつとなる。なによりも、シェイクスピアの戯曲を小説体に変更して翻訳したことが大きな欠陥だと林の生存中から批判的になったのだ。林紓はそれに反論しなかった。ゆえに定説として認定されつづけてきた。だが、それは誤りである。林紓が翻訳にあたって底本としたのは、はじめからシェイクスピアの戯曲を小説体に翻案した英文原作だった。だから、もともとが小説体なのである。彼の独断で変更したわけではない。林紓は冤罪であったのだ。

奚若訳『天方夜譚』は、以後、長く読み継がれた。判型をかえて重版をくりかえしている。

『天方夜譚』上下二冊本が「訳述者 奚若 / 校註者 葉紹鈞」と表紙にかかげられて上海・商務印書館（一九二四）より出版された。その「新学制中学国語文科補充読本」という表記を見れば、多くの生徒に読まれたとわかる。「万有文庫」（一九三〇未見）、また「万有文庫第一二集簡編五百種」（一九三九）は上下二冊本で、奚若訳、葉紹鈞校の焼き直しだ。一九三〇年代、四〇年代にこれとは異なる多くの口語訳が出版されているという。

以上の中国語訳は、いずれも当時の児童を直接の読者とは考えていなかった。まず、英文原作に忠実であろうとしている。また、書き換え、省略などが無い。だから、児童向け読み物という印象を受けない。掲載誌そのものも一般の知識人むけに編集刊行されている。児童を特に意識して編集している種類のものではない。さらには、文言で翻訳している点も理由のひとつとなる。

そういう流れのなかであって、児童用として編訳していることがはっきりしている刊行物がある。読者に児童を想定して原作を改変した作品、すなわち、原作の大筋を保ちながらも、時には大幅に書き換え、分量は短めに編集しなおした挿絵つきのものだ。すなわち、「童話」シリーズである。これにアラジン、アリ・ババなど四種類が、本文を簡略化して収録されている。

3 商務印書館の「童話」シリーズ

商務印書館が刊行した「童話」シリーズは、主として孫毓修が編集し第一集から第三集までである。

孫毓修は、商務印書館の編集者だ。出版社の編集者は、中国では大学教授なみの地位がある。彼は、目録学の専門家として、古典の復刻に使用する版本の選定に力を発揮した。

彼が中国児童文学史上、先駆者のひとりとして認められているのは、雑誌『少年雑誌』を創刊し「童話」シリーズを主宰したからだ。

「童話」第一集は、孫が主編して、私の知るかぎり第八九編までが出ている

(一部を茅盾ほかが担当)。その刊行期間は、一九〇八年から一九二一年までとなる。

第二集は、同じく孫毓修の編集で第八編を刊行した。その刊行時間は、第一集と重複しており一九一〇年から一九一八年までだ。かかった時間のわりには、刊行種類が八篇と少ない。辛亥革命をはさんでいるからだろう。

第三集は、鄭振鐸編で第四編までが、一九二四年に出版されているらしい。第二集から時間の隔たりがある。しかも第二集をわずかに八篇しか出していないのに第三集をはじめの理由がわからない。中途半端といえ、第一集も第八九編で中断しているのも、そうだ。

とにかく、全体は、単純に合計して全一〇一篇(一説に一〇二篇)となる。

それらの題材は、中国の古典、あるいはギリシア神話、グリム、アンデルセンなどの西洋の童話、物語から得ている。文言ではなく白話で翻訳しているのも特徴のひとつだ。

読者を年齢によりふたつに分けていた。ひとつは、七、八歳までの児童を対象とし、五千字前後の字数におさえる。もうひとつは、十、十一歳くらいの児童に提供する一万字前後の字数のものだ。

児童にとってわかりやすい語句を使用しようとすれば、必然的に白話になる。孫毓修が編集した原稿を、編訳所所長の高夢旦が家に持ち帰り、自分の子供に読み聞かせて意見を聞いて参考にしたという。また、啓蒙が重要な要素のひとつだから、挿絵を理解の補助として重視するのは当然だ。ただし、適切な挿絵になっているかどうかは、それぞれの作品を個別に検討する必要がある。

私が見ているのは、第一、二集のなかの少数にすぎない。

中国の規格でいう三二開本に近い大きさ(一九×一三センチ)の活版洋装本で、本文は二四ページ前後の薄い冊子だ(第二集では四二 - 四六ページに増える)。本文二〇字×九行だから第一集は一冊につき約四三〇〇字となる。挿絵を掲載しているから、その分だけ文字数はさらに減少する。

彩色リトグラフの表紙をあとから糊づけし、本文に凸版で挿絵を組み込む。細い糸でかがった簡単な製本だ。活字は比較的大きく、ゆったりと組んである。挿絵も適当に配置されており、なによりも表紙が色彩豊かでいくらか救われはする。しかし、紙質はよくなく、全体の印象は、あくまでも小冊子でしかない。

奥付に、五分という定価が明示されている。商務印書館が一九〇三年から発行をはじめた小説専門雑誌『繡像小説』は、一冊二角であった。活版線装本で、創刊号は石印の挿絵を含めて三九葉だから、洋装本になおせば倍の七八ページとなる。「童話」の二四ページは、その約三分の一に相当する。値段も三分の一として計算すれば約六・七分だ。これと比較すれば、「童話」シリーズの一冊五分は、かなり低めに設定していることになる。

さて、この「童話」シリーズにアラビアン・ナイトから選択翻訳した作品四種類が収録されている。

4 「童話」の中国語訳アラビアン・ナイト

以下に、中国語訳名と原作名をかかげる（中国語訳名の後ろにつけている英文は、奥付にかかげられているまゝを示す。*印の一種類は、未見）。

童話 第一集第二五編

『怪石洞』(Forty Robbers Killed by One Slave)

高真長編訳 孫毓修校訂、上海商務印書館一九一四・八ノ一九二二・九。

第八版 全二三ページ

“THE ARABIAN NIGHTS.” Ali Baba, and the Forty Robbers killed by One Slave.

童話 第一集第四五編

『能言鳥』(The Three Sisters)

孫毓修編訳、上海商務印書館一九一五・一二ノ一九二二・九。第五版 全一九ページ

“THE ARABIAN NIGHTS.” The Two Sisters who were Jealous of their Younger Sister.

童話 第一集第四六編

* 『橄欖案』

(孫毓修編纂)、上海商務印書館一九一六?一九一七?

“THE ARABIAN NIGHTS.” Ali Cogia, a Merchant of Bagdad.

童話 第一集第六〇、六一編

『如意燈』上下(The Wonderful Lamp)

孫毓修編訳、上海商務印書館一九一八・一ノ一九二二・九。第五版 上下冊とも全二三ページ

“THE ARABIAN NIGHTS.” Aladdin, or the Wonderful Lamp.

中国では、児童むけにアラビアン・ナイトをどのように紹介したのだろうか。この「童話」シリーズは、それを知るための材料となる。

「童話」シリーズとして字数が限られているから、原文の省略を余儀なくされる。どこをどのように書き換えるのか。それこそが編訳者の腕の見せ所である。

未見の一種類を除いた三種類について以下に紹介しよう。

第一集第二五編「怪石洞」

中国語訳題名が意味するのは、「不思議な洞穴」だ。しかし、物語はおなじみの「アリ・ババと四〇人の盗賊」である。アリ・ババが不思議な洞窟に遭遇するのが物語の発端だから、それを訳題名にしても、おかしくはない。この「童話」シリーズの題名は、ほぼ三字から四字におさまるように統一している。それに従ったのだろう。

「童話」シリーズは、孫毓修が、当時、発行されていた英語の児童用書籍にもとづいて編纂したということになっている。

ただし、「アリ・ババと四〇人の盗賊」については、二種類の中国語訳が先行しているのを見逃すわけにはいかない。

すなわち、前出の萍雲（周作人）訳述、初我潤辞『侠女奴』（上海・小説林総發行所 丙午（一九〇六）年三月再版）および奚若翻訳、金石校訂「記瑪奇亜那殺盜事」（『述異小説』天方夜譚』第四冊上海商務印書館 丙午四（一九〇六）ノ一九一三・一二再版 説部叢書初=五四）だ。

固有名詞の翻訳を見れば、先行の翻訳を参照しているかどうかを知る判断材料になる。

三種類の版本について、比較一覧したものを次に示す。

	「侠女奴」	「説部叢書」	「怪石洞」
Cassim	慨星	克雪	克雪
Ali Baba	埃梨酷伯	愛里巴柏	愛里
Sesame	西剌姆	茜莎米	茜莎米
Morgiana	曼綺那	瑪奇亜那	馬奇
Baba Mustapha	麦斯塔夫	默世徳法	徳法
アリ・ババの息子	×	×	亜拉
盗賊の手下	×	×	伶俐
chalk	堊筆	白粉	白鉛粉
Cogia Houssain	苛琪亜	古奇海生	奇生

一目瞭然だろう。周作人の中国語訳は、商務印書館の「説部叢書」および「怪石洞」の両者からかけはなれている。「侠女奴」は、自然に本稿の考察の対象からはずれる。

商務印書館の二種類は、固有名詞の中国語訳についていえば、同一だといっている。

「怪石洞」は、アリ・ババについては「説部叢書」の愛里巴柏を冒頭二字だけ使用する。同じ二字でも、モルギアナ瑪奇亜那は、あたまの一字を同音の別漢字におきかえただけ。ムスタファ默世徳法は、うしろの二字のみを使う。おもしろいのは、コギア・フウサインだ。盗賊の首領がアリ・ババの息子にちかづく時に使った変名である。「説部叢書」で原語に忠実な古奇海生を、二字だけ選んで奇生と省略した。いかにも中国らしいやりかただ。

アリ・ババの息子は、本来は名前なしで登場している。それに「亜拉」と命名したのは、編訳者高真長の判断だろう。盗賊の手下にありもしない「伶俐」を名前としたのも、「伶俐」な手下という意味をもたせたかった、と考える。

固有名詞の中国語訳から、「怪石洞」は、「説部叢書」本をもとにして改編されたのだろうという推測が成り立つ。

物語は、ほぼ「説部叢書」のままをなぞりながら、こまかな描写を省略してい

く。筋だけを追うのであれば、さしつかえはなさそうだ。六枚の挿絵も、一枚を除いて原文をそのまま反映しているといえる。

しかし、表紙が奇妙だ。カゴのようなものが積み上げられた倉庫がある。そのドアをあけ、西洋の服装をした女性が、手にポット様の容器を持って入ろうとしている。外には口バが群れている。これは、なにか。洞穴ではない。かりに洞穴のつもりだとしても、洞穴に女性が入っていく場面など、物語のどこにも存在しない。

あとでのべる「能言鳥」と「如意燈」の表紙が、物語の内容をほぼそのまま描いているのに比較すれば、この「怪石洞」の異なる様子がきわだつのである。

それより、もっと奇妙な部分が本文にある。書き換えなのだ。

アリ・ババ物語の名場面といえ、モルギアナが短刀を握って踊る場面もそのひとつだろう。物語の最終部分にでてくる、いわば最高潮だ。

客人をもてなすためにモルギアナが踊る。モルギアナは、舞いながら客人を刺し殺す。なんということをしたのだ、と驚くアリ・ババ親子に、その客が盗賊の首領であることを説明する。モルギアナよ、よくやってくれた、という話の運びになる。

音楽と踊りを背景にアリ・ババ一族の命運がかかっている瞬間だ。しかも、アリ・ババ本人は、その重要さに気づいていない。モルギアナだけが、事実を知って危機を自分の才覚で乗り切ろうとしている。危機感が伝わってくる。読者が、はらはらドキドキしながら読む、あるいは耳をそばだてる場面にちがいない。

ところが、編者高真長は、それをどう改変したか。奇妙のひとつことにつきる。「怪石洞」は、この踊りの場面を削除した。削除してどうしたか。踊りも舞わず、殺しもせず、盗賊との話し合いになるのだ。話し合いだから、それに添えられた挿絵は、テーブルクロスが掛かった机にアリ・ババ、モルギアナ、息子らに對面して首領が椅子にすわった図になっている。例のモルギアナが踊る場面は、ない。

コギア・フウサインと名乗ってはいるが、それが盗賊の首領であると見破ったモルギアナだった。彼女は、事実をアリ・ババに告げる。対処のしかたを聞かれたモルギアナは、ひとつの提案をする。

「恨みは解かなければなりません。いだいてはならないのです。私たちは、結

局のところ彼から利益を得ているのですから、私の考えでは、彼と交渉するのがいいでしょう。こうおっしゃるのです。あなたのあの財物は、どのみち道にはずれるものです。今、私の手を借りてこの土地で有益な事をなさるのがよろしいでしょう。今から足を洗って真人間になるのです。そうすれば双方ともにつごうがいいでしょう、と」

驚いたことに、盗賊を相手に説教をしようというのである。これが、モルギアナがアリ・ババに勧めたことだった。そうすると、どうなったか。盗賊の首領は、アリ・ババの言葉にしたがい心をいれかえ、洞穴の財宝をすべてアリ・ババにわたした。それで多くの工場を建築し、多くの学校を開設して無数の貧乏人に教育をほどこし、ペルシア国内で恩恵を受けなかったところはなかった。

これでふたたび驚くことになる。

盗賊の首領は殺されず、改心して好い人間になった。これでは、まるでアラビアン・ナイトらしくない。工場、学校が、突然、出現するのも、物語の本来の時代を無視している。奥付には、首領も殺されて「四〇人がひとりの奴隷に殺された」という英文表題になっているではないか。明示した題名を裏切る中国語訳内容に変化してしまった。

もともとの物語では、盗賊の首領は殺される。用心深いアリ・ババは、その後、長い間洞穴を訪れることもなく、ほとぼりが冷めたころにようやく財物を取りにでかけた。息子にだけ洞穴を開け閉めする呪文を教え、一族だけが繁栄した。それが、「怪石洞」では、書き換えられて本来の「邪悪」な物語の姿がなくなってしまったのである。「邪悪」というのは現代の私の感覚でのべただけだ。盗賊の盗品を盗むのは、正義である、という論理が通用する社会であれば、「邪悪」ではなく、正義のアリ・ババだ。

しかし、編者の高真長は、そうは考えなかったからこそ、書き換えたのではないのか。つまり、盗賊の盗品であっても、それを盗むのは悪である、という点にこだわった。

盗賊の首領が助言によって改心することが、中国の児童の啓蒙と教育を考えたうえでの処置だというのであれば、そもそもアラビアン・ナイトを題材に選ぶこと自体が不適當だった。

第一集第四五編「能言鳥」

中国語訳題名の「ものいう鳥」は、原題の一部を示しているだけだ。本来は、「ものいう鳥と歌う木と金色の水」という。あるいは、「妹に嫉妬したふたりの姉」などと称される。

王様と結婚した妹に嫉妬したふたりの姉が、妹をいじめるのが物語の前半をしめる。妹が生んだ三人の子供は、姉たちによってすぐさま川に流されてしまう。姉たちがかわりに王様に示したのは、犬、猫、蛇（英文原作では材木）だった。役人に拾われて育ったのが、ふたりの王子と王女ひとりである。三人ともに、自分が王様の子供であることを知らない。苦難のすえに入手した「ものいう鳥と歌う木と金色の水」によって、姉たちのたくらみが暴かれ、子供たちは王様のもとでしあわせに暮らした。これが物語の後半になる。

自分がどこから来たのか、出生の秘密を発見する話に宝探しが組み合わさっている。

表題にも使われている「ものいう鳥」は、文字通り人間のことばをしゃべる鳥だ。「歌う木」は音楽を奏でる。「金色の水」は水源もないのに噴水をあげつづける。鳥は知恵を、木は快楽を、水は永遠の生命をそれぞれが象徴している、などと解説することも可能になる。それよりも、命がけで入手した、ただ珍しい品物というだけの理解でもかまわない。

中国語訳には、人名がでてこない。原作にある前半の宝探し部分が削除される。すなわち、「ものいう鳥（能言鳥）と歌う木（自鳴樹）と金色の水（金色水）」を手に入れるためにふたりの王子は失敗して石に変身させられ、王女がようやく成功するという重要箇所だ。中国語訳では、小冊子にまとめるためのしかたのない処理だったのだろう。冒険部分をもりこめば、二分冊にせざるをえない。

冒険をしないから、ものいう鳥は、はじめから王子たちの家にいることになっている。表紙に描かれた、右の木の枝にくくりつけられたカゴの鳥がそれだ。ここは王子王女の家の中だ。左右の王子と手前の王女に、王冠をかぶったヒゲの男性が本当の父親ということになる。それを知らない子供たちが、王様を自宅に招待し、机の上に真珠をつめた胡瓜料理を出しているところまで物語に忠実だ。ただし、窓とカーテン、あるいは板敷きの床の描き方、人物の服装、調度品などア

ラブ風ではないところに、やや違和感をおぼえる。昼間であるのにローソクをともしているのが奇妙だ。

ものいう鳥の存在があまりに唐突だから、編訳者が注釈を文中につけ加える。

「もともとアラブの国には、鳥語に通じている人が多い。我が国には公冶長ひとりしかいないのとはくらべものになりません。難しい事があればなんでも鳥に解決してもらおうのです」

孫毓修の苦しい説明である。鳥語に通じている人が多い、ということであれば、王子たちの家にいる鳥は、特別の鳥でなくてもかまわない。この物語が不思議なのは、人の言葉を話す鳥だからだ。それゆえ表題になっている。鳥が事の真相を知っていて人間に説明するから物語が成立している。それを、人間の方に鳥語を理解するものが多い、ということになれば、物知りの鳥でなくてもよくなる。編訳者の説明は、命をかけて捕獲しにいったほどの「ものいう鳥」でなくてもいいことにしてしまった。これでは、物語全体の構成がガタガタになってしまう。だいいち、人間のほうが鳥語を理解すれば、表題の「ものいう鳥」にならないではないか。孫毓修は、勘違いしたのではなからうか。にもかかわらず、五版を重ねている。誰も気づかなかっただろう。

歌う木と金色の水が省略されたのも、紙幅の関係であろう。物語のいくつかを省略するにしても、つじつまのあわせかたが厳密には行なわれていないといわざるをえない。改変によって物語としての統一がなくなってしまった。

奚若は同題名で、内容の省略なしで中国語訳している。「童話」本が奚若訳を底本としていてもおかしくはない。

第一集第六〇、六一編「如意燈」上下

「如意」とは、願いどおりになる、思いのままになる、という意味だ。願いをかなえてくれるランプという中国語訳を孫毓修は採用した。奚若が中国語訳して「神燈記(不思議なランプ)」と、にているようで少し異なる。

アラジンと不思議なランプといえ、アラビアン・ナイトを代表する作品のひとつである。小さいときから聞かされてきた物語だ。だが、ガランのフランス語訳にのみ見えていて、ほかの版本には収録されていないという。ガラン訳をもとにして英訳が世界中に流布していったことになる。

アラビアを代表するように思われているその舞台は、実は中国なのである。これは、意外でもありまた奇異に感じるどころだろう。

多くの版本が、辮髪をたらしめた中国人たちを描いた挿絵をかかげている。ただし、「如意燈」の表紙を見れば、アラジンは、トルコ風の帽子をかぶった西洋の少年である。アラジンを、トルコ風に描く挿絵は、英訳版本にもある。

アラジンの生い立ちが怠惰にまみれていた、と物語ははじまる、児童の教育用材料としては、具合が悪いのではあるまいか。まっとうな職業にもつかず、努力奮闘することもしない。偶然入手した不思議なランプによって生涯を幸福に暮らしたというのでは、あまり生産的ではないようにも思う。

アラジンの品行の悪さが、ことこまかに描写される。それが父親を死においやったというのだ。物語として、中国の児童には提供することがためらわれてもいい種類のものではないのか。

ここまでの内容を、中国語訳では、どのように述べているだろうか。

言ってしまうえば、まことに簡潔に圧縮している。アラジンの怠惰な性格もよくわかるように中国語訳している。編訳者にその力量があるという証拠となる。

これが孫毓修の手にかかると、さらに一段と簡略化される。

ただし、物語の場所が中国であると冒頭に説明していながら、それに添えられた挿絵のすべては、中国ではない。表紙に見えるのはトルコ風のアラジンである。また、そのほかの登場人物は、アラビア風の服装をしていたり、西洋風の町並みが描かれていたり、中国を感じさせる事物は皆無である。編訳者は、話の舞台が中国ではないかのように思っているらしい。矛盾である。

アラジンは、遊んでいるときに、アフリカの魔法使いに目をつけられる。自分の欲望を実現するためにアラジンが利用できるかと判断したのだ。

「如意燈」では、アフリカの魔法使いというのを、孫毓修自身が文中に出てきて説明する。

「みなさん（看官）、その人ははたしてアラジンの叔父さんだと思いますか。私が本当のことを言いますと、その人はアフリカからやってきた魔法使いなのです。ムスタファには、どうしてこのような弟がいらっしゃいますか。今、彼が親族だといつわっており、アラジンによいことがありそうですが、みなさん、あわてなさるな。

のちのお楽しみ」

編者が作中にしゃしゃり出てきて解説をするのは、まるで旧小説のようだ。新しいかたちの「童話」シリーズだと思うのだが、孫毓修の意識は、かなり古い。

叔父だとだましてアラジン連れだした魔法使いは、歩き疲れるほどの遠くの場所で、火をたいて呪文をとる。大地がわれて洞穴の扉が姿を現わす。アラジンが開ける。奥まで続いているようだ。ランプに灯がともっているから、それを消し、油を抜いて持ってこい。これがアラジンに魔法使いが命じたことだった。ランプを手に入れたアラジンは、帰る途中、石でできた果物の美しさに見せられていくつもとった。

中国語訳では、木から果物をもぎ取る様子を描いた挿絵をかかげている。しかし、洞窟のなかであるのに、普通の庭園のように描いている。編者と絵師の連絡がうまくいっていないことを暴露しているとしかいいようがない。

魔法使いが待っている。まずランプをわたせ、いや、自分が出るのが先だ、と言い争いになる。ここでもまた孫毓修が出てきてランプの説明をはじめるのである。

「みなさん、このランプは普通のものではないことを知らなくてはなりません。願いをかなえてくれるランプ「如意燈」というのです。この世でもっとも不思議な品物で、それを手に入れた人は、お宝のたまる鉢「聚宝盆」、金のなる木「揺銭樹」よりももっと役に立つのです。……」

中国の児童には、「聚宝盆」「揺銭樹」を例にだしたほうが理解しやすいという判断だったのである。ランプを手渡そうとしないアラジンに腹を立てた魔法使いは、呪文をとる洞窟の扉を閉めてしまった。アラジンは、地下に閉じこめられる。

「さてこれが「如意燈」の始まりの歴史であります。彼はどのようにアラジンを救出するのでしょうか。どのように彼の不思議な力を発揮するのでしょうか。まことに一冊では書き切れません。なにとぞ「如意燈」下冊をご覧ください」

上冊をこう締めくくれば、まことに旧小説のままなのである。

下冊の冒頭に、またしても孫毓修が出てきて説明を始める。これが、長い。ア

ラジンがランプを手渡さないものだから、魔法使いは怒ってアラジンを地中にとじこめた。なぜ、魔法使い自身がランプを取りにいかなかったのかと質問されるかもしれない、とはじめる。

「編集者としての私は、もともとが魔法使いではありませんから、みなさん方の質問に答えることはできません。しかし、本書に書いてあることによりますと、魔法には多くのタブーがあり、ニセ叔父が不思議なランプを取り出すには、自分で手を出してはよくないことがあるにちがいないのです。……」

魔法使いは、アラジンからランプを手に入れたあとは、アラジンを地中に埋めるつもりだった、という推測までも述べている。描写を省略したから、編集者による説明をつけくわえることが必要だという考えなのだ。親切といえば親切だといえよう。だが、重ねられた描写をたどることにより、説明されていない部分を読者が推理する楽しみがある。それこそが読書の喜びではないのか。孫毓修は、その快楽を読者から奪っている、ということも可能だ。

地中に閉じこめられたアラジンは、洞穴に入る前に魔法使いからもらった指輪の力で、無事、自宅にもどることができた。ランプを売って食料を買うことにし、母親はよごれをきれいに落とそうとこする。出てきたのがランプの奴隷である。

孫毓修がよった原本には、ランプの奴隷を描いた挿絵はついていなかったのだろうか。普通に見られる挿絵ではないからだ。つまり、一見していかにも魔物である、という感じがしない。挿絵には、ランプの奴隷はそこらにいる一般の成人男性にしか見えない。羽根飾りのようなものがついた帽子をかぶっている。ヒゲをはやし、長上着を身にまとして、裸足だ。中国語訳では、醜悪な顔つきをして雷のような声の「怪人」としか説明していない。この説明では、人間の姿をした怪人を描いたとしてもしかたがないともいえる。母親は倒れて右手をあげて驚きの表情を浮かべている。アラジンも腰をぬかし、かたわらにはランプがころがる。窓の外には植木が見え、この空間だけがアラビア風ではない。舞台が中国なのだから、外の風景は中国だ、といったところで、それは説得力をもたない。登場人物のすべてが西洋人である矛盾を説明できはしない。

食事を取り出させるためにだけランプの奴隷を使っていたアラジンだった。ある日、アラジンは、街でみかけた王女を好きになる。母親に宮殿にいった求婚し

てくるようにたのむ。その時に持たせたのが、あの洞穴からとってきた宝石の果物である。王様は、すでに王女を大臣の息子と結婚させる約束をしていたにもかかわらず、宝石に目がくらんだ。三ヵ月待つように命じる。

その三ヵ月の間に、実際は王女と大臣の息子は結婚式をあげている。しかし、アラジンに命じられたランプの奴隷は、結婚式の夜、王女たちふたりを運び出してじゃまをするのだ。それをくりかえし、すっかり恐怖にかられたふたりは結婚を中止するのだが、孫毓修の中国語訳ではこの部分すべてを削除してしまう。そのまま三ヵ月後にふたたび母親が宮殿を訪問する場面につづく。

王様が母親に要求したというのが、四〇の大きな金の盆に宝石を山盛りにし、四〇名の黒人奴隷と四〇名の白人奴隷をきれいに着飾らせるといったものだった。

「如意燈」下冊の表紙絵が、この風景を描いている。黒人奴隷たちが頭に盆をのせ、行進している。盆には宝石が満載されているのがわかる。原文では金の盆だが、表紙では赤色で塗られている。先頭の盆には赤い珊瑚が描かれているから宝石だと見当がつく。ただ、画面の左は水色に塗られているから、川辺か海辺なのだろう。なぜ、水辺の風景でなければならないのか、理解に苦しむ。

王様の要求を実現したから、アラジンは王女との結婚を許された。ふたりで住む豪華な宮殿をただちに新築する。ランプの奴隷に命じて造らせたのはいうまでもない。うわさが例のニセ叔父の耳にとどいた。不思議なランプをどうにかして奪おうと考えをめぐらせる。アラジンが宮殿を留守にしている間に、ニセ叔父は、古いランプをタダで新しいものに交換すると呼ばわり、アラジンの宮殿から不思議なランプを入手することに成功した。アラジンの新宮殿は、王女ごと影も形もなくなる。消失してしまった。アフリカに移されたのである。アラジンは、王様に四〇日の猶予をもらい王女をさがすことにした。さがし疲れて川に身を投げて死のうとしたとき、指輪に気がついた。当然のように指輪の奴隷に宮殿と王女を取り戻すように命じる。しかし、これほどの大仕事は、不思議なランプでなくてはできない、せいぜいが王女のところに連れていくくらいだ、というのでそうなる。

アラジンが購入した薬を酒に混ぜ込み、ニセ叔父に飲ませる。意識を失ったすきに懐にいれて持ち歩いていた不思議なランプを取り戻す。ランプの奴隷を呼び

だし、宮殿をもとの場所に移すように命じた。

孫毓修の中国語訳は、まるで断ち切ったようにここで終わる。

本来はあるはずの、王様と王女の感激の再会、一部始終の説明、王女たちが無事帰還したことにたいする国中のお祝いも、すべて省略される。

私が子供のころに聞いた「アラジンと不思議なランプ」は、ここで物語が終了する。めでたしめでたしで終わってどこが不足か、と言われるかもしれない。だが、それ以後も話が続けている。思いもしないことだ。ニセ叔父、すなわちアフリカの魔法使いには弟がいて、兄よりも極悪であったというのだ。アラジンは、兄の仇を討とうという弟のたくらみをうち砕き、逆に殺して難を逃れる。これがフォスター版である。奚若訳「神燈記」は、アフリカの魔法使いの弟についても省略することなく、そのまま中国語訳していることを指摘しておきたい。

「童話」シリーズに収録されたアラビアン・ナイトは、普通によく知られた物語であるといえる。ただし、それらの内容を個々に吟味すれば、腑に落ちない箇所もある。

アリ・ババが洞穴の秘密を知ったのは、偶然であった。女奴隷のモルギアナの機転により、盗賊たちを滅ぼして財宝を自分のものにする。盗賊だから殺してもいい、という社会の掟だろうか。たとえ原作がそうだとすると、それを中国にそのまま移植できるだろうか。まっとうな人間のすることではない。

中国語訳者が、それに薄々気づいて、最後部分を話し合いで解決するように改変した。したけれども、不正義という印象をぬぐうことができない。

アラジンは、子供とはいえ怠け者でどうしようもない遊び人だ。彼が不思議なランプを手に入れたのも偶然である。偶然こそが重要だ。努力することなしに、富と権力を自分のものにする。金持ちになるのが偶然ならば、日頃の地道な精進などは、ばからしくてしてられないということにならないか。

もうひとつの物語は、嫉妬にかられた姉たちの理不尽な妹いじめである。しかも、子供たちは、その出身によって最終的に幸福を獲得することになる。

外国の民話として成人が楽しむ分には、なにも差し支えはない。しかし、児童向けの読み物としては、いかがなものか。

啓蒙だというならば、この社会が、基本的に不合理で不公平であることを教え

ることが目的である、とでも主張するつもりだろうか。だから、書き換えていまずというか。書き換えが必要なものは、いくら有名であろうとも最初から児童用の書籍に収録すべき性質のものではないだろう。だが、未見の「橄欖案」は、以上の三作とは違う。裁判もの、それも賢い児童が関係している。それほど広く知られてはいないかもしれない。だが、これこそ児童が読み、聞くにふさわしい。

「童話」シリーズが、児童の啓蒙を目的にして刊行されているとすれば、アラビアン・ナイトならばすべてが児童用として無条件に与えることができると考えてはならない。

アラビア語からの直接訳は、納訓（回族）の商務印書館五冊本（一九四〇 - 四一未見）、人民文学出版社三冊本（一九五七未見）、同六冊本（一九八二）のほか以下のものがある。鄧溥浩（瀋江出版社一九九八、北京燕山出版社二〇〇〇、訳林出版社二〇〇一）、李唯中（中国文聯出版公司二〇〇二、海天出版社二〇〇三、天津古籍出版社二〇〇四）など。

なお、日本での研究に樽本『漢訳アラビアン・ナイト論集』（清末小説研究会二〇〇六）がある。

【附 録】

漢訳アラビアン・ナイト目録

アラビアン・ナイトが中国でどのように翻訳されたのか、それを知る手掛かりになるように作成した。

発行年順に配列する。重版は bcdなどをふって一箇所にまとめた。各種書目を参照した。2006年までに発行された書籍を掲げた。『新編増補清末民初小説目録』（済南・齊魯書社2002）は、1919年あたりまでしか収録していない。それ以後の翻訳を掲載するようにつとめた。ただし、見ることのできないものが多く、本稿は完全ではない。特に最近出版されたものは、全部をみているわけではないので、ご注意いただきたい。【増補版補記】2006年までのデータである。増補はしていない。

【記号】

* : 未見を示す。

[] で示した資料名は、上記小説目録で使用している。

[民博] は、本稿でのみ使っている。国立民族学博物館所蔵であることを示す。

- 01 * 『航海述奇』 英穀徳訳 錢楷重訳 文明書局 光緒29（1903）
The Story of Sindbad the Sailor 阿臘伯原本。“ARABIAN NIGHTS' ENTERTAINMENT”
胡從経によると出版年不詳[阿英176][大典61]（馬祖毅719頁）錢楷重訳，即「辛伯達航海」。顧燮光「小説経眼録」（537頁）は錢楷重訳とする。鄧溥浩は『海上述奇』日本東京市中原印刷所出版と書いている（『中国翻訳詞典』832頁）[編年113]は《航海奇^{ママ}迹》，署“(英)谷徳訳，錢楷重訳”とする。
- 02 * 一千零一夜 上海周樹奎桂笙（周桂笙）戯訳 南海吳沃堯胥人（吳胥人）編次 『新庵諧訳初編』上巻 上海・清華書局 光緒29（1903）孟夏（四月）
REV.GEO.FYLER TOWNSEND,M.A. “THE ARABIAN NIGHTS' ENTERTAINMENT”
[現代893][大典61][編年98]
- b 一千零一夜 周桂笙訳 吳胥人編次 海風主編 『吳胥人全集』第9巻 哈爾濱・北方文藝出版社1998.2
REV.GEO.FYLER TOWNSEND,M.A. “THE ARABIAN NIGHTS' ENTERTAINMENT”
張純校点。據上海清華書局本点校收入。

- 03 *漁者 上海周樹奎桂笙(周桂笙)戯訳 南海吳沃堯胥人(吳胥人)編次 『新庵諧訳初編』上巻 上海・清華書局 光緒29(1903)孟夏(四月)
REV.GEO.FYLER TOWNSEND,M.A. “THE ARABIAN NIGHTS' ENTERTAINMENT”
The History of the Fisherman[現代893][大典61][編年98]
- b 漁者 周桂笙訳 吳胥人編次 海風主編 『吳胥人全集』第9巻 哈爾濱・北方文藝出版社1998.2
REV.GEO.FYLER TOWNSEND,M.A. “THE ARABIAN NIGHTS' ENTERTAINMENT”
The History of the Fisherman 張純校点。據上海清華書局本点校収入。
- 04 *一千一夜 佚名訳 『大陸報』6-10期 光緒29.4.10-7.10(1903.5.6-9.1)
“THE THOUSAND AND ONE NIGHTS (THE ARABIAN NIGHTS' ENTERTAINMENT)”
第6期1903「《一千一夜》序」、第8期1903.7.4「漁翁故事」[阿英109][大典60]は「一千零一夜」とする。[史索二116][編年97][編年106]
- 05 *漁翁故事 『大陸報』第8期 光緒二十九年閏五月初十日(1903.7.4)
REV.GEO.FYLER TOWNSEND,M.A. “THE ARABIAN NIGHTS' ENTERTAINMENTS”
The History of the Fisherman 漁師と魔神の物語
- b 漁翁故事 阿拉伯民間故事 佚名訳 『中国近代文学大系』11集28巻訳文学集三 上海書店1991.4
党孫(REV.GEO.FYLER TOWNSEND,M.A.)氏本 “ARABIAN NIGHTS' ENTERTAINMENT”
The History of the Fisherman。選自《大陸報》第8期,1903年7月4日版。【附録】
《一千一夜》序。選自《大陸報》第6期,1903年版。 天方夜譚
-
- 06 天方夜譚 (奚若翻訳、金石校訂) 『繡像小説』11-55期 癸卯9.1-刊年不記[乙巳7.1](1903.10.20-[1905.8.1])
EDWARD FORSTER,M.A.系 “THE ARABIAN NIGHTS.”
三噶稜達五幼婦 The History of three Calenders, Sons of Kings, and of five Ladies of Bagdad,
噶稜達紀其一 The History of the first Calender, the Son of a King,
噶稜達紀其二 The History of the second Calender, the Son of a King,
說妬 The History of the Envious Man, and of him who was envied,
噶稜達紀其三 The History of the third Calender, the Son of a King,
蘇培特記 The History of Zobeide,
愛米記 The History of Amine,
橐駝 The History of the Little Hunchbak,
情恨 The Story told by the Christian Merchant,
膳夫言 The Story told by the Purveyor of the Sultan of Casgar,
猶太醫師言 The Story told by the Jewish Physician,
縫工言 The Story told by the Tailor,

- 薙匠言 The History of the Barber、
 薙匠述弟事一 The History of the Barber's first Brother、
 薙匠述弟事二 The History of the Barber's second Brother、
 薙匠述弟事三 The History of the Barber's third Brother、
 薙匠述弟事四 The History of the Barber's fourth Brother、
 薙匠述弟事五 The History of the Barber's fifth Brother、
 薙匠述弟事六 The History of the Barber's sixth Brother、
 龍穴合窔記 The History of Aboulhassan Ali Ebn Becar, and of Schemselnihar,
 the Favourite of the Caliph Haroun Alraschid、
 波斯女 The History of Nouredin and the Beatiful Persian、
 海陸締婚記 The History of Beder, Prince of persia, and of Giauhare, Princess
 of the Kingdom of Samandal、
 [阿英115][大典61][史索-253]顧燮光「小説経眼録」[編年108][編年142]
- 07 天方夜譚 (奚若翻訳、金石校訂) 『東方雜誌』2年6-12期 光緒31.6.25-12.25 (1905.
 7.25-1906.1.19)
 EDWARD FORSTER, M.A. 系 “THE ARABIAN NIGHTS.”
 蘋果釀命記 The Three Apples /The History of the Lady, who was murdered,
 and of the Young Man, her Husband、
 荒塔仙術記 The History of Amours of Camaralzaman, Prince of the Isle of the
 Children of Khaledan, and of Badoura, Princess of China、
 墨繼城大会記 The History of Prince Amgiad, and of Prince Assad
 [大典87][大典89]は荒塔仙木記とする。[大典93][大典100][史索二122]
- 08 * 『天方夜譚』 4冊 奚若訳 商務印書館 光緒32 (1906)
 EDWARD FORSTER, M.A. 系 “THE ARABIAN NIGHTS.” [阿英115][蒲梢277][編
 年108]
- b * 『天方夜譚 (述異小説)』 4冊 奚若訳 (金石校訂) 上海商務印書館1906? 説
 部叢書六=4
 EDWARD FORSTER, M.A. 系 “THE ARABIAN NIGHTS.” 校者「天方夜譚序」。
 第1冊：縁起、鷄談、棗核弾、鹿妻、犬兄、記漁夫、記竇本、頭顱語、四色魚、淚宮記、
 二黒犬、生壙記、樵遇、説妬、金門馬、麦及教人化石、蛇仙杯水記、談瀛記、蘋果釀命
 記。
 第2冊：橐駝、断臂記、截指記、訟環記、折足記、薙匠言、薙匠述弟事一 - 六、龍穴合
 窔記、荒塔仙術記、墨繼城大会記。
 第3冊：波斯女、海陸締婚記、報徳記、魔媒記、殺妖記、非夢記。
 第4冊：神燈記、加利弗挨力斯怯得軼事、盲者記、記虐馬事、致富術、記瑪奇亜那殺盜
 事、橄欖案、異馬記、求珍記、能言鳥。
 以上の目録は推定 『東方雜誌』8:1広告
- c 『天方夜譚 (述異小説)』 4冊 奚若訳 金石校訂 上海商務印書館 丙午4 (1906)

/1913.12再版 説部叢書1=54

EDWARD FORSTER, M.A.系 “THE ARABIAN NIGHTS.” 校者「天方夜譚序」。

第1冊：

縁起 表題なし、

鶏談 The Fable of the Ass, the Ox, and the Labourer、

棗核弾 The Story of the Merchant and the Genius、

鹿妻 The History of the First Old Man and the Hind、

犬兄 The History of the Second Old Man and the two Black Dogs、

記漁父 The History of the Fisherman、

記竇本 The History of the Greek King, and Douban, the Phystician、

頭顱語 The History of the Vizier, who was punished、

四色魚 TOWNSEND版 (The Further Adventures of the Fisherman)、

涙宮記 The History of the young King of the Black Isles、

二黒犬 The History of three Calenders, Sons of Kings, and of five Ladies of Bagdad、

生壙記 The History of the first Calender, the Son of a King、

樵遇 The History of the second Calender, the Son of a King、

説妬 The History of the Envious Man, and of him who was envied、

金門馬 The History of the third Calender, the Son of a King、

麦及教人化石 The History of Zobeide、

蛇仙杯水記 The History of Amine、

談瀛記 The History of Sindbad, the Sailor /The first Voyage of Sindbad, the Sailor /The second Voyage of Sindbad, the Sailor /The third Voyage of Sindbad, the Sailor /The fourth Voyage of Sindbad, the Sailor /The fifth Voyage of Sindbad, the Sailor /The sixth Voyage of Sindbad, the Sailor /The seventh and last Voyage of Sindbad, the Sailor、

蘋果釀命記 The Three Apples /The History of the Lady, who was murdered, and of the Young Man, her Husband、

第2冊：

橐駝 The History of the Little Hunchbak、

断臂記 The Story told by the Christian Merchant、

截指記 The Story told by the Purveyor of the Sultan of Casgar、

訟環記 The Story told by the Jewish Physician、

折足記 The Story told by the Tailor、

薙匠言 The History of the Barber、

薙匠述弟事一 The History of the Barber's first Brother、

薙匠述弟事二 The History of the Barber's second Brother、

薙匠述弟事三 The History of the Barber's third Brother、

薙匠述弟事四 The History of the Barber's fourth Brother、
 薙匠述弟事五 The History of the Barber's fifth Brother、
 薙匠述弟事六 The History of the Barber's sixth Brother、
 龍穴合窆記 The History of Aboulhassan Ali Ebn Becar, and of Schemselnihar,
 the Favourite of the Caliph Haroun Alraschid、
 荒塔仙術記 The History of Amours of Camaralzaman, Prince of the Isle of the
 Children of Khaledan, and of Badoura, Princess of China、
 墨繼城大会記 The History of Prince Amgiad, and of Prince Assad、

第3冊：

波斯女 The History of Noureddin and the Beautiful Persia、
 海陸締婚記 The History of Beder, Prince of persia, and of Giauhare, Princess
 of the Kingdom of Samandal、
 報徳記 The History of Ganem, Son of Aibou, the Slave of Love、
 魔媒記 The History of Prince Zeyn Alasnam, and of the King of the Genii、
 殺妖記 The History of Codadad and his Brothers, and of the Princess of
 Deryabar、

非夢記 The Story of the Sleeper Awakened B8 / 眠っている者と目覚めている者、

第4冊：

神燈記 The History of Aladdin, or the Wonderful Lamp、
 加利弗挨力斯怯得鞞事 The Adventures of the Caliph Haroun Alraschid、
 盲者記 The History of Baba Abdalla, the Blind Man、
 記虐馬事 The History of Sidi Nouman、
 致富術 The History of Cogia Hassan Alhabbal、
 記瑪奇亞那殺盜事 The History of Ali Baba, and of the Fory Robbers, killed by
 one Slave、
 橄欖案 The History of Ali Cogia, a Merchant of Bagdad、
 異馬記 The History of the Enchanted Horse、
 求珍記 The History of Prince Ahmed and the Fairy Pari-Banou、
 能言鳥 The History of the Two Sisters, who were jealous of their Younger Sister
 [HOOVER][商目93][編年157]

- d * 『天方夜譚(述異小説)』 4冊 奚若訳 (金石校訂) 上海商務印書館1906/1914.
 4再版 説部叢書1=54

[叢書782][民外0313]は訳者奚若原名伍光建とするが、誤り。別人[現代900][INDIANA]丙
 午4(1906)/1914.4再版[中村C][商目93]

- e 『天方夜譚』 上下冊 奚若訳 葉紹鈞校注 上海・商務印書館 1924.6-8/1932.6-9
 国難後1版/1935.5国難後三版

EDWARD FORSTER, M. A. 系 “THE ARABIAN NIGHTS.”

上冊：葉紹鈞「序」、校者「訳序」。上冊：縁起、鶏談、棗核弾、鹿妻、犬兄、記漁夫、

記竇本、頭顱語、四色魚、淚宮記、二黒犬、生壙記、樵遇、説妬、金門馬、麦及教人化石、蛇仙杯水記、談瀛記、蘋果釀命記、橐駝、断臂記、截指記、訟環記、折足記、薙匠言、薙匠述弟事一 - 六、龍穴合窆記、荒塔仙術記、墨繼城大会記。

下冊：波斯女、海陸締婚記、報徳記、魔媒記、殺妖記、非夢記、神燈記、加利弗挨力斯怯得鞅事、盲者記、記虐馬事、致富術、記瑪奇亜那殺盜事、橄欖案、異馬記、求珍記、能言鳥

[民外0314]新学制中学国語文科補充読本

- f * 『天方夜譚』 4冊 奚若訳 上海商務印書館1930.4 万有文庫1
EDWARD FORSTER, M.A.系 “THE ARABIAN NIGHTS.” [民外0315]
- g 『天方夜譚』 2冊 奚若訳 葉紹鈞校注 上海・商務印書館1930.4/1939.12 万有文庫第一二集簡編五百種
EDWARD FORSTER, M.A.系 “THE ARABIAN NIGHTS.” [民外0315]
- h 『天方夜譚』 1冊 奚若訳 長沙・岳麓書社1987.1
EDWARD FORSTER, M.A.系 “THE ARABIAN NIGHTS.” 宋斐夫標点。伍国慶は「前言」で奚若の姓が張であることをいう。間違いだろう。縁起、鶏談、棗核弾、鹿妻、犬兄、記漁夫、記竇本、頭顱語、四色魚、淚宮記、二黒犬、生壙記、樵遇、説妬、金門馬、麦及教人化石、蛇仙杯水記、談瀛記、蘋果釀命記、橐駝、断臂記、截指記、訟環記、折足記、薙匠言、薙匠述弟事一 - 六、龍穴合窆記、荒塔仙術記、墨繼城大会記、波斯女、海陸締婚記、報徳記、魔媒記、殺妖記、非夢記、神燈記、加利弗挨力斯怯得鞅事、盲者記、記虐馬事、致富術、記瑪奇亜那殺盜事、橄欖案、異馬記、求珍記、能言鳥
- i 龍穴合窆記 阿拉伯民間故事 佚名(奚若)訳 『中国近代文学大系』11集28巻翻訳文学集三 上海書店1991.4
EDWARD FORSTER, M.A.系 “THE ARABIAN NIGHTS.” The History of Aboulhassan Ali Ebn Becar, and of Schemselnihar, the Favourite of the Caliph Haroun Alraschid (参考：日訳バートン版2) アリ・ビン・バッカルとシャムス・アル・ナハルの物語。選自《繡像小説》第44-49期、1905年版。
- j 談瀛記 阿拉伯民間故事 奚若訳 『中国近代文学大系』11集28巻翻訳文学集三 上海書店1991.4
EDWARD FORSTER, M.A.系 “THE ARABIAN NIGHTS.” The Story of Sindbad the Sailor (日訳バートン版4) 船乗りシンドバッドと軽子のシンドバッド/The First Voyage of Sindbad the Sailor船乗りシンドバッドの最初の航海/The Second Voyage of Sindbad the Sailor船乗りシンドバッドの第二の航海/The Third Voyage of Sindbad the Sailor船乗りシンドバッドの第三の航海/The Fourth Voyage of Sindbad the Sailor船乗りシンドバッドの第四の航海/The Fifth Voyage of Sindbad the Sailor船乗りシンドバッドの第五の航海/The Sixth Voyage of Sindbad the Sailor船乗りシンドバッドの第六の航海/The Seventh Voyage of Sindbad the Sailor船乗りシンドバッドの第七の航海。選自《天方夜譚》，商務印書館1906年版。

- 09 俠女奴 萍雲女士（周作人）述文 『女子世界』8-12期 甲辰7.1（1904.8.11）-刊年不記
EDWARD FORSTER, M.A.系“THE ARABIAN NIGHTS.”より“THE HISTORY OF ALI BABA, AND OF THE FORTY ROBBERS, KILLED BY ONE SLAVE.”を翻訳。周作人自身はGOEORGE NEWNES社版と書いているが、正しくない[大典78]
[史索二121][編年124][編年133]
- b * 『俠女奴』 萍雲（周作人）訳 初我（丁祖蔭）潤 小説林社 光緒乙巳（1905）
[阿英133] 『翻訳名家研究』18頁は1905年6月とする。
- c * 『俠女奴』 萍雲女士（周作人）訳 女子世界社1905
[現代898][編年150]
- d * 『俠女奴』 萍雲（周作人）訳述 初我（丁祖蔭）潤辞 上海・小説林總發行所 光緒丙午3（1906）再版
[大典78]は上海小説林社1906.3とする。『小説林』第9期「小説林書目」は丙午三月（1906）とする。[中村C][編年148]1905[編年156]再版
- e 『俠女奴』 萍雲（周作人）訳述（初我（丁祖蔭）潤） 上海・小説林社1906.3再版 小説林（叢書）
[叢書134]
- f 俠女奴 阿拉伯民間故事 萍雲女士（周作人）述文 『中国近代文学大系』11集28巻翻訳文学集三 上海書店1991.4
選自《女子世界》8-12期，1904年版。
- 10 * 『阿里巴巴遇盜記』 上海・美華書局1910
‘THE STORY OF ALI BABA AND THE FORTY THIEVES’ “THE ARABIAN NIGHTS’ ENTERTAINMENTS” [現代911][編年278]
- 11 怪石洞（FORTY ROBBERS KILLED BY ONE SLAVE）、高真長編訳 孫毓修校訂、上海商務印書館1914.8/1922.9八版 童話1=25
Ali Baba, and the Forty Robbers killed by One Slave.
- 12 能言鳥（THE THREE SISTERS）、孫毓修編訳、上海商務印書館1915.12/1922.9五版 童話1=45
The Two Sisters who were Jealous of their Younger Sister.
- 13 * 橄欖案、（孫毓修編纂） 上海商務印書館1916?1917? 童話1=46
Ali Cogia, a Merchant of Bagdad.
- 14 * 『阿里排排逢盜記』 著訳者不詳 土山湾印書館1917.2
‘THE STORY OF ALI BABA AND THE FORTY THIEVES’ “THE ARABIAN NIGHTS’ ENTERTAINMENTS” [現代675]用上海方言行文
- 15 如意燈（THE WONDERFUL LAMP） 上下、孫毓修編訳、上海商務印書館1918.1/1922.9五版 童話1=60,61
Aladdin, or the Wonderful Lamp.
- 16 * 『秘密洞』 黄弁群、吳太玄編訳 上海・中華書局1925.3/1931.7九版

本書系據《天方夜譚》中的《阿里巴巴和四十大盜》編寫。

- 17 * 『天方夜譚』 (語体) 杞瞻生、天笑生訳 上海・中華書局1928.6/1931.9七版/1936.7十一版
據A.L.Lane的英訳本訳出。
- 18 * 『一千一夜』 汪原放訳 上海・亜東図書館1930.4/1931.7三版
據A.L.Lane的英訳本訳出。
- 19 * 『天方夜譚』 上海・三明図書館1931
華英対照
- 20 * 『天方千夜奇談』 陳逸飛、酈昭蕙訳 北平・敬文書社1931.1
據英訳本転訳。
- 21 * 『天方夜譚』 彭兆良訳 上海・世界書局1933
- 22 * 『能言鳥』 陳旭輪訳 上海・世界書局1935
- 23 * 『天方夜譚』 方正訳 啓明書店1936.5/1937.1三版
本書從《天方夜譚》最流行的英文本里選訳其中最有趣的故事13篇。
- 24 * 『桑鼎拜德航海遇險記』(埃及)高米爾編著、馬興周訳 上海・世界書局1936.12
阿拉伯故事叢書
- 25 * 『阿里倫丁』 (埃及)高米爾編著、馬興周訳 上海・世界書局1937.2
又名《神灯記》。
- 26 * 『哈漪雅格贊』 (埃及)高米爾編著、馬興周訳 上海・世界書局1937.2
阿拉伯故事叢書
- 27 * 『天方夜譚』 5冊 納訓訳 長沙・商務印書館1940.2-1941.11
- 28 * 『天方夜譚』 林俊千訳 上海・春明書店1947.2再版
世界文学名著。據英訳本転訳。
- 29 * 『天方夜譚』 范泉縮写 上海・永祥印書館1948.4/1948.8三版
據R.F.Burton的英訳本編訳。
- 30 * 『脚夫艷行記』天方夜譚之一 季諾訳 上海・新潮出版社1948.11
本書據巴登(R.F.Burton)的英訳本訳出、原名《巴格達德的脚夫和三個女人的故事》。
- 31 * 『神灯』天方夜譚之二 季諾訳 上海・新潮出版社1948.11
據A.L.Lane的英訳本訳出。
- 32 * 『天方夜譚』 肖波倫訳 通俗文藝出版社1956.3
本書包括20個故事。據《一千零一夜》的英文節本選訳。
- 33 『(英漢対照)天方夜譚』 啓明書局編輯部訳述 台湾・啓明書局1956.11台二版
這故事怎樣發生的HOW THE STORIES CAME TO BE TOLD、漁翁和妖魔THE FISHERMAN AND THE GENIE、魔馬的故事THE STORY OF THE ENCHANTED HORSE、王子阿米德故事THE STORY OF PRINCE AHMED、致富奇談THE HISTORY OF COGIA HASSAN ALHABBAL、阿萍廷的故事THE STORY OF ALADDIN、橄欖案THE STORY OF ALI COGIA, A MERCHANT OF BAGDAD、智婢殺盜的故事ALI BABA AND THE FORTY THIEVES、阿保哈生的故事THE STORY OF ABU

- HASSAN、三姉妹的故事THE STORY OF THE THREE SISTERS、航海家孫柏達的故事THE STORY OF SINDBAD THE SAILOR、理髮匠第六兄弟的故事THE BARMECIDE FEAST、王子陳亞拉生与魔王的故事THE HISTORY OF PRINCE ZEYN ALASNAM AND THE SULTAN OF THE GENII[民博]
- 34 * 『一千零一夜』 3冊 納訓訊 人民文学出版社1957.12/1977.12印4次
據火魯特卡托里克書店1927年版，艾博·安突涅校勘編輯的阿拉伯文五卷本原編選訊。
- 35 * 『辛伯達航海歷險記』 納訓訊 人民文学出版社1959.5 文学小叢書
本書選自《一千零一夜》中訳本第二卷。
- 36 * 『一千零一夜』 3冊 納訓訊 重慶人民出版社祖型出版1962.11
據火魯特卡托里克書店1927年版，艾博·安突涅校勘編輯的阿拉伯文五卷本原編選訊。
- 37 * 『一千零一夜』 3冊 納訓訊 天津人民出版社祖型出版1978.4
據火魯特卡托里克書店1927年版，艾博·安突涅校勘編輯的阿拉伯文五卷本原編選訊。
- 38 * 『一千零一夜』 3冊 納訓訊 上海文藝出版社祖型出版1978.10
據火魯特卡托里克書店1927年版，艾博·安突涅校勘編輯的阿拉伯文五卷本原編選訊。
- 39 * 『天方夜譚』 統篇 丁岐江 雲南人民出版社1981
據俄訳本訳出。
- 40 『一千零一夜』 6冊 納訓訊 北京·人民文学出版社1982.7/1998.2北京第2次印刷
根拠開羅前進學術出版社1907年仿布拉格本印行的版本，並參照貝魯特天主教出版社1928年版本訳出。
- 41 * 『天方夜譚』 少年版 王瑞琴訳 中国少年兒童出版社1985
- 42 * 『一千零一夜』 少年版 王瑞琴訳 海南出版社1992
- 43 『《一千零一夜》故事選』 納訓訊 北京·人民文学出版社1994.5/1995.5北京第2次印刷 世界文学名著文庫
李玉俠「前言」。根拠納訓先生翻譯的全訳本編選的。
- 44 『天方夜譚』 1冊 鄧溥浩主編 桂林·漓江出版社1998.1/1999.9第4次印刷
本書直接從阿拉伯文訳出。
- 45 『一千零一夜』 劉建剛編 北京·宗教文化出版社1998.4/1999.10第5次印刷
- 46 『一千零一夜』 8冊 李唯中訳 石家莊·花山文藝出版社1998.6
根拠1835年埃及開羅布拉克本全文訳出
- 47 『一千零一夜』 1冊 鄧溥浩等訳 北京燕山出版社2000.1/2001.1第2版
本書除《阿里巴巴、女奴和四十大盜》、《阿拉丁和神灯》訳自英文外，其餘均由阿拉伯文直接訳出。
- 48 『阿拉丁和神灯 神魔故事選』 1冊 鄧溥浩主編、劉光敏等訳
北京·社会科学文献出版社2000.5
- 49 『一千零一夜』 李向東、王金芳主編 黑龍江·延辺教育出版社2000.7 少兒注音經典文庫·圖文本
[民博]
- 50 『一千零一夜』 3冊 鄭岳濤、次冰訳 北京·中国婦女出版社2001.1

- 51 『天方夜譚』 1冊 柯特・維京 (Kate Douglas Wiggin) 等編、吳憶帆訳 台北・志文出版社2001.4
- 52 『天方夜譚 (又名《一千零一夜》)』 1冊 鄧溥浩等訳 南京・訳林出版社2001.5
- 53 『一千零一夜補遺故事』 陸孝修訳 北京・大衆文藝出版社2001.9 天方傳奇系列 [民博]
- 54 『一千零一夜故事』 林輝、阿布拉江責任編輯 喀什維吾爾文出版社2001.10 金色經典叢書 [民博]
- 55 『天方夜譚』 王瑞琴訳 北京・人民文学出版社2002.1
世界兒童文学叢書 新世紀精華版 王瑞琴「前言」。根拠開羅知識出版社1942年版本訳出。
- 56 『一千零一夜』 上下 曉申編、納訓、解伝広訳 北京・中国少年兒童出版社2002.1 中外伝世兒童故事 [民博]
- 57 『一千零一夜』 崔琰編訳 西安出版社2002.1第2版 世界兒童文学經典全訳 [民博]
- 58 『一千零一夜全集』 6冊 馮化平編訳、向朝暉挿図 天津人民美術出版社2002.1 [民博]
- 59 『一千零一夜』 賀靈責任編輯 烏魯木齊・新疆人民出版社2002.3 兒童經典故事園 [民博]
- 60 『一千零一夜 分夜足訳本』 6冊 李唯中訳 北京・中国文聯出版公司2002.8第1版第2次印刷
1835年開羅印行的由“官方訂正本布拉克本”，忠實地全文訳出。附録：《一千零一夜》集外集、中外名家論《一千零一夜》
- 61 『一千零一夜』 挿図本 3冊 李唯中訳 深圳・海天出版社2003.2
李唯中「訳序」
- 62 『天方夜譚』 楊政和改寫 北京出版社2003.5第2版 世界少年文学精選
楊政和「序」。1996年中文簡体字版由台湾東方出版社股份公司授与北京出版社出版發行。
- 63 『一千零一夜全集』 1冊全本 宮方訳 北京・中国和平出版社2003.10 世界兒童經典図文珍藏本
- 64 『一千零一夜：青少年挿図精選本』 李唯中訳 天津古籍出版社2004.8
都是本人的“善本全訳”里選出的
- 65 『一千零一夜』 馮化平主編 天津人民美術出版社2005.1 學生課外閱讀經典

あ と が き

アラビアン・ナイトの漢訳は、中国でははるか昔からあるような印象をもたれているかもしれない。だが、漢訳が発表されたのは、ついこの前の1900年前後である。ついこの前といいながら、「前後」としか書くことができないほど資料は散逸している。これが清末小説研究を説明するばあいの決まり文句である。そうとしか言いようがないのだから、しかたがない。永峯秀樹による日本語翻訳の出版が1875年だ。これと較べても、かなり遅い。

これだけのことを書くのにも、私にとっては時間がかかった。なぜなら、漢訳アラビアン・ナイト研究に着手するには、準備が必要だったからだ。研究の条件が整わなかったといってもいい。

清末翻訳小説のひとつとしてアラビアン・ナイトが存在していることは、意識はしていた。『清末民初小説目録』の編纂作業を続けていれば、いやおうなしに漢訳文献が目に入ってくる。しかし、論文執筆と直接結びつくわけではない。やるべき作業はいくつもあり、膨大な数があるアラビアン・ナイトにはなかなか手が出せなかったというのが本当のところだ。

私が最初に書いた関係論文は、「『暴夜物語』の底本 日訳最初のアラビアン・ナイト」(『大阪経大論集』第52巻第6号(通巻第266号)2002.3.31)という。日本で最初に翻訳されたアラビアン・ナイト、すなわち、前出永峯秀樹訳『(開巻驚奇)暴夜物語』(奎章閣1875)についてのものだ。

諸文献を読むと、永峯の拠った英文原書は、タウンゼンド版であるというのがその頃の定説であった。私の目に入った範囲内で、ということは当然広いものではないが、それまで異論が提出されたことはないと了解した。だが、実際にタウ

ンゼンド版と永峯訳本を突き合わせて検討すると、底本として使用したのは該版のみではないことがわかる。挿し絵もひとつの手がかりになった。永峯は、大筋をタウンゼンド版に拠りながら、部分的にレイン版3冊本を挿入して翻訳している事実をつきとめた。また、一部でいわれているように、永峯訳本は、原文を抄訳したわけでもない。タウンゼンド版を忠実に翻訳している。抄訳したように見えたのは、タウンゼンド版そのものに省略があるからだ。これが論文の主旨である。

論文執筆は、漢訳アラビアン・ナイトに着手する準備段階でのことだった。日本語翻訳の問題である。私の研究範囲とは違うとは思いながらも、当時、私が見解をほかで見ることはできなかった。だから、敢えて発表した。

私の書いた論文に対しては、反応というものが、基本的に、ない。例外はあるにしても、清末小説研究というのは、そういう分野であると考えてもらってよしい。いつものことでなれている。

ところが、この時は違った。しばらくして、杉田英明氏より「『アラビアン・ナイト』翻訳事始 明治前期日本への移入とその影響」(東京大学大学院総合文化研究科・教養学部『外国語研究紀要』第4号2000.3.31)の抜き刷りをいただいた。私がかいたものよりも詳細に論じられている。ということで、上記論文は、本書に収録しなかった。

漢訳アラビアン・ナイト研究で私がめざしたもののひとつは、中国人が使用した底本の英文原書をつきとめることだ。

過去をふりかえれば、漢訳原書と英文原書のふたつともに研究の障碍だった。読むことができなければ、研究の進展を望んでもありえない。その種の分野に興味を示す研究者が出てくるわけもない。ゆえに、底本探求を実行した中国人研究者はいない。断言してもよい。だが、最近では、以前とは状況が違ってきている。中国の図書館でも漢訳原書を見ることができるようになった。また、インターネットの普及で、英文原書を入手することが比較的容易になった。私が漢訳アラビアン・ナイト研究に踏み切った理由でもある。

漢訳の歴史をたどっていくと商務印書館版奚若訳『天方夜譚』にぶつかる。該本を検討するにあたって、英文原本の探求を主題にした。各種版本を比較検討す

れば、それが英訳原書を紹介することにつながる。

その結果はどうなったか。本書所収の論文を見てもらうしかない。案の定、英文底本の特定には困難を感じている。解決というのには、まだほど遠い。

清末翻訳小説を研究するときの方針をくりかえす。「結論を急がない」。漢訳アラビアン・ナイトにおいても同様である。

やり残している課題はいくつもある。研究は、今後とも継続される。

各論の発表後、渡辺浩司氏より誤植の指摘をいただきました。感謝します。

杉田英明氏より資料をいただき多くの教えをうけました。感謝します。

2006.4.20

樽本照雄

増補版 あとがき

前著は、清末小説研究会より刊行した(2006.6.1)。その内容を説明して次の通り。漢訳されたアラビアン・ナイトについて論じる。漢訳の歴史、底本とした英文原書、周作人が漢訳で書き換えたこと、童話への転換、漢訳名「天方夜譚」の由来など。英文原書にまでさかのぼって追求したのは、世界ではじめてだ。珍しい専門研究書であるといっても過言ではない。

私は、今でもそう考えている。類似の専門書は、中国でも刊行されていない。

漢訳の底本を特定するために、数多くの英訳アラビアン・ナイトを集めた。レイン、タウンゼンド、サグデン、スコットの各版あるいはフォースター版だ。それぞれが別の出版社から刊行されているばあいもある。その組み合わせは数に際限がない。入手したそれらを手元に置いて漢訳本文と英訳を対照検討するという作業のくり返した。試行錯誤したその成果が本書である。

漢訳の底本を探索してページ数が多くなるのも必然であろう。見てもらえれば、どれくらいの手間ヒマをかけたかご理解いただけると思う。類似の先行研究が皆無だから、手探り状態で進むしかない。今にして思えばたいへんだったが、当時の私には最先端を行っているという思いがあった。心理的には楽しく感じていたとすることができる。ただし、2度目はお断わりする。とはいいいながら、最近、林訳イソップ寓話の底本探索に時間を取られたのも事実だ。イソップもアラビアン・ナイトと同じくらいの複雑さだった。

中国を含めた研究界の進捗状況を把握することに努力した。だが、底本探索を実行した研究者は、誰もいかなかった。底本はレイン版、ニュウズ社本だとする漢訳者の解説を疑うことなく、つまり研究者は自分で検証せずに引用してすま

せている。それが間違いであることに気づいていない。従来から存在する概説をくり返しているだけ。あくまでも漢訳の底本探究に関連して述べている。誤解のないように願いたい。

その中でも「周作人漢訳アリ・ババ「侠女奴」物語」は、手間がかかった。なにしろ周作人の回想が間違っていたのだ。これに気づくまで相当の時間を費やした。2本の論文を書き底本確定の一手手前まで至った。論文3本目の「周作人漢訳アリ・ババ「侠女奴」の英文原本」を書き、底本を突きとめたと報告した。これで問題解決だ。それができたのは杉田英明氏の助言があったからだ。ありがたいことだと今でも感謝している。

そういうわけで、底本を特定した解決篇を収録する本著『漢訳アラビアン・ナイト論集(増補版)』が閲覧するには便利だ。

周作人漢訳「侠女奴」だからそれつながりで拙論に言及する研究書も出た。劉岸偉『周作人伝 ある知日派文人の精神史』(2011)だ。しかし、解決篇を私が書いていることを知らない。中途半端な引用をしており落胆した。そのことは、拙論「周作人漢訳ヨーカイ・モール」(『清末翻訳小説論集(増補版)』所収。ウェブ公開)で言及しておいた。

『清末小説』はそのころ紙媒体で刊行していた。ウェブ上でも読めるようになっていて、日本の研究界では、外に向かって発信することを重視する傾向にある。大学の紀要論集に論文を発表するだけでは、内向きの発信になるらしい。しかし、ウェブ上で世界に向けて公開していても日本在住の劉岸偉のように知らない人は知らない。

それよりも、ウェブがどこでも通じており誰でもが自由に利用できると考えている人ばかりのようだ。中国大陸では特定のサイトには接続できないように制限が加えられているという。言語の壁が存在する以前に、情報統制の壁がそそり立っている。私が中国の研究者に著作をウェブ上で公開したと通知する。その返事は「繋がらない」というものだった。つけ加えて、海外のただの研究情報ではないか、それを遮断してどうするのか、とその人は立腹していた。

『新編増補清末民初小説目録』(2002。樽目録第3版のこと)は中国の齊魯書社が刊行した。あれから樽目録X(2015)まで改編するたびにウェブ上で公開してい

る。だが、中国人研究者の大多数は、参考文献としてあげるのは紙媒体である昔の樽目録第3版でしかない。どうやら目録の最新版がウェブ上から自由に複写ができることを理解していない、あるいは物理的に実行できないらしい。私が外に向かって発信していても、利用する研究者がいなければそれまでだ。私にはどうすることもできない。

ウェブうんぬんというよりも、日本語で書かれた紙媒体の刊行物も読まない中国人研究者は従来通りの謬論をくり返すのが普通だ。私がいくら最新の研究成果を公表したところで、それが実状だ。私とそのつど名指しして指摘していることも知らないだろう。それはそれで平穏な日々を送ることができるというものだ。



樽本照雄2007

宋声泉2016

本増補版を整理しているところに宋声泉「《侠女奴》与周作人新体白話經驗的生成」(『中国現代文学研究叢刊』2016年第5期(総第202期)2016.5.15)が出た。

表題のとおり周作人「侠女奴」のよった英語底本を特定したのちに作人の翻訳方法を検討する内容だ。

最初に従来の研究を総括して次のようにいう。

「ごく少ない学者が『侠女奴』について緻密な研究を行なっているほかは、主要には訳本の「小序」と周作人の後の記述に依拠した成果があるだけで、訳本自体に対する探究は不足しており……」(121頁)

ここにつけられた注1は「[日]樽本照雄「周作人漢訳アリ・ババ『侠女奴』物語」、『清末小説』第26、27号、2003年、2004年」(133頁)である。樽本「周作人漢訳アリ・ババ「侠女奴」の英文原本」(『清末小説』第30号 2007.12.1)が、あげられていない。奇妙だな、と思った。

版本特定の部分において、周作人が自らのべるニュウズ社発行の挿絵本ではないことを宋声泉は指摘する。そこまでは、いい。私の論文でそう書いている。

次に、宋声泉は、1904年以前の英文『アラビアン・ナイト』を100部近く閲覧した結果、ラウトリッジ社本が周作人の回想と最も合致することを発見したという。1863、1875、1882、1885、1889、1890、1895年の諸版のうち後ろの4本が周作人の回想に一致する挿絵を掲載する(上記写真を参照)。これはなにかな。

なんの説明もなくいきなりラウトリッジ社本なのだ。触れるべきレイン、タウンゼンド、サグデン、スコットの各版あるいはフォースター版については何も言わない。それでは英文アラビアン・ナイトの版本について説明したことにはならない。

周作人が底本にしたのは、フォースター版ラウトリッジ社本であることを私はようやく突きとめた。それが前出「周作人漢訳アリ・ババ「侠女奴」の英文原本」なのだ。2007年のことだった。

宋声泉からメールをもらったのは2015年8月18日である。周作人について研究している。樽本「周作人漢訳アリ・ババ「侠女奴」の英文原本」は読むことができた。だがそれ以外の論文4本(アリ・ババ「侠女奴」2本、ポー「玉虫縁」、ドイル「荒磯」)が入手できない、電子版で送ってもらえないか。

電腦の時代だといってもできないことが中国にはある。可能なかぎり要望にそうように努力するのが私のやり方だ。

そういう経緯があった。だから、宋声泉論文に肝心の、しかも彼がすでに読んでいる樽本「周作人漢訳アリ・ババ「侠女奴」の英文原本」に言及していないことに違和感を抱いたのだ。論文の核心部分について先行文献を無視するのは、よくない。

そういう状況である。

本増補版を公表することによって、私を書いた漢訳アラビアン・ナイト論文はほぼ全部をまとめたことになる。

本増補版の変更点を説明する。

必要と思われる修正を行なった。論文をいくつか追加し、順序を入れ替えた。それぞれの文章の冒頭に要約を追加した。索引は作成しなかった。誤植もできるだけ訂正した。杉田英明氏のご指摘に感謝します。

2016.7.1

樽本照雄

著者略歴

樽本照雄 (TARUMOTO Teruo)

1948年 広島市生まれ

1972年 大阪外国語大学大学院修士課程修了

現 在 大阪経済大学教授 博士(言語文化学)

研究誌『清末小説から』を公開中

編著書 『清末民初小説目録Ⅹ』ウェブ公開 2015

『上海のシャーロック・ホームズ ホームズ万国博覧会 中国篇』

国書刊行会2016.1.20

『初期商務印書館研究(増補版)』ウェブ公開 2016

『商務印書館研究論集(増補版)』ウェブ公開 2016

『清末民初小説目録Ⅹ 2』ウェブ公開 2016

『林紘冤罪事件簿(統合増補版)』ウェブ公開 2017

『清末翻訳小説論集(増補版)』ウェブ公開 2017

かんやく ろんしゅう ぞうぼほん
漢訳アラビアン・ナイト論集 増補版

発行 2017年1月15日

著者兼
発行人 樽本照雄

発行所 清末小説研究会 〒520-0806
滋賀県大津市打出浜 8 番4-202

樽本照雄方

<http://shinmatsu.main.jp>

Printed in Japan

非 賣 品

